

ナル語ハ出獵ヲ意味スルモノナレトモ現時本島ニ於テハ專ラ首狩ノ意ニ用キルガ故ニ本報告モ第一卷以來亦其意味ニ用キタリ

(二)出草ノ目的物 出草ハ通常仇敵ニ對シテ行フモノナレトモ時トシテ仇敵ニ非サルモノニ對シテ之ヲ行フコトアリ此場合ニハ出草ハ仇敵關係ヨリ生スル發動ニ非スシテ却テ仇敵關係ヲ生スル原因ト爲ルナリ

(三)出草ノ團體 出草ハ黨民私自ニ行フコトアリ或ハ一黨若シハ數黨共同シテ行フコトアリ前ノ場合ニハ其人數少ク後ノ場合ニハ數十人一團ト爲ルヲ常トス

(四)出草ニ對スル頭人ノ許諾 何黨ノ黨民モ仇敵關係ニ在ル番社又ハ民庄ニ對シテ任意ニ出草ヲ爲スコトヲ得然レトモ平和關係ニ立ツ所ノ番社若ハ民庄ニ對シテ出草ヲ行フトキハ屢累ヲ其頭人ニ及ホスヘキヲ以テ北はいわぬ番ノ南部及こぼじ、ぱりじ、おノ兩番ニ於テハ之ヲ爲スニハ豫メ頭人ノ許諾ヲ受ケサルヘカラス若私自ニ出草ヲ爲ストキハ頭人之ヲ罰ス、他ノ部族ニ於テハ概シテ之ヲ不問ニ附ス唯ソレガ爲ニ頭人ガ被害ノ番社又ハ平地民庄ニ對シテ贖財ヲ出ササルヘカラサルニ至リタルトキニ之ヲ罰ス クナナオ、チャジャカ、カビヤカニ社ニ於テハ出草ヲスルトセサトハ全ク社民ノ自由ニシテ頭人ニ於テ之ヲ阻止シ又ハ命令スル權ナシ從テ又頭人ハ番丁ノ爲シタル出草ニ付キ賠償ノ責ニ任セス假令ヒ該社ノ番丁ガ他社ニ在ル頭人ノ親族ヲ殺シタリトテ頭人ハ之ヲ制裁スルコトヲ得スト云フ

(五)出草ノ方法及效果 出草ハ戰鬪ノ一方法ニシテ其方法、出陣、凱旋ノ方式、戰功ノ表彰及戰死者ノ取扱方ハ次欸戰鬪ノ部ニ掲クヘキガ故ニ之ヲ略ス

第二 出草ノ目的

本族ノ出草ヲ爲ス目的ハ大約左ノ數者ニ歸ス

(一)復讐其他報復ノ爲メ 復讐ノ爲ニ出草スル者ハ甚多シ此ハ被害者ノ遺族ノミニテ爲スコトアリ被害者ノ屬スル一社團又ハ一黨ノ民共同シテ爲スコトアリ而シテ其目的物ハ必シモ加害者タルニ限ラス加害者ノ屬スル社團又ハ黨ノ民クラハ何人ニモ可ナリトス

別ニ殺害セラレタルニ非スト雖モ他社團ノ頭人又ハ番丁ヨリ虐待又ハ侮辱ヲ受ケタル場合ニ之ヲ報復スル爲ニ出草スルコトアリ

(二)功名ノ爲メ

(イ)總說 功名ノ爲ニスル出草ニハ有志ノ番丁數人ニテ爲スコトアリ或ハ社團又ハ一黨共同ニ爲スコトアリ 敵番又ハ異種族ノ首級ヲ敵得シタル者ハ族衆ニ賞讃セララルノミナラス其武勇ヲ表彰スヘキ章身ノ具アルヲ以テ壯丁等ハ一般ニ踴躍シテ他ノ企テタル出草ニ從フ此目的ノミヲ以テ出草ヲ企ツルハ多クハ或祭祀ノ前又ハ後ニ在リトス 今尙ホ多クノ番社ニ於テハ「バリシト」
「ミナジャン」(社神祭)或ハ五年祭ノ終ニ「マキナサ」ト稱シ出草シテ敵ヲ敵首スル假裝ヲ爲スコトアリ是或ハ古代ニ於テ實際ニ出草セシヲ其後政府ノ禁止ニ逢ヒタルニ因リ其形式ノミヲ行フニ非サルカト思ハル

諸社老番ノ所說 右ニ付キ諸社老番ノ語ル所左ノ如シ

(1)サブテク群社内牡丹路社老番キジャム・パチャバヌ 曰ク我等ガ出草ヲ爲セシハ畢竟勇者タル名譽ヲ博センガ爲ニ外ナラス凡ソ男子成長スレハ自然ニ出草スル様ニ爲ルナリ我等ハ五年祭

ヲ行ヒツツアル間ハ出草セサルモ其前ニハ屢之ヲ行ヒ特ニ槍竹ヲ取リニ行キタル後ニハ必
之ヲ行ヒタリ是祭祀ノ時竹槍ヲ取テ面白ク歌ハンガ爲ニスルナリ又同祭ノ「ブサオ」(祭儀)ノ
後ニハ敵社ニ向テ行クヲ例トシタリサレトモ近時安ニ出草スヘカラサルニ至リタルヲ以テ
祭祀後假ニ其形式ヲ爲スト

(2) るかい番ヲボカヌ社ノ老番某 ハ曰ク我等ハ曾テ「マサルト」(粟收穫)ノ後「マブソアヌ」(出
ヲ行フトキニ出草シタリ此ハ多ク頭人又ハ有力ナル番丁首唱シタリ何レモ其祭日酒宴ノ際
首級ヲ算スル歌ヲ唱フガ故ニ勇氣勃々溢レテココニ至レルモノナルヘシ首祭ノ時ニハ頭人
ヨリ誠首者ニ鍋又ハ鎌ヲ與ヘテ之ヲ賞シタリト 同番アデル社モ曾テ「マサルト」及「マズジュマ
イ」(稗收穫)ノ後ニ出草シらばる番ノ上バイワヌ社及トクブジ社モ古代ハ粟ノ播種後及ヒ收
穫祭後ニ出草ヲ行ヒタルコトアリト云フ何レモ勇氣ノ横溢シタル結果之ヲ敵社ニ試ミンカ
爲ニ行ヒモノタルモノナルヘシ

(3) ぱりじやた番加芝來社老番 ハ曰ク近代マテ「マズジュマイ」ノ祭後數日ヲ經テ頭人番丁ヲ集
メ「先ニ五年祭ノ時ニ祖靈ニ告ケタル如ク粟黍芋猪鹿等ニ關スル歌ハ既ニ歌ヒタルモ未タ人
ニ關スル歌ヲ了セス誰カ之ヲ歌ヒテ祖靈ニ應スル者」ト言渡シ社民ヲ部署シ車城、楓港、九棚
或ハ恒春等ノ方面ヘ相別レテ出草セシメタリ是レ祭祀ニ人頭ヲ要スル爲ニ非スト雖モ祭祀
ノトキニ祖先ニ約シタルコトヲ果スヘク行フナリト

(三) 財物ヲ略奪スル爲メ 敵番又ハ異種族ノ財物ヲ略奪スル爲ニ出草ヲ行フトモ亦往々之アル
所ナリ領臺以前こぼし番ノ諸社民ガ清軍ノ兵營ヲ襲撃シ近ク大正三年ニ同番民ガ枋山街ヲ燒撃

シタルガ如キ其重ナル目的ハ略奪ニ在リトス

(附記) 明治二十八年我軍ガ枋山ニ上陸シタル際枋藁、南勢坑、新營庄等ニ在ル清兵ハ防戦セズ逃
レテ皆リキリキ社ノシューチャー營ニ集ル土人通事ハ各番ニ告ケテ「日本ハ強勢抵抗スヘカラ
ス營兵將ニ逃去ラントス汝等之ヲ襲ヒテ自ラ利スヘシ」ト知ラセケレハ各番大ニ喜ヒスボン
社番ハ數十名ニテリキリキ社ノ兵營ヲ襲撃シ六十餘級ヲ滅シ又多クノ銃器彈藥ヲ得タリ但
シリキリキ社民ハ清兵ニ欺カレテ始メハ之ニ加勢シタリシト云フ 又臺東巴里衛ノ後方サ
ボノンニモ清兵ノ營所アリタリ内文社大頭人ロバニヤウ家ノ弟ムラヌンハ屢此方面ニ往來
シ其地理ニ熟シ又其營兵ト相識ル然ルニ我軍上陸シ清兵ハ追々引上クヘシト聞クヤムラヌ
ン機乗スヘシト爲シ其兄ルジト共ニ番丁數十名ヲ率キテサボノンニ至リ先ツ衆丁ヲ營後ノ
山中ニ隠シ己先ツ入りテ兵士ト相見セリ兵士等之ヲ惟マス唯來遊セルモノト爲シ何等警戒
スル所ナシムラヌン乃出テ口笛ヲ吹キケレハ衆丁驀然刀ヲ揮ヒテ營内ニ躍入ル此時ムラヌ
ンハ先ツ銃架ニ掛カレル銃器ヲ占領セリ營兵等狼狽之ヲ防クノ暇ヲ得ス其中ノ二十人忽ニ
シテ首ヲ授ケ他ハ傷ヲ負ヒ逃走セリ斯クテ衆丁ハ營内ヲ抄略シ數多ノ戰利品ヲ得タリ然レ
トモ銃器ノ多數ハムラヌンノ手ニ歸シタリ今ニテモ内文社ノ番丁等ハムラヌンノ膽勇及智
略ヲ稱ス

(四) 相手ヲ威嚇シ自黨ノ主張ヲ貫徹スル爲メ 此目的ヲ以テスル出草ハ (一) 從來兩番社團間ニ於
テ土地ノ境界ニ關スル紛議ニ付テ履行ハレタル所ナリ (二) 山脚ノ土人部落ガ本族頭人ニ對シテ
負擔スル水租、番租、漁租等ヲ納レサル場合ニモ亦彼等ヲ威嚇スル目的ヲ以テ之ヲ行ヒタルコトア

稀ニ(三)或社團ニ對シ負ヘル義務ヲ免レンガ爲ニ其社團ニ對シテ之ヲ爲スコトモアリ
 (附記)大正五年十二月るかい番ライブアヌ社民某ガ交換ノ爲メ西瓜園ニ降リシトキ歸途ぶつ
 る番トラバサジヲ通行セシ際同社ニ通行租ヲ納メサリシカハ同社頭人ハ怒テ之ヲ罰セント
 云ヒタリ某之ヲ憤リ歸途加納埔ニ廻リトクブルヲ通シテ歸社シソレヨリ直ニ若干ノ社民ヲ
 伴ヒ北隘藜溪ノ右岸リスト云フ所ニ出草シタラバサジ社民ノ耕作シツツアル所ヲ襲ヒ之ヲ
 敵首シテ引上ケタリ此時トクブル社民ノ畑小屋ニ在リシ者之ヲ聞クヤイラ社民ト共ニ之ヲ
 見舞フ爲メニ遭難ノ地ニ至リシニタラバサジ社民ハ疑ヲイラ社民ニ懸ケ其兩人ヲ討取リタ
 リ此レヨリトクブルトタラバサジトノ間ニ仇敵關係ヲ生シ二三回會戰シタリト云フ

(五)鬱悶ノ情ヲ消遣センガ爲メニ出草スルコトハ之ヲイラリブジャスト云フ (一)他人ニ侮辱セ
 ラレ其他不快ノ事アリ悶々堪ヘ難キ場合ニ人ヲ殺ストキハ其憤悶ヲ去ルコトヲ得ト稱シ此目的
 ヲ以テ他黨又ハ土人ノ部落ニ出草スルコトアリ (二)近親ノ死シタルトキ鬱々其喪ニ居ルニ堪ヘ
 ス出草ヲ行フコトアリ (三)五年祭ニ槍トセル竹折レタルトキ又其祭ノ終末ニ槍竹ヲ切斷スル場
 合ニ一刀ニテ切斷シ得サシリトキハ不吉ナリトシ此場合ニハ直ニ出草スルコトアリ (若取リ得サ
 山中小屋ニ別居セサ) 左ニ此等ニ屬スル出草ノ例若干ヲ示ス

(1) こぼじ番内加芝來社民アジバイババヂルノ出草 明治三十八年頃同人ハ同社ノ番女ジ
 モクラーリヤバヌト婚約ヲ結ヒ未タ聘財ヲ納レサル内ニ其女枋山ニ赴キ巡查補カビカルバイ
 (猪獵東社民) 方ニ止宿シタルコトアリ其後同社ノトガジ家ニ宴會アリアラバイモ亦ソレニ
 來加シタルニ偶々同人トトガジ家ノ家人ト何か相爭ヒタルコトアリ家人ハアラバイヲ罵リ

「汝ノ妻ハ既ニ土人ニ食ハレタルニ非スヤ」ト言ヒシカハアラバイ憤激シ直ニ去テ家ニ歸リ銃
 ヲ取出シ天ニ向ヒテ發射スルコト三回「記セヨ我モ亦ヤリテ見スヘシ」トテ其從兄タルワラジ
 社ノ番丁某ト共ニ山下リ竹坑山ノ麓マテ至レリ適々土人夫妻ノ薪ヲ採取スル爲ニ茲ニ來
 リテ小屋掛ヲ爲シ宿泊セル者アリシカハアラバイ等之ヲ襲撃シ其男ヲ敵セリ其妻ハ負傷シ
 テ逃レタリ其後二三月ヲ經テ當地ノ警察官犯人ヲ探テアラバイヲ得タリ其時アラバイハ語
 リテ曰ク巡查補ヲ攻撃セント欲スルモ彼ハ支廳ニ在ルガ故ニ其目的ヲ達スルコトヲ得ス已
 ムコトヲ得ス土人ヲ殺シテ聊カ我悶情ヲ遣リタルナリト

(2) こぼじ番草山社番丁カイギジ、チカカロノ出草 明治四十五年頃スボン社頭人ジコワソ、バジヤ
 ルクハ草山社番丁カイギジ、チカカロノ妻ト私通シ終ニ之ヲ誘ヒテ歸リス、チカカロスボン社ニ來
 リ其妻ヲ求ムレトモ頭人之ヲ隠シテ渡ササリケレハチカカロ憤然去リテスボン溪ニ至リ土人
 ヲ射殺セリ然レトモ土人ノ數多カリシガ爲ニ之ヲ敵首スルコトヲ得サリキト云フ

(3) 内文社大頭人ノ弟ムラスン、ロバニヤウノ出草 大頭人ロバニヤウ家ノ三男ムラスン(現時
 社頭人コン)少年ノ時狩獵ヨリ歸リテ酒ヲ飲マントセシニ彼ノ愛用スル美シキ茶碗破レテ在
 リシカハ是誰ノ所爲ナルカト詰リシニ其兄ラガラ「汝言フナカレ我平地ニ降ラハ汝ノ爲ニ
 更ニ好キ物ヲ求メ來ルヘシ」ト云ヒシニムラスン憤々其夜竊ニ刺桐脚庄ニ至リテ土人一名ヲ
 敵シテ歸リ來リタリト云フ

(4) こぼじ番マジカオ社民ラカラゲルゲルノ出草 明治四十五年六月頃こぼじ番マジカオ社
 内土名バグインノ住民ラカラゲルゲルガ内文社民マバリート家ノ銃器ヲ盗出シ加藤堂ニ至

リ公學校ニ通學スル兒童ヲ誅シタル事アリキ後犯人ヲ捕ヘテ其事情ヲ質シタルニ同人ハ曾テ其生家ニ在リシ時懶惰ニシテ農耕ニ勉メサルガ故ニ其母及兄ニ冷遇セラレ衣食ヲ充分ニ與ヘラレサリシカハ去リテ内文社ニ來リ大頭人ロバニツ家ニ寄食セリ此所ニテモ懶惰ニシテ其上酒癖盜癖アリタルヲ以テ放逐セラレタリ彼已ムコトヲ得ス大頭人ノ弟タルロジ、マバリーノ家ニ頼リシニ幾モナクロジノ子ヲガラン彼ニ對シ汝ノ如キ愚物ハ宜シク梓髮(懲戒ノ手段)スヘシト罵リシカハ彼イタク大頭人一家ヲ怨ミ土人ヲ殺シテ累ヲ大頭人ニ及ホサント決心シ終ニ惡戯ヲ敢行スルニ至リシナリト

(5) スポン群内チチータン社番丁チーコンノ襲撃 明治三十六年二月頃同人ハ或夜同地駐在所ヲ襲ヒ巡查水越太四郎ヲ殺シタリシコトアリ後同所ノ警察官之ヲ捕ヘテ其原由ヲ質シタリシニ其始末下ノ如クナリキ彼ハ幼ニシテ父母ヲ喪ヒ其姉ト二人ニテ暮セリ然ルニ常ニ社衆ニ輕侮セララルヲ以テ鬱々トシテ樂マス或ル夜宴會アリシトキ亦一同ノ爲ニ酷遇セラレシカハ彼怒リテ曰ク我往キテ日本人ヲ殺サン然ラハ此社ハ日本大人ノ爲ニ燒撃セラルヘシト揚言シ銃ヲ携ヘテ出發セリ衆之ヲ戲言ナリト思フヲ以テ之ヲ阻止セサリシニ彼ハ直ニ駐在所ニ至レリ此所ニハ大場水越ノ兩警察官駐在セリ彼先ツ一ノ戸ヲ開キ構寸ヲ求メシニ其所ニ大場氏アリ今無シトテ應セサリキ彼更ニ他ノ戸ヲ開キ之ヲ求メシニ水越氏亦我ニモ無シトテ應セサリキ彼然ラハ今ハ去ルヘシ我再ヒ來ラントキニハ與ヘラレヨト曰ヘリ其トキ水越氏ハ便所ニ赴カントテ手ヲ伸シテ机上ノ紙ヲ取リシニチーコン銃ヲ執リ不意ニ氏ヲ打チテ走リ氏之ガ爲ニ斃レス大場氏銃聲ヲ聞キテ驚キ起チ銃ヲ執リテチーコンヲ追ヒタ

ルモ其踪跡ヲ失シ空シク歸リ來レリ其後彼ヲ捕ヘテ吟味セシニ彼曰ク大人宜シクチチータンヲ討伐スヘシ然ラハ我其先導ヲ爲スヘシ我チチーコン社民ニハ深キ怨アリ水越大人ヲ殺シタルハ日本人ノ手ヲ借リテ其怨ヲ報センガ爲ノミ云々ト云ヒシトソ

(6) ぶつる番下バイワン社番丁クリー某ノ出草 頭人カボロ家ノ番丁クリーナル者父死シテ喪ニ服セス酒ニ酔ヒテ喧噪セシ故頭人怒リテ之ヲ叱シテ曰ク汝何ヲ騒ク汝ノ首ハ何所ニ在ルト罵リシニクリー直チニ去テマスル社ニ赴キ首一個ヲ誅シテ歸リ來レリ之ガ爲ニ頭人家ハマスル社ニ對シテ鍋二個、刀二個及鎌二個ヲ賠償シタリト云フ

第三項 戰 闘

第一 總說

(一) 戰闘ヲ表示スル番語 本族ニ於テ戰闘ヲ表示スル語ハ甚タ多シ (一) 其遠ク出テ敵ヲ襲撃スルヲマキナサブト云フ即前項ニ掲ケタル出草ナリ (二) 他ノ部落ヲ攻撃シ其住民ヲ驅逐スルヲリミブト云フリミブハ畑ヲ開墾スルトキニ其地ニ在ル樹根ヲ掘起シ之ヲ他ニ棄去ルノ義ニシテ先ツ掃蕩ト譯スヘキモノタリ番人ハ政府ガ番社ニ施ス討伐ヲモ亦稱シテリミブト云フ是討伐ニ逢ヒタル番社ハ其民悉ク遁逃シテ一モ留マル者ナキニ至ルニ因ル (三) 或ル地點ニ潜伏シテ敵ノ來ルヲ待受クルヲボラウント云フ(此語ハ狩獵ノ場合ニモ用ホラル) (四) 敵ノ襲撃ヲ防禦スルヲクムジン又ハクマルント云フ (五) 其相會戰スルヲマカクチ(相殺ス)ト云フ更ニ其用フル武器ニ依リマサスカス(刀ニテ斬)又ハマバブロク(槍ニテ)マカコワン(銃ニテ)等ノ名稱アリ近時會戰ハ概シテ銃器ヲ用キルガ故ニ概シテ之ヲマカコワント云フコトヲ得ヘシ

右ハらばる。ぶつる及ばいむの諸番ニ於ケル語ヲ掲ケタルナリ。上ダりせぬ及るかいノ兩番ニモ亦同意味ノ語アルヘシト雖モ調査セサリシヲ以テ之ヲ略ス

(二) 戦闘ト出草トノ別 出草ハ戦闘ノ一方法ナリ。即攻撃ノ一手段ナリ。戦闘ニハ攻撃ノ一面ニ防禦アリ。其攻撃ノ内ニハ出草モアリ討伐モアリ。即單ニ他ノ番社又ハ村庄ノ民ノ首級ヲ敵得スルノミナラス又其番社村庄ヲ破壊シ地域ヲ占領スルノ行動ヲモ包含セリ。其内出草ハ仇敵關係ノ間ニ行ハルルコトモアレハ何等仇敵關係ナキ間ニ於テ單ニ首級ヲ敵得スルガ爲ニ行ハレ此行動ガ却テ仇敵關係ノ發生スル原因ト爲ルコトアリ。從テ他ノ戦闘行爲トハ其目的ヲ異ニスル場合モアリ。是本報告ニ於テ戦闘ノ外特ニ出草ノ一項ヲ説述シタル所以ナリトス

第二 兵制

(一) 兵士 本族ニ於テ壯丁ハ悉ク戰士タリ。苟モ一黨又ハ聯黨ニ於テ戦闘ヲ決定シタルトキハ其壯丁ハ悉ク戦闘ニ加ハサルヘカラス。若シ疾病凶夢其他已ムコトヲ得サル事情アルニ非スシテ出陣セサルトキハ怯弱トシテ賤視セラルヘシ。ばりじお番ノ一部ニ於テハ卑怯ニテ出陣セサリシ壯丁ハ戦争終了シタル後半又ハ豚ヲ屠リテ出陣ノ勇士ヲ犒ハサルヘカラスト云フ。ぶつる、北ばい、わぬ兩番ノ多クニ於テハ強敵ノ襲來ヲ防禦スルノ外ハ壯丁ノ出陣スルト否ハ全ク其任意ニシテ頭人ト雖モ部下ノ出陣ヲ強制スルコトヲ得ス。特ニ其出陣ノ方面ニ自己ノ親戚ノ存在スル場合ニ於テ然リトスト云フ

(二) 戦隊

(イ) 編成 本族ノ軍ニハ未タ隊伍ノ編成ナルモノナシ。多少不齊ノ戰士合集シテ一團トナリ一人ノ

首領アリテ之ヲ引率スルノミ

(ろ) 番帥 戦闘ニ於テ一團ノ首領ハ「マバサラジャヌ」(主等)又ハ「ラスジャヌ」(整理ス)ト云フ。こぼじ番ニテハ特ニ「ツメオル」(先導者)又ハ「タママダヌ」ト云フ。茲ニ稱シテ番帥ト爲ス。番帥ハ多ク黨若クハ聯黨(復社)ニ於テハ「カライガ」(黨老又ハ社老)タル者當然之ニ當リ。若シ其者ガ老衰疾病其他ノ事情ニ因リ出陣スルコト能ハサル場合ニハ臨時番丁中ヨリ適當ノ者ヲ選任ス。但シ或ル番社ニ於テハ「カライガ」ノ外ニ「ラカサ」(士勇)ト稱スル一階級ヲ置キ專ラ戦争ニ當ラシムルモノアリ。北ばい、わぬ番ノ「チャジャカブ」ス社ノ如シ。或ハ臨時ニ材幹アリ豪膽ナル者自ラ進ンテ之ニ當ルモノアリ。こぼじ、ばりじお兩番ニ於ケル諸社ノ如シ

第三 戦闘ノ方法

(一) 武器 本族ノ戦闘ニ用キル武器ハ銃、槍及刀トス。古代ニハ弓矢ヲ用キタリト雖モ銃器ノ移入セラレタル以來銃器之ニ代リテ用キラレ弓矢漸次ニ廢レタリ。然ルニ近時政府ニ於テ其ノ銃器ヲ取上ケタルヲ以テ復タ弓矢ヲ用キルモノヲ生セリ。前年上、バイワヌトクブジ及キヌジャロアヌ三社ガ合同シテバリラヤヌ社ト戦ヒ又同三社ガ「ラバサジ」及「チムル」兩社ト戦ヒタル時ノ如キ壯丁ハ銃ナキガ爲ニ皆弓矢ヲ携ヘタリト云フ。本族ニモ古昔弓矢ヲ以テ戦ヒタル時代ニハ楯ヲ用キタルコトアリト雖モ今之ヲ用キルコトナシ

(二) 戦術 本族ノ戦術ハ大體ニ於テたいやる族ノ部ニ於テ述ヘタル所ニ同シ。唯其勇悍ノ度及智略ノ點ニ付テハ遙ニ之ニ劣ル所アルガ如シ。左ニ攻撃及防禦ニ付テ本族ガ多ク用キル手段ヲ示ス

(イ) 攻撃 ノ常用手段ハ襲撃及要撃ノ二トス。先ツ潛行シテ敵ノ所在地ニ至リ其備ナキニ乘シテ之

ヲ襲撃シ或ハ敵ノ來ルヘキ地點ニ潜伏シ其來ルヲ待テ之ヲ要撃スルナリ時ニ戰士ヲ攻勢ト伏勢トニ分チ攻勢先進シ敵ニ向テ挑戰シ敵之ニ應スレハ詐テ敗走シ敵追來ラハ伏勢起テ其後ヲ扼シ以テ之ヲ挾撃スルコトモアリ

(3)防禦 本族ハ未タ築城ノ術ヲ知ラスト雖モふつる番ノ多數ノ社ニ於テハ部落ノ周圍ニ石垣(番語ニアバ又ハカシ)又ハ刺竹等ヲ繞ラシ其社外ヘノ出口ニハ門ヲ設ケ恰モ城ノ小模型ト云フヘキモノヲ作ル 凡ソ仇敵ヲ有スル番社ニ於テハ其警戒ヲ嚴ニシ社ノ入口ニ毎夜見張(番語トマ)ヲ置キ壯丁交代ニ之ニ當ル 尙ホ攻戰中ハ敵ノ來ルヘキ路ノ一地點ニ偵察ヲ派シ置キ緩急之ヲ社ニ知ラスノ方法ヲ取ル

凡ソ本族ノ討伐軍ニ對スルヤ先其糧食家具及老幼ヲ移シテ安全ノ地ニ置キ其社ヲ空ニシテ後敵ニ對ス討伐軍ノ番社ニ討入りタルトキ尙老幼ノ社内ニ殘在ル如キハ彼等ガ其必勝ヲ期シテ油斷シタルノ外ハ之アラサル所トス

防禦ニ用キル重ナル物ハ下ノ如シ (一)敵ノ來ルヘキ路ニ竹釘ヲ植ユルナリ竹釘(番語ト)ニ二種アリ一ヲリルムト云ヒ約五六寸ノ長ニシテ之ヲ路ニ埋メ少シク其尖端ヲ現ス他ノ一ヲ「サギダ」ト云フ長サ一尺五寸位ニシテ之ヲ上リ坂ノ草中ニ立ツ 此竹釘ヲ敵社ノ出口ニ立ツルトキハ其社ニ對シテ戰ヲ挑ムノ意ヲ表スルモノトス此場合ニ其儘ニ捨置キ之ヲ其相手ノ社ノ出口ニ立テ返ヘササルトキハ其社ノ恥ナリトス (二)陷穿ヲ作リ其中ニ竹針ヲ立ツルナリ (三)敵ノ來ルヘキ路ノ斷崖ノ上ニ落棚ヲ設クルナリ之ニ三種アリ一ハ斷崖ノ上部ニ多ク石ヲ積ミ其端ニ材木ヲ横ヘテ支置ク敵其崖下ヲ通過スルトキ其材木ヲ引ケハ其上ノ方ニ在ル石ガ一時ニ轉落スルナリ二ハ

木ニテ棚ヲ構ヘ其上ニ重キ石ヲ載セ藤蔓ヲ以テ其棚ノ末端ヲ支ヘ置ク敵來ラハ其藤蔓ヲ切斷スルナリ三ハ柔ナル木ニ多ク竹釘ヲ立テ之ヲ蔓ニテ引張リ斷崖ノ上ニ吊リ置キ敵來ラハ切斷スルナリ (四)掩堡ヲ作ルナリ穴ヲ掘リ土ヲ其前方ニ積ミ之ニ銃眼ヲ設ケテ以テ敵ノ來ルヲ待ツナリ

第四 戰鬪ニ關スル事跡

左ニ余ガ親シク番地駐在ノ警察官又ハ番人ヨリ聞得タル戰鬪談及清國官吏ノ手ニ成リタル戰鬪記事若干ヲ掲ケ以テ本族ノ用キル戰略一斑ヲ示ス

(一)スボン群社ト平埔番トノ戰鬪 スボン社老番曰ク新開庄附近ニ在住スル平埔番ハ我等スボン群トハモト相親和シ互ニ物品ヲ交換シ我社ノ女ノ平埔番ニ嫁スルモノ少カラサリキ而シテ同庄民ハ我社領域内ニ於テ薪材ヲ採收スル爲ニ毎度我社頭人ニ山工租ヲ納レタリ然ルニ或ル時我社民ガ平地ニ降リタル際同庄民ハ不意ニ之ヲ襲撃シ四名ヲ斃首シ四名ニ負傷セシメタリ社民ハ激昂シタレトモ頭人之ヲ制シテ復仇セシメサリキ然ルニ其後同庄民ハ再ヒ我社民二名ヲ斃首セリ然レトモ社民ハ頭人ノ命ニ從ヒ尙ホ復仇スルコトナカリキ然ルニ其後我社民ガ新開庄附近ヲ開墾シツツアリシトキ同庄等ノ平埔番三十名程ソコヘ來襲セリ之ヲ發見セル一社民ハ直チニ大聲急ヲ告ケシカハ其附近ノ耕作地ニ居リタル我社民約二百名許リハ急キ武器ヲ手ニシ之ヲ迎撃シ平埔番十名ヲ斃シ且ツ數挺ノ銃ヲ獲タリ幸ニ社民ハ四名斃レタルモ其首級ヲ敵ニ授クルコトナク凱旋スルコトヲ得タリ 然ルニ數日ノ後平埔番約二百名ハ多數官兵ノ援ヲ得テ我社ニ來襲セリ此時敵ハ軍ヲ二手ニ分チ新開庄ヨリ歸化門ヲ經テスボン溪ヲ渡リタンデーノ山ヲ登リ一ハ枋寮ヨリ南平社ノ山ヲ登リテスボン大社ヲ

攻メタリ此ニ於テ我社民モ二手ニ分レ一ハ約十名許リニテ南平山ノ南西ノ山背ニテ防キ一ハ約十名ニテタンデー附近ニテ之ヲ防キ其他ノ番丁ハ家族ト共ニ物品ヲタンデー社東方山背ノ森林中ニ運ヒ此所ニ隠レタリ平埔番等ハスボン兵ヲ破リスボン大社ニ至リソレヨリスボン溪ヲ下リテ引揚ケントセリ其時我兵約百名之ヲ追撃シ溪底ニテ會戰シ敵ノ大砲一門小銃二挺首級一ヲ獲タリ而モ味方ニハ一ノ被害ナカリキ四日ノ後清兵及平埔番ノ多數ハ我社ニ來襲セリ此時一隊ハスボン溪ヲ廻リテタンデー社ヲ過キ一隊ハスボン溪左岸ノ陵線ヨリ南平社ノ上方ヲ過キ往ク往ク我兵ヲ撃退シツツ四日目ニ兩隊スボン大社ニ侵入セリ其時當社民ハ既ニ避ケテチリノコツニ在リタリ敵ハ大社ニ少數ノ兵ヲ殘留シ更ニチジュルクニ追來リシニ我兵諸所ニ之ヲ迎撃シ敵首一銃三挺ヲ獲タリ此時モ亦我社民ニハ被害ナカリキ其後我社ハ官兵ト和ヲ講シ敵ノ首級及銃器ヲ返シタルニ官兵ハ我社民四名ヲ縛シ伴ヒテ平地ニ至リ之ヲ鹹シタリ云々

(二)こぼし番ト平埔番ノ戰鬪 之ニ付キ内文社大頭人ロバニヤウ家ノ弟バジジム某語テ曰クほんがぬ(平埔番)ハ甚強悍ニシテ之ガ爲ニ我ばいぬノ殺サレタル者其數ヲ知ラス彼等ハ人肉ヲ食ス我等若シ彼等ニ殺サルルトキハ其肉ハ悉ク彼等ニ食ハレサルヘカラス彼等ハ又強犬ヲ有シ會戰ノ際ハ槍ヲ揮テ肉迫シ犬ヲ啖シテ敵ノ所在ヲ探ラシム彼等ハ戰ニ敗レタル場合ニモ狼狽奔竄スルコトナク悠々ト退軍ス我等若シ之ヲ追テ近接セハ彼直チニ槍ヲ揮テ向ヒ來ル 曾テ我等チコボコボジ及スボンノ兩群ハ聯合シ約八十人許ニテ其ほんがぬ部落ニ出草ンタルコトアリ其時彼等ハ約三十名許ニテ出來リ我ヲ迎ヘテ戰ヒ早朝ヨリ下午ニ至

リシニ我等ノ銃器ハ燒ケテ火ノ如クナリ各人ノ頭髮ハ皆火藥ノ爲ニ灰白ト爲リ口渴スルモ水ナク甚苦シミタリ時ニほんがぬニハ一ノ銃器ナカリシト雖モ彼等ハ槍ヲ揮ヒ我ニ向テ猛進シ我銃射セハ彼等直チニ地ニ伏シテ避ケ而シテ射ト射トノ間隙ヲ縫ヒ地ニ匍ヒツツ進來リ決シテ逃クルコトナカリキ我等ハ戰終ニ克ツコト能ハススボン勢先ツ退却シ我等チコボコボジ勢之ニ次キ其内ニテ武勇ノ者十數人踏止マリ且ツ戰ヒ且ツ退キタリ其時彼等ハ犬ヲ放チ我等ニ噛付カシメ又槍ヲ振ヒテ我等ヲ刺サントセリ然レトモ幸我黨ニハ大ナル損傷ナク僅ニ一人ノ戰死ト一人ノ負傷ヲ出スニ止マリタリ 日本來臺ノ後我等ハ一日加祿堂ニ於テほんがんに逢ヒタリシニ彼ハ「日本大人來リテヨリ汝等復タ至ラス我等久シク汝等ノ肥肉ヲ口ニセス機ヲ見テ又來ラハ如何」ト言ヒタリトテバジジムハ身ヲ顛ハセツツ語レリ

(三)出陣 ヲレ・バキナサブ バイカ・ミラバ マンキズ・シクシクジャス マジブジブ カキブ・トイタサウサウ バイカ・ス・マ・ジャラン バイカ・ミラバ・キチャビリ ルササウサウ ジマルス・トワカダ バツスナカトリサウサウ チス・スイマザイタサウサウ チアク・スナ・バイカカ・マラプトロ・コロ(イザ出草センシタクセヨ社口ノ休息所マテ來リ相談スル先一人チ呼ヒ路ニ行カシムソ)レカラ二人其後ニ從ヒ敵ヲ待ツ人ノ來ルヲ見タリ汝一人甚ニ居レ我往イテ首ヲ取ラソ

(二)凱旋 バイカ・マラプトロ・コロ マラバカト・トリ・コロ バイカカ・マビラツ モレ・マンキザカ・ウマク モレマルバカ・パブルブルガ・サマザガギヤン(首狩ニ行ク首ヲ取リタリ逃レ行ケリ將ニ社ニ來ラントス頭人及ヒ老番)ハ喜フヘシ

(三)家内相歡 マジア・オカダカダイ チマブスタク チクリニス マジア・オ

カダイ モレ・ミナシアガイ子ヌ マスルマラナカイ子ヌ トソ・カリ
 カリ(有難シ男ヲ子誰カ先ニ誠首セル。曰ククリユースト云フ人ガ有) (四)交綏 イマザイア・クミラジ
 タカラバオ・タ・カジヤ マンキザガ・ゾワ・カジヤ マカコソソ マカクチ マリブアガ
 イゾワガ・マザイ・キマビラダガ スパロナカ・ノ・サラジ クミジカガ・ジヨマ マヤマビラド
 タカラバオ・ア・カジヤ クミラジ・ア・マブラド ボコアガ・カジヤ イゾア・バリマ イゾア・バサ
 イ モレ・マビラダガ モレ・ケボアガ・ト・カジヤ スシカチ・ロ・マンキザガ・ムス モレ・バイカガ
 マバダバダイアガ(此處ニ坐シテ敵ヲ待ツ。彼ノ敵ハ來レリ。相銃射シ相争ヘリ。討死シタル者アリ。味方ニ負ハレテ逃來レリ。ソコヘ外ノ者ガ應援ニ來レリ。逃ケル勿レ。我等皆汝ニ助勢セントテ敵ヲ呼テ曰ク明後日再ヒ此處ニ來ラン。サラバサラバ)

(四)清國兵ノ牡丹社討伐 光緒十六年三月牡丹社等數名車城田中央附近ニ於テ庄民王姓ノ者三名ヲ殺ス。此九月兩庄ノ民ハ牡丹社會ノ來ルヲ偵ヒ之ヲ鹿殺シ其屍ヲ燒毀セリ。牡丹社番高士佛、加芝來兩社ト謀合シ數百人大舉車城田中央ノ二庄ヲ襲ヒ庄民亦之ヲ防禦シ鬪爭數日乃恒春知縣呂非璜等相議シ兵威ヲ示シテ鎮壓セントスレト番衆驚カス反テ其兵勇ヲ殺スニ至レリ。此ニ於テ十二月中旬臺灣總鎮萬國本ハ兵勇千餘、大砲數門ヲ持シ車城ニ上陸シ兵勇ヲ四重溪、內山ノ双溪口、牡丹山下ニ配シ大舉シテ番社ヲ勦討セント聲言セリ。而モ兵ヲ按シテ動カス。番人却テ之ヲ逆撃シ清兵ノ殺サル者日ニ多ク且兵勇ノ病者甚タ多ク死スル者亦夥シ。國本終ニ通事ヲ派シ甘言以テ頭人等ヲ慰諭シ之ヲ招キテ車城田中央兩庄ノ總理ト和約セシメ爾後人ヲ殺ス者ハ賠命金六拾圓乃至八拾圓ヲ出スヘク且ツ永遠ニ相關ハサルヲ誓ハシメ翌十七年正月臺南ニ引上ケタリ。而モ社番ノ兵民ヲ殺スコト依然タリ。知縣再ヒ巡檢ニ派兵ヲ乞

ヒタレハ萬國本再ヒ兵勇一千餘ヲ率キテ來リシモ復タ双溪口、牡丹山下ニ兵ヲ屯シ徒ニ時日ヲ過スノミ。其内ニ風雨起リ連日己マス。國本行路ノ不利ヲ名トシ通事ヲ派シ各社會長ヲ營ニ召シ庄民ト和約ヲ重ネシメテ歸ル。而モ是實際ニ於テ和ヲ番人ニ乞ヘルノ姿ナリシヲ以テ番人ノ橫暴ヲシテ己マサラシメタリ(臺灣番政史 六一-六頁)

(五)清國兵ノこぼし番討伐 我征臺軍ノ撤退セル後欽差臺灣督辦防務沈葆楨ハばいぬ族ノ兇行ヲ防遏スル爲メ瑯嶼(嶼)枋寮等一帶ノ地方ニ淮軍二百ヲ分駐セシメシガこぼし番ニ屬スル内外獅頭社等ハ屢々出テテ附近庄民ヲ戕殺シ駐屯ノ兵士及官吏ヲ傷害セシヨリ沈葆楨ハ斷然大舉シテ之ヲ討伐スルニ決セリ。其光緒元年二月十七日ニ上リタル商辦獅頭社番摺ノ中ニハ實ニ左ノ語アリ

據報兇番晝則伏於莽中、狙擊行人(是生番出草)夜則燎於山巔誘我出隊(今日此法)軍民夫役零星行走者往々爲所伺殺(亦同)唐定奎議、以該番恃密籌深林、爲藏身之固、我進彼隱、我退彼見(是生番力討伐軍ニ對スル常用ノ手段)與中原之剿髮捻(長髮賊)迥不相同、欲殲戮我、必窮荆棘、各營添募土人、幫同勇夫、隨山刊木、務絕根株、並細訪附近奸民、有接濟鹽米火藥者(此忠領臺ノ後尙之アリ)按以軍法、所籌深合機宜。

三月總統滙軍提督唐定奎ヲシテ路ヲ分チテ討剿セシム仍チ一ハ刺桐脚ヨリ一ハ南勢湖(刺桐脚北十)ヨリ一ハ竹坑埔(刺桐脚南十)ヨリ木ヲ伐リ道ヲ通シテ進ミシガ番人險ニ據リ莽ニ伏シテ抗敵シ清軍ノ死傷極メテ多カリキ當時ノ情形ハ沈葆楨ノ致セル報明南路剿番情形疎(光緒元年三月十三日)ノ中ニ詳ナルヲ以テ左ニ掲ク

竊臣等於本年（光緒元年）二月十七日、業將商辦獅頭社番情形奏明在案、茲迭據總匯軍提督唐定奎稟稱、獅頭等社兇番、前雖經各軍連營進剿、將海邊樹木斬清、而近山仍可藏匿、狙擊無已、二月十二日前營之勇、差往枋寮者九人、途遇生番數十、被殺者七、受傷者二、連日福靖左營之勇、被殺者五、南勢湖之勇、被殺者一、含沙射影、防不勝防、唐定奎招土勇千餘人、為鄉導、督飭各軍、將山腰、汗萊、栗行、薙蕪、自南勢湖起、至刺桐脚止、開路計寬三十餘丈、直長三千餘丈、該番無善可伏、沿途一清、隨獲獅頭社奸謀林進春一名、況明鼻示、當唐定奎之初至也、先於十八社中、訪出同惡之番社、曰內龜紋、曰外龜紋（以上兩社今日合シ）、曰內獅頭、曰外獅頭、曰竹坑、曰阿栽米息、曰中心崙、曰媽梨吧、曰草山、曰千仔、曰阿養益、曰中汶、凡十有二社、地皆毗連、因定進剿之路、一出刺桐脚、一出南勢湖、十四日、該番等竟敢先由刺桐脚、迤北要出、却哨淮勇格圍、移時、槍斃兇番二人、奪獲器械數件、方各獸散、二十日、中軍提督周志本副營提督章高元、親自入山探路、見山窪茅屋數間、料有藏伏、施火箭射之、果有生番百餘、突出喊抗、我軍繞山而歸、其地蓋外獅頭社之卡塞也、二十二日、周志本督隊由南勢湖探路魚貫而入、約行數里、（里ト云フハ清里ニシテ我國ノ六分一里ニ當ル以下微之）左巖右溪、鳥道一線、側足乃通、（是實ニ番路ナリ）正警備間、生番約有五百餘人、突起迎擊、槍子（銃）雨墜、周志本執發先登、士卒攀緣而上、頂踵相摩、兇黨死拒益力、鏖戰兩時、始駭而奔、我軍乘勝急攻、連破其五卡、直搗草山社、克之、弱息輻重、早已遷匿、（是人ガ討伐ヲ受ケタル場ニ取ル常手段ナリ）焚其草寮百區、敗番等分兩路奔竄、蹙高下、斃數十武外、猶虎視眈眈也、擬即築壘其地、以山無汲道、整隊而還、是役計陣斬悍番十餘名、槍斃百餘名、奪獲器械百餘件、我軍亦陣亡銘中副營左哨官遊擊束維清一員、正勇三名、槍傷銘中前營左哨官副將楊春泰一員、正勇二十餘名、嚮導千總郭占鼐、亦右手受傷、唐定奎於山麓廓清之後、親督部伍、由刺桐脚、循溪右偏而進、

三里許、至竹坑山口、察勘形勢、可以安營、惟荆榛滿目、急須芟蕪、三月初三日、派武毅右軍右營管帶朱先聘、屯之、調集親正左三等營、幫築壁壘、布置就緒、唐定奎乃循溪右而進、數日之中、又清山三里、有奇、遂至竹坑山下、地勢迴旋、為竹坑獅頭往來必由之道、初八日、復調集親正等營、助築營壘、派武毅左軍右營管帶何迪華、駐之、唐定奎仍督將士前行、伐木繞至竹坑山之後、其地曰竹坑埔、該處距刺桐脚十里、溪廣山高、竹坑社在其東南、阿栽米息中心崙在其正東、內外獅頭社皆在溪北、實為形勝之區、仍飾親正等營、協築壁壘、令左軍左營管帶陳有元、扼之、現入山雖深、遂節廓清、連環進紮、俟攻克險砦、即分兵久占、建瓴之勢、既成、破竹之功、可待、南勢湖一路、山溪更險、亦已開通、三里、有奇、該處係往獅頭社要隘、可以安營、惟其地石少土鬆、糞土戍之、乃得結實、（糞土ノ法後ニ出ツ是領塞ヲ奏シタルモノナリ）已派管帶銘字中軍左營梁善明、駐之、餘仍步步、相機善進、批亢擣虛、以收全勝之效、現在抗違者、知技無可恃、漸生其惕息之心、附和者、知法在必懲、潛消其勾結術、雖披荆斬棘、將士勞苦、迥異尋常、較諸冒險、屢血肉之軀、以儆倖於一勝者、又不當以彼易此、攻心為上、多殺何為、此臣葆楨與唐定奎、往返熟商、不敢以稍延時日、為禪也、（下略）

而シテ其淮軍攻破ノ情形ハ左ノ沈葆楨ノ淮軍攻破内外獅頭社摺ニ依リテ知ルヲ得ヘシ

竊臣等於本年三月十三日、業將淮軍分途拔木、通道翻山、逼巢情形奏明在案、茲復迭據總統淮軍提督唐定奎報稱、各營自紮竹坑埔後、即將山麓榛莽一律廓清、三月十七日、擬進攻竹坑社、料該番必有埋伏、豫派總帶武毅左軍提督張光亮、出竹坑山前、為中路、管帶左軍左營遊擊陳有元、管帶左軍右營遊擊何迪華、管帶右軍右營副將宋先聘、由左右兩路、各路步步哨探、攀緣登山、又以管帶武毅親兵、副營總兵章高元、營務處候補知府田勤生、繞由竹坑山後、進拊其背、以絕外援、張光亮等

行入營叢，伏賊突起，我軍用連珠陣法，且戰且進，擊傷兇番十數名，將士乘勝搗巢，該番捨穴而走，抄出鳴芋（芋ノ種乾シタルモ）數千，勦槍矢刀斧數百件，內有髑髏十餘顆，非捐軀之士卒，即被難之人，民揮淚瘞之。其社正據竹坑山嶺，東望阿哉米息，中心嶺，南瞰楓港刺桐脚，俱明若列眉，誠形勝要區也。因飭陳有元分一哨扼之，特其社下距竹坑埔尚七里，中隔重山，慮倉卒之際，聲息驟難相聞，又飭何迪華分一哨，踞其適中之山，以聯絡之，自入山來步，為營非惟輒石無所取資，即版築萬難，咄嗟立辨，因購麻袋數萬，挈之以趨，遇敵則攻，得險則守，就地囊土立壁，不日而成，番族望之，氣奪竹坑，布置就緒，仍督將士循大龜紋溪，向內外獅頭等社開路，該番登高瞭望，百十成群，二十三日，章高元帶隊前擊，槍傷悍番十數名，奪其紅旗而歸。二十五日，正在伐木，突有兇番二百餘人，蜂擁截路，經張光亮、章高元應隊迎戰，屢圍逾時，陣斬十餘名，傷十數名，而我軍乘勝入營，焚其草寮五六十區，詢諸士人，蓋龜紋所屬之本武社也。二十七日，章高元率親副營築壘於溪左之大橋頭，並分哨山頂，仍飭合力剪開草萊，以為進取之計。其南勢湖一路，累經提督王德成、周志本等沿途開通，每日兇番四五百人，撓我進路，互有殺傷，焚其沿山草寮百餘所，該番堅築石臺，為久踞計。二十七日，管帶武毅右軍左營總兵徐光德進紮衡山，此三月望後，攻克竹坑本武等社，並兩路進紮之情形也。四月初，唐定奎親登絕頂，見內獅頭社正面懸崖如削，無徑可通，仍飭各營循龜紋溪，窮關而進，思取勢以搗其後。至初三日，又廓清三里，有餘，張光亮正覓路上山，相度營址，忽兇番二三百人，突起，莽中隘地相逢，短兵奮擊，屢戰兩時，許悍番負傷數十，遁入密箐，左軍正營幫帶副將馬加銀、左軍左營哨官遊擊張賢扶均受槍傷，勇丁亦受傷六名。初四日，宋先聘營其山嶺龜紋社之接濟梗矣。南勢湖一路，又派中軍前營副將劉朝林營於獅頭山背，去外獅頭社僅二里，訪聞大甘仔力、周武濫等社，皆

萃居外獅頭社壘，石牆插鹿角，建望臺，樹哨旗，以守我軍累次陣斬悍番二十餘名，轟傷百餘名，而兵勇陣亡受傷者亦十數名，將士憤極，勇氣彌厲，各思滅此朝食，而兼旬不雨，酷熱如內地之六月，張光亮、王德成、章高元，感受風瘴，病莫能興，張光亮竟以十四日歿於營次，知府田勤生代領其衆，唐定奎登山，察看形勢，見生番於各山稍平之處，亦自伐木通路，蓋知官軍清道而後行，故掘阱乎其中，置伏於其旁，去荆棘以誘我也。十五日，唐定奎面授各統帶機宜，十六日子時，躡食銜枚而進。剿內獅頭社者，唐定奎自督親兵正營為中路，陳有元率左軍左營為左路，宋先聘率右軍右營為右路，而以副將畢長和帶親兵副左營伏於山後，以斷龜紋社救援之途。田勤生以左軍正營繼之，何迪華帶左軍右營扼山岡，以斷外獅頭社往來之道。東方未白，中路之兵已過三卡間，其無人，至第四卡，逆黨呼嘯迎拒，槍礮雨集，而陳有元、宋先聘已由左右險嶺，軼至山嶺，卡番擾動，中路遂乘銳猛攻，連破堅卡，與左右搗賊巢，該番依然負險死守。龜紋社兇番聞信，果以二百餘人前來，遇伏而潰，畢長和、田勤生仍留哨設伏，別分兵由山後繞出，與中左右三路併力合圍，自卯至巳，賊營始破，計斬悍番六七十名，內一名名阿拉擺，龜紋社番酋之弟也，轟傷者二百餘名，生擒小番二名，奪獲槍刀三百餘件，全番二百餘人，衝入深林，向龜紋社而竄。何迪華通抵風吹嶺，始還。當時我軍一面囊土築營，一面搜查草寮，抄出福靖左營旗幟十餘面，擡礮十桿，番槍百餘，槍刀斧千餘柄，火藥百餘斤，鴉片數百石，髮辮二十餘條，焚其草寮二百餘間，撤左軍右營何迪華守之。此四月十六日攻克內獅頭社之情形也。剿外獅頭社者，提督周志本暨副將劉朝林率中軍前營龍字營兩哨為中路，提督梁善明帶中軍副左兩營為左路，總兵余光德帶右軍左營提督姚天霖帶右軍正營兩哨為右路，亦三路齊進，自卯至辰，連破五卡，已時攻克外獅頭社，斬斃悍番三十餘名，轟傷百餘名，奪獲槍刀百餘件，餘番二百餘名，向

大甘仔力社奔逸周志本派中軍調營三哨營於山嶺一面搜查草藥抄出刀斧火藥鴉片與內獅頭社相埒計燬其草藥一百餘間隨於前後溪壑覓得白骸甚夥千總郭占鼈指爲王開俊及勇丁等捐軀之地無貴無賤同爲枯骨慘目傷心急購木匣殮之其王開俊首級必爲逆會所藏尙須細訪下落此同日攻克外獅頭社之情形也陣亡淮勇十二名土勇一名受傷者四十餘名都司彭壽長鍾玉鏞均受槍傷業已分別醫治等因 前來 臣等思獅頭兩社自外生成我我兵民傷我良將此次各軍深入用伸天討而快人心其主謀助惡各社果能悔罪輸誠縛獻渠魁以彰國典 臣等何敢不仰體朝廷好生之德寬其脅從倘梗頑如前亦不敢畏難苟安留遺孽以貽民患淮軍歷著偉績如此戰時各將領竝不以之自多而披荆棘之勞炎瘴毒霧之酷焉山越澗之奇險含沙射影之難防其艱苦更非血戰中原者比可否容 臣等彙案擇尤請旨獎勵之所出自逾格天恩除飭查明張光亮生平戰功別行奏懇賜卹外謹將先後剿克竹坑本武及內外獅頭各社情形謹會同大學士直隸總督 臣李鴻章合詞恭摺由船內渡發驛六百里馳奏 (光緒元年四月二十三日)

斯クテ到ル所堡ヲ築キ兵ヲ屯シ持久逼迫ノ策ヲ取リシヨリ五月ニ至リ番人力盡キ營ニ到リ降ヲ乞フニ至レリ此ノ役約三月ノ久シキニ互リ其間清軍ノ戰死病歿合セテ一千九百十八人ニ及ヘリト云フ

(六)らばる番バリラヤ社ト上バイワ社トノ戰闘 上バイワ社ノ地ハバリラヤ社頭人タジマラオ家ノ所領ニ屬シバイワ社民ハ每年同家ニ對シ農租ヲ納レシガ明治四十二年ニ於テバリラヤ社ガ官ノ討伐ヲ受ケタル以來上バイワ社ハ復々農租ヲ納レス終ニ兩社ノ間ニ紛議ヲ來シ大正四年三月バリラヤ社民二名ハ之ガ爲ニ上バイワ社民ノ爲ニ斃首セラレタリバリラヤ社

乃其復讎ヲ爲サンガ爲ニ大舉シテ上バイワ社ニ來襲セシガ伏ニ陥リ散々ニ敗走シタリ之ニ付キ其當時トクブン駐在所ニ在リタル警察官某氏ノ語リタル所下ノ如シ 三月二十五日未明ニ大社(社ヲ云フ)方ハ老者少年ニ至ル迄全社ノ番丁ヲ擧ケ其中一部ヲ殘シテ社ヲ留守セシメ大部分ハ出陣シタリ其時倔強ノ壯丁二十名程先陣ト爲リ約三四丁ヲ隔テ成年中年ノ番丁若干名中陣ト爲リテ進メリサテバイワ方ニテハ近日中ニ大社方ヨリ必ス押寄セ來ルヘシト察シ豫メ斥候ヲ敵社ノ方面ニ放チ置キタルヲ以テ早クモ敵勢ノ出發シタルヲ知ルコトヲ得テ全社壯丁直ニ會合シ敵ノ至ル迄ニ早既ニ之ヲ要撃スルノ策ハ講セラレタリ即一衆ハ社ヲ距ル北方十數丁ノ所ニ至リ大部分ハ其突角ノ下ニ隠レテ敵ヲ待受ケ別ニ一少部ヲ派シ迂回シテ崖上ニ登リ身ヲ露ハサス弓ニ矢ヲ番ヘテ敵ノ來ルヲ待チタリ大社勢ハ斯クトモ知ラス其先陣ハ途中ニテ十四五名ノバイワ社民ノ知ニ赴キツツアルヲ見付ケ直ニ之ニ向ヒ槍ヲ振テ突進セリバイワ社民ハ敢テ之ニ抗敵セス唯疾ク走セテ自社ノ方ヘト大聲ニテ救ヲ求メツツ逃レ來レリバリラヤ勢ハ之ヲ逃ガサシト追駈ケツツホコト云フ突角ノ所迄來リシニ兼テ敵ヲ待受ケテアリタル多數ノバイワ勢ハ突然槍ヲ揮テ討出テ猛烈ニ突撃シケレハ大社ノ先陣ハ之ニ敵スルコトヲ得ス狼狽セル所ヘバイワ勢ノ他ノ一隊ハ崖上ヨリ突然矢ヲ射掛ケタルヲ以テ大社勢愈々狼狽シテ我一ニト元來シ路ヘ逃出シタリ之ガ爲ニ其中隊モ其後陣モ一支ヘヲモ爲スコトヲ得スシテ潰散セリソレヘバイワ勢急ニ追撃シケレハ多クノ負傷者ヲ出シテ敗軍セリ其中二名ハ傷重ク之ヲ收容スルノ暇ナク終ニバイワ方ニ斃首セラレタリバイワ方ニハ數名ノ負傷者ヲ出シタレト斃首セラレタル者ハアラサリキト云フ

(七大正三年)ブダイ駐在所員ノ遭難並ニ同社ノ討伐 大正三年阿蘇廳ガ其管下ノ番人ヨリ銃器ヲ取揚ケントシタルトキ先ツ反抗シタルモノハるかハ番ナルブダイ外數社ナリトス之ガ爲ニ阿里港支廳長脇田儀一監督警部補小村政勝外十數名ノ警察官諸氏ハブダイ社ニ於テ番人ノ毒刃ニ斃レタリ此ニ於テ官ハ警察官ヲ以テ搜索隊ヲ編制シ同社ヲ膺懲スルニ至レリ余ハ其顛末ニ付キ少シク聞得タル所アルヲ以テ番人ノ戰略及討伐ノ方法ノ一斑ヲ示サンガ爲ニ其概略ヲ記ス

銃器引揚 總督府ハ久シキ以前ヨリ番人ノ所有銃器ヲ引揚クルノ意アリ先ツ明治四十三年ニハ番人所有ノ銃ヲ檢シ一々其銃床ニ檢印ヲ施シ時々之ヲ其地ノ駐在所ニ持來サシメテ之ヲ檢セリ而シテ一面ニ火藥ノ密交換ヲ取締リ其代用品ノ密造ヲ防ガンガ爲ニ構寸ノ惠與ヲ制限シタリ然レトモ其後大正三年ニ至リ何時マテモ其儘ニ棄置クヘキニ非ストシ愈々其引揚ヲ行ハントセリ然レトモ番人ガ銃器ヲ愛重スル念ハ頗ル強キヲ以テ果シテ無事ニ其引揚ヲ爲シ遂ケ得ヘキヤ否ハ一般ニ危マレタリ此ニ於テ其準備トシテ同年九月廳下各番社ニ於ケル頭人及有力番丁ヲ六龜里支廳ニ集メ先ツ充分ニ政府ノ威嚴ヲ示シ愈々銃器ヲ政府ヘ引揚クヘシサレト之ニハ相當ノ賠償ヲ與フヘク且他日狩獵等銃器ノ必要アル場合ハ之ヲ其地駐在所ヨリ貸渡スヘシトノ旨ヲ訓諭セリ(實上料ハ火繩銃一挺ニ付キ金五圓管打銃ハ十五圓モトセリ銃ハ二十圓ノ割ナリヨシ)此時阿里港支廳管下らばる番ノ大半及るかハ番ノ諸社ハ何レモ危疑シ召集ニ應セス曰ク「日本ガ我等有力者ヲ平地ニ降サントスルハ其跡ニテ社内ノ銃器ヲ押收センガ爲ナルヘシト」而シテブダイ社ニハ早不穩ノ徵現ハレタルヲ以テトクブン駐在所ニ在リタル小村警部補ハ巡查巡查補各一名

ヲ率キテブダイ社駐在所ニ來リ之ヲ訓諭シソコヘ脇田支廳長モ亦巡視シ來リ幸ニ事ナク鎮定セシヲ以テ一同ハソコヲ引上ケタリ間モナク六龜里ニ赴キタル各社ノ觀光番ハソレソレ歸來セリ而シテ各支廳ハソレソレ部署ヲ定メテ銃器ノ引揚ニ着手セリ此時阿里港支廳長ハ親シク十月四日サンチモン(番稱子)駐在所ニ來リ駐在所所屬ノ番社(チムル、カラバ、サワノ)ノ銃器ヲ引揚ケ其翌トクブン駐在所ニ來リトクブル、キョジャロア、兩社ノ銃器ヲ引揚ケ其又翌日ハ上バイワ社ノ銃器ヲ引揚クル筈ナリシモ同社番之ヲ持來ラサリシヲ以テ其翌日ニ延ハシ更ニ越ヘテ九日ニハブダイ駐在所ニ至リ其社ノ引揚ニ取掛ラントセリ之ヨリ先キトクブル社内ノ有力者ハ支廳長等ニ告ケテブダイ社ハ恐ラク容易ニ銃器ヲ提出セサルヘシト言ヘリ支廳長等ハトモカク其所ニ赴キ臨機事ヲ處セントテ小村警部補巡查秋葉庄造、森谷宏喜、西浦式太郎、佐藤兵作、勝榮滿、羽田某及巡查補江阿興ヲ伴ヒ午前九時トクブンヲ出發シブダイ社ニ來リ駐在所ニ入レリ此時同所ニハ巡查葉山勝正、本田權四郎、秋田甚四郎、月木龜次郎、勝安照、添田藤造ノ六巡查駐在セリソレヨリ支廳長ハ同社ノ諸頭人及有力ナル番丁ヲ召集シ銃器ヲ提出スヘク命シタルニ時恰モ同社ハ種ノ收穫中ナルヲ以テ禁忌ノ解クル迄即三日間ノ猶豫ヲ與ヘラレタシト請ヘリ支廳長之ヲ許シ其期日ヲ違ヘサル様ニ嚴命セリ此日カラバヤ部落ノサキノト云フ有力者ハ來ラサリキ彼ハ番人間ニ勢力アリ從來同社ノらばるぶつる兩番ニ對スル交渉ハ常ニ同人トテバオ部落ノ有力者ビオンノ兩人ニテ之ニ當レリ支廳長ハ此日ヨリ同所ニ留リ巡查及通事楊大高(清政府時代ニ於ケル官東ナレトモ今ハ番社ニ入り番婦ヲ娶テ妻ト爲ス)ヲシテ部落ニ入り番情ヲ視察セシム 翌十日西浦葉山兩巡查カラバヤヲ巡察シタルニ別ニ異狀ナシサレト十二日ニ至リ彼等

ガ果シテ從順ニ銃器ヲ持來ルヘキヤハ明カナラス

小村警部補戰死 其翌十一日小村警部補ハ月木添田ノ二巡查ヲ引キ復カバラヤニ來ラントセシニ其途中ニテサキノノ來ルニ會ス(或ハ曰フ其部落ノ入口ナル休場ニ既ニ番人集合ノ乃之ヲ責メテ「昨日汝ヲ呼置キタルニ何故ニ出頭セサリシヤ」ト曰ヒシニ彼ハ却テ小村氏ヲ責メ「前日既ニ社内ハ禁忌ナレハ來ル勿レト云ヒタルニ何故ニ來リシヤ」トテ頗ル不穩ノ模様ヲ表セリ。小村等ハ引返サントセシニサキノ其上衣ノ下ニ隠シタル刀ヲ抜キテ小村氏ニ斬掛ケタリ。小村痛手ヲ負ヒタルモ之ニ屈セス刀ヲ抜キテ戰ハントセシカハ番人敢テ之ニ近ツカス。ソコヘ一發ノ銃丸來テ氏ノ腹ヲ貫キシカハ氏ハ倒レス。起タントスレトモ起ツコト能ハス。番人刀ヲ振ヒ來テ敵首セントスレハ氏ハ身ヲ起シテ尙ホ戰ハントシ終ニハ石ヲ取テ番人ニ投ケタルモ終ニハ槍ニ刺サレテ絶命セリ。サキノ乃之ヲ敵シ其屍ヲ傍ノ畑ニ棄テタリ。其時添田氏ハ既ニ戰死シ月木氏ハ槍ヲ投ケラレ左背ヲ傷キ崖下ニ顛倒シソレヨリ山中ニ逃入り辛ウシテ午前三時頃トクブン駐在所ニ引上クルコトヲ得タリ。時ニ同駐在所員ハ皆支廳長ニ從ヒンダイ社ニ赴キ巡查雲山善巧氏(同氏ハ専ラ番童ニ從事セリ)唯一人一行ノ消息ヲ氣遣ヒツツ悄然トシテ留守シ在リタリト云フ

脇田支廳長等ノ戰死 借テ小村氏等ヲ討取リタル番人等ハソレヨリ喊聲ヲ揚ケテブダイ駐在所ニ押寄セタリ(カバラヤヨリ駐在所マテ約二十丁アリ)其日西浦巡查ハ駐在所ニ在リシニキヌラヌ及アデル兩社ノ番丁ガ同部落ニ來リ何カ相談シツツアルヲ聞込ミタルヲ以テ其様子ヲ探ランガ爲ニ出テテ附近ヲ偵察セリ。其時バリト云フ番丁ノ煙管ヲ作リツツアルヲ見タレハ其傍ニ來リ何

カト話シ始メタル所ニ下方ノカバラヤノ方俄カニ騒ガシクナリ而シテ多數ノ番人ガタテカラムノ方ニ向テ走り行クヲ見タリ。是事變ノ出來シタルモノナラント思ハレケレハ氏ハ直チニ駐在所ニ引返セシニ恰モ門ニ達セントスル頃ニ楊大高ノ内ヨリ出テ來ルニ逢ヒタリ。乃右ノ事實ヲ話シ之ヲ見届ケントテ兩人ニテタテカラムノ方ニ向ヒ約二三十間程モ進ミシ所ニソコヘ數多ノ番人押寄セ來リ皆駐在所ニ向テ發銃セント構ヘタリ。楊大高手ヲ擴ケ番群ノ前ニ立チ之ヲ制セントセシニ番兵等之ヲ引肩ツキ何レヘカ運ヒ去リタリ。西浦氏直チニ所内ニ入り之ヲ支廳長ニ告ケシカハ支廳長直チニ電話機ヲ取リ之ヲトクブン駐在所ニ報セントセシニ線ハ既ニ斷タレ在リタリ。支廳長乃所員ヲ督シ疊ヲ窓口ニ立テ掛ケテ應戰セリ。正午ニ至テ秋葉巡查先ツ腹ヲ射ラレ倒レテ水ヲ呼フ。之ヲ飲マセタルニ直チニ絶命セリ。此時番群ハ火ヲ駐在所ニ放チタルヲ以テ最早此所ニテ防戰スルコト叶ヒ難クナレリ。此上ハ唯敵中ニ斬入テ潔ク戰死スルカ一方ヲ切抜ケテ落延ヒルカノ二途アルノミ。議ハマヌル社ノ方面ニ向ヒ逃ケ得ラルルタケ逃ケンコトニ一決シ一同裏口ヨリ出テタリ。一同何レモ此邊ノ地理ヲ審ニセス。唯西浦氏ノ少シク知ル所アリタルヲ以テ氏先登セリ。五十間程進ミタル所ニ番人ノ伏兵アリ西浦氏先ツ之ヲ見付ケタルヲ以テ一同直ニ地ニ伏シソレニ向テ一勢ニ射撃シタルニ伏兵ハ散シ去レリ。ソレヨリ一同ハ走テ約三丁程來リタルニ森谷氏ハ左ノ臂ヲ打タレタリ。サレト幸ニ歩ムニハ差支ナカリキ。支廳長ヲ始メ十一名ノ警察官ハ且ツ戰ヒ且ツ走リ山ヲ越ヘ谷ヲ降リシニソコニテ途ニ別レタリ。一ハマヌル社ニ至ルヘク他ノ一ハ畑地ニ至ルナリ。其時西浦氏等ハ後ノ方ニ殘リ支廳長等ハ先ニ至リマヌル路ニ向テ進ノリ。其跡ヘ西浦氏等四人來

リ路ヲ取違へ畑路ニ入りタリ。四人ハ行クコト數十歩路盡キタルヲ以テ山ニ入りイラ社ノ方ニ向ヘリ。然ルニ番人ノ待受ケ居ルヲ見タルヲ以テ方向ヲ變シ岩石ノ間ヲ穿チテ深ク入レリ。コレヨリ其夜ハ山中ニ宿シ翌日タラバサジ社ノ對岸即チ北隘藁溪ノ左岸ニ出テタリ。日漸ク暮レントシ且水深カリシヲ以テ茲ニ一泊シ其翌朝辛ウシテサンデーモン駐在所ニ着スルコトヲ得タリ。而シテ彼ノ支廳長等ノ一團ハマヌル社ヘノ路ヲ數十歩行キシニソコニハサボカ社番ノ待受クルアリ。此所ニテ支廳長始メ本田、葉山、秋場、勝氏等ハ戰死シ森谷氏ハマヌル社界マテ逃レテ討タレタリト云フ。

ブダイ社番ノ防備 斯クテブダイ社民等ハ討取リタル首級ヲ他ノ味方ノ番社ニモ分チ一面官兵ヲ防禦スルノ準備ヲ爲シ他ノ一面人ヲ他ノ番社ニ派シ戰ヲ共ニセンコトヲ求メタリ。彼等ハ先ツ家財ヲカバラヤヌノ下方ナル溪底ニ隠シ兵ヲ二手ニ分チ一ハイラ社方面ヨリ攻來ル敵ヲ防クヘクカバラヤヌニ登來ル路ノ稜線ニ掩堡ヲ作り此所ニ待受ケタリ。掩堡ハ長サ約四五十間深サ約四尺ノ溝ヲ堀リ前方ニ約一尺ノ高サニ石ヲ積ミ所々ニ銃眼ヲ設ケタリ。又一ハトクブン方面ヨリ攻來ル敵ヲ防クヘク下方ノ溪底ヨリカバラヤヌニ通スル路ニハ長五寸乃至二尺ノ竹釘ヲ多ク植込ミ又四段ノ掩堡ヲ設ケ且ツ二個ノ落棚ヲ作り以テ討伐軍ヲ待受ケタリ。搜索隊ノ部署 布ダイ遭難ノ事官ニ聞ヘケレハ直チニ警察官等ヲ以テ搜索隊ヲ編制シトクブン駐在所ヨリ發シテ布ダイ社ヲ討伐セリ。先ツ十月二十三日未明ニ出發シカバダナ及ヒカナモチサノ兩部落ヲ占領シ攻撃部隊ヲ二トシ一ハ内田警部補之ヲ率キテ先頭ニ立チ二ハ佐藤警部之ヲ率キ本隊トノ中間ニ立チカナモチサノヨリ北隘藁溪ヲ渡リ布ダイ大社ニ向テ進

ミタリ。此時トクブン駐在所ヨリ約七八丁許カバラヤヌ方面ニ近キ耕地トカナモチサノヨリ約三丁許タラマカウ方面ニ近キ耕地(北隘藁溪ノ右岸)ニ砲ヲ置キ掩護射撃ヲ行ヒタリ。警察隊ハ山ノ約四合目マテハ事ナク前進セリ。此レマテ番人ノ築キタル二個ノ掩堡ハ在リタレトモ其所ヲ守ル番兵ハ警察隊ノ來ルマテニハ早ヤ溪底ニ逃ケ入りタリ。四合目ニハ第三ノ掩堡アリタレトモ唯二人ノ番兵アリタルノミ此モ亦警察隊ノ至ルヲ見テ逃失セタリ。五合目ニ至リタルトキヨリ番兵ハ銃ヲ打出シタリ。ドンドン進ミテ六合目ニ至リタルニツノ路ニ二個ノ釣棚アリタルモ番兵ハ之ヲ切落ス暇ナカリシニヤ其儘ニシテ逃去リタリ。六合目ニハ第四ノ掩堡アリ番兵之ニ據テ頑強ニ抵抗セリ。此ニ於テ佐藤部隊ハ第三掩堡ノ側方ヨリ迂回シテ第四掩堡ノ上ニ出テシカハ第四掩堡ヲ守リタル番兵ハ之ヲ棄テ來リ戰フ。而モ内田部隊ハ未タ來ラサルヲ以テ佐藤部隊ハ充分銃丸ヲ節シツツ戰ヘリ。九合目ノ直ク其上ハカバラヤヌ社ノ休場ニシテ此ニ大ナル榕樹アリ番兵其根ニ石板石ヲ立テ掩堡トシテ此所ニテモ亦頑強ニ抵抗セリ。翌日佐藤部隊ハカバラヤヌ社ヲ占領シ豚數十頭ヲ得タリト云フ。兩日ノ後内田部隊ハ更ニ上方ノブダイ大社(テバ)ヲ攻ム。カバラヤヌヨリハ共ニ稜線上ニ番兵ノ鹿砦處々ニ設ケラレ其進行不便ナルヲ以テ警察隊ハ番群ニ對シ恰モ此路ヨリ攻登ルガ如キ擬勢ヲ示シツツ午前二時竊ニキヌラ方面ノ谷ニ降リ布ダイ大社前方ノ稜線ニ迂回シ茲ニ掩堡ヲ築キ以テキヌラ社トノ氣脈ヲ斷チタリ。其時カバラヤヌ社民ハ隘藁溪ヲ涉テ其右岸カラモチサノ後方約一里ノ谷間ナル耕地ニ避難シタリト云ヘト警察隊ニハ氣付カサリキ。而シテ番兵ハ銃丸ノ盡キタルニヤ敢テ狙撃ニ出テサリキ。テバハオ部落ノ民ハ敵兵其前方ヨリ來ルヘシトテ專ラ前方ヲ警戒

シ居タリシニ夜明ケテ後方ノ高地ニ早ヤ敵ノ掩保ノ出来タルヲ見ルヤ惶惶トシテ阿蘇富士ノ方ニ向テ遁竄セリ。因テ内田部隊ハ無抵抗ニ其社ヲ占領スルコトヲ得タリ。サレトモ此時家豚ハ既ニ持行カレテ一頭モ無カリキト云フ。此レヨリ警察隊ハ直ニ附近ヲ搜索シ番人ノ避難地ヲ檢シ食糧及器具ノ隠シ在ルヲ見出シ之ヲ燒キ又ハ破毀シタリ。避難地ハタラマカウ社域ノ奥ノ方ニ在リタリト云フ。此役タラマカウ社モ亦ブダイニ加擔スル筈ナリシモ時ヲ失シタルガ爲メニ來リ加ハサリキト蓋シ警察隊能ク其機先ヲ制シタルニ因ルナリ。

番匪降伏 トクブン社駐在ノ警察官ハイラ社民ヲ操縦シブダイ群民ニ告クルニ速カニ從來ノ非行ヲ謝シ銃器ヲ提出スヘキヲ命シタルニ彼等早ヤ力窮マリテ如何トモスヘキ様ナカカバラヤ社ハサキノヲ始トシテ番丁約三十名許銃器ヲ持シテトクブン駐在所ニ至リ之ヲ提供シテ歸順ヲ哀願セリ。警察官ハ其社ニハ尙多クノ銃器殘リ居ルヘキニ付キ速ニ他ノ社民ニモ傳ヘテ持來スヘキヲ命シテ放還シケレハ一兩日ノ後殘リノ番丁等ハ銃器ヲ携ヘテ出頭セリ。五六日ヲ經テテババオ(大)ノ一部出テ來レリ。サレト銃器ヲ持來ラス。二三回交渉ノ後ビウン銃器ヲ持參シ之ヲ全部ナリト云フ。隊ハ之ヲ責メ尙ホ殘存スヘシトテ其地ヲ引上ケス幾回ニモ之ヲ押收セリ。而シテ一面被害警察官ノ頭骨ヲ提出セシメ(一)米袋ニ首級二個ツツテ入レ中間ヲ腫脹レリ。然レトモ其時ハ既ニ腐敗シ居タリト之ヲ火ニ附シテ合葬セリ云々(二)テ縛リ屍體ハ之ヲ奉酒箱ニ入レテ持來

(八)番人聽覺ノ銳敏ナル話 元枋山支應警部タリシ大場善太郎氏ハ之ニ付キ左ノ如ク語レリ。曾テ水坑社ノ討伐ニ從ヒタルトキ内文社及キナジ社ノ番丁ト共ニ楓港溪底ヲ行キ敵社ニ向ヘリ。日暮レテ或ル山陰ニ露宿セシニ恰モ午前二時頃ト覺シキ時番人寢ネタル儘ハツト

云ヒテ靜ニ同氏ヲ呼起セリ。氏即チ敵番ノ襲來セルモノトシ直ニ銃ヲ執テ跪キヌ。一番丁靜ニ出テ附近ヲ窺ヒ歸來シテ曰ク「今七八人山ニ向ヒテ此所ヲ過ク。是レ敵番ノ平地ニ赴キ交換シタル者ガ歸來セルカ。然ラサレハタカリヤウ社民ガ我來襲ヲ敵ニ報知スル爲メニ至レルナルヘシ」故ニ之ヲ狙撃セント欲シタルモ果シテ敵番タルヤ明カナラサルヲ以テ之ヲ見合セタリト。時ニ水流枕ニ響ク我等ノ耳ニテハトテモ人ノ足音ヲ聽別クルコト能ハサリシナリ。然ルヲ番人ノ警戒ノ嚴ナル而シテ其聽覺ノ銳キ能ク些細ノ音ト雖モ之ヲ感覺セシナリ。斯テ翌朝草山社番丁ノ二三丁先キニ宿セルヲ見タリ。即知ル昨夜番丁ノ認メテ敵番ト爲シタリシモノハ即是レニシテ彼等ハ昨日楓港ノ入口ニ休憩シタル間ニ一行ニ遅レタルヲ以テ夜中其跡ヲ追ヒテ至リシニ路暗ク一行ノ露營セシ所ヲ知ルコトヲ得スシテ行キ過キタルナリ。

口笛ノ相圖 同氏又曰ク番人ガ足音ヲ竊ミツツ草莽ニ伏シ林叢ヲ潛ル際ハ互ノ相圖ハ口笛ヲ以テ爲ス。其聲恰モ小サキ鳥ノ鳴クモノノ如シ。我等ニハ之ヲ聽別クルコト能ハサレトモ番人等ハ之ヲ識別スト

第五 出陣及凱旋ノ方式

(一)總說 出陣及凱旋ノ場合ニハ各社團一定ノ方式アリ。ソレソレ相異ル所アルモ大體ニ於テハ左ノ如シ

(イ)出陣ノ場合 ニハ首棚ノ前ニ立テ戰士ニ元氣ヲ附スルノ祈禱(ロコムト云フ)ヲ行ヒ敵前近クニ至レハ其方ニ向ヒ敵靈ヲ招徠スルノ祈禱(カクアトカウト云フ)ヲ行フ。本族ニハ出陣ニ際シテ特ニ鳥占及夢トヲ行フコトナシト雖モ出草ノ前日或ル惡夢ヲ見タル者ハ一行ニ加ハラズ。又出陣ノ途

中ニテ凶夢ヲ見又ハ凶兆ノ鳥聲ニ接シタルトキハ一行ニ離レテ引返ス

尙出陣ニ際シテハ特ニ本人及其留守家人ニ嚴守スヘキ禁忌アリ此レハ條ヲ改メテ説述スヘシ

(3)凱旋ノ場合 戦ニ赴キタル一行ノ歸來シ社ニ近ツクヤ喊聲ヲ揚ケテ之ヲ社民ニ報スレハ社民一同之ヲ來迎フ一行乃チ社内ニ入り先ツ頭人方ニ至リ敵首セル首級ヲ示シ之ニ對シテ招魂ノ式ヲ行ヒ畢テ一同飲宴歌踊スソレヨリ日ヲ期シテ「スマスカジヤ」ノ式ヲ舉ケ其首級ヲ首架ニ納ル「スマスカジヤ」ノ式ハ多ク其首級ノ肉ガ落去リタルトキヲ待テ行フ 凱旋ノ場合ニ行フ歌及ヒ踊ハ各社ニ於テ一定セリコハ既ニ歌踊ノ部ニ於テ述ヘタル所ナリ

(二)重ナル番社ニ於ケル出陣及凱旋ノ方式

(い)ぱりじやお番サデク群社 ニ於テ

(1)出陣 ニ際シ一同首棚ノ前ニ集リ男祝首棚ニ對シ祭肉ノ小片ヲ投シツツ戰捷ヲ祈ル其辭ニ曰ク「バザギザギ及バジ(共ニ古代ノ勇士參照 傳説第十六第十七)ニ告ク我等ハ今我等ノ敵ノ方ニ出草セントス汝等降來テ我等ヲ保護セヨ又首棚ノ諸靈ヨ汝等定メテ常ニ汝ノ郷黨ヲナツカシク思フナラン我等今往テ汝ノ伴侶ヲ取來ラン汝ハソレト共ニ酒ト餅トヲ食フコトヲ得ヘシ」次ニ頭人ハ一同ニ對シテ祭肉ノ小片ヲ其頭上ニ投シツツ「バボロコム(元氣ヲ附スル義)ノ祈禱ヲ行フ其辭ニ曰ク「今汝等一同ノ部下ニ元氣ヲ附ス汝等ハ敵前ニ至ルモ敵ノ銃丸ハ我ニ對シテ命中セサルヘシ」ト 畢テ頭人、世襲補佐、黨祝及代管ヲ先トシ番丁之ニ續テ進發ス敵前近クニ至レハ遙ニ敵ノ方ニ向テ祭肉ノ小片ヲ投シツツ「ツンブジトカジヤ(敵ヲ招クノ義)ノ祈禱ヲ行フ其辭ニ曰ク「今此祭肉ヲ以テ汝等ニ與フ汝等速ニ此ニ來テ食ヘ我等ノ部民ハ汝ヲ討取ラント熱望シツツアリ」ト 此レヨリ番帥先導シ番丁ソレニ從ヒ黨

祝及頭人ハ最後ニ續ク

(2)凱旋 一行ガ敵ノ首級ヲ得テ歸ルトキハ社前ノ坂ノ下ニテ茅火ヲ燒キ一同凱旋ノ歌踊ヲ爲シツツ火ヲ廻ルコト五回後火上ヲ跳越ヘテ坂ヲ登リ社ニ入ルココニテ首級ノ口ニ酒ヲ灌入レ粟餅ヲ喰ハシメ後之ヲ首架ニ納ル一ケ年ヲ經タル後ニ「スマスカジヤ」ノ式ヲ舉ケテ祝宴ヲ張ル

(3)ぱりじやお番高士佛社 ニ於テハ

(1)出陣 一同其前夜ヨリ戒慎ス一行ノ家族亦同シ(參照戰訓ニ關スル禁忌) 其日早朝起來リ武装ヲ整ヘ婦ハ糧食ヲ調フ 一行頭人家ニ聚レハ女祝來リ一同ニ對シ祈禱ヲ行フ其辭ニ曰ク「汝等番丁ヨ今此ノ祭肉ヲ以テ汝等ノ爲メニ祈ラン汝等敵ニ逢ハハ其身ハ恰モ石ノ如ク爲リ敵ノ矢石ハ汝等ニ對シテ却テ後退スヘシ汝等ノ祖先ハ汝等ノ身ニ宿レリ汝等ハ恐ルルコト勿レサジムジサウマイ(祖神ノ名)ハ汝等ヲ守護シテ幸アラシムヘシ」ト又祝シテ曰ク「今出草ス敵ノ福運ハ小ク汝ノ元氣ハ大ニ汝マジヤカス及汝ジマチャク(共ニ頭人ノ家ノ名)ニ敵ノ首級ヲ持來スヘシ」ト斯クテ頭人銃ヲ取り木ニ向テ發砲シ又刀ヲ拔キ天ニ向テ之ヲ振翳シ以テ威容ヲ示ス然ル後出發ス一行敵社近クニ至レハ其中ノ一人遙ニ敵社ヲ望ミ祭肉ヲ投シテ招魂ノ祈禱ヲ行フソレヨリ部署ヲ定メテ敵社ニ突撃ス 若シ路ニ敵ヲ要撃セントスルモノナラハ適當ノ地點ヲ選ミノコニテ招魂ノ式ヲ行ヒ後路傍ノ叢林岩影等ニ潛伏シ徐ニ敵ノ至ルヲ待ツ

(2)凱旋 敵ノ首級ヲ舉ケタルトキハ「アイワワボクボクニヤナカジヤ」ト云ヒツツ一同一刀ツツ斬付ク之ヲ「バジジヤトカジヤ」ト云フ ソレヨリ引揚ケテ社ノ近クニ來レハ一同喊ヲ揚ク全社此聲ヲ聞クヤ酒餅等ヲ携ヘ社外ノ休場ニ來リ迎フ而シテ幼童婦女ニ迄ル迄其首級ニ對シ亦右ノ「バジジヤ

ストカジャノ式ヲ行ヒ畢テ首級ノ耳孔ニ籐蔓ヲ透シ(土人ノ首級ナラハ其辨髪ヲ卷ク)竹ノ先端ニ縛シ臙首者ソレヲ持シ頭人家ニ至ル一行之ニ續ク途中三個所ニ火ヲ焚ク一行其火ノ所ニ至ルヤ後ヲ向テ唾ヲ吐キ後火ヲ跳越ヘテ行ク此時頭人家ノ前庭ニ於テモ亦火ヲ焚キ在リ首級ヲ持シタル者ハ竹ノ末端ヲ持シ其首級ヲサシ上ケツツ五回火ノ周圍ヲ廻ル一行亦之ニ倣フソレヨリ其首級ヲ持シテ社ノ舊址(此所ニ首級架アリ)ニ赴キ石ヲ以テ「タビタビ」(靈ヲ作リ)此レハ汝ノ家ナリト言ヒテ首級ヲ其上ニ載セ之ニ肉酒等ヲ供シ茲ニハ酒モアリ飯モアリ遠慮ナク食スヘシ近日汝ノ親族モ來ルヘシト言フ土人ノ首級ナラハ其辨髪ヲ斷シ之ヲ持歸ルソレヨリ一同頭人家ニ至リ飲宴歌踊歡ヲ盡シ尙ホ全社ヲ飲廻ル之ヲ「バルバ」(歡喜即チ慶賀ノ義)ト云フソレヨリ日ヲ期シテ大頭人(指風東社ガ)及和親關係ニ立テル牡丹社、八瑤社等ニモ赴ク彼等ハ豫メ酒ヲ置テ我ヲ待ツ大頭人ハ特ニ我等ノ爲ニ豚ヲ屠ル此レモ亦「バルバ」ト云フ大頭人家ニ至リタルトキノミハ一泊シ其他ノ社ニ至リタルトキハ其日ニ歸來ス各所ノ「バルバ」濟メハ一同歸テ舊社ニ至リ家豚ヲ屠リ首級ニ對シテ「スマスカジャ」ノ祭祀ヲ行ヒ之ヲ「タビタビ」ノ内ニ藏シテ歸來シ禁忌解ク一行ハ家ニ在リテ始メテ家人ト食器ヲ同クシ又妻ト同食スルコトヲ得

(ハ)同番加芝來社ニ於テ出陣ノ式ハ略ホ高士佛社ニ同シ凱旋ノ式ハ少シク異ル所アリ今「スマスカジャ」ノ後ニ於ケル出草ノ凱旋式ニ付キ之ヲ記ス凱旋シテ社ニ近ツク時ハ一同「オー」ト大呼シ後發銃ス頭人豚ヲ屠リ酒及肉ヲ戶外ニ置キテ之ヲ待ツ斯クテ其一團歸着スレハ頭人親シク之ヲ出迎ヘ戰功者ノ名ヲ問ヒ一ノ首級毎ニ三人ノ戰功者ヲ擧ケ(參照次條)順次ニ一碗ノ酒ヲ酌ミ且ツ一片ノ肉ヲ與フソレヨリ順次ニ主祝(番語「カマヤイ」)副祝(番語「バカマ」)及頭人ノ音頭ニ依リ一同喊

聲ヲ發スルコト三回後主祝祖靈ニ對シ此行ノ成功ヲ謝シ且一社ノ平和ヲ祈ルソレヨリ首級ハ戶外ニ於テ扁平ナル石ノ上ニ載セ口ニ祭肉ヲ含マセ其辨尾ニモ之ヲ結付ケ主祝副祝及頭人以下次第ニ進テ首級ニ對シ汝折角來リシニ何等汝ニ與フヘキモノナシト語リ口ニ酒ヲ灌ク然ル後一同酒宴ヲ開キ且酌ミ且躍リ此時臙首ノ歌ヲ唱ヘ歡ヲ盡シテ解散ス其翌臙首者首級ヲ持シ首架(舊社地ニ納ム)

(ニ)こぼし番内文社ニ於テ

(1)出陣ニハ黨祝頭人家ノ前庭ニ於テ首架、番社及「マバヤナ」(庭前ノ大樹)ノ靈及「マバザギザギ」(古代ノ靈ヲ喚ヒテ戰勝ヲ祈ル而シテ敵前近クニ至レハ祭肉ヲ投シテ敵靈ヲ招徠ス)
 (2)凱旋一同「オー」ト叫ビ臙首ノ歌ヲ唱ヘテ歸來ス先ツ首級ヲ持シテ頭人方ニ至リ之ヲ示シ後祭肉ヲ首級ノ口ニ食ハシメ且酒ヲ灌キ告ケテ曰ク「肉ヲ食ヘ、饑ヘサル様ニ酒ヲ飲メ、渴セサル様ニ此所ニハ肉モ多ク酒モ多シ汝ノ父母兄弟ヲモ呼來レ」トソレヨリ一同歌踊ヲ行ヒ後其髮ヲ剪リ禁忌ノ林ニ至リ樹枝ヲ伐テ其先端ヲ尖ラシ之ニ其首級ヲ刺シ置ク爾後數月ヲ經テ頭顱ノ曝白シタルトキ日ヲ選テ「スマスカジャ」ノ式ヲ行ヒ首架ニ藏ス本番ニ於テ「スマスカジャ」ノ式ハ首級ヲ得タル毎ニ行ハス數個集リタル後合シテ之ヲ行フ

(三)北はいわぬ番リキリキ社ニ於テ

(1)出陣一同頭人家ニ集マレハ女祝小刀ヲ以テ豚骨ヲ削リ之ヲ四方ニ散シ敵ノ靈ヲ喚テ曰ク「汝何々ニ與フ汝等來リ食ヘ」次ニ之ヲ隊員一同ノ頭ニ散シ其元氣ヲ強盛ナラシム此時番帥ハ銃ヲ執リ敵ヲ狙撃スルノ狀ヲ爲シ又刀ヲ揮ヒテ敵ヲ斬ル狀ヲ爲スト云フ

(2) 凱旋 一行ハ社ノ入口ニ於テ薪ヲ燃シ其上ヲ跳越ヘテ入ル首級ハ之ヲ持シテ頭人ノ家ニ至リ其屋根ノ上ニ抛上ケ之ヲ其落來リタル位置ニ据ユ社衆之ヲ圍テ歌踊シ翌午後ニ至リテ止ムソレヨリ首級ヲ持シテ首架ノ所ニ至リ之ヲ其傍ノ樹枝ニ置キ日ヲ期シテ「スマスカジャ」ノ式ヲ行フ

(ハ) 同番クナオ社 ニ於テハ出陣ノ時ハヨルシバア家ノ内庭ニ於テ「イアリントグブ」ノ祭祀ヲ行フ即祖先ヲ祭テ戰功ヲ祈ルナリ 凱旋シタルトキハ同家ノ庭ニ在ル立石(番語「サウ」ニ敵ノ首級ヲ掛ケ翌日之ヲ首架「番語「ボ」ノ側ナル土中ニ埋メ約二十日ヲ經タル後掘出シ深ニ持行キ之ヲ洗ヒソレヨリ粟ヲ搗キ酒ヲ作り豚ヲ屠リテ「スマスカジャ」ノ祭祀ヲ行ヒテ之ヲ首架ニ納ム

(ト) 同番ボカリド社 ニ於テ凱旋ノ時ハ番社ノ入口ニテ祭祀ヲ行ヒ首級ヲ樹ニ吊シ三日ノ後皮肉ヲ剥去リ五日目ニ首架ニ納ム髮ハ敵首者之ヲ取り同行者ニ分ツ

(チ) 同番チャジャカブス社 ニ於テハ戰勝者ノ一行ハ凱歌ヲ奏シツツ社ニ近ツケハ大聲ニテ「タライタ・ルサ・ホー」ト呼ヒ以テ敵首ノ數ヲ報ス社番之ヲ聞クヤ一同來リ迎ヘ婦女ハ檳榔子ヲ以テ戰功者ヲ犒フ一行ハ首級ヲ持シ頭人方ニ至リ屋上ニ上ホリ之ヲ前方ニ轉落スソレヨリ前庭ニ於テ其首級ヲ西向ケニ置キ之ヲ圍テ歌ヒ且ツ踊ル然ル後之ヲ敵首者ノ家ニ持行キ祖靈ニ供シソレヨリ頭髮ヲ切去ルソレヨリ其頭ヲ持シテ頭人方ノ前庭ニ持行キ之ヲ圍テ置酒歌踊ス若シ社内ニ於テ其被敵首者ノ與黨ニ殺害セラレタル者アルトキハ其遺族ハ復讐ト稱シ其首級ヲ地上ニ擲ソコトアリト云フ 終テ「バカジャ」(最初ニ敵ヲ銃射シ「バキスタジ」(敵ヲ誅シ「バビスビス」(首級ヲ携帶「シタル者」ノ三名ニテ社外一定ノ所ニ持行キ石ヲ積ミ其中ニ藏メ其上ニ石ヲ蓋フ

(リ) ぶつる番カビヤカヌ社 ニ於テハ凱旋者ハ社ニ近ツクヤ喊聲ヲ揚ケ且茅火ヲ跨キ然後社内ニ

入ル先ツ首級ヲ頭人ジカロール家ニ持行キ三回之ヲ其屋上ニ抛上ケ後之ヲ古代ノ黨祝タリシラリヤパン家ニ持行キ庭前ノ石上ニ置キ粟莖ヲ燃ヤシテ之ヲ照ス後一衆首級ヲ圍テ飲宴ス古代ハ「スマスカジャ」ノ式ヲ行ヒタルモ今其費用ヲ節シテ之ヲ行ハス首級ハ數日ノ後之ヲ郊外ニ埋ム

(ニ) 同番カザヤザヌ社 ニ於テハ凱旋ノ一行ガ社ニ近ツクヤ發銃シ以テ其凱旋ヲ社内ニ報ス而シテ「タライタ」(首級一ヲ得タルトキ)又ハ「タライルサ」(首級二ヲ得タルトキ)等ト歌ヒツツ敵首シタル數ヲ報ス斯テ社内ノ者等來リ迎フルマテ同一ノ語ヲ反覆ス而シテ首級ガ同族ノモノナルトキハ社ノ入口ニ於テ之ヲ石上ニ置キ黨祝之ニ對シ饌肉ヲ具シ招魂ノ式ヲ行ヒ曰ク「此所ニ肉多シ汝ノ父母兄弟社民等皆來レ」トテ酒ヲ彈キ其殘瀝ヲ頭ニ注キ後其首級ヲ持シテ「ボアジャ」(第一着ニ敵ヲ刺シ「又ハ射中テタル者」ノ家ノ外庭ニ至リ番丁等之ヲ圍テ圓陣ヲ作り敵首ノ歌ヲ謠ヒツツ踊リ飲宴夜ヲ徹ス若シ其首級ガ漢族ノモノナルトキハ直チニ頭人ノ前庭ニ持行キ茲ニ招魂ノ式ヲ行ヒ後之ヲ圍テ歌踊ヲ行フソレヨリ首級ヲ社ノ入口ニ持行キ黨祝之ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ後石柱ノ下ニ西向ケニシテ埋ム五日ノ後之ヲ掘出シ深底ニ持行キ之ヲ中央ニシ圓陣ヲ作り黨祝之ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ而シテ之ヲ燒キ肉ヲ洗去リ社ノ入口ノ首棚(パコ)ニ置ク漢族ノ首級ハ家ノ外壁ノ首穴(ボオロ)ニ藏ス

(三) 同番下バイソヌ社 ニ於ケル凱旋ノ式ハカビヤカヌ社ニ同シ但シ敵ノ首級ハ山ニ至リ刀ヲ以テ頭ノ皮ニ切目ヲ入レ湯ニ煮テ(祝ノ家ニ藏スル鍋ヲ用ケル)後皮ヲ剥取り腦ヲ取棄テ其頭顱ヲ持シテ家ニ歸リ豚ヲ屠リテ「スマスカジャ」ノ祭ヲ行ヒ家ノ靈穴(石垣ノ内)ニ藏ス

(を) 同番マヌル社 ニ於ケル凱旋ノ式モカビヤカヌニ同シ但シ首級ハ同社内ノ民ト親族關係アル者ナルトキハ郊外ノ禁地リスリスアヌニ置ク石板石ヲ以テ四方ヲ圍ミ其中ニ首級ヲ置キ上ニ石

ゴモチ(一圓銀貨大ノ螺鈔ヲ中心トシ其周圍)ヲ附スルコト(五)煙管ニ人ノ形ヲ彫刻シ且ツ其雁首ノ内側ヲ斜ニ切去ルコト(六)帽頭ニ「ジャリジャリ」(羽)ヲ挿スコトヲ得帽ニハ五六個ノ竹管ヲ附シアリテ之ニ鷹羽ヲ挿シテ後方ニ垂ル又中央ニ直立セル一ノ竹管アリ之ニ挿シテ羽ヲ直立セシム(ガ)ガルハ唯後方ニ垂レシムルコトヲ得ルモ中央ニ直立セシムルコトヲ得スソレハ唯「カツ」ノ資格アル者ノミ之ヲ爲スコトヲ得

(ハ)北ばいわぬ番諸社 (一)クナナオ社ニ於テハ先ツ銃射シタル者ヲ「ジムライ」次ニ槍ニテ刺シタル者ヲ「ジマジュブ」最後ニ敵首シタル者ヲ「ジモロ」ト云フ此中ニ「ジモロ」ヲ首功トシ一ヲ得レハ「ララカサヌ」ト稱セラル (二)ボカリド社ニ於テモ亦功ヲ三段ニ録ス其中ニ敵首シタル者ヲ首功トシ刀ノ鑓ニ鳥羽ヲ附スルコトヲ許サル (三)チヤジャカブス社ニ於テモ功ヲ三段ニ録シ其三人ハ槍及刀ニ赤キ毛又ハ鳥ノ羽ヲ附シ被服及携帶品ニ人形ノ刺繡彫刻ヲ爲スコトヲ許サル尙ホ當社ニ於テハ少ナクモ敵三四級ヲ敵シタル者ニ非サレハ「ララカサヌ」ト稱セラルルコトヲ得ス「ララカサヌ」ハ當社ニ於テ戰闘ノ主帥ト爲ル

(ト)こぼし番内獅頭社ニ於テハ功ヲ四段ニ劃ス第一ハ「クムチ」又ハ「ボアジャ」ト云ヒ第一着ニ敵ヲ射殺シタル者ナリ次ヲ「ジマジュブ」ト云ヒ槍ヲ以テ敵ヲ刺シタル者ナリ次ハ「ジモロ」ト云ヒ刀ヲ以テ敵ヲ敵首シタル者ナリ第四ハ「ブニスビス」ト云フ其首級ヲ携へ歸リタル者ナリ 右ノ中「クムチ」ハ頭上ニ鷹羽ノ飾(番語「ジャイ」)ヲ施シ刀鞘ニ赤毛(番語「バビ」)ヲ附シ且ツ刀鑓ニ鷹羽ヲ飾ル(番語「バチ」)コトヲ得「ジユマジュブ」ト「ジモロ」トハ「バビスビス」ト「バチウタヌ」ヲ爲スコトヲ得「ビニスビス」ハ單ニ「バビスビス」ノ飾ヲ附スルコトヲ得 戰功ヲ立テサル者ヲ「イシギジ」ト云フ獵神祭ニ列スル資格ナシ

(チ)同番内文社ニ於テハ功ヲ三段ニ劃ス第一ハ「ボアジャ」及ヒ「ジャジュブ」ナリ「ボアジャ」ハ最初ニ敵ニ槍ヲ擬シ又ハ銃射シタル者ニシテ「ジャジュブ」ハ敵ガ倒レシテ逃走スルトキ槍ヲ以テ之ヲ刺シタル者ヲ云フ此二者其功相同シ 第二ハ「ジモロ」ニシテ敵首シタル者ナリ第一着ニ刀ヲ加ヘタル者ヲ「バキンタジ」ト云フ若シ一刀ニテ斬落スコト能ハサル場合ニ第二着ニ刀ヲ加ヘタル者ヲ「バキンムサジ」第三着ヲ「バキントル」ト云フ 第三ハ「バビスビス」ト云フ首級ヲ携へ歸リタル者ナリ 右ノ中「ボアジャ」若クハ「ジャジュブ」ト「ジモロ」トハ各「ジャイジャイ」(頭上ニ鷹羽ノ飾)及ヒ「ビスビス」(刀ノ鑓ニ鷹羽ノ飾)ヲ施スコトヲ得一ニテ此二功ヲ兼ネタル者ハ「ジャイジャイ」三本ヲ附シ且ツ之ニ其臺ヲ施スコトヲ得「ビスビス」ハ其敵首シタル場所ニ依テ其形ヲ異ニス社外ニテ取リタル者ハ長キ辨髮ヲ附シ住家若クハ畑小屋ヲ襲ヒテ取リタル者ハ短キ毛ヲ附ス「ジャイジャイ」ハ每功其數ヲ増シ三本ニ至テ止ミ「ビスビス」ハ每回其條數ヲ増シテ多キヲ誇ル

(リ)はりじお番サブデク群社ハ功ヲ三段ニ劃ス第一ハ「ボカジャ」ニシテ銃弓又ハ槍刀ヲ以テ第一着ニ敵ヲ攻撃シタル者第二ハ「ジャジュブ」ニシテ第二着ニ刺シタル者第三ハ「ジモロ」ニシテ首級ヲ敵シタル者ナリ若シ一人ニテ此三ヲ兼スルトキハ之ヲ「バラスブン」ト云フ 其表章トシテ「ボカジャ」ハ二本ノ鷹羽「ジャジュブ」及ヒ「ジモロ」ハ一本ノ鷹羽ヲ立ツルコトヲ得但シ「ボカジャ」ハ毎回其羽數ヲ増シテ十本ニ至ルコトヲ得ルモ「ジャジュブ」ト「ジモロ」ハ之ヲ増スコトヲ得ス尙「ボカジャ」ハ頭人ニ「トコジ」(免許)ヲ與ヘテ刀鞘ニ「バビスビス」ヲ施シ頭環ニ「羗尾」ヲ附シ(多ク猪鹿ヲ取)且ツ被服ニ人形ヲ刺繡スルコトヲ得ト云フ

第七 戦死者ノ處置

(一)收容 本族一般ニ戰死シタル味方ノ屍ヲ敵ニ委スルヲ恥ツ故ニ之ヲ奪回シテ肩ニ負ヒ敵ニ攻撃セラルル虞ナキ地點マテ來リ其屍ノ兩手、肘及兩足ヲ縛シ廣キ番布(番語コバレット)ニテ包ミ其間ニ棒ヲ透シ怡モ豚ヲ擔フガ如ク兩人シテ之ヲ擔キ自黨ノ領域ニ持歸リ墻ヲ穿テ之ヲ埋ムクナナオ社ニテハ番轡ヲ作り之ニ屍體ヲ載セ擔キテ歸ル 凡ソ出草者ガ定メタル日ニ歸來セサルトキハ一黨内ノ番丁出テテ其方面ヲ搜索シ其屍ヲ發見シタルトキハ之ヲ自黨ノ領域マテ持歸ルヲ例トス

(二)埋葬 戰死者ノ屍ヲ埋ムル方法ハ普通ノ埋葬ニ同シ唯(一)ばいわぬ諸番ニ於テハ戰死者(特ニ薩レタ)ノ屍ヲ其部落内ニ入ルルコトヲ忌ムガ故ニ郊外一定ノ場所(禁忌ノ林地ニシテ平常人ノ之ニ入ルコトヲ禁ス)ニ埋ム、ばりじやお番ニ於テハ此時一人ノ巫ハ戰死シタル場所ニ至リ血痕ノ浸染セル土ヲ取り告ケテ曰ク『汝ノ往ク所ハ既ニ準備セラル速ニ歸來セヨ』ト之ヲ持シテ死者ノ家ニ往キ告ケテ曰ク『汝ハ此家ヲ離レ定メタル所ヘ往ケ』ト其土塊及死者ノ所持品トヲ持シテ郊外ノ禁林ニ至リ屍ト共ニ埋葬ス、此時巫ハ之ニ告ケテ曰ク『汝怯懦ニシテ敵ニ殺サル我等ハ汝ノ爲ニ復讐スヘシ、汝出テテ助ケヨ』ト一同發銃シテ歸ル翌日重立チタル者死者ノ家ニ會シ復讐ノ議ヲ決スト云フ(二)ざりせぬ諸番ニハ戰死者ヲ部落内ニ入ルコトヲ禁忌ナシト雖モ多クノ社ニ於テ之ヲ通常ノ墓ニ埋メス家ノ入口ノ墓ニ埋ム尙此等ニ關シテハ後門第二章中葬ノ部ニ説述スヘシ

第三款 應援及中立

(一)應援及中立ヲ表スル番語 應援ハ番語(本款ニハ番語トシテらばるぶつる、及びばいわぬ諸番ノ語ヲ)ニテ、ブクジン(傳ト同語)ト云フ 其攻戰者ノ何レヲモ助ケス中立ノ地ニ立ツヲジミザオ(觀望ス)イラテカ(難關ス)又ハ「イニカキチャビリ(關係セサ)ト云フ

(二)應援又ハ中立ニ對スル頭人ノ權 一ノ番社團ニ屬スル各黨ガ攻守ヲ共同ニスルコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ從テ又他ノ番社團ヨリ應援ヲ求メラレタル場合ニ其番社團ガ應援又ハ中立ヲ決シタルトキハ其社團ニ屬スル番丁ハ皆其應援又ハ中立ノ義務ヲ守ルヘキハ當然ナリ、然レトモ近代頭人家ノ權威衰微シ攻守ニ關スル黨ノ結束モ漸ク弛緩シ頭人ガ應援又ハ中立ヲ決シタル場合ト雖其黨ニ屬スル番丁ハ必スシモ之ニ從ハサルニ至レリ即チ強敵ヨリ自社ヲ攻撃セラルル場合ハ自家ノ生存ヲ保ツ必要上能ク一致ノ行動ヲ取ルト雖モ進テ他ヲ攻撃スル場合ニハ唯黨民中ノ往キタキ者ノミ往キ往クコトヲ欲セサル者ハ往カス況ヤ他ノ番社團ヨリ應援ヲ求メラレタル場合ニ於テハ之ヲ應援スルト否ハ殆其黨民各自ノ任意タルガ如キ觀ヲ爲スニ至レリ唯今日ニ於テモ頭人權ノ比較的強盛ナル所又ハ黨老ノ材幹能ク一黨一社ヲ率キル所ニ於テハ比較的其黨民ガ攻撃應援又ハ中立ニ付キ一致ノ行動ヲ取ルヲ見ルノミ、ぶつる番マカザヤザ社ノ大頭人ヲウツー曰ク『社民ノ他社ヲ應援スルハ唯酒ヲ飲ミ踊リタキ故ナリ(是戰濟ミタル後ニ應援ヲ受ケタル社)之ガ爲ニ屢々累ヲ頭人ニ及ホスコトアルモ頭人ハ已ムヲ得ストシテ決シテ之ヲ制止セサルナリ』北ばいわぬ番クナナオ社ノ老番曰ク『他ヲ應援スルハ社民ノ任意ナリ頭人ハ社民ヲ制シテ之ヲ中止セシメ又ハ命シテ應援ニ赴カシムルコトヲ得ス之ガ爲ニ自家ノ兼領スル他ノ黨ヲ侵害スルコトアルモ如何トモスヘカラサルナリ云々』

(三)應援ノ事由 一ノ社團ガ他ノ社團ヨリノ依頼ヲ受ケ或ハ依頼ヲ受ケス自ラ進テ之ヲ應援スルニハ數個ノ事情アリ試ニ之ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ)強敵ニ對スル唇齒輔車ノ關係ニ因ルモノ 此レハ何レノ時代何レノ社團ニモ之アル所ナリ、リキリキスボン、チャコボコボジ諸群社ガ聯結シテ山下ノ平埔番ニ當リばりじお番諸社ガ聯結シテ漢人ニ當リタルガ如キ是ナリ其他古代ニハ清國政府ノ討伐ニ對シ近代ニハ我陸軍又ハ警察隊ノ討伐ニ對シ各地ニ於ケル諸社團ガ聯合シテ之ニ當リタルガ如キモ亦其好例ナリ而モ討伐軍ノ能ク番軍ニ討克ツハ概シテ之ヲ殺戮シテ其威ヲ示スヨリモ其操縱ヲ巧ニシテ彼等ノ聯結ヲ破リ其勢ヲ孤弱ナラシムルニ在リタリ 明治七年征臺ノ役牡丹高士佛八瑤諸社ハ相聯結シタルモ大頭人ガルジグジ家ヲ始メトシ加芝來社及サブデク群社ハ觀望ノ地ニ立チタリ明治四十二年らばる番バリラヤヌ社ノ討伐ニ際シ其頭人家ノ部下タル上バイワヌ、トクブル諸社民ハ一早ク官命ニ服シ却テ討伐軍ノ爲メニ力ヲ盡シタリ 大正三年銃器引揚ニ原因スル反抗ノ如キ一時本族全部ヲ打シテ一團トセル同盟ヲ形成スヘキ勢ナリシモ幸ニ討伐隊ノ機敏ノ動作ト一面ニハ番人ノ操縱其宜シキヲ得タルニ因リソレ迄ニ至ラザリキ 上記ノ諸場合ニ若シ番人ガ輔車唇齒ノ關係ニ因テ固ク相聯結セハ其討番モ容易ニハ解決セサリシナルヘシ

(ロ)藩屬的又ハ其頭的ノ黨聯結ニ因ルモノ 既ニ述ヘタルガ如ク本族ノ諸黨中ニハ宗主頭人ト從屬頭人トノ關係ニ因テ相聯結スルモノアリ又一ノ頭人ガ數黨ヲ兼領スルニ因リ其諸黨ガ相聯結スルモノアリ此等ハ戰鬪ニ付テハ當然其攻守ヲ共同ニスヘキ筈ナレトモ實際ニ於テハ北ばいワぬ番ノ南部及ヒこぼじ、ばりじお、おノ兩番ニ於テ其然ルヲ見ルノミニシテ他ノ諸番ニ於テハ大頭人

(ニ)從屬頭人ニ對シテ宗主頭人代理頭人ノ權勢微弱ニシテ其從屬諸黨ヲ打テ攻守ノ一團ヲ形成スル力ナシ、況ヤ其聯結ガ復黨社團ニ於ケル黨聯合ト抵觸シタル場合ニ於テヤ、例ヘハ下バイワヌ社ガマカ

ザザ社ト抗爭スル場合ニ下バイワヌ社内ノマバリユ黨(マカザザ社大頭人ノ兼領スル所)ハ同社ノ諸黨ニ合シテマカザザ社ニ對抗スヘク又同社ガクワルス社ト抗爭スル場合ニ同社ノチヨガド黨(クワルス社大頭人ノ兼領スル所)ハ同社ノ諸黨ニ合シテクワルス社ニ對抗スヘキガ如シ今日ニテハ右大頭人ノ權威殆地ニ墜チタル結果假令ヒ復黨社團ノ聯結ト抵觸セサル場合ニ於テモ大頭人ハ能ク從屬又ハ兼領ノ諸黨ヲ糾合スル力ナキナリ前年阿緞應ニ行ヒタル番人ノ銃器引揚ノ際ノ如キマカザザ社大頭人ハ當時阿里港支應下ノ番社ニ在リ官命ヲ奉セサルノ意見ニテ其兼領スル諸黨民ニ對シ他ク迄之ニ抵抗スヘキ旨ヲ諭シタルニ拘ハラヌ諸番社中大頭人ノ意見ニ從ヒタルモノハ一モ之アラザリキ是全ク政府ノ番人操縱其宜シキヲ得タルニ因ルト雖モ亦以テ大頭人家ノ兼領諸黨ニ及ホス權力ノ萎微シタルニ原因ス

(ハ)社民間ノ親族關係ニ因ルモノ 此ハ一番社團トシテノ應援ニ非ス社民各自ノ任意ニ爲ス應援ナリ、ぶつる番及北ばいワぬ番ノ北部ニ多ク其例ヲ見ル此兩番ニ於テ頭人ハ黨民ノ他ヲ應援スルト否トニ付テハ之ヲ命スル力モ無ケレハ之ヲ制スル力モナシ故ニ黨民中應援ニ往キタキモノハ往キ往クコトヲ欲セサルモノハ往カス從テ親族關係アル他ノ社ノ民ヨリ頼マルレハ進テ之ニ赴クヘク又自社ノ民ガ他社ニ向テ出草スル場合ニハ己ノ親族ガ其社内ニ在レハ避ケテ之ニ加ハラサルヘシ

(ニ)分取功名ノ念ニ驅ラレテ爲スモノ 此モ社團全體トシテニ非ス社民ノ任意ニ爲ス所ニシテ亦

ぶつる番及北ばいわぬ番ノ北部ニ多シ
(四)應援及中立ノ方式 本族ニ於テ應援又ハ中立ヲ爲スニ際シ双方相援ケ若ハ中立スルノ盟約ヲ爲シ又ハ之ヲ他ニ宣言スル等ノコトナシ

第四款 講和

第一 總說

本族ニ於テ兩番社團又ハ兩黨ノ間ニ生シタル仇敵關係ハ其講和ニ因テ終局ス 平和ハ番語(本族語ト云フハ専ラらばるぶつる及ヒばいわぬ諸番ノ語ニ依ル上)ニテ「マジヤル」ト云ヒ其新ニ講和スルヲ「キジャル」ト云ヒ及ヒるかい兩番ノ語ハ調査セザリシニ因リ之ヲ省ク)ニテ「マジヤル」ト云ヒ其新ニ講和スルヲ「キジャル」ト云ヒ双方ヨリ相和スルヲ「マジヤル」ト云フ 本族ニハ歸順又ハ降伏ヲ意味スル語ナシ故ニ本族ガ官ニ對シテ歸順スル場合モ亦「キジャル」ト云フ

稀ニ對敵兩黨直接ニ講和ヲ訂結スルコトアルモ多クハ仲裁人ニ依テ之ヲ爲ス即チ中立ノ地ニ在ル他ノ頭人双方ノ間ニ立チ其間ヲ往來シテ和解ヲ勸メ講和ニ關スル諸條件ヲ協定シ後双方ノ頭人及番丁ヲ一所ニ會合シ和解ノ式ヲ行ハシムルヲ常トス 仲裁ハ何レカ一方ヨリノ依頼ヲ受ケテ之ヲ爲シ或ハ何レニモ頼マレス自ラ進テ之ヲ爲ス 仲裁人ハ番語ニテ「チヨモマク」或ハ「バクシヤ」ト云フ「バクシヤ」ハ土語ノ賤社ナルヘシ即チ番人ト土人トノ中間ニ立チテ交換ノ媒介ヲ爲ス者ナリ、仲裁人ハ双方ノ中間ニ立ツモノナルガ故ニ此語ヲ轉用シタルモノナルヘシ

第二 講和ノ條件

(一)番族間ニ於ケル講和ノ條件 ハ多種アリト雖モ其重ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

(イ)敵對關係ノ原因タル事件ノ解決ヲ爲スコト 例ヘハ其戰鬪ノ原因ガ土地ノ境界ノ紛議ニ在ルトキハ双方ノ間ニ明ニ境界ヲ劃スヘク若シ一方ガ他ノ一方ヘ加ヘタル殺害又ハ略奪ニ在ルトキハ一方ヨリ他ノ一方ニ對シテ相當ノ賠償ヲ爲スヘキガ如シ

(ロ)一方ガ他ノ一方ニ對シテ土地ニ關スル權利ヲ割讓スルコト 講和ニ際シ一方ヨリ他ノ一方ニ財物ヲ提供スルノ例ハ各所ニ多シト雖モ土地ヲ割讓スルノ例モ亦少カラス其中ニテるか番キヌラス及ダデル兩社ガ從來ゾダイ社民ニ租賃シタル地域ヲ全部讓與シタルヲ最モ著シキモノトス(參照種族ノ沿革第(三)款第六(附記)土地ニ關スル權利ノ讓與ハ或山林溪流ニ於ケル共同獵漁權ヲ與ヘ或ハ戰敗セル小黨ガ大黨ノ頭人ニ對シ毎五年ノ朝貢ヲ約シ或ハ山脚ノ土人ガ番社ニ對シ毎年ノ水租ヲ約スル等ノ如シ此ノ反對ニ從來敵黨ニ對シテ朝貢又ハ納租等ノ義務ヲ負ヒタル一黨ガ戰勝ノ結果爾後之ヲ免ルル場合モ亦之アルナリ)

(ハ)將來双方相和シ互ニ殺傷ヲ爲ササルヘク約スルコト 此ハ講和ニ於ケル最大ノ眼目ニシテ何レノ講和ニ於テモ明カニ之ヲ約束セサルコトナシ

(ニ)清國政府ガ歸順ヲ許シタル條件 清政府時代ニ理番當路者ト番人トノ間ニ爲シタル條件ハ將來固ク番人ノ誠首ヲ嚴禁シ且ツ官ノ約束ヲ奉セシムルコトナリトス光緒元年スボン、チャコボコボ、ジ、サブデク三群ノ討伐ノ際時ノ提督唐定奎ガ此等ノ頭目ニ對シ示約シタル條件ハ曰遵薙髮(生番ヲ漢人ト同様ニ薙髮)曰編戶口(戶口簿冊ヲ)曰交兇犯(官兵及ヒ庄民ヲ害シタル番人ヲ官ニ引渡スナリ)曰禁仇殺(出草ヲ爭鬪ナリ)立總目(各群ニ總頭目ヲ立テ之ヲシテ其群ヲ統轄セシメ)曰墾番地(番民ヲ導キテ畑及水田ノ)曰設番塾(番人ノ幼童ヲ校ヲ設ク)ノ七條ナリキ

左ニ光緒元年五月沈葆楨ガ率芒社及内外獅頭社等ヲ平定シタル後北京ノ朝廷ニ奉リタル番社就撫布置情形疏及臺南撫番就緒淮軍陸續凱撤摺ヲ掲ケ如何ニ清政府時代ニ於テ番人ノ歸順ガ取扱ハレタルカラ示ス

番社就撫布置情形疏

竊臣等於本年四月二十三日將先後攻破竹坑本武並内外獅頭等社情形奏明在案茲迭准總統准軍提督唐定奎報稱各軍攻克獅頭等社後仍分哨扼險拔木通途徐圖進取附近各社知負隅不足恃天討不可逃五月初九日率芒社番目一名晉笏一名姑益翼一名沙貝一名處雷一名枯猷薰的社番目一名烏力烈南片社番目一名姑令草山社番目一名土結一名管朗等率散番五十餘人到營乞降經該提督傳譯曉諭利害愈共震攝顯求收恤當日均給衣服諸物該番等各跪戴而歸十二日枋山民人有程古六者帶至內龜紋番自野支外龜紋社番自布阿里烟又有射不力社番自郎阿郎者帶至中紋社番自龜吹仔周武濫社番自文阿蛋及散番等百餘人款營乞降該提督示約七條曰遵雜髮曰編戶口曰交兇犯曰禁仇殺曰立總目曰墾番地曰設番塾以龜紋社會野支向為諸社頭人拔充總社目統之著照約遵行所統番社如有殺人即著總目交兇如三年之內各社並無擅殺一人即將總目從優給賞其獅頭社餘孽探悉竄伏何社即由何社限交不許藏匿野支及各番等均願遵約隨將竹坑社更名曰永平社本武社更名曰永福社草山社更名曰永安社内外獅頭社更名曰内外永化社存從各社均許自新惟獅頭社罪大惡極漏網者不許復業所有内外永化社即著總目別招屯墾以昭炯戒於枋寮地方先建番塾一區令各社均送番童三數人學語言文字以達其情習拜跪禮讓以柔其氣各番聞之無不俯首帖服等因適臣凱奏本月十一日由省東渡十七日抵臺與臣葆楨公同參酌伏思曩

奉撫番之命以獅頭社之變易撫為剿實出以不得已幸天威所震頑族歸誠敢不仰禮生成使之同託併轡之下惟狂獠之性初就範圍不能不堅明約束俾先受我羈勒後乃可徐與漸摩擬即如該提督所請按條實力奉行臣等愚昧之見是否有當祇候聖裁(光緒元年五月二十三日)

臺南撫番就緒淮軍陸續凱撤摺

竊臣等於本年五月二十三日業將臺南番社次第就撫情形奏明在案茲復准總統准淮軍提督唐定奎報稱五月十五日巡檢周有基帶至中心崙社媽梨巴社阿栽米息及新政之內永化社外永化社番目乞降即令雜髮賞給衣服宣示條款均各俯首聽從而歸十七日千總郭占鼈復帶至大龍窠社謝阿閣社龜仔籠獅頭社番會乞降曉諭如前亦皆欣躍以去惟據率芒社自稟稱運北之北力々社等五社與該社素不相能該社今既歸誠自當守法恐北力々社仍復逞兇等語當時論以此後如有啓釁情事不拘何社均應控官候訊分別曲直不許擅自爭鬪即飭郭占鼈往諭北力々社相率來歸毋得自外等因又據淮軍營務處知府田勒生鳳山縣知縣孫繼祖等稟稱於五月十五日在刺桐脚地方設立招撫局各雜髮之番會等帶同通事書識前赴各社造具戶口清冊一俟送齊再行編驗散給腰牌其在社未雜髮之番亦均發給剃刀俾自雜髮以昭畫一該番裸居習慣自見受撫番會賞穿衣袴各萌愧恥競慕冠裳時々來局請領衣袴為式學製改裝又中文永化二社各送番童二名願入官學擬於枋寮創建義塾延師教導俾通言語文字有以自達其情所有膏火口糧由官發給等因臣等於此穩幸撫局之有成而番族向化之有漸也(下略)

第三 講和ノ方式

講和ハ双方ノ代表者一所ニ會合シ和解式ヲ行フコトニ依テ成立ス

(一)番人固有ノ講和式 社團ニ依テ多少ノ差異アリ、左ニ重ナル番社ニ就テ調査シタル所ヲ掲ク
 (イ)ばりじ。お番 牡丹社ニ於テ老番サルカイチブノ語ル所左ノ如シ 甲乙敵對ノ兩黨ハ其境界ナ
 ル溪底ニ來リ相隔テテ各一團ヲ爲ス仲裁人双方ヨリ總代タル頭人ヲ引キ相對シテ立タシメ己ハ
 其中央ニ立ツ先ツ甲黨ノ巫ハ祈禱ヲ行ヒ次ニ肉一小片、酒一小杯、餅一塊ヲ持シテ之ヲ仲裁人ニ渡
 シ仲裁人ハソレヲ取テ乙黨ノ頭人ニ渡シ乙黨ノ頭人取テ之ヲ食ス、又乙黨ノ巫先ツ祈禱ヲ行ヒ肉
 一小片、酒一小杯、餅一片ヲ取テ仲裁人ニ渡セハ仲裁人之ヲ甲黨ノ頭人ニ渡シ其頭人取テ之ヲ食ス、
 此レニテ和解成リタルヲ以テ仲裁人ハ兩黨ニ向テ訓戒ヲ與ヘ後其兩黨相合シテ一團ト爲リ飲宴
 ス 此時仲裁人ハ巫女等ト共ニ其間ヲ周旋ス頓テ双方ヨリ天ニ向テ空砲ヲ放テハ之ヲ相圖ニ各
 其社ニ引取ル之ヲ見テ後仲裁人モ亦引取ルト云フ

(附記) ばりじ。お番トばかり番トノ和解式 今ヨリ二十年前ばりじ。お番ノ牡丹、高士佛、八瑤三
 社トばかり番(薩東太)ノ或ル數社トノ間ニ葛藤ヲ生シ互ニ干戈ヲ弄シタリシガばりじ。お番ノ
 總頭目潘文杰官命ニ依リ仲裁ノ地ニ立チ兩黨ヲ一所ニ會合セシメ恒春辨務署第三課長ノ立
 會ノ許ニ講和ノ式ヲ舉ケタルコトアリ、此式ヲ親シク見タリシ恒春支廳雇番阿別氏ノ語ル所
 ハ下ノ如シ 其時牡丹社ノ頭人カナハウルジカジクハばりじ。お番ヲ代表シバチヤバジ社ノカ
 ヤマ・タイリバンハばかり番ヲ代表シ兩人各茅一莖ヲ持シ進出テテ相近ツキ先ツカヤマノ方
 ヨリカナハウノ方ヘ「ヤボーボカイ」(人ヲ殺シ或ハ敵ヲ射止メ)ト呼ヒツツ其茅ヲ投付ケケレハカ
 ナハウハ之ヲ踏ミニジリ後カヤマノ方ニ向ヒテ同様ノコトヲ爲シタリ 次ニ双方互ニ左手
 ニテ肩ヨリ脇ニ掛ケタル袋ノ内ヨリ檳榔子一粒ヲ取出シ之ヲ相手ニ渡シケレハ相手ハ右手

ニテ之ヲ受取リ口ニ入レテ咬ミタリ 次ニ仲裁人出テ杯ヲ取リ水ヲ汲ミ之ヲカナハウニ渡
 シケレハカナハウ之ヲ飲乾シ更ニ汲テカヤマニ渡シケレカヤマ乃之ヲ飲乾シ更ニ汲テ仲裁
 者ニ渡シケレハ仲裁者之ヲ飲乾シココニ式ヲ畢リタリ コレヨリ双方ノ總代同一ノ椅子ニ
 並坐シ仲裁人之ニ對シテ前面ノ椅子ニ坐シ双方ノ番丁ハ仲裁者ノ左右ニ分坐シテ仲裁者ハ
 「マジャルガチ、イラロカカ、ジャラン」我等ハ御互ニ和睦セリ、我等ノ路ハ長クナレリ(交通ノ自由ニ爲
 ト稱シ茲ニ酒宴ヲ開キ相合シテ歌踊シ後解散シタリト云フ)

(ろ)同番サブデク群社 ニ於テ老番ノ語ル所左ノ如シ 加害被害ノ兩黨ハ協定地點ニ會シ其總代
 タル双方ノ頭人ハ竹筒五本ヲ持ス、内四本ニハ酒ヲ滿テ一本ニハ水ヲ滿ツ、此レハ胸ヲ冷ヤカニス
 ル爲メナリト云フ、先ツ加害者方ヨリ一本ノ酒筒ヲ被害者ニ與フレハ被害者方ハ之ヲ取テ右方ニ
 棄ツ(祖先ノ靈ニ手)次ニ他ノ酒筒ヲ一本ツツ渡セハ其都度之ヲ左方ニ棄ツ(カクテ「タマ」リナウジ及リズ
 向ケルナ)最後ニ水筒ヲ與フレハ被害者方取テ之ヲ飲ミ加害者方ニ返ヘセハ加害者方亦之ヲ飲ミ
 テ其筒ヲ棄ツ之ニテ式畢ル、式中ハ何事モ語ラスソレヨリ加害者ノ方ニテ豚ヲ屠リ兩黨共ニ地ニ
 坐シテ會飲ス、此時始メテモノ言フト云フ

(は)こぼじ番諸社 ニ於テ兩黨其中間ナル溪底ニ來リ相隔ツル數十歩ニシテ停ル、互ニ天ニ向テ發
 砲ス仲裁者兩人ニテ其中間ニ在リ兩黨ノ間ヲ往來シ相談シ先ツ豚ヲ屠リ其肉ヲ兩方ニ分チ和解
 ノ祈禱(バリシ、トイ)ヲ行ヒ次ニ檳榔子ヲ用キテ和解ノ式ヲ行ヒソレヨリ兩頭人互ニ「スマグツ」(接見
 行ヒ一竹杯ノ酒ヲ持シ半分ツツ之ヲ飲ムト云フ)

(に)北ばいわぬ番リキリキ社 ニ於テハ兩黨相會シ其代表者各祭骨ノ一片ヲ持シ相行過キテ相手

ノ方ニ向テソレヲ投シ後立歸リ互ニ將來仲善クスヘシト言フ酒アレハ合飲スルモ無ケレハ行ハ
ス仲裁ナルモノナク親戚ヲ介シテ兩頭人和解スト云フ

(ほ)同番チヤジャカブス社ニ於テハ有力ナル頭人若クハ老番兩黨ノ間ニ立テ交渉シ久シク相戦ヘハ
人命ヲ損シ耕地ヲ荒シ互ニ餓ニ苦マサルヘカラストテ双方ヲ諭シ先ツ双方ノ「ララアサス」(勇士又
ト譯ス當方面ニテ)ヲ會シ和解ノ條件ヲ協定スソレヨリ日ヲ期シ武裝シテ中間ノ或ル場所ニ相會セ
シム此時敵首シタル者ハ歌フモ敵首セラレタル者ノ遺族ハ歌ハス双方中介者ノ定メタル場所ニ
至リ休ムソレヨリ双方相進ミ各相手ノ休場マテ至テ引返シソレヨリ双方ノ「ララアサス」ハ中央ニ
立會シ互ニ祭肉ヲ授受シ之ヲ以テ相手ノ休場ニ至テ「バリシ」ヲ行ヒソレヨリ兩黨相合シテ歌踊ス
煙草アル者ハ煙草ヲ檳榔子アル者ハ檳榔子ヲ其他酒肉併各互ニ相授受シテ交飲ス此所ニ於テ仲
介人ヨリ兩黨ニ對シ今後互ニ和親スヘク互ニ相争鬪セサルヘキ旨ヲ申渡シテ一同解散ス

(へ)ぶつる番諸社ニ於テハ仲裁人豫メ兩黨頭人ノ間ヲ往來シ贖財ノ額及和解ノ時日場所ヲ協定
ス期ニ至リ其方ノ頭人ハ番丁ヲ率キテ其場所ニ來リ相戦ハントスルノ狀ヲ示ス仲裁者其中間ニ
立チ高ク「ララヤ」(布片ナリ我國ノ旗ノ如シ)ヲ掲ケテ之ヲ制ス双方ヨリ總代各一人右手ニ籐ノ小片ノ先端ニ
鐵片ヲ挟ミタルモノヲ持シ左手ニ穂ノ付キタル儘ノ茅ヲ持シテ進來リ其間約二三尺ノ所
ニ至リテ停マル然ル後一方ヨリ他ノ一方ニ對シテ茅穂ヲ投付クレハ他ノ一方ヨリモ一方ニ對
シテ同様ノ事ヲ爲シ次ニ一方ヨリ他ノ一方ニ鐵片ヲ渡セハ(相手ヘ之ヲ頭)他ノ一方モ亦一方ニ對
シテ同一ノ事ヲ爲ス此時何レモ左手ヨリ右手ニ持換ヘ互ニ相手ノ手ニ「スマグツ」ヲ行ヒ畢テ双方
次ノ會日ヲ協定シ後圓陣ヲ作り歌ヒ且ツ踊リテ相別ル相手方ヨリ取りタル鐵片ハ之ヲ其ノ總

代ノ家ノ棟木ニ挿シ置ク 第二ノ會日ニハ一方ノ頭人番丁ヲ率キ他ノ一方ノ部落ニ赴ク茲ニ兩
黨ノ番丁相對シ各一人ノ總代(前日茅ヲ投ケ鐵片ヲ取換ヘタル者)前ニ進ミ一ノ豚ノ腸管ヲ持シ双方各其一端ヲ口ニ
シ互ニ力ヲ入レテ氣ヲ吹キ込ム之ヲ「マジジャブス」ト云フ兩方ノ呼氣相混合スルコトヲ意味ス後
主人タル黨ハ酒ヲ出シ双方酣飲ヲ盡シテ散ス此時更ニ第三ノ會日ヲ約ス後其社ニ於テ「キカブ」
(其意義書ト稱スル祭祀ヲ行ヒ祖先ニ對シテ平和ノ回復ヲ告ク 第三ノ會日ニハ前日トハ反對ニ
他ノ一方ノ頭人ハ番丁ヲ率キ一方ノ部落ニ赴ク茲ニ前日ト同一ノ式ヲ行ヒ和解全ク成ル 數年
前バイワス、バダイン兩社ガ講和シタリシトキハ此式ニ依レリ其以前ニバイワス、マカザヤザヤ兩
社ノ講和シタリシトキモ亦同シカリキ但シ「マジジャブス」(呼氣ヲ吹)ノ式ハ之ヲ行ハサリキト云フ
(と)下バイワス、マボカヌ兩社ノ和解 下バイワス社老番曰ク曾テ下バイワス社トマボカヌ社ト隘
藜溪底ニ會合シテ和解ヲ行ヒタルコトアリ此時マヌル社頭人カルスクス、バカダバイ其仲裁ト爲
レリ双方武裝シテ溪ヲ隔テテ相對セリ仲裁人双方ヨリ各一人ノ老番ヲ引キ中央ノ地點ニ會セシ
セシメ(一)茅ヲ投合ヒ(二)互ニ一本ノ矢ヲ授受シ(三)互ニ相手ノ手ニ接鼻シタル後仲裁人ハ双方ニ對
シ「此レニテ互ニ笑テ濟マセ、今後薪ヲ採リ獵ニ往ク途ニ相逢フモ互ニ殺傷スルコト勿レ茲ニ和解
ヲ了ス」ト曰ヒソレヨリ双方ノ黨相合シテ一團ト爲リ日ノ暮ルル迄歡語シテ別レタリト云フ
(ち)るかい番諸社ニ於テハ矢ノ交換ト同時ニ「スマグツ」ヲ行フコトぶつる番ニ同シ矢ハ茅ノ先ニ
鐵片ヲ附シタルモノトス

(二)警察官立會ノ講和式 近時番社ノ争鬪ニハ番社駐在ノ警察官之ニ干涉シ其仲裁ニ立チ速ニ和
解セシム左ニ參考トシテ一二ノ例ヲ掲ク

(1) チャコボコボジ群チヨールン黨トサフデク群チカワク黨トノ間ニ行ヒタル和解 左ニ掲クルモノハ内獅頭駐在所備付ノ須知簿ヨリ抜書セシ所ナリ。其中ニ射武力トアルハサフデク群、巴士墨トアルハバスマク社、二股頭人トアルハ内文社頭人チヨールン家ノ事ナリトス。

大正三年三月楓港庄ニ於テ射武力番人ト内文社番人ト衝突シタルコトアリ。之ガ和解ノ勞ヲ取ラントテ當時枋山ノ支廳長崎警部ハ豫メ内文社及射武力番頭人及番丁ニ其會見スヘキ日時及場所ヲ通知シ置キ當日支廳長親シク楓港溪ニ會見談判中内文社番人ハ相手ガ昔ヨリ敵視シ來レルモノナルノミナラス今日其人數ノ遙ニ味方ニ比シテ少キヲ見ルヤ談判中ニモ拘ハラス之ニ對シ銃ヲ打出シ爲メニ大混亂ヲ演出シタリ。此時ハ射武力方モ衆寡敵セスシテ逃走シ折角ノ談判モ水泡ニ歸シタリ。其後双方相敵視シ其儘ト爲リ居リシガ獅仔頭駐在所管内中心崙社番人モ二股頭目ノ配下ニシテ牡丹路駐在所管内巴士墨社番人ト土地境界ノ件ニ付キ紛争絶ヘサルヲ以テ速ニ和解セシムヘキ必要ヲ認メ終ニ大正六年六月三日再ヒ兩番ヲ一所ニ會合シ左記ノ通り關係者立會ノ上解決セシメタリ。

蕃人土地境界紛争事件解決狀況書

- 一、立會警察官 升島警部村上警部補相澤巡查、楯石巡查
- 二、實地踏査及ヒ協定年月日 大正六年六月三日
- 三、立會番人ノ住所氏名
 - 巴士墨社頭目代理 ロボンチヤン、ラカラン (附記ス上ナルハ姓ニシテ下ナルハ名ナリ以下一々註明セシム)
 - 牡丹社勢力者 バチヤパン、キジヤム

草埔社後勢力者 コンブジ、チジユイ

内文社頭目 チヨールン、フジヤジヤン

内文社勢力者 ボロボル、チグル

内文社勢力者 ジヤジヤスブル、ラカラン

中心崙社々長 アウス、バジヤジム

四、境界決定書

警察官ハ深く干涉セス専ラ彼等番人ニ協議セシメタルニ警察官ノ指導ヲ受ケ圓滿ヲ計ル様協議ヲ遂ケ(午前七時ヨリ午後二時ニ至ル)無事解決セリ

五、協定シタル境界ハ楓港溪ヨリケブル山ニ登リルトンザンノ住家ニ至ル道路ヲ見通シチブジヤパン山ニ連ル山嶺線ヲ境トシ其兩方及中心崙社獅仔頭社方面全部ヲ二股頭人ノ領地トシ新境界線ノ東方及タカリヤオ社境界南方ヲ巴士墨番人ノ領地トス。但シ二股頭人領地中草山社社長ノ土地約十甲歩巴士墨社番人ノ領地中内文社大股頭人ロバニヤウノ土地約十甲歩アルコトハ双方番人之ヲ認ム

六、係争地内ニ於テ楓港庄民林阿呆ガ炭燒スルニ付キ番租トシテ舊慣ニ依リ二股頭人ニ與ヘタル金參拾圓ハ境界決定ノ結果二股頭人ノ領地ナルモ本年ニ限り參拾圓ノ内拾圓ヲ巴士墨番人ニ贈與セシム

七、將來ハ二股頭人領有ノ土地内ニテ耕作スル番人又ハ炭燒又ハ伐採等スル番人若シクハ本島人アルトキハ其番租ハ二股頭人之ヲ全收シ巴士墨社番人領有地内ニ於テ耕作燒炭又

ハ伐採等ヲ爲ス番人又ハ本島人ヨリ番租ヲ徴スルトキハ巴士墨社番人之ヲ全收スルコト、但シ前記土地内ニテ粟里芋ノ收穫其他結婚式ヲ擧ケタル等ノコトアリテ酒宴ヲスルトキハ双方頭目互ニ招待シテ其宴席ニ臨席シ意見ノ疎通ヲ計リ決シテ再ヒ紛争セサルコト、右終リテ楓港庄ニ於テ臺灣酒一斗ヲ双方番人ニ與ヘ家新路、壯丹路、巴士墨各社番人トテ和解セシメ將來双方番人ハ再ヒ紛争ヲ起ササル様訓示シタルニ双方共ニ之ニ服シ將來ハ再ヒ紛争セサル旨答ヘタリ

(2) リキリキ社トスボン群社トノ和解 左ニ掲ケルモノハスボン駐在所備付ノ須知簿ヲ抜書セル所ニ係ル

明治三十三年草山社長ノ弟チジュイ、コンブジ外四名ハ祖先ノ仇ヲ復セント稱シリキリキ社番二名ヲ讎シタリシニリキリキ社番ハ之ヲ以テスボン番ノ所爲ニ出ツルモノト主張シ曾テ三回ニ加害ノ賠償トシテスボン番ニ與ヘタル地ノ全部ヲ奪回シタリシカハ茲ニ舊怨ヲ再燃シ爾來耕地ノ争絶ヘサリシヲ以テ大正二年八月二十九日枋山支廳ニテハ警部補横寺佐市ス番總頭目代理チジュイ、カロワ外十六名並ニ兇行ノ下手人タルチジュイ、コスブジ外三名ヲ引率シ枋寮支廳ヨリハ警部補外島戸野一リキリキ社總頭目ロンロン、カザギザン外二十名及チブツカダ又社番番人十一名ヲ引率シ歸化門ニ會合シ立會官吏協議ノ上兩番ヲシテ互ニ相讓ラシメ結局左記ノ條件ニテ其境界ヲ確定シ爾後紛争ヲ絶チタリ

一、山地ノ境界ハスボン溪右岸土名サカパン谷ヲ週リ郵便線路ヲ西ニ距ル三百歩ノ地點ヲ以テ境界トシ此三百歩ノ隔ヲ保チ郵便線路ト併行シテ西北ニ進ミ更ニ舊道ト併行シテ休

場土名ラコロコニ至ル稜線ヲ境界トシリキリキ社番ハ北方舊道ヲ以テ境トシ此兩境界線外ニ介在スル山嶺ノ斜面地ハ兩番共同ノ耕地ト爲ス

二、獵域ハ兩番領土内ハ相互ニ出獵ヲ准シ獲物ヲ得ルモ互ニ獵税ノ授受ヲナササルコト

三、耕作地ハ他番ノ領地ニ侵入スルヲ准サス、但シ他番ノ領地ニ開墾シタルモノハ其土地ヲ管轄スル總頭目ニ對シ相當納税ヲ爲スヘシ若シ此義務ヲ履行セサル場合ハ地主タル頭目ハ其旨駐在所ニ訴出テ相當保護ヲ受クヘシ

四、古來スボン番ニ於テ姻戚ノ關係ニ因リ保管シ來リタルチブツカダ又社ノ地ハ此際全部リキリキ社番ニ管理セシムルコト

五、古來兩番間ニ於テ怨恨ヲ懷キタル總テノ紛争事件ハ此會同ニ依リ悉ク解決シ將來兩番間ノ融和ヲ保持スルコト

第三門 種族ノ法制狀態

第一章 慣習

第一 總說

本族ノ社會ニハ古來人格、親族、相續、財產、社會團體其他百般ノ事項ニ關シテ一定ノ慣習ヲ有シ其慣習ハ一般民人ニ遵守セラレ若シ民人ガ故意又ハ過失ニシテ之ニ違犯スルトキハ祖靈及社會ノ責罰ヲ受クヘキモノトシ自然ニ不文律タル狀ヲ呈ス

慣習ハらばる、ぶつる、ばいぬ諸番ノ語ニテ「カクダ」又ハ「シクダ」ト云フ、此兩語ハ何レモ「クダ」(如何)

(1) 米ニ關スル禁忌ノ解弛 古代ノ本族ハ一般ニ米ヲ禁忌シ之ヲ食シ若ハ社内ニ入ルルトキハ粟神ノ祟ヲ受クヘキモノト信シタリ然ルニ最初或者ガ山脚ノ土人ノ部落ニ降りシトキ土人ヨリ米飯ヲ與ヘラレ初メハ禁忌ナリトテ口ニセサリシガ其内大膽ノ者アリテ試ニ之ヲ取テ食シタルニ美味ナルノミナラス後ニ至テモ幸ニ靈ノ祟ナカリキ因テ其後其者及他ノ者等ハ再三之ヲ試ミタリシガ何レモ無事ナリキ乃以爲ク「米ハ食スルモ差支ナシ社内ニ入レサレハ可ナリ」ト斯クテ何時ノ間ニカ米食ノ禁ハ解弛セラレヌサレト粟祭ノ主祝ハ尙ホ神ノ怒ヲ慮リテ之ヲ戒メタリ然ルニ其後米ヲ持シテ社内ニ入り屋外ニテ之ヲ炊キ食シタル者アリシニ幸ニ事ナカリキ他ノ者モ之ヲ爲シタルニ亦事ナカリキ乃以爲ク米ハ社内ニ入ルルモ差支ナシ唯住屋ニ入ルルコトヲ忌ムノミト然ルニ其後再ヒ其炊キタル飯ヲ屋内ニ入レテ食スル者アリシニ亦事ナカリキ此ニ於テ米飯ヲ屋内ニ入ルルノ禁ハ本族ノ一部ニ於テ全ク解弛スルニ至レリサレト屋内ノ竈ニ於テ之ヲ炊ク者ハ今日未タ之アラサルナリ然レトモ此禁戒モ最早永ク續カサルヘシ本族ガ平地ノ庄民ト同様ニ屋内ノ竈ニ於テ米ヲ炊クニ至ルハ決シテ遠キニハ非サルヘシ

(2) 双生兒養育ニ關スル禁忌ノ廢棄 二三十年前迄はじお番ハ他ノ諸番ト同様双生兒ヲ忌ミ其所生ノ一ヲ棄ツル慣習ナリシガ或時加芝來社ニ於テ一人ノ番丁其棄テラレタル子ノ終日死セスシテ啼泣スルヲ見テ之ヲ憐ミ試ニ取テ育テシニ何事モ無カリシノミナラス他ノ一兒モ健全ニ育チケリコレヨリ同番ニ於テハ双生兒ヲ生ミタル者アルモ復之ヲ棄ツルコトナク其惡習ハ自然ニ止ムニ至レリト云フ

(3) 靈地ノ樹木伐採ニ關スル禁忌ノ解弛 番界内ニハ至ル所伐荒サレタル草山ノ間ニ樹木鬱蒼タ

ル所アルヲ見ルヘシ此ハ何レモ靈ノ所在地ニシテ若シ其所ニ入り樹木ヲ伐ラハ其怒ニ觸レテ疾病傷死等ノ災厄ニ逢フヘシト信セラル即迷信ニ因テ保護セラルル森林ナリ今ヤ番人ノ迷信ハ次第ニ破レ去ラントス故ニ此迷信ニ代テ此等森林ヲ保護スルモノ現ハレサレハ久シカラスシテ皆彼等ノ爲メニ伐リ盡サルルニ至ルヘシト思ハル

(4) 政府ノ施設 政府ノ施設ガ番人ノ風俗慣習ニ重大ノ變化ヲ來スハ云フ迄モナシ本族ノ諸頭人ガ其權力ヲ失墜シ固有ノ社會體制ハ年ヲ逐ヒテ解弛ニ赴キ從テ又社會團體相互ノ關係ハ復タ昔日ノ如ク爲ルコトヲ得サルガ如キ其顯著ナル例トス其他教育ノ普及又ハ殖産ノ獎勵ハ幾多迷信ニ因ル禁忌ヲ破却シ新ナル種々ノ慣習ヲ發生スルニ至ルヘシ 現ニ米ヲ耕作スルハ本族ノ禁忌ナルニ拘ラス政府ガ番人ニ對シテ水田ノ耕作ヲ獎勵シタル結果山脚ニ近キ番社ニハ漸ク之ヲ爲スモノヲ生セリ中ニモばりじお番高士佛八瑤加芝來牡丹等ノ各社ニハ多クノ水田ヲ所有シ自ラ耕シ又ハ土人ニ貸シテ其租穀ヲ收ムル者スラアルニ至レリ

第三 慣習ノ種類

番族ノ慣習ニハ素ヨリ公法的ト私法的ノ別アルナシ何トナレハ其社會團體ハ國家ニ非ス從テ之ニ關スルモノモ亦人格親族及相續ニ關スル慣習ト同様ニ一ノ私法的慣習タルニ過キサレハナリ即頭人ト其部下トノ關係ハ之ヲ主人ト奉公人トノ關係ニ擬スヘク頭人ノ其領土ニ對スル權ハ之ヲ地主權又ハ管理權ト爲スヘキモノトス 然レトモ本族ノ社會團體ハ其體型殆ト國家ニ近似シ若シ其上ニ我政府ノ立ツコトナカリセハ國家ノ小模型ヲ以テ目スヘキモノナルガ故ニ余ハ便宜上假ニ之ヲ一ノ國家ト看做シテ其ノ組織機能及其團體相互ノ間ニ生ズル權利關係ヲ以テ公法的

慣習トシ他ノ人格親族相續財產等ニ關スル一般私法のノ慣習ニ別タント欲ス
右ノ旨趣ニ基キ本族ノ慣習ハ先ツ大別シテ(一)公法的慣習(二)私法的慣習ノ二ツト爲スヘク而シテ
其公法的慣習ハ更ニ細別シテ(イ)社會團體ノ組織機能ニ關スルモノ(ウ)罪及ヒ罰ニ關スルモノ(ハ)社
會團體相互ノ關係ニ關スルモノト爲スヘシ即(イ)ハ國家法(ウ)ハ刑法(ハ)ハ國際法ニ該當スルモノト
ス右ノ内(イ)及(ハ)ハ社會狀態トシテ既ニ前門ニ說述シタル所ナルヲ以テ之ヲ省キ本門ニハ其餘ニ
付說述スヘシ

第二章 人

第一節 人格ノ發生及消滅

第一款 總說

本族ニ於テ人ノ人格ハ出生ニ始マリ死亡ニ終ル唯相續ニ關シテハ懷胎中ノ兒ト雖モ亦其人格ヲ
認ム此外ニ未タ生レサル者ヲ以テ既ニ生マレタル者ト看做シ又ハ既ニ死亡セル者ヲ以テ尙ホ生
存セル者ト看做スノ慣習ナシ

第二款 出生

第一項 總說

(一)生子ニ關スル觀念 生子ニ關シ本族ニ顯著ナル觀念トシテ認ムヘキモノニ左ノ三アリ

(イ)子女ノ多キヲ喜フコト 本族一般ニ子女ノ多キヲ喜ヒ之ヲ以テ幸福ノ大ナルモノトシ若シ夫
妻ノ間ニ子一人モナキトキハ其一方ハ之ヲ理由トシテ離婚ヲ求ムルコトヲ得ヘシ從テ本族ニハ
墮胎又ハ兒ノ行ハルルコト甚稀ニシテ私生兒ト雖モ尙之ヲ育養ス唯双生兒ノミハ兩ナガラ生育
セストノ迷信アルニ因リ何レカ其一ヲ棄ツル風習アリ

(ウ)男女平等ニ之ヲ愛育スルコト 本族ハ生兒ニ對シ其男女ニ依リテ地位ヲ輕重スルコトナク平
等ニ之ヲ愛養ス成長ノ後ニ至テモ婦女ノ社會的地位ハ全ク男子ト同等ナリ

(ハ)長子ヲ尊重スルコト 長子ハ番語ニテ「チャジャブルカヌ」(最年長者ノ義)「ブサム」(業種ノ義)相續人ヲ意
味ス又ハ「アレイカヌ」(總頭)ト稱シ特ニ之ヲ尊重ス而シテ生兒ノ慶賀ハ唯長子ノ生レタル場合ニノ
ミ之ヲ行フ是本族ニ於テ長子ハ男タルト女タルトニ拘ハラズ其ノ家督ヲ相續スヘキモノナルニ
因ル但上ダリせぬるかい及らばるノ三番ニ於テハ男子ハ其相續ノ順位女子ニ先ツガ故ニ特ニ男
子中ノ年長者ヲ尊重ス

(ニ)産兒ノ發育狀態 本族ノ婦女モ亦多産ノ方ナリ而シテ一般ニ其ノ子ノ多キヲ欲シ充分意ヲ用
ヒテ之ヲ愛養スト雖モ而モ其ノ營養不良ナルガ爲ニ十歳以下ニテ夭死スル者多ク其ノ人口ハ漸
次ニ減少スル傾アリ然ルニ今ヤ聖世ノ恩澤ニ浴シ彼等ノ生活ハ漸ク裕ニ爲リツツアレバ將來ハ
其人口モ次第ニ増殖スヘシト思ハル

(三)育兒方法 本族ニ於テモ子ハ男女ヲ論セス幼孩ノ間ハ其ノ母之ヲ養育シ七八歳頃ヨリ男兒ハ
専ラ父ニ於テ女兒ハ専ラ母ニ於テ之ヲ教育ス

第二項 出生

第一 懷胎

(一)懷胎月數 歸女月經ノ止マリタルヲ以テ懷胎(番語マア)ノ徵候トス。而シテ約九ヶ月ニシテ産スルヲ普通トシ其ノ早キモノハ七八ヶ月ニシテ産スルコトアリ。未タ七月ニ滿タスシテ産スル者ハ生育セスト云フ

(二)妊婦ノ攝生 本族ハ一般ニ子女ノ多キヲ喜フガ故ニ其ノ懷胎スルヤ其ノ胎兒ヲ保護スルニ充分ノ意ヲ致シ夫妻共ニ身ヲ慎ミ假ニモ流胎又ハ難産ヲ來スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ其禁忌ヲ犯スコトナシ(懷胎中ノ禁忌)本族ノ婦女ハ強健ナルヲ以テ殆臨月ニ至ルマテ平常ノ如ク家事ニ從フ故ニ往々畑若ハ途上ニ在リテ出産スルコトアリ。然レトモ懷胎五六月ノ後ハ概シテ過劇ノ勞動ヲ爲サス。重キ物ヲ持タス。手ヲ高ク伸シテ上ヨリ物ヲ取ラス。行歩スルニハ倒レ又ハ躓カサル様ニ用心スル等其ノ身ヲ保重スルコト我國ノ婦女ニ異ラス

第二 出産

(一)産褥 本族ニハ別ニ産室ヲ設クル者ナク平常居ル所ノ室ニ於テ産ス。ばいわぬ三番及上ダリセぬ番ハ概シテ寢臺ヲ降り土間ニ於テ産シダリせん諸番(番トシテ)ハ多ク床上ニ於テ産ス。寢臺又ハ土間ニハ概シテ月桃蓆ヲ敷クモ中ニハ全ク之ヲ用ケルサルモノモアリ

(二)臨産 臨産ニ際シ婦ハ柱、寢臺ノ椽、衣箱又ハ梁ヨリ吊シタル網ニ取附キ或ハ土間ニ跪キ兩手ヲ突キツツ氣張ル。若シ陣痛烈シキトキハ助産者婦ノ背後ヨリ緊抱シ以テ力ヲ致サシム。若シ兒産マレント欲シテ出テス陣痛久シキニ亘ルトキハ巫ヲ招キテ安産ノ祈禱ヲ爲サシム。此時緊結シタル物ヲ解キ垣ノ一端ヲ取壞シ、石垣ヲ崩シ、家根ノ一部ヲ剝キ、柱ヲ動シ、上衣ノ片袖ヲ裂キ又ハ裝填

セル銃丸ヲ放ツ等ノ事ヲ爲シテ以テ安産ノ縁喜ト爲スコトアリ

(三)助産 本族ニハ別ニ産婆ト稱スヘキ者ナシ。故ニ其家ニ老婦アルトキ其老婦産婦ノ介抱ニ當リ若シ之アラサルトキハ親戚又ハ他人ノ婦女ニシテ助産ニ經驗アル者ヲ招キテ之ヲ爲ス。助産者ハ之ヲ「バボアジャク」(子ヲ産マ)又ハ「バババナウ」(子ヲ洗)ト云フ

(附記) 現時若干ノ番社ニ於テハ既ニ助産ニ熱練シ廣ク社民ノ求ニ應シテ之ニ從フ者アリ。北ばいわぬ番スボン社ニ於ケル某婦、サブデク群ノ牡丹社ニ於ケル巫女チヨコトイボノ如キハ難産ノ場合ニ手ヲ産門ニ挿込ミ兒ヲ引出スコトヲ得ル程ニ熱練シ居レリ。而シテ此場合ニハ三四圓ノ謝禮ヲ取ルト云フ。又るかいは番ダデル社ノイデス・カボロカ及タリランラリルノ如キハ男ナレトモ助産ニ巧ナルヲ以テ依頼ニ來ル者多シ。サレト此ハ別ニ謝禮ヲ取ラス。其他巫ニシテ助産ニ巧ナル者少カラス。其等ハ何レモ安産ヲ祈リ同時ニ助産スルモノナリ

(四)産兒ノ取扱

(イ)接取 子生レタルトキハ助産者先ツ之ヲ取上ケ竹刀(竹ヲ削リテ刀ノ如ク其刃チ)小刀(るかい番マカカザヤザヤクワルス兩社及北ばいわぬ)又ハ石刀(上ダリセぬ)ヲ以テ臍帶ヲ根元ヨリ四五寸ノ所ニテ切斷シ其末端ハ麻糸又ハ月桃ノ織緯ヲ以テ之ヲ縛シ(上ダリセぬ番諸社るかいは番ノサボ)或ハ之ヲ縛セス單ニ之ヲ扭リ置キ又ハ指ヲ以テ臍ノ方ニ扱キ置キ又ハ之ニ鹽若ハ灰ヲ塗附シテ其ノ出血ヲ防ク(ばいわぬ)即是ハ)

(ろ)産兒ノ洗滌 次ニ冷水又ハ微温湯ヲ以テ産兒ヲ洗滌シ布片ヲ以テ能ク目鼻耳口等ヲ拭ヒソレニ附着セル汚物ヲ除去シ後古キ衣類ヲ以テ之ヲ包ム(此時北ばいわぬ番チヤヤカブス社ニ於テハ其家ノ老人桑葉及小祭肉ヲ以テ「バチロオマア」ノ祈禱ヲ行

云フ)爾後毎日一回兒ヲ洗浴セシム

(ハ)産兒ノ哺乳 兒ハ先ツ他人ノ乳又ハ粟ノ糜汁(時トシテ之ニ糖又ハ蜜ヲ混ス)ヲ飲マシメ一兩日ノ後母乳ノ出ルヲ待テ之ヲ哺マシム

(ニ)後産ノ處置 後産即チ胞衣其他ノ汚物ハスボン社(即チおぼじばり)以南(即チおぼじばり)ニ於テハ之ヲ籠ニ入レ林ニ持行き其上ニ樹枝ヲ蔽ヒテ之ヲ掛ケ置ク同社以北(即チおぼじばり)ニ於テハ之ヲ收藏スルニ一定ノ場所アリ即之ヲ瓢ニ入レテ屋内後壁ノ下其他人ノ踏マサル所ニ埋メ(ぶつる番マカザヤザヤ社ハ即是或ハ瓢ニ入レテ後壁ニ沿ヒタル棚上ニ置キ自然ノ流失ニ任セる)かい番マカザヤ社ハ即是或ハ寝臺ノ下ニ埋メ(ぶつる番ガヒヤ)又ハ大黒柱ノ後ニ穴ヲ掘テ之ヲ埋ム(北ばいわね番チヤヤ社ハ即是)何レニセヨ其胞衣ガ鳥獸ノ餌食ト爲ルコトヲ忌ム若然カセラルルトキハ其兒短命ナルヘシトノ迷信アリ

(ハ)臍帶ノ處置 臍帶ハ生後五六日ニシテ脱落ス然ルトキハ之ニ對シテ祈禱ヲ行ヒ一定ノ場所ニ埋藏ス其若干ノ例ヲ擧クレハこぼじばりじやお兩番ニ於テハ之ヲ寝臺ノ下ニ埋メ又ハ屋根瓦ノ下ニ收メ置ク北ばいわね番チヤヤカゴス社ニ於テハ之ヲ小竹筒ニ入レ其竹筒ヲ更ニ月桃ノ小籠ニ藏シテ梁ニ吊シ又ハ布ニ包ミテ石壁ノ内面ノ右側ノ孔ニ藏ス此ハ兒成長シタル後ニ取出シテ之ヲ棄ツルカ又ハ屋根ノ上ニ投上クト云フるかい番チヤヤボカス社及ぶつる番カヒヤカス社ニ於テハ室

内窓ノ上櫃ノ上ニ置キ同番マカザヤヤ社ニ於テハ屋根板ノ間ニ納メ上ダリせぬ番ハ之ヲ草原ニ棄ツ上ダリせぬ番ノ外ハ何レモ其ノ鳥獸ニ食ハルルヲ忌ミ若シ食ハルルトキハ其兒短命ナルヘシト云ヘリ

(ハ)産兒外出ノ禁 凡テ産兒ハ外出ノ祈禱ヲ行フ迄ハ屋外ニ出ツルヲ禁ス是其身不淨ナルヲ以テ

天日ニ曝露スルヲ忌ムノ意ナルモ實ハ外氣ニ侵サルルコトヲ虞ルルガ爲ナルヘシ

(四)産婦ノ攝養

(イ)局部ノ手當 兒産出シタル時ハこぼじばりじやお兩番ニ於テハ婦ハ微温湯ヲ用ヒ下體ヲ拭ヒ糞ヲ燒キ粟灰ヲ混シ布ニ包ミテ之ヲ局部ニ當ツ上ダリせぬ番ハ糞湯ニテ局部ヲ洗ヒるかい番ニテハ糞湯ニテ洗ヒ之ニ豚脂ヲ塗ルぶつる番カザヤ社ニ於テハラウカウト稱スル草ノ葉(カラシニ似ル)ヲ湯ニ浸シ之ヲ以テ婦ノ腹部ヲ煖メ若シ婦ガ局部ニ負傷シタルトキハ之ヲソコニ貼布ス同番クワルス社ニ於テハ湯ニテ局部ヲ洗ヒ其跡へ粟灰ヲ塗ル此等ヲ稱シテ「ブツムル」(藥ヲ附ク)ト云フ

(ロ)靜養 婦ハ出産後産牀ニ腰掛ケ少時休ミタル後靜ニ身ヲ横ヘテ安臥ス兩三日乃至五六日ノ後身體ヲ洗フ 婦ノ強壯ニシテ産後異狀ナキモノハ四五日ニテ家事ニ從フコトヲ得ルモ然ラサルモノハ尙ホ數日間其ノ身ヲ安靜ニ保ツ

(ハ)飲食 食物ハ成ルヘク温補ノ物ヲ取ル初ニ糞湯(糞チヤヤツツアシテ煎シタル汁之ニ糖ヲ混スルモノアリ)ヲ服セシメ次ニ鹽豚ノ肉乾芋ノ粉及粟又ハ樹豆ノ粥ヲ食ハシム之ヲ「スムジツ」(身ヲ温ム)ト云フ

(ニ)籠居 婦モ亦外出ノ祈禱ヲ行ハサル間ハ其兒ト同様ニ外ニ出テ天日ニ身ヲ露スコトヲ得サルモノトス

(五)難産ニ對スル處置 本族ニ於ケル難産ノ多クハ側産、坐産及倒産トス而モ助産ノ術未タ開ケサルガ爲ニ此等ノ場合ニ如何トモスルコトヲ得ス單ニ巫ヲ招キテ其祈禱ヲ依頼スルノミ(但シ現時ニ功ナル者アルハ既ニ連タル所ノ如シ)本族甚タ産死ヲ忌ミ此語ヲ口ニスルスラ尙ホ禁忌トス若シ家内ニ産死者アルトキハ其家ヲ棄ツル程ナリ故ニぶつる番諸社ニ於テハ婦ノ産重ク到底助命ノ見込ナキ場合ニハ

二三九

之ヲ負ヒ郊外ノ假小屋ニ移シソコニテ其經過ヲ見ル此事ニ關シテハ尙後款變死者ノ部ニ於テ説述スル所アルヘシ

第三 懷妊及出產ニ關スル禁忌及迷信

(一)懷胎及出產ヲ不淨トスル觀念 本族ハ懷胎及出產ヲ以テ不淨ト爲ス故ニ (一)妊婦ハ獵銃番刀等ニ觸ルルコトヲ戒ム若シ之ヲ犯ストキハ其武器利ナラスト信セラレルガ故ニ之ヲ祓フノ祈禱ヲ行ハサルヘカラス (二)五年祭ノ槍ニ用キル竹ハ妊婦之ニ觸ルルコトヲ禁ス若シ之ヲ犯ストキハ祭祀中其槍折レテ不吉ヲ來スヘシ五年祭ノ竹ヲ伐リ出ス際ニハ「スムチロク」(チロク即懷妊ノ不淨ヲ祓フノ義)ノ祈禱ヲ行フ此ハ其以前ニ或ハ妊婦ノ之ニ近ツキタルコトモアラシカトテ其不淨ヲ禳フナリ (三)出產後數日間母子共ニ戶外ニ出ツルヲ禁ス是其ノ不淨ノ身ヲ天日ニ曝露スルコトヲ恐ルルナリ故ニ婦及産兒ノ外出ハ必ス祈禱ヲ受ケタル後ニ於テスルモノトス

(二)出產ニ關スル縁喜 本族ハ一般ニ諸種ノ事物ニ付キ縁喜ヲ祝スル念盛ニシテ特ニ出產ニ關シテ其甚シキヲ見ル 左ニ二三ノ番社ニ於テ調査シタル所ヲ掲ク

(い)こほじ番諸社及スボン群社 ニ於テハ (一)懷胎中夫妻ハ共ニ死獸ノ肉ヲ食スヘカラス之ヲ食セハ恐クハ死産スルコトアラム (二)夫妻ハ獸ノ胎兒ヲ食スヘカラス之ヲ食セハ恐クハ兒胞衣ヲ被リタルママニテ産マルルコトアラシ (三)夫妻ハ鰻又ハ「ヤウ」蛙ノ一種ヲ食スヘカラス之ヲ食セハ恐ラクハ産兒骨軟ニシテ終世立ツコト能ハサルコトアラシ (四)夫妻ハ何レモ二酒杯ニテ酒ヲ飲ムヘカラス又二個連生シタル芋番薯大根芭蕉若ハ檳榔子ヲ食スヘカラス若シ之ヲ犯セハ恐クハ双生兒ヲ生ムコトアラシ (五)夫妻ハ自ラ麻又ハ芭蕉ヲ栽植スヘカラス溪流ヲ堰キテ魚ヲ捕ヘ

タル後ハ必其堰ヲ切テモトノ如ク流シ置クヘシ薪ヲ束ネテ持歸リタルトキハ手早ク其縛ヲ解置クヘシ木ノ枝ヲ伐拂フニハスツバリト伐リ落スヘシ其ノ伐盡サスシケ一部ノ引掛ルヲ忌ム他行スルトキハ必目的地ニ達シタル上ニテ引返スヘシ中途ヨリ引返スハ不可ナリ但シ途中ニテ一泊シ翌日歸來スルハ差支ナシ出獵ニ際シ不吉ノ事ニ遭ヒテ引返ス場合ニハ直ニ家ニ歸ラス先ツ他人ノ家ニ入り巫ノ祈禱ヲ受ケタル後ニ歸來スヘシ他ハ携帶シタル辨當ハ食シ了ルカ又ハ他人ニ與ヘ去ルヘシ其食殘リヲ持歸ルヘカラス凡テ取落シタル品ハ之ヲ拾フヘカラス他人拾ヒテ我ニ渡ストモ之ヲ受取ルヘカラス人ヨリ我ニ渡ス品ハ何品ニテモ之ヲ受取ルヘシ酒ノ如キ若シ飲ヲ嗜マサル者ナラハ少シク飲ミテ相手ニ返杯スヘシ「ジャバツ」(獵)ヲ肩ニ佩フルニハ一方ノ肩ヨリ他方ノ脇ニ掛クヘシ片肩ノミニ掛クヘカラス其ノ他畏ヲ掛ケ紐ヲ結ヒ(衣帶ハ此ノ限ニ在ラス)又ハ垣ヲ作ルヘカラス家ヲ建ツル場合ニハ自ラまた木(梁ヲ支受)ヲ作り又ハ敷居ノ溝ヲ作ルヘカラス若シ上記ノ禁忌ヲ犯ストキハ兒産門ニ臨ミ手足ヲ支ヘラレテ容易ニ出テス或ハ出掛ケテ再ヒ奥ニ入ルコトアラシ (六)夫妻共ニ猴又ハ犬ノ子ニ手ヲ觸レ又ハ之ヲ指スヘカラス人ノ形ヲ模シタル刺繡又ハ彫刻ヲ爲スヘカラス(タリセぬ諸番ニモ此慣習アリ其一部ニ於テハ平日)若シ此等ノ禁忌ヲ犯サハ恐クハ不具ノ子ヲ生ムコトアラシ (七)刺アル木例ヘハ「ルミチシ」(野生)「チヤナク」(梨)等ノ木ヲ燃焼スルコトヲ得ス此等ハ平時薪材トシテ用キルハ差支ナシト雖モ懷妊中ハ之ヲ禁ス若シ之ヲ犯サハ生兒腫物ニ難ムコトアラシ(此ノ習慣アリ) (八)妊婦中其夫ハ豚ヲ屠ルヘカラス之ヲ犯サハ胎兒ノ産マ

(ろ)ぶつる番カザラメ社 ニ於テハ (一)妊婦ハ死産者ヲ埋メタル場所ニ入ルヘカラス若之ヲ犯セハ己モ亦産死スルコトアラン (二)竹筒ヲ家ニ入ルルニハ筒先ヨリスヘシ然ラサレハ逆産ノ恐アルヘシ (三)家ノ入口ヲ閉ツルトキハ窓ヲモ同時ニ閉ツヘシ鍋ニ二重ノ蓋ヲ爲スヘカラス (四)ケ所ニ埋火スヘカラス若シ此等ノ事ヲ犯セハ双生兒ヲ生ムノ恐アルヘシ (四)夫妻ノ被服及附身ノ具ハ他人ニ跨ガシムヘカラス若シ之ヲ犯セハ出産ノ時臍帶兒ノ頸ニマツハル恐アルヘシ (五)臨産ニ際シテ之ヲ他人ニ傳説スヘカラス若之ヲ犯セハ兒産門ヨリ出テントシテ出テス婦爲ニ大ニ苦シムコトアルヘシ

(は)るかい番サボカヌ社 ニ於テハ妊婦ハ (一)懐胎中ぶつる番ノ部落ニ行クヘカラス是其途中ニテ鳥凶ニ逢ヘハ流産スル虞アルニ因ル (二)死者ノ肢體ニ觸ルヘカラス往キテ弔スルノミナレハ差支ナシ (三)他ノ産兒ノ未タ洗ハサルモノヲ見ルヘカラス之ヲ見ハ恐クハ他日己ノ胎兒出産スルモ生育セサルヘシ (四)刀又ハ衣類ヲ交換スヘカラス恐クハ其子死スヘシ (五)猴熊又ハ雞ヲ食スヘカラス之ヲ犯セハ恐クハ其産重カラシ (六)禁忌ノ地ニ入ルヘカラス之ヲ犯セハ恐クハ惡靈ニ犯サレ其兒生育セサルヘシ (七)蔓ノ卷キタル木ヲ燒クヘカラス渦キタル所ノ水ヲ飲ムヘカラス若シ此等ヲ犯セハ恐クハ産兒ノ臍帶其ノ頸ニマツハリ産重カルヘシ

第四 私生兒双生兒及畸形兒ノ取扱

(一)私生兒 私生兒ハぶつる、ばいわぬ兩番ニ於テ「ジャカラオ」ト云ヒるかい、上ダリせぬ兩番ニ於テハ「ツバリアヌ」ト云フ其ニ其本義審ナラス 本族ハ私生兒ヲ忌マス從テ之ヲ育養スル者少カラス 唯之ヲ生ムヲ以テ他ニ對シテ恥辱ナリト爲スノミ從テ中ニハ人知レス出生ヲ待テ之ヲ壓殺シ或

ハ早く墮胎スルモアリ墮胎ハ唯ばりじお番ニ行ハレ他ノ諸番ニハ行ハレス此法ハ「ビジョワク」(山油)又ハ「ジバラク」(其幹甚)ノ葉ヲ煮テ其汁ヲ飲ミ又其葉ヲ腹ニ當ツルモノニシテ斯クスルコト二三回スレハ胎兒必墮スヘシト云フ

(二)双生兒 ハ番語ニテ「ケダル」ブシダヌ又ハ「トカビヤヌ」ト云フ 双生兒ハ一般ニ之ヲ嫌忌シ兩ナガラ之ヲ取養スルトキハ何レモ生育セストシ其中ノ一人ヲ取養シ他ノ一ヲ棄ツ中ニハ兩兒共ニ之ヲ棄ツルモノアリ但上ダリせぬ番ニ於テハ兩ナガラ之ヲ取養ス左ニ若干ノ番社ニテ調査シタル所ヲ記ス

(い)上ダリせぬ番 ニ於テハ双生兒ハ兩ナガラ育養ス其一死スレハ他ノ一モ亦死ストノ迷信アリ (ろ)るかい番サボカヌ社 ニ於テハ双生兒ハ未タ人ニ爲リ居ラス恰モ血ニ同シトシテ兩ナガラ之ヲ殺シテ寢臺ノ下ニ埋ム (は)らばる番上バイワヌ社 ニ於テハ前生後生ヲ問ハス其中ニテ最強壯ノ者ヲ取リ他ノ一ヲ草原ニ棄ツ

(に)ぶつる番クワルス社 ニ於テハ其中ニテ強壯ナルモノヲ取リ他ハ窒死セシメテ郊外一定ノ所ニ埋ム其場所ヲ「ラブツ」ト云フ

(ほ)北ばいわぬ番チャジャカブス社 ニ於テハ「双生兒即チ「ケダル」ノ語スラ之ヲ忌ミ容易ニ口ニセス而シテ之ヲ生ミタル場合ニハ其中ノ強壯ナルモノヲ取養シ他ノ一ハ生キナガラ之ヲ地ニ埋ム、爾後出産ニ居合セタル者ト雖モ之ヲ他言スルコトナシ從テ其取養セラレタル者ト雖モ終生其己ガ双生兒ノ一タリシコトヲ知ラスト云フ然レトモ近來ハ間々双生兒ノ一ヲ生理スルヲ情ニ恐ヒ

スト直ニ平地ニ抱行キ土人ニ與ヘテ養ハシムル者モアリト云フ

(ハ)こぼじ、ぱりじ、お兩番ノ諸社ニ於テハ、双生兒ハ其先ニ生レタル者ヲ取り後ニ生マレタル者ヲ籠ニ入レ林ニ持チ行キ樹枝ニ掛置キ自然ノ死ニ任ス

(附記) 双生兒ニ關スル迷信ハ今ヤ大ニ變化シ昔時ト同シカラサル所アリ (一)明治十年頃ばりじ、お番牡丹社番丁ロコジ、プタイ、イナル者双生兒ヲ生ミ早朝其一ヲ山中ニ棄テタルニ其兒死セシテ泣キ續ケ日暮ニ至レリ親族ノ者之ヲ憐ミ取養シタルニ能ク生育シ而シテ一方棄テサリシ方ノ兒モ亦健全ニ生長シ且ツ家内ニ何事モナカリケリ之ヨリ其社ハ勿論附近ノ高士佛加芝來兩社ニ於テモ双生兒ハ忌ムヘキモノニ非ストシ兩ナガラ之ヲ育養スルニ至レリト云フ (二)こぼじ番諸社ニ於テモ今ヤ双生兒ニ關シ頗ル進歩シタル觀念ヲ有スルニ至レリ、曰ク双生兒ナレハトテ子トシテ生レタルヲ棄ツヘキ道理ナシ且其一ヲ棄テサレハトテ必シモ他ノ一ガ生育セスト云フニ限ラス故ニ我等ハ双生兒ハ兩ナガラ之ヲ育養スヘシト現ニ近年外獅頭社ニ此例アリタリト云フ

(三)畸形兒 例ヘハ口ノ裂ケテ兎嘴(番語、マ)ト爲リタル者ノ如キハぱりじ、お、こぼじ兩番ニ於テハ汚物ト共ニ之ヲ樹枝ニ吊シテ自然ノ死ニ委シ又他ノ部族ニ於テハ之ヲ地ニ埋ムト云フ然レトモ上さりせぬ番ニ於テハ畸形兒ト雖モ我ガ兒ナリトシ之ヲ棄テ又ハ殺ス等ノ惡習ナシ

第三項 雜項

第一 生兒ノ爲ニ行フ祈禱

本族ハ生兒ニ對シ其成年ニ達スル迄數回祈禱ヲ行ヒ以テ其健全ニ成長スルコトヲ祈ル其祈禱ノ

名稱及方式ハ各番社多少ノ相異ル所アリ詳細ハ既ニ之ヲ宗教ノ部ニ説述シタルヲ以テ茲ニハ生後一二年間ニ行フ祈禱ニ付キ略述ス

生兒ニ對スル祈禱ノ重ナルモノハ「バササオ」「スマナジャク」及「スマヌブルブルン」ノ祈禱トス

(一)「バササオ」ノ式 「バササオ」ハ前庭マテ出テシムルノ義、兒生後臍帶ノ脱落シタル時其母、兒ヲ抱テ家ノ戸口ニ立チ巫之ニ對シ太陽及産神其他族祖ノ靈ヲ呼ヒ祭肉ノ小片ヲ投シ而シテ爾後外出シテ日光及外氣ニ觸ルルモ之ニ冒サルルコトナキ様ニ祈ルナリ此祈禱ハるかい番ダデル社ニ於テ「スモバリシ」(禁忌ヲ解クノ義)ぶつる番下バイワス社ニ於テ「バクフブトアアダオ」(日ニ對抗)同番クワル社ニ於テ「バスバボア」(如ニマテ出テシムルノ義)蓋當社ニテハ母兒ヲ抱テ社外ニ出テ男兒ナラハ薪ノ一小片ヲ取り女ナラハ番諸ノ葉ヲ取りテ之ヲ屋内ノ薪入ノ中ニ置クニ因ル)ぱりじ、お番諸社ニテ「バカネチ・トカダオ」(日ヲ見)ノ「バリシ」トモ云フ 此ノ祈禱ヲ行ハサル間ハ母子共ニ家ニ籠リ外出スヘカラス若シ之ヲ犯ストキハ外氣ニ冒サレ病ヲ得ヘシト云フ

(二)「スマナジャク」ノ式 「スマナジャク」ハ小兒ニ爲スノ義「スマヌイナチアヌ」(イナチアヌトハ被創造者ノ義)ト稱スル所モアリ此祈禱ハ巫、兒ニ對シ産神及族祖ノ靈ヲ呼ヒ祭肉ノ小片ヲ投シ其兒ノ無病ニ成長センコトヲ祝スルナリ此祈禱ハ番社ニ依テ早晚アリ或社ニ於テハ生後僅ニ二三日未タ臍帶ノ脱落セサル内ニ行ヒ(上バイワス社カザギザ社)或社ニ於テハ臍帶ノ脱落シタル後「バササオ」ノ祈禱ニ先テ之ヲ行フ(ダデル社カザギザ社トハ即是)或社ニ於テハ一ヶ月後(マヌル社及)又ハ二ヶ月後(お番諸社)ニ之ヲ行フ(アス社キリヤ社トハ即是)

(三)「スマヌブルブルン」ノ式 「スマヌブルブルン」ハ老人ニ爲スノ義ナリ兒生後約一ヶ年乳齒ノ一二

枚ノ生ヘタル時巫ヲ招キ豚ヲ屠リ之ヲ以テ太陽産神及族祖ノ靈ヲ祭リ以テ其兒ノ健全ニ成長セムコトヲ祈ル 此式ヲ行ハサル間ニ兒ガ死亡スルトキハ之ヲ通常ノ墓ニ葬ラス別ニ定メタル嬰兒ノ墓ニ葬ル

第二 「ブツムル」（ハスジツ）及慶賀ノ禮

(一)通説 本族最長子ヲ重シ其出生スルヤ 父ノ實家ヨリ母ノ實家ニ對シ又ハ父母ノ實家ヨリ産家ニ對シ一定ノ物品ヲ贈ルヲ例トス又或番社ニ於テハ産家ニ於テ喜宴ヲ開クコトアリ左ノ如シ
(二)「ブツムル」ノ禮 長子ノ生レタルトキ(次子以下ノ生マレタルトキニハ此禮ナシ)父ノ實家ハ母ノ實家ニ對シ鐵器類ヲ送ル此品ヲ「シニブツムル」ト云フ「ブツムル」ハ藥ヲ附スルノ義ナリ蓋シ婦初メテ子ヲ生ムトキハ其ノ局部ヲ傷ツクガ故ニ其ノ藥料ヲ與フルナリ之ガ爲ニ鐵器ヲ送ルハ蓋シ鐵器ハ古代ニ於ケル貨幣ナルニ因ル而シテ特ニ男家ヨリ之ヲ女家ニ與フルハ古代初産ハ女ノ實家ニ於テ爲シタルニ因ルナルヘシ

(三)「ハスジツ」ノ禮 長子ノ生マレタルトキ父又ハ母ノ實家ハ産家ニ對シ「ハスジツ」ヲ贈ル爲ス即兒ガ父ノ家ニ生マレタルトキハ母ノ實家ヨリ母ノ家ニ生マレタルトキハ父ノ實家ヨリ父母ガ一家ヲ創立シタル後ニ生マレタルトキハ父母双方ノ實家ヨリ産家ニ對シ酒餅豚肉等ヲ送ル此品ヲ「シニハスジツ」ト云フ「ハスジツ」トハ温ムルノ義蓋シ産婦ノ腹ヲ温ムル爲ニ温補ノ食物ヲ送ルノ意ナリ

(四)「ハカカル」ノ禮 少數ノ番社ニ於テハ「ハスジツ」ノ日産家酒ヲ作り肉ヲ置キテ親戚知友ヲ招クコトアリ親戚朋友亦栗樹豆餅酒等ヲ送リテ賀ト爲ス之ヲ「マルバ」(喜フ)又ハ「ハカカル」(喜ハシ)ト云フ

(二)各番社ニ於ケル慣習 左ニ若干ノ番社ニ於テ調査シタル「ブツムル」「ハスジツ」及産兒慶賀ノ禮ヲ記ス

(イ)「ルかい番」（ダゲル）兩群社 二於テハ長子出生シタルトキハ其父又ハ母ノ實家ヨリ産家ニ「スムゼツ」ノ料トシテ鐵器一他ノ親族朋友ヨリ「シヤタババタナラボボル」(財貨ヲ與)ト稱シ器具ヲ與フ尙ホ一二ヶ月ノ後父ノ實家ヨリ母ノ實家ニ「ブツムル」又ハ「ジマジャス」(手ヲ)ノ料トシテ鍋又ハ腕環ノ内一ヲ與フ

(ロ)「ぶつる番」（カザヤ）社 二於テハ長子出生一ヶ月ノ後産家酒及餅ヲ作り豚ヲ屠リ父又ハ母ノ父母兄弟其他親族及朋友ヲ招ク親族朋友亦酒樹豆及粟等ヲ持シ來賀ス之ヲ「マルバ」(喜フ)ト云フ約三ヶ月ノ後父家ヨリ母家ニ「ルモコジ」(第二ノ聘禮第一ノ聘)トシテ鍋鐵把各一（ツツム）大鍋一（ツツマ）鍋二枚又ハ鐵把（祭肉）ヲ送ル

(ハ)「ぶつる番」（ワルス）社 二於テハ兒ノ生レタル翌月新月ノ出ツル日ニ「バチリガオ」ノ祈禱ヲ行フ此ノ時父母ノ實家ヨリ餅酒粟樹豆等ノ禮物ヲ産家ニ送ル之ヲ「バアバジツト」トワスマグツト云フ父母ノ親族朋友モ亦樹豆粟等ヲ持參ス之ヲ「ハカカル」ト云フ又兒ガ母家ニ生レタルトキハ父家ヨリ粟一大把及樹豆小許ヲ送リ來ル此ノ時父ノ實家ハ酒ヲ作り兩親子及其親族ヲ招飲ス之ヲ「シアラブトツクル」(配偶者ヲ)ト云フ

(ニ)「北ばい」（わぬ）番社 二於テハ「ボツムル」トシテ父ノ實家ヨリ母ノ實家ニ刀一、小豚一又ハ番布一端ヲ贈リ「ハスジツ」トシテ父母ノ實家ヨリ産家ニ酒一甕及鹽豚一塊ヲ送リ親族ハ慶賀トシテ芋樹豆番薯等ノ諸品ヲ持參シ來ル産家豫メ酒ヲ作りテ之ヲ款待ス

(ほ)北はいわぬ番コソ、ハル群社ニ於テ父母ノ實家ハ産家ニ對シ「パスジュツ」トシテ鹽豚一塊ヲ與フ。若シ兒ガ女家ニ生マレタルトキハ右ノ外ニ男家ヨリ産家ニ「シニボドク」(餅ヲ斷)「シニサグチ」(兒ニフナ行)及ヒ「シニバサチ」マクトアジャク(兒ヲシテ父ノ實家)トシテ鉈三個ヲ與フ。何レモ酒ハ兩家ニテ作り相會シテ喜宴ヲ開ク

(へ)こぼし番内文社ニ於テハ子生レテ數月「スマナジャク」ノ式ヲ行フ際父母ノ實家ハ産家ニ鹽豚、粟餅、酒、産兒ノ背負帶及古キ鐵器三片ヲ贈ル。之ヲ「パスジュツ」ト云フ

(と)同番内獅頭社ニ於テハ鹽豚、酒及斧三個(之レニ一々名稱アリ「ハ」シニハケラフ「フ」即チ兒ヲシテ腰掛ケシ「モク」即チ血ヲ「スル」ノ義)及小兒ノ衣褲各一枚ヲ贈ル

(ち)ばりじお番牡丹社ニ於テ父母ノ實家ニ布疋(兒ノ衣ヲ作ルニ要スル丈)及酒肉ヲ持參ス。之ヲ「シニパスジュツ」又ハ「シニモレ」アジャク(子ヲ見ルニ要スル料)ト云フ。尙ホ兒ガ父家ニ生レタルトキハ母家ヨリ此外ニ父ノ父母兄弟伯叔等ニ布二尺ツツヲ與フ

(り)同番サブデク群社ニ於テハ父母ノ實家ヨリ産家ニ酒一甕及鹽豚一塊(以上二品ヲ「シニパスジュツ」ト云フ)生兒ニ被スヘキ上衣、帶、帽、背負帶(以上三品ヲ「シニハ」ト云フ)即チ兒ニ被セシムル料)ヲ與フ。尙ホ兒ガ女家ニ生マレタルトキ又ハ父母ガ一家創立ヲ爲シタル後ニ生レタルトキハ男家ニ右ノ外ニ鐵器三個即斧一(「シニボドク」ノ義)刀二(「ハ」シニ「ボドク」即チ斷ツ料)ヲ與フ

第三款 死亡

第一項 總說

本族ハ(一)死者ノ遺骸ハ鄭重ニ之ヲ葬ル。即先ツ其服裝ヲ整ヘ(裏布ニテ肢體ヲ卷キ)蓋之ヲ家内ニ埋ム(葬)但シ凶死者ハ之ヲ屋外ニ埋ムルコトアリ(二)又死者ノ親族ハ悲哀ノ情ヲ表スルガ爲ニ一定ノ期間一定ノ服裝ヲ爲シ且一定ノ行爲ヲ戒ム(喪)(三)死者ノ靈魂ハ生人ニ對シテ吉凶禍福ヲ爲スノ力アリト爲シ之ヲ祭テ福運ヲ求メ又ハ之ヲ祓テ禍害ヲ避クルノ慣習ヲ有ス。右ノ内(三)ハ既ニ宗教ノ章中祭祀ノ部ニ於テ説述シタル所ナルヲ以テ之ヲ省キ茲ニハ(一)及(二)ニ付テ説述スヘシ

第二項 葬

第一目 葬法

第一 臨終

(一)易簀 病者氣將ニ絶セントスルトキ又ハ既ニ氣絶シタルトキ内庭ニ月桃蓆ヲ敷キ病者ヲ扶ケテ之ニ降ス

此易簀ノ風番社ニ依テ多小相異スルモノアリ左ノ如シ

(い)こぼし番ニ於テハ病者氣既ニ絶シタル後内庭ニ月桃蓆ヲ敷キ遺骸ヲ寢臺ヨリ下シ之ニ移ス

(ろ)上ぎりせぬ番ニ於テハ氣未タ絶セサル内ニ庭ニ下ス

(は)ばりじお番高士佛、牡丹、加芝來等ノ諸社ニ於テハ氣既ニ絶シタル後ニ屍床(番語「シヤカル」ト云フ、掛テ置キ之ニ板又ハ竹篋ヲ架シタルモノ)ヲ作り其上ニ月桃蓆ヲ敷キ之ニ屍ヲ移ス。此屍床ハ蓋シ土人ノ爲ス所ニ倣ヒタルモノナルガ如シ

(に)るかいらばるノ兩番、ぶつる番ノ大半及ばりじやお番ノサブデク群社ニ於テ屍ハ其儘床上ニ置キ別ニ之ヲ土間ニ降スノ慣習ナシ。但シぶつる番中クワルス社ニ於テハ病者ハ人ニ抱カレツツ

床上ニ於テ氣絶シ後之ヲ土間ニ降シ月桃蓆ノ上ニ置キ直ニ祭肉ノ小片ヲ握ラシム

(二) 哀哭及訃聞 易簣ノ後家族遺骸ヲ圍テ哀哭シ一面人ヲ馳セテ之ヲ親戚故舊ニ告知シ一面襲殮ノ用意ヲ爲ス

第二 襲斂

(一) 襲衣 病者氣絶スルトキハ直ニ生前着スル所ノ衣褲ヲ脱シ清衣ヲ着ケシム但シるかい番ニ於テハ白綿布製ノ衣褲ヲ作リテ之ヲ着セシム 然ル後其ノ髪ヲ梳ツリ頭飾ヲ施ス若シ男ガ勇士タルトキハ鳥羽ノ飾ヲ帽ノ上ニ挿スるかい番ハ一般ニ男ニハ鳥羽ヲ立テタル帽女ニハ花草ヲ以テ製シタル頭環ヲ施ス但シ屍ヲ壙中ニ降ストキ之ヲ撤ス 右ノ外遺骸ニハ頭胸臂脚等ニ附スル諸種ノ裝飾ヲ施ス 尙ホ胸ニハ檳榔子袋(番語、ジャバツ)ヲ佩ハシメ檳榔子、荖葉、石灰、小刀、圓銀大ノ螺錢(番語、カウ)

(燃具)今之ニ代フルニ構寸(此ノ二品ハ女ガ)櫛、剪刀(死シタルトキ)其ノ他旅行ニ必要ナル品ヲ入ル蓋シ死者ハ此地ヲ出發シ遠ク靈界ニ赴クガ故ニ其旅裝ヲ整フルナリるかい番諸社ニ於テハ男ニハ刀、女ニハ小刀ヲ携ヘシムルモ、燈具及檳榔子ヲ携フルコトヲ禁忌ス 此ノ外死者ニハ其手ニ祭肉ノ小片ヲ握ラシム、らばる番上バイワヌ社ニ於テ此ノ祭肉ハ三片ニシテ一片ハ前ニ死シタル父母兄弟ノ靈ニ與ヘ一片ハ同行者ノ靈ニ與ヘ殘ル一片ハ死者自分ノ食用ナリト云フ

(二) 殮 既ニ屍體ニ襲衣シタルトキハ之ヲ起シテ蹲踞セシメ大ナル番布(方約五六尺番語、サウバン)ヲ以テ之ヲ包ム 其ノ法屍ノ未タ硬化セサル内ニ兩足ヲ屈シ膝頭ヲ腹ニ當テ兩手ヲ屈シ胸前ニ於テ相交又シ而シテ左掌ヲ右肩ニ右掌ヲ左肩ニ附セシメ或ハ肘ヲ屈セス兩掌ヲ重ネテ膝頭ノ上ニ置カシム、北ばいわぬ番チャジャカブ社ニ於テ安原氏ノ調査セシ所ニ依レハ左手ヲ屈シ掌ヲ右ノ乳ノ上部

ニ接シ右ノ手ハ其ノ肘ヲ膝ノ上ニ置キ下臂ヲ立テ胸ニ接シ手頸ハ恰モ人ヲ招クガ如クニ自然ニ垂レシムト云フ 番布ヲ以テ屍ヲ包ムノ法ニアリ一ハ番布ヲ前ヨリ屍體ニ掛ケテ上方ノ兩隅ヲ後頭部ノ所ニ、下方ノ兩隅ハ臀部ノ所ニ包ムナリ、他ノ一ハ先ツ番布ヲ擴ケテ之ニ屍體ヲ蹲踞セシメ別ノ布片ヲ以テ身體ヲ緊縛シ後番布ノ四隅ヲ取テ後頭部ニ結フ、北ばいわぬ番チャジャカブ社ニ於テ安原氏ノ調査セシ所ニ依レハ前ノ二隅ヲ取テ頭ノ後ニ結ヒ後ノ二隅ヲ取テ喉ノ前ニ結フト云フ

(三) 訣別ノ禮

(イ) 親族故舊ノ禮 襲殮既ニ畢リタルトキハ死者ノ親戚故舊等遺骸ヲ圍ミ何レモ「汝ハ不幸ナリ云云何故ニ早ク死シタリヤ」等ノ語ヲ述ヘ屍體ニ對シテ「スマグツ」(接疊)ヲ行ヒ以テ訣別シ、ソレヨリ號哭哀ヲ盡ス「スマグツ」ハ或ハ死者ノ前方ヨリ其前頭部ニ頭布ノ上ヨリ爲スアリ(ぶつる番カザギザス)ノ如シ、或ハ死者ノ背後ヨリ其ノ肩ニ爲スアリ(マリセぬ番諸社ニ於テ番丁ガ頭人)成ハ死者ノ手ヲ取リ其甲ニ之ヲ爲スアリ(北ばいわぬ番ノチャジャカブ)或ハ親族ハ死者ノ手ニ、他人ハ肩若ハ頭ニ之ヲ爲スアリ(ぶつる番下バイ)又死者ガ幼兒ナルトキハ其ノ父母祖父母ガ之ヲ抱キ上ケテ其ノ額ニ之ヲ爲スコトアリ 尙ホスボン社ニ於テハ男死スルトキハ其兄弟及朋友、女死シタル時ハ其ノ姉妹及朋友ハ死者ニ對シテ二聯杯ヲ用キテ合飲ノ式ヲ行フコトアリト云フ

(ロ) 配偶者ノ禮 死者ノ配偶者ガ其屍體ニ對スル訣別ノ禮ハ番社ニ依リ相異ル所アリ、左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタルモノヲ掲ク

(1) ぱりじ、お番ノ諸社 ニ於テハ配偶者ハ屍ニ對シ「汝何ソ安ニ死スル我レモ亦死ニタシ」ナトト歎

キ後死者ヲ蹲踞セシメ配偶者ハ之ニ對シ低キ腰掛ニ掛ケ足ヲ前ニ投出シ手ヲ膝ニ載セ頭ヨリ毛布ヲ被リ俯伏シテ泣ク之ヲ「イバトジブ」(本義書)ト云フ

(2)こぼし番ノ諸社ニ於テ配偶者ハ屍ニ對シ其額又ハ顎ニ「スマグツ」ヲ行ヒ明ニ離別ノ意ヲ表スル辭ヲ述ヘンレヨリ頭ニ頭被白布ヲ被ムリ屍ト背合セニ坐ス之ヲ「マババダイ」(相離ル)又ハ「マカコリツ」背合セノ義ト云フ

(3)ぶつる番諸社ニ於テ配偶者ハ死者ニ對シ其額ニ「スマグツ」ヲ行ヒタル後直ニ寢床ニ上リ其ノ前ニ白布ヲ垂レ中ニ在リテ數日間喪ニ籠ル(喪制後)尙ホ同番マスル群社ニ於テハ配偶者ハ先ツ「スマグツ」ヲ行ヒ愈埋葬ヲ行ハントスルトキ更ニ生麻少許ヲ持シ屋外ニ出テ之ヲ軒下ニ挿シ後床ニ上リ數日間喪ニ籠ル死者ノ配偶者ガ生麻ヲ持シテ屋外ニ出ルハ蓋古代離婚ノ場合ニ夫妻互ニ生麻ヲ授受シタル遺影ナルヘシ

(五)弔唁ノ禮

(イ)來弔 親族故舊ノ來弔ヲ「ケヤウ」ト云フ(土語ノ弔ヨリ轉シタ)或ハ曰フ「ケヤウ」ハ單ニ來弔スルニ非ス殺害セラレ又ハ溺死シタル者アルトキ銃又ハ槍ヲ携ヘテソコヘ駆付クルコトヲ云フト凡ソ來弔者ハ喪服ヲ着テ來リ屍ニ對シテ訣別シ又家族ニ對シ哀ヲ述フルヲ禮トスぶつる番下バイワス社ニ於テ他人ノ來弔スル者ハ駟來リ家ニ入テ死者ニ「スマグツ」ヲ行ヒ直ニ走リ歸ルヲ禮トス又同番多數ノ社ニ於テハ他社ヨリ來弔フ者ハ社ノ入口ニ於テ「オー」ト呼テ後入ル之ヲ「マウアウ」ト云フ

(ろ)バイシカウンノ禮 本族ハ死者ヲ襲殮スルニ當リ生前其ノ人ガ着用セシ被服一枚ヲ取り置キ

後ニ來會セシ親族ニ示シ親族等之ヲ見テ哭泣ス之ヲ「バイシカウン」ト云ヒ其ノ品ヲ「シカウカウン」(泣クニ用フ)ト云フ但シこぼし番諸社及スボン群社ニ於テハ死者ノ爪及髮少許ヲ切り布片ニ包ミ之ヲ箱ノ内ニ藏メ置キ葬後ニ來弔スル者ニ示スト云フ

第三 埋葬

(一)葬地

(イ)通例 屍體ハ其死者ノ現ニ居住セル家ノ内ナル墓塚ニ埋ムルヲ普通トス 本族ハ一タヒ墓ヲ作ルトキハ幾人ニテモ之ヲ同一ノ墓ニ埋メ死者アル毎ニ新墓ヲ作ルコトナシ然レトモ一ノ葬ヲ行ヒタル後未年月ヲ經過セサルニ次ノ葬ヲ行ハサルヘカラサルトキハ已ムコトヲ得ス別ニ新墓ヲ作ル

(ろ)變例 右ノ通則ニハ變例アリ即或番社ニ於テハ或種ノ死亡ニ對シ之ヲ普通ノ墓塚ニ埋ムルヲ禁忌シ他ノ地ニ葬ムル 其若干ノ例ヲ擧クレハ (一)るかいはらばるぶつるノ三番及北ばいわぬ番ノ北部ニ於ケル諸社ニ於テ變死者ハ凡テ之ヲ郊外一定ノ場所ニ葬ル其他ノ番社ニ於テハ家内ニ變死シタル者ナラハ之ヲ其屋内ニ葬ルモ差支ナシト雖モ屋外ニ於テ死亡シタル者ハ決シテ之ヲ屋内ニ入レテ葬ムルコトヲ得ス(參照第三日內死) (二)こぼし番ノ諸社北ばいわぬノ「チャジャカブ」社ぶつる番ノ「カビヤカ」社等ニ於テ他家ヨリ入婚セル者ノ屍ハ之ヲ其實家ノ墓ニ葬ル但シ其配偶者又ハ子ガ是非之ヲ自家ニ埋メントスルトキハ此ノ限ニ非ス (三)はりじやお番ノ加芝來社及牡丹社等ニ於テハ祖先ノ住ミタル舊家ノ址ガ現社内又ハ其ノ近傍ニ在ルトキハ死體ヲ屍床ニ載セ其所ニ持チ行キ祖墳ヲ開キテ之ニ葬リ其上ニ小サキ小屋ヲ建テ置クト云フ

(二)葬埋 葬埋ハ近親ノ悉ク來集スルヲ待テ行フガ故ニ時トシテ一二日ノ後ニ爲スコトアリ。若シ路遠クシテ其ノ間ニ來ルコト能ハサルトキハ已ムヲ得ストシ其ノ人ヲ待タスシテ之ヲ行フ。本族ニ於テ埋葬ニハ別ニ時刻ノ禁忌ナシ。夜中ト雖モ準備整ヘハ之ヲ爲シテ妨ナシトス。

(三)葬前ノ式 既ニ墓墳ヲ掘リ(舊墓ニ葬ムルトキ)愈(ハ其蓋ヲ開クノミ)屍ヲ墳内ニ下サントスルトキハ家族ノ一人先ツ其屍ニ對シテ「イケマン」(ケマン即チ知ノ)ノ式ヲ行フ。即祭肉少片ヲ屍ニ投シ祝シテ曰ク「汝往クモ畑ノ幸、山ノ幸其他ノ幸福ハ之ヲ持チ行カス此所ニ殘シ置ケ」ト。北ばいわぬ番チヤジャカブス社ニ於テハ此時家族ノ年長者外庭ニ饌ヲ投與シ「汝去ルトモ病ヲ殘置クナカレ」ト言ヒぶつる番マカザヤザヤ社ニ於テハ「汝一人往ケ、伴ヲ求ムル勿レ」ト言フ。又ばりじお番サブデク群社ニ於テハ死者ノ長子手ヲ合セソレニ氣息ヲ吹掛ケ之ヲ以テ死者ノ右手ヲ撫下シツツ「汝ノケマン」ヲ殘シ置ケ」ト言フト云フ。

(四)葬式

(イ)葬 上りせぬ番ト其他ノ諸番ト屍體ノ下シ方ヲ異ニス。

(1)上りせぬ番以外ノ諸番ノ式 親族數人ニテ屍體ヲ抱キ靜ニ之ヲ墳内ニ降ス。チヤジャカブス社ニ於テハ麻繩數條ヲ十文字ニ重ネ其上ニ屍ヲ置キ葬者數人其ノ繩ノ末端ヲ取り而シテ之ヲ吊下スト云フ。凡テ埋葬ハ男子ノミニテ之ヲ爲シ婦女ノ之ヲ見ルコトヲ禁忌ス。墓墳ハこぼじ、北ばいわぬ兩番ニ於テハ甚タ深ク約七八尺アリ。底ヨリ約三尺程ノ所ニ横ニ石板石ヲ突出シ中段ヲ設ケ死者ヲシテ之ニ踞セシム。他日屍朽ルトキハ肢體解ケテ底ニ落ツ其ノ他ノ部族ハ墳ノ深サ四五尺ニシテ中段ヲ設ケス。底ニ低キ石盤石ノ腰掛ヲ置キ死者ヲシテ之ニ踞セシム。或ハ寢具ヲ圓メテ底

ニ置キ屍ノ臂ニ敷カシム。屍體ノ面ハ潮州以南ノばいわぬ番ハ北方ニ向ハシメ其以北ノぶつる番ニ於テハ東方ニ向ハシム。是蓋シ其ノ祖先ノ靈ノ所在スルカブルガ(北大)ニ向テ出發スト信スルニ因ル。但シこぼじ番ノ内獅頭社、北ばいわぬ番、バイルス、ブツンロク兩社及らばる番ノ諸社ハ何レモ面ヲ西方ニ向ハシム。曰ク太陽ト共ニ行ケトノ義ナリト。

(2)上りせぬ番ノ式 既ニ述ヘタルガ如ク本番ニ於テハ屍ヲ横ニ埋ム。從テ墓墳甚タ淺ク屍ヲ埋メテ簾ノ上ニ約一尺程ノ空虛アルニ過キス。先ツ墳底ニ月桃蓆ヲ敷キ之ニ屍ヲ降シテ仰カシメ足ヲ屈シ膝頭ヲ立テシム。芒仔社ハ東枕トスレトモ他ノ二社ハ審ナラス。

(3)副葬 屍ヲ降シタル後ハ死者ノ所持品ヲモ副葬ス。即被服裝品(子ナキトキハ全部之ヲ副葬スル)銃、刀、槍ノ鏢、矢鏃、鍋、鎌、茶碗(今平民家ニ於テハ多ク實物ヲ用キス、單ニ其ノ小破片ヲ以テ之ニ代ヘ或ハ小刀ヲ以テ鏢ヲ)入レ尙ホ以外ニ煙草、煙管、檳榔子、燈具(但シるかい番ハ此ノ四品ヲ禁)等ヲモ入ル。

(4)は墳蓋 右畢テ墓墳ノ蓋(石板)ヲ爲シ其上ニ土ヲ被セ又ハ石板石ヲ敷キテ内庭ノ面ト均平ニス。

(五)葬後ノ諸禮

(イ)通説 屍ヲ埋メ畢リタルトキハ葬者ハ死者ノ靈ヲ送テ郊外一定ノ所ニ至リ饌ヲ披シ(祭肉ヲ用)靈ニ告ケテ曰ク「汝ハ既ニ死シタリ速ニ此ノ社ヲ去レ再ビ歸來スルコトナカレ」ト。其ノ日或ハ數日ノ後巫來リ家ニ殘レル死者ノ靈ヲ祓フ之ヲ「スムバジク」ト云フ。惡靈ヲ祓ヒ死者ノ續出セサル様ニ祈ルノ義ナリ。此ノ時又ハ其他ノ日ニ於テ死者ノ配偶者及親族等哀哭シツツ死者ノ靈ヲ搜スノ式ヲ行フ所アリ。之ヲ「イサシブ」ト云フ。

(ロ)各社ニ於ケル式 今若干ノ番社ニ付調査シタル所ヲ擧クレハ左ノ如シ

(1) 上きりせぬ番芒仔社 ニ於テハ葬畢レハ男一人裸體ト爲リテ郊外一定ノ所ニ至リ火ヲ焚キ夜ニ入テ歸來シ始メテ衣褲ヲ着ク喪家餅ヲ作テ一同之ヲ食ス爾後五日間家族家ニ在リテ謹慎ス

(2) らばる番上バイワス社 ニ於テハ別段葬後ノ式ナシ他人ハ歸去リ親族ハ喪家ニ留リテ喪ニ服スルノミ

(3) ぶつる番クワルス社 ニ於テハ葬後死者ノ近親直ニ「ブル」(喪)ヲ施シ其ノ中兩人一ハ粟ヲ持シ他ハ肉ヲ持シ社ノ「アルバス」(口入)ニ至リ之ヲ地ニ置キ靈ニ與ヘ「今我等ハ「ブル」ヲ施ス汝ニ粟及肉ヲ與フ之ヲカツキテ去レ去リテ後ヲ顧ミルコト勿レ而シテ我等ニ害ヲ殘スコト勿レ」ト言ヒテ歸來ス一ノ老人此ノ兩人ニ對シ「スムバジク」ヲバリシヲ行フ後一同飲食喫煙ヲ爲スコトヲ得 三日目ニ「スマヌブル」ヲ行フ 其翌日太陽及ヒサラバン(生子ヲ同)ニ對シテ祈ル之ヲ「イバボリオム」(元氣ヲ)ト云フ 死後十餘日ヲ經テ遺族畑ニ赴キテ哭泣ス之ヲ「ラムル」ト云フ 頭人死スルトキハ其相續人家族死亡シタルトキハ其ノ頭人ハ近社ノ部下ヨリ招待セラル之ヲ「イサシブ」ト云フ當社ニ於テ「イサシブ」ノ意味ハ靈ヲ搜スノ義ニ非ス恰モ遺族ノ鬱悶ヲ散スルカ如キ意ニ用ケラル

(4) 北ばいわぬ番チャジャカブス社 ニ於テ喪後直ニ家内ヲ掃除シ巫ヲ招キ靈ヲ禳フ之ヲ「スムバジク」ト云フ 三日目死者ノ親族等家ヲ出テテ哭泣シ死者ノ名ヲ呼ヒツツ社ノ入口マテ到リ而シテ引キ返ス之ヲ「イバタヤジュン」(始ニ行)ト云フ 五日目ニ近親等哭泣シツツ畑ニ至リ少シク地ヲ掘リ死人ノ名ヲ呼ヒ曰ク「是汝ノ畑ナリ」ト然ル後歸來スレハ巫此等ニ對シテ「バリシ」ヲ行フ之ヲ「イサシブ」ト云フ 十日目ニ巫ヲ招キ豚ヲ屠リテ「バリシ」ヲ行フ之ヲ「イラスジ」(整理ヲ取ルノ義)ト云フ此ノ日親戚故舊亦來集シ持參スル所ノ粟及肉ヲ出シテ飲宴ス之ヨリ家族ハ畑ニ出テ働クコトヲ得 安

原氏ノ調査ニ依レハ葬後三日目巫來リテ「バリシ」ヲ行フ此時死者ノ名ヲ呼ヒテ曰ク「汝ハ既ニ死シタルナリ速ニ去レ留テ家人等ヲ害スルコト勿レ」ト然ル後家族ノ者一人又ハ數人ヲ伴ヒ畑ニ至リ之ニ祭肉小片ヲ與ヘ之ヲ以テ「バリシ」ヲ行ハシム此時家人ハ死者ノ名ヲ呼ヒ曰ク「汝ハ既ニ死シタリサレト汝ノ勤勞ニ由テ此畑ハ能ク豐熟シタリ故ニ汝ニ其ノ收穫ノ一部ヲ分與スヘシ爾後願ハクハ此ノ畑ヲ守リテ多ク收穫アラシメヨ」ト言フト

(5) 同番クナナオ社 ニ於テ葬後埋葬者ハ直ニ手ヲ洗ヒ水ヲ以テ爐ニ沃キ其内ニ存スル火ヲ消シ後木燧ヲ鑽テ新火ヲ作り再死者ノ出來サル様ニ「バリシ」ヲ行フ別ニ巫ヲ招クコトナシ 四日目ニ至リテ「イサシブ」ヲ行フ其時死者ノ配偶者ハ笠ヲ被ル歸來ノ後家族ハ近親ノ家ヲ飲ミ廻ハル 其翌日巫ヲ招キテ「イラスジ」ヲ行フ其法「チャジャカブス社」ニ於ケルガ如シ

(6) 同番スボン社 葬後直ニ「スムバジク」ヲ行フ別ニ巫ヲ請セス家人中之ヲ能クスル者ヲシテ行ハシム 三日目死者ノ配偶者父母兄弟姉妹等住家ノ後ニ往キテ哭ス其ノ夜「バイシリチリ」(本義書)ノ「バリシ」ヲ行フ 十日目ニ至リ配偶者ハ畑ニ赴キテ哀哭ス 頭人が死亡シタルトキハ葬埋ノ翌日一同山ニ至リ嗣子若クハ重ナル番丁斷崖ノ地又ハ岩石多クシテ開墾ニ適セサル地約六尺四方ヲ選ミ死者ノ名ヲ呼ヒ「今此ノ地ヲ汝ニ與フ」ト言フ爾後其ノ地ハ永ク靈ノ地ト爲シ開墾スルコトナシ

(7) こぼし番内獅頭社 ニ於テハ葬後死者ノ配偶者及近親等ハ戶外ニ出テ死者ノ名ヲ呼ヒ「汝ハ今何處ニアル我ニ姿ヲ見セヨ」トテ祭肉ノ小片ヲ投ケツツ家ノ近傍ヲ搜シ廻ル之ヲ「イサシブ」ト云フ 三日目ノ夜ニ巫ヲ招キ死者ノ配偶者ニ對シ「バササオ」(外庭ニ出)ノ「バリシ」ヲ行フ此レヨリ一同外出

スルコトヲ得 四日目ノ朝巫又來リ死者ノ名ヲ呼ヒ祭肉ノ小片ヲ投シツツ汝ハ此ノ家ニ居ルヘカラス速ニ去レト祈ル之ヲスムバジクト云フ 其翌日又ハ翌々日死者ノ配偶者父子兄弟姉妹畑ニ至リ死者ノ名ヲ呼ヒ我茲ニ來リテ汝ヲ搜ス何ソ其姿ノ見エサル汝ハ何所ニ往キタリヤト搜シ廻ル之ヲモイサシブト云フ 三ヶ月乃至一年ノ後巫ヲ招キ死者ノ靈ヲ降ス之ヲバケラジトツマシト云フ 即チ死者ノ靈巫ノ身ニ憑依シ冥界ニ於ケル現時ノ生活狀態ヲ説キ又子孫ニ對スル訓戒ヲ爲ス但シ此バリシハ必行フヘキニ限ラス唯死者ヲ思慕スル者之ヲ爲スト云フ

(8)同番内文社 ニ於テハ葬後直ニイサシブヲ行ヒ死者ノ配偶者及近親ハ社ノ出口(カコツ)マテ至リテ歸ル此ノ時死者カ病中用キタル月桃蓆ヲ郊外一定ノ場所ニ棄ツ一同歸來スルヤ家ノ入口ニ水ヲ置キ之ヲ以テ身ヲ洗ヒテ入ル 其ノ時巫來リ家内及屍ニ觸レタル人々ニ對シスムバジクノバリシヲ行フ 二三ヶ月ノ後巫ヲ招キバケラジノバリシヲ行フコト内獅頭社ニ同シ 頭人夫妻ガ死亡シタルトキハ葬ノ翌日其ノ男タル子又ハ兄弟其ノ他ノ近親山中ニ入り斷崖ノ地又ハ岩石多ク開墾ニ適セサル地約一二間四方ヲ選ヒテ死者ノ名ヲ呼ヒ之ヲ與ヘテ永久ニ汝ノ畑ト爲ス故ニ我等ノ畑ニ來ルコト勿レト言フ其地ハ將來開墾セス禁林ノ地トナル

(9)ばりじお番サブデク群社ニ於テハ葬後死者ノ用ヒタル月桃蓆ヲ棄テニ行キタル者ガ歸來リタルトキ之ニ對シ續テ死人ノ出テサル様ニスムバジクノバリシヲ行フ 翌日配偶者及近親ハ家外ニ於テ哭泣シツツ死者ノ名ヲ呼ヒ汝ハ何レニ在ルヤ相別ルルコトノツラサヨセメテ一語ナリトモ殘シテ行ケト言ヒ此所彼所ヲ搜シ廻ル狀ヲ爲ス之ヲイサシブト云フ 其日再ヒ畑ニ行テ同一ノ事ヲ行フ此ノ時配偶者ハ人ニ負ハレ或ハ手ヲ牽カレテ行クト云フ

第二目 墳墓

第一 總説

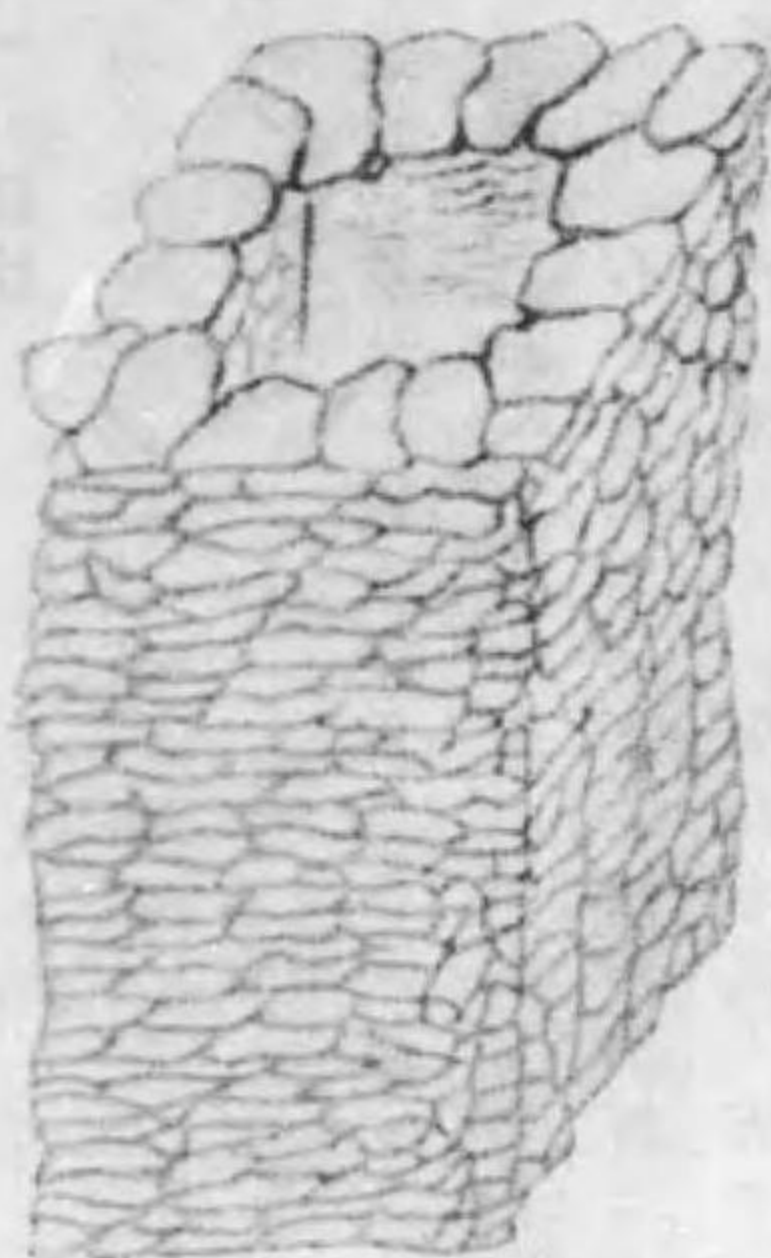
- (一)墓ヲ表スル語 墳墓ハ番語ニテローバヌ(上ニリセぬ番ニ於テオホコ)ト云フ地ニ穿チタル穴ノ義ナリ
- (二)墓ノ所在
 - (イ)通説 墳墓ハ通常屋内ニ作ル而シテ(一)リキリキ社以北(即第一家式)ニ於テハ奥ノ方ノ土間ニ作リ(二)其以南(即第二及第三款式ノ家)ニ於テハ奥室ノ内ニ之ヲ作ル而シテ一般ニ男女老幼其埋所ヲ異ニセス
 - (ロ)例外 右ノ通則ニハ下ノ如キ例外アリ (一)産死者變死者ハ或ハ屋外ニ埋メテ家内ニ埋ムヲ忌ミ或ハ家内ニ埋ムルモ常人ト其ノ所ヲ異ニス是ハ次條凶死ノ部ニ述フヘシ (二)多クノ番社ニ於テハ未タスマスブルブルンノ禮ヲ行ハサル小兒(即生レテ二歳ノ者)ハ家内ニ埋ムルモ大人ト其ノ墓ヲ別ニス (三)或ル番社ニ於テハ巫ヲ以テ生前神ニ接シ其身貴キモノナルガ故ニ家人ト墓ヲ別ニスヘシトテ之ヲ奥ノ壁ニ接シタル人ノ踏マサル所ニ設ク(スホン群社ヲヤコボコト) (四)又ふつる番ノ或社ニ於テハ男女其ノ墓ヲ異ニシテ男ハ下段即奥室ノ土間ニ女ハ上段即前房ノ土間ニ葬ムル蓋シ上段ハ平生女ノ裁縫ヲ爲ス所ナルガ故ニ男ノ爲ニ之ヲ避ケタルナリ(ふつる番キナシヤコボ)
 - (三)墓ヲ作ル時 墓ハ其ノ住屋ニ始メテ死者ノ生シタルトキニ始テ之ヲ作ルモノアリ又最初家ヲ建築スルトキニ豫メ之ヲ作り置クコトアリふつる番クワルス社及チャコボシ群社ニ於テハ新ニ家ヲ建ツル場合ニ未タ屋根ヲ葺カサル内ニ之ヲ作ル是屋根ヲ葺キタル後ハ室内暗クシテ穴ヲ掘ルニ不便ナルニ因ルト云フ
 - (四)墓ノ數 墳墓ハ最初ハ屋内ニ唯一個所ナリト雖モ年代久シク最早舊墓ニ屍體ヲ埋ムルコト能

ハサルニ至リタルトキ又ハ一人ヲ埋葬シ其ノ後三四年内ニ次ノ死者ヲ生シ舊墓ヲ開クニ便ナラサルトキニハ更ニ第二ノ墳墓ヲ作ル又番社ニ依テハ嬰兒ノ爲ニ別ニ寢臺ノ下ニ之ヲ作リ或ハ鹹首セラレタル者ノ爲ニ家ノ入口ニ之ヲ作リ又巫タル女ノ爲奥深ク之ヲ作ルコトアリ爲ニ一屋内ニ數個ノ墓ヲ存スルコトモ少ナカラサルナリ

第二 墓ノ構造

(一)墓ノ款式 墓ハ其ノ形方形ニシテ其大サ三尺乃至四尺深サ五六尺乃至八九尺ナリ此ハ屍體ヲ踞踏セシメ堅ニ埋ムルモノナリ但シ上ニ蓋ヲ付セバ其形長方形ニシテ深サ僅ニ三四尺此レハ屍體ノ脚ヲ屈シ膝頭ヲ腹ニ着カシメタルモノヲ仰向ニシテ横ニ埋ムルニ因ルナリ

(二)墓ノ構造法 先ツ地ヲ掘リ底ニ石板ヲ敷キ其ノ四圍ニハ石板石ヲ積ミ上ケテ壁ト爲シ以テ崩壞ヲ防ク而シテ蓋ハ石板石ヲ以テシ多クハ之ヲ二重ニス 尙ホ北ばいわぬノ南部及こぼし番ニ



墓ノ構造

於テハ墳内底ヨリ約二三尺ノ高サノ所ニ横ニ石板石ヲ突出シ屍ノ踞踏スル所トス葬後年久ク肢體離解スルトキハ骨片自然ニ下底ニ落ツ第二ノ死者アルトキハ再ヒ蓋ヲ開キ之ヲ降シ右ノ石板石ニ坐セシム 此中段ノ腰掛ナキ所ハ底ニ厚サ約六七寸ノ石板石ヲ置テ腰掛トシ屍體ヲシテ之ニ踞セシム 上ニ掲クルハふつる番サンリヲウ舊社跡ニ於テ發掘シタル墓ニシテ安原氏が實見シテ畫キタル所ナリ而シテ此ノ上ニハ石板石ノ蓋ヲ爲シソレニ四

五寸ノ土ヲ盛リ又其上ニ敷石ヲ爲シアリタリト云フ

(三)開墳ニ關スル祈禱及禁忌 墓ヲ築造スルニ際シ祈禱ヲ行フモノアリ即墓ト爲スヘキ地ガ石ナクシテ掘リ易ク而シテ土堅クシテ他日崩壞スルコトナキ様ニ祈ルナリ是ハ別ニ巫ヲ招カス家人又ハ親族ニシテ之ヲ能クスル男ガ祭肉ノ少片ヲ以テ之ヲ行フ其式ハ既ニ祭祀ノ部ニ掲ケタル所ナリ 墓ヲ築造スル時ニモ亦禁忌アリ今こぼし番ニ行ハルルモノヲ舉クレハ現ニ懷妊シツツアル者ノ夫及生レテ未タスマヌブルンノ祭ヲ舉ケサル子ノ父ハ穴ヲ掘ルコトヲ得ス曾テ「イニヤパン」ノ祈禱ヲ受ケタル者ハ墓ヲ掘ルコトヲ得スト云フガ如シ

第三 墓ノ保護

墓ハ父祖ノ遺骸ノ安處スル所ナルガ故ニ其ノ子孫タル者ハ之ヲ保全シ假ニモ之ヲ損壞スル等ノ行爲ヲ爲スコトナシ若シ墳墓ガ崩壞シタルトキハ不吉ノ甚シキモノトシ其家ヲ他ニ移ス 若シ他ニ移住スルトキハ其家ノ址ハ大切ニ之ヲ守リ他人ノ侵害スルコトヲ許サス番社ニ依リテハ住屋ヲ他ニ移シタルトキニハ其ノ墓ノ上ニ石ヲ積ミ置キ以テ其墓アルヲ表識ス(上ノイワシ)假令其ノ家ガ斷絶シ之ヲ保護スル者ナキニ至リタル後ニ於テモ墓ト知リツツ其ノ地ヲ開掘スルモノナシ但シ單ニ其ノ墓地ノ上ニ家ヲ建ツルハ差支ナシト云フ 此こぼし番ばりじお番ニ於テハ毎五年祭ニハ各家ノ祖靈太祖ニ從ヒテ歸來シ生前住居シタル家ニ入ルト信スルガ故ニ既ニ朽壞シタル舊屋ノ址ハ草ヲ刈リ路ヲ作り且ツ其ノ墓ノ上ニハ小屋ヲ立ツルヲ例トス

(附記) 前年内文社駐在所ニ於テ外庭ヲ廣クセント欲シ前方ノ崖地ヲ掘開セシニ圖ラズ舊墓ニ掘當テタリ蓋古代ニハ其所ニ人家アリタルモ其家ハ斷絶シテ既ニ久シク從テ其墓ハ雜草

ニ隠レ土塊ノ下ニ没シ誰モ其所ニ墓アルヲ知ラサリシナリ之ヲ掘リタル番人等ハ色ヲ失シ直ニ土ヲ蔽ヒ其ノ儘ニシテ去レリト云フ 又先年北ばいわぬ番ボカリド社駐在所ヲ設置スルニ山ヲ崩シ地ヲ均シタルニ中ヨリ骨片及腐蝕セル黃銅製ノ腕輪多ク出テタリ其時既ニ年代久シク墓ノ形ハ全ク之ナカリシモ其ノ掘出シタル物ニ因リテ墓壙ナルコトヲ知リ番人ハ悉ク逃ケ去レリ此ニ於テ警官山口氏ハ自ラ其ノ骨ヲ拾ヒ出シ且番人ニ對シ「決シテ不吉ニ非サル」ヲ説諭シ漸ク其所ニ派出所ヲ立ツルコトヲ得タリト云フ 又大正三年ノ番匪事件ニ内文社民ハ討伐ヲ受ケテ全部他ヘ避難シタルガ後歸順ヲ許サレ歸來リシニ家ト云フ家ハ燒カレ碎カレタルヲ以テ皆復ヒ舊家址ニ家ヲ建テタリ然レトモ其ノ中ニテ墳墓ヲ發掘セラレタル者ノミハ其所ニ家ヲ作ルコトヲ禁忌シ新ニ地ヲトシテソレニ建テタリト云フ

第三目 凶死ノ種類及其處置

第一 總説

本族ニ於テ凶死ト目スヘキモノニ變死産死及痘死ノ三アリ

(一)變死 變死ノ重ナルモノハ敵番ニ殺害セラレタルコト及狩獵中ニ於ケル過失殺トス此外爭鬪ノ結果相殺シ或ハ過失ニテ水ニ溺レ高所ヨリ落チ又毒蛇ニ咬マレテ死シ或ハ世ヲ悲觀シテ自殺レ、自銃射シ又ハ自身ヲ水流若ハ斷崖ニ投メテ死スル者亦之アリ此等ハ本族ニ於テ之ヲ忌ミ普通ノ死者ト埋葬ノ方法ヲ異ニスルモノ多シリキリキ社以南ノ番社ニ於テハ次條ニ述フルガ如ク家外ニ變死シタル者ヲ家内ニ埋ムルコトナシ

(二)産死 本族ハ甚タ産死ヲ忌ミ全然普通ノ死者ト埋葬ノ方法ヲ異ニセリリキリキ社以北ノ番社

ニ於テハ産死者ハ次條ニ述フルガ如ク之ヲ住屋ノ内ニ埋ムルコトナシ

(三)痘死 本族ハ痘死モ亦之ヲ忌ミ家内ニ葬ルモ少シク其祈禱ノ法ヲ異ニセリ

第二 凶死者ノ埋葬

(一)變死者ノ場合 此ノ埋葬ハ大體ニ於テリキリキ社以南トチブツカダヌ社以北トニ依リ其取扱ヲ異ニス、即

(i)チブツカダヌ社以北ノ番社(即ち北ばい、らばる、ぶつるノ三番及北ばいはぬ番ノ北部)ニ於テハ

(1)通則 變死者ト雖モ之ヲ家内ニ葬ムルコトヲ得、但シ敵ニ讎首セラレタル者ハ多ク之ヲ家ノ入口ニ埋ム

(2)變例 或番社ニ於テハ或種ノ變死者ハ之ヲ家内ニ埋ムルコトナシ、即チ

(a)家外ニ於テ死亡シ既ニ腐敗シタル屍體 ハ之ヲ家ニ持歸ルコトナク其所ニ埋メテ上ニ石ヲ置ク時ニ草ヲ覆ヒ置クモノアリ(らばる番上バ、イ)或ハ其ノ儘ニ爲シ置キ他日其ノ骨ヲ拾ヒ歸テ之ヲ家ニ埋ムルモノアリ(北ばい、わぬ番、チヤ、カ、ブ、ス社ノ如シ)

(b)るかいはぬ番ブダイ社ニ於テ被讎首者ノ屍體ニハ手ヲ觸ルルコトヲ忌ム、從テ之ヲ家ニ持歸ルコトナク之ヲ其ノ儘ニ爲シ置クト云フ

凡テ敵ヨリ取返シタル首級 ハ其ノ胴體ト共ニ葬ムリテ差支ナシト雖モ一旦持去ラレ敵ノ「バリ」シヲ受ケタルトキハ之ヲ取戻スコトナシ是之ヲ社内ニ引取ルトキハ他日其社内ニ又讎首セラレルルモノヲ生スヘシトノ迷信アルニ因ル

(c)北ばい、わぬ番チヤカブス社ニ於テ(一)自殺ヲ忌ミ其ノ屍體ヲ郊外ノ斷崖上耕作ニ適セザル所ヲ選

フ蓋シ死者ヲ埋メタル所ハ永ク開墾スヘカラサルニ因ルニ埋メ其上ニ小サキ茅屋ヲ立テ置ク若シ家内ニ自殺者アリタルトキハ別ニ郊外ノ斷崖ニ小屋ヲ作り其ノ中ニ死シタル場所ノ土ヲ置ク溺死ノ場合ニ埋葬スルトキハ別ニ郊外ノ斷崖ニ小屋ヲ作り其ノ中ニ死シタル場所ノ土ヲ置ク溺死ノ場合ニハ其ノ溪中ノ石ヲ拾ヒ來リテ之ヲ置ク若シ溺死者ノ屍ヲ發見スルコト能ハサルトキハ溪中ノ小石ヲ以テ屍ニ擬シ之ヲ死者ノ衣類ニ包ミ家内ノ墓ニ埋ム

(北)北ばいわぬ番クナオ社ニ於テ同社民ニ殺サレタル者ノ屍體ハ故殺ト過去殺トヲ論セス被害者ノ屍ハ之ヲ郊外一定ノ場所(其地名ヲテアヲラフト云フ一ノ禁林ヲ爲ス)ニ埋メ他日加害者ガ死亡シタルトキハ之ヲ畑地ニ埋ム是兩者ヲ同社内ニ埋ムルトキハ其加害者ト被害者トノ靈ガ闘争スヘシトノ迷信アルニ因ル

(三)リキリキ社以南ノ番社即こぼじ、ばりじ、おノ兩番及北ばいわぬ番ノ南部ニ於テハ(一)家内ニ變死者アルトキハ其ノ屍體ヲ家内ニ埋メ而シテ其ノ家屋ヲ棄ツ(二)家外ニ變死者アルトキハ凡テ之ヲ其ノ死シタル所ニ埋ム其ノ穴ノ深サ四五尺此レハ四圍ヲ築カス單ニ其ノ埋メタル上ニ石板石ヲ置キ獸害ヲ防クノミ時ニ其ノ墓ノ上ニ小キ石柱ヲ立テテ之ヲ表識スルコトアリ之ヲシニツカドト云フ番社ニ依リテハ社ノ領域外ニ死亡シタル者ノ遺骸ハ之ヲ領域内マテ持チ歸リ一定ノ林中ニ埋ムル者モアリ

(二)産死ノ場合 産死ハ本族一般ニ之ヲ忌ミ或ハ郊外一定ノ所ニ埋メ或ハ屋内ニ埋ムルモ其ノ家ヲ棄ツ而シテ産死者ノ爲ニハ一般ニ喪ニ服セス只其夫タル者ガ數日間籠居ノ禮ヲ致スノミ産兒ハ多ク母ト共ニ埋ム

産死者ノ埋葬モ亦大體ニ於テリキリキ以南トチブツカダヌ以北ト其取扱ヲ異ニス故ニ左ニ之ヲ分説ス

(イ)チブツカダヌ社以北ノ番社ニ於テハ産死者ヲ郊外一定ノ場所ニ埋ム此所ハ林ヲ爲シテ一ノ禁林ト爲ル産死者ヲ埋ムル所ハ社ニ依リテ其ノ名稱ヲ異ニスるかい番ニテモアダウらばるぶつる兩番ニテアツグラウ(但シカヒヤカヌ社ニテハジビン)北ばいわぬ番チヤジャカブス社ニテラボラボツト云フガ如シ番人産死者ヲ恐ルルコトノ甚シキ單ニ其ノ産死者ヲ埋葬シタル所ヲ口ニスルモ尙ホ之ヲ忌ミ老人ニ非サレハ之ヲ言フコトナシチヤジャカブス社ニ於テ他社ノ人ガ或ル社民ノ産死シタルヲ知ラス何心ナク其ノ事ヲ聞クナラハ社民ハ唯知ラスト答フヘシ同社ニ於テハ産死ヲ以テ死トセス寧ロ逃走シ若クハ靈ニ引サラハレタルモノトセリ

(附記)安原氏ガチヤジャカブス社ニ於テ調査シタル所ニ依レハ産死者アリタルトキ之ヲ老年ノ近親ニ報スルハ差支ナシト雖モ遠親及年壯ノ近親ニ知ラスハ不可ナリトセリ而シテ家族ノ年長者ハ屍ニ饌(餅皮ノ小)ヲ投ケカケ汝産死シテ誠ニ哀ムヘシサレト是已ムコトヲ得サルナリ唯疾ク去レ再ヒ此所ニ來テ他ヲ累スルコトナカレト言ヒ後之ヲ殮シ數人棒ニテ扛キラボラボツ(産死者ヲ埋ムル所)ニ至リテ埋ム而シテ五日目ニ家人ノ一人畑ニ至リ饌ヲ具シ死者ノ名ヲ喚ヒテ之ニ與ヘテ曰ク汝ノ畑ハ別ニアリ爾後此ノ畑ニ來ルヘカラスト云ヒテ歸來スト

ぶつる番ノ多クノ社ニ於テ産死者アリタル時ハ其ノ夫ハ之ヲ埋メタル近所ニ小屋掛ヲ爲シテ謹慎シ五晝夜ヲ經テ始メテ家ニ歸來スト云フ

(五)リキリキ社以南ノ番社ニ於テ産死者ハ其現ニ氣ノ絶エタル所ニ埋ム故ニ住屋ノ内ニテ死亡

シタルトキハ其住屋内ニ埋メ一家族ハ其ノ住屋ヲ棄テテ他ニ引移ル此ノ場合ニ産婦ノ前面ニ在ル戸ヲ閉シテ側壁又ハ後壁ヲ破テ屋内ニ入り産婦ニ面セサル方ニ在ル家財及獲物ノミヲ取出ス。而シテ夫ハ其ノ家ノ側ニ在リテ四五日間「マリボ」(籠居スル事次頃配偶者ノ爲ニセル喪ノ内ニ記述ス)ヲ行フ故ニ難産ニシテ到底助命ノ見込ナキトキハ其ノ未タ死セサル内ニ之ヲ負ヒテ戶外ニ出シ郊外ニ假小屋ヲ作テ之ニ移シ其ノ夫之ヲ看護ス而シテ婦死スルトキハ其所ニ穴ヲ掘テ之ヲ埋メ夫ハ四五日間「マリボ」ヲ爲シ後歸來シ火ヲ跨キテ家ニ入ル

(三)痘死ノ場合 痘ヲ患テ死亡シタル者ハ普通ノ死者ト同様之ヲ住屋ノ内ニ埋ム唯之ニ對スル「バリシ」ノ法ヲ異ニス

(爾説)安原氏ガ北ばいわぬ番「チャジャカブス」及「カビヤガス」ノ兩社ニ於テ調査シタル所ニ依レハ痘死者ノ取扱ヒ方ハ下ノ如シ 痘ハ番人ノ最モ畏ル所ノ病ニシテ惡靈ノ所爲ナリト信セリ而シテ此ノ惡靈ハ本來番地ニナカリシモノナレトモ平地土人ト交通スルニ至リ平地ヨリ侵入シ來リタリトセリ若シ一部落中一人此ノ痘ニ罹ル者アラシカ其ノ部落ノ民ハ全部之ヲ避ケテ他ノ地ニ移リ或ハ朋友親戚ノ家ニ入り或ハ耕作小屋ニ住ス而シテ患者ノ家ニ若シ一度此ノ痘ニ罹リタル者アルトキハ之ヲシテ其ノ患者ヲ看護セシムルモ之ナキトキハ誰モソレヲ看護セス其ノ傍ニ水盥、薪衣食等不自由ナキ様ニ爲シ置クノミ避難シタル家族ハ五日目毎ニ自宅ニ戻リ來リテ其ノ容體ヲ問フ斯テ其ノ患者ガ死シタルトキハ「チャジャカブス」社ニ於テハ家人ハ歸來シ通常ノ死人ノ如クニ之ヲ内ニ埋葬シ儼ヲ具シ禳テ曰ク「汝ハ己ニ死シタリ此ノ儼ヲ食シタラハ速ニ此ノ部落ヲ去レ云々」五日目ニ至リ早朝巫來リ儼ヲ具シテ之ヲ祭ル家人之

ヲ前ニ避難セシ部落民ニ報スレハ其翌日一同歸來シ各家ニ於テ家族中ノ年長者死者ヲ祭テ曰ク「汝ハ惡靈ナレトモ此ノ食ヲ與フ又笠ヲ與フルガ故ニ速ニ之ヲ持シテ平地ニ降ルヘシ」トテ其ノ儼及笠ヲ持シ部落ノ平地ニ向ヘル入口ニ至リ之ヲ棄テ後ヲ見スシテ歸來ス畢テ前日巫ノ爲シタルト同一ノ「バリシ」ヲ行フ畢テ一同死者ノ家ニ聚リ酒ヲ酌ムコト通常ノ死亡ノ場合ニ同シ 痘死者ノ爲ニハ決シテ哭泣セス又六日間ハ通常ノ如ク喪ニ服スルモ其ノ以後ハ決シテ之ヲ服セス是痘神涙ヲ愛シ泣ク者ニハ好テ憑依スヘシトノ迷信アルニ因ル

第三 凶死者ニ對スル弔喪

凡ソ敵ニ讎首セラレタル者アルトキハ之ヲ聞キ付ケタル社民又ハ他社ニ在ル親戚故舊ハ直ニ來リ弔スルヲ禮トス此場合ニ男子ハ槍又ハ銃ヲ携ヘテ走來ルヘキモノトス 此ぼじ番及北ばいわぬ番ノ南部ニ於テハ此際喪家ノ前ニテ天ニ向テ發銃ス之ヲ「イラリブジャス」ト云フ 又此ぼじ番ニ於テハ敵ニ殺サレタル者アルトキハ其ノ近親ノ一人屍體ニ對シ刀ヲ以テ左右十文字ニ斬付クルノ狀ヲ爲シ「汝何故ニ殺サレタルカ何故敵ニ抗敵セサリシカ」ト叱責シサテ其後帶ヲ以テ臂ヲ縛シ其ノ兩端ヲ頭部ノ方ニ廻シ棒ヲ其ノ胸前ニ縛リ着ケ方布ヲ被セテ之ヲ扛キ歸ルト云フ 此ぼじ番ニ於テ行倒レ又ハ變死シタル者ヲ見付ケタル者ハ自己ノ頭布其他ノ所持品ヲ其ノ屍上ニ載セ置キ歸リテ之ヲ社民ニ報ス喪家數日ノ後ニハ必ス「バケラジ」(巫ガ死者ノ靈ヲ招降スルコト前ニ出ツ)ノ式ヲ行フヘク其ノ時ニハ酒肉ヲ其屍ノ發見者ニ贈テ謝ト爲スト云フ

凡ソ變死者アルトキハ其ノ同社ノ民ハ數日間他ト交通ヲ絶シ以テ謹慎スルヲ常トス而シテ「スモクヤ」(凶ヲ義)ノ祈禱ヲ行ヒタル後ニ始メテ外出スルコトヲ得

凶死者ノ爲ニハ其ノ配偶者及近親ハ喪服ヲ服セサルヲ常トス。是凶死者ノ爲ニ喪服ヲ着クルトキハ他日其ノ身モ亦凶死スヘシトノ迷信アルニ因ル

第三項 喪

第一 總說

(一)喪ノ意義 本族間ニハ既ニ述ヘタルガ如ク死亡者アリタル場合ニ其親族タル者ハ一定ノ期間一定ノ服裝ヲ爲シ一定ノ行爲ヲ慎ミ以テ哀悼ノ意ヲ表スル風習アリ。親族ニ非スト雖モ死者ト部落ヲ同クスル者ハ亦一日若ハ數日其業ヲ休ミテ哀悼ノ意ヲ表ス。茲ニ此等ノ行爲ヲ稱シテ喪ト爲ス

(二)本族ト他ノ番族及漢族ト喪服ノ比較 本族ハ本島ノ生番中ニテ最進歩シタル喪服ヲ有ス。其之ヲ着スル期間ハ親族關係ノ親疎尊卑ニ依テ差等アリ。頗ル支那法ノ喪服ニ類似ス

(三)喪ヲ表スル番語 喪服ハ番語ニテ「ブル」(ブワ)ト云ヒ之ヲ身ニ着クルヲ「ミブル」ト云ヒ又期至リテ之ヲ脱スルヲ「スムブル」ト云フ

第二 喪服ノ種類

喪服ニハ頭ニ施スモノ、背ニ施スモノ及胸又ハ腰ニ施スモノノ三種アリ。此外ニ尙杖及笠アリ。大體ニ於テ北ばいわぬ番ノチブツカダ社ヲ界トシ南北其款式ヲ異ニセリ故ニ左ニ之ヲ分説ス

(一)チブツカダ、以北ノ喪服 ニハ頭ニ施スモノ、肩ニ施スモノ、胸ニ施スモノ及笠ノ四種アリ。但シ上さりせぬ番ニハ肩ニ施スモノ及胸ニ施スモノヲ缺キるかいは番ニハ胸ニ施スモノヲ缺キぶつる番マヌル社ニハ肩ニ施スモノヲ缺ク(參照第一圖)

一其服喪ノ部北一ノ圖一第



二其服喪ノ部北二ノ圖一第



三其服喪ノ部北三ノ圖一第



(一)本族ト他ノ番族及漢族ト喪服ノ比較 本族ハ本島ノ生番中ニテ最進歩シタル喪服ヲ有ス其之ヲ着スル期間ハ親族關係ノ親疎尊卑ニ依テ差等アリ頗ル支那法ノ喪服ニ類似ス

(二)喪ヲ表スル番語 喪服ハ番語ニテ「ブル」(トモ)ト云ヒ之ヲ身ニ着クルヲ「ミブル」ト云ヒ又期至リテ之ヲ脱スルヲ「スムブル」ト云フ

第二 喪服ノ種類

喪服ニハ頭ニ施スモノ背ニ施スモノ及胸又ハ腰ニ施スモノノ三種アリ此外ニ尙杖及笠アリ大體ニ於テ北ばいわぬ番ノチブツカダ社ヲ界トシ南北其款式ヲ異ニセリ故ニ左ニ之ヲ分説ス

(一)チブツカダ以北ノ喪服 ニハ頭ニ施スモノ、肩ニ施スモノ、胸ニ施スモノ及笠ノ四種アリ但シ上さりせぬ番ニハ肩ニ施スモノ及胸ニ施スモノヲ缺キるかいは番ニハ胸ニ施スモノヲ缺キぶつる番マスル社ニハ肩ニ施スモノヲ缺ク(參照第一圖)

一其服喪ノ部北一ノ圖一第



二其服喪ノ部北二ノ圖一第



三其服喪ノ部北三ノ圖一第



二本族ト他ノ番族及漢族ト喪服ノ比較 本族ハ本島ノ生番中ニテ最進歩ニナル喪服ヲ有ス其之ヲ着スル期間ハ親族關係ノ親疎尊卑ニ依テ差等アリ頗ル支那法ノ喪服ニ類似ス

三喪ヲ表スル番語 喪服ハ番語ニ「ソル」(ソウ)ト云ヒ之ヲ身ニ着クルヲ「ミブル」ト云ヒ又期至リテ之ヲ脱スルヲ「ニムブル」ト云フ

第二 喪服ノ種類

喪服ニハ頭ニ施スモノ背ニ施スモノ及胸又ハ腰ニ施スモノノ三種アリ此外ニ尙杖及笠アリ大體ニ於テ北ばいわぬ番ノチブツカダ社ヲ界トシ南北其款式ヲ異ニセリ故ニ左ニ之ヲ分説ス

(一)チブツカダ以テ北ノ喪服 ニハ頭ニ施スモノノ肩ニ施スモノノ胸ニ施スモノ及笠ノ四種アリ但シ上ニ載セぬ番ニハ肩ニ施スモノ及胸ニ施スモノヲ缺キるかいは番ニハ胸ニ施スモノヲ缺キぶつる番マヌル社ニハ肩ニ施スモノヲ缺ク(參照第一圖)

(イ) 頭ニ施スモノ 男女其制ヲ異ニス

(1) 男子ノ用キルモノ ハ頭布(番語カ)ヲ頭ニ卷キ之ニ別ノ紐ヲ用ヒ頭後ニ結ヲ施ス之ヲルブチト云フ 頭布ハ長約六尺乃至八尺巾一尺四五寸ノ黒布ニシテ其兩端ニ美シキ刺繡



第一ノ圖



第二ノ圖

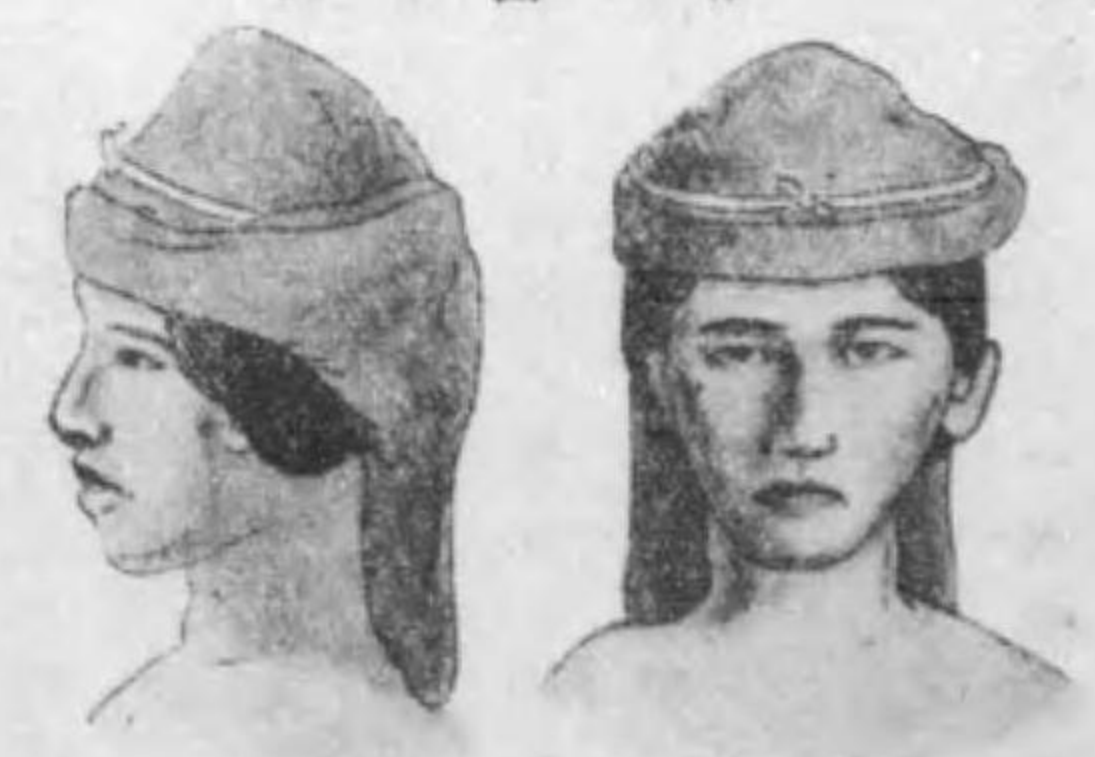
ルトキハ更ニ別ノ紐ニテ之ヲ頭後ニ結束ス其紐ハ多ク色毛糸ヲ以テ作り其末端ヲ垂ル

右ノ外らばる番ニ於テハ更ニウルヲ施スウルシハ巾一尺長二尺半位ノ黒綿布ニシテ上端ノ兩邊ニ紐ヲ附シ之ヲ後ヨリ頭布ノ上ニ掛ケ其末端ヲ背後ニ垂レ紐ヲ頭前ニ結フ(參照第三圖)

(2) 女子ノ用キルモノ ハ頭巾ニシテ番語ニルブチト云フ但シ上リせぬ番ニ於テハドムカチ又ハタルタコロント云フ 黒キ綿布(巾長約二尺一尺半)ヲ縦ニ二ニ折リ

ヲ施シ且色糸ノ總ヲ附ス(巾ニハ別ノ布ニ刺繡ヲ施シ之ヲケタルモノモアリ)(參照第二圖)但シ上リせぬ番ニ於テ用キル頭布ハ中心ヲ入レテクケ在リト云フ 凡テ頭卷ヲ施スニハ先ツ細紐(巾一尺長)髪ヲ押へ其上ニ頭卷ヲ卷ク之ヲ卷キタ

第三ノ圖



圖三第



其一端ヲ縫合セ頭巾ノ形ニ作リタルモノニシテ之ニ美シキ刺繡ヲ施ス(參照第三圖第)

(附記)ぶつる番クワルス社老番ハ古代ハ本社ニ於テモ男女共ニ頭ニ施ス喪布トシテ二尺平方ノ番布ヲ用キタリト云ヘリ果シ

テ然ラハ是必シモクソルス社ノミナラス古代ハ北部一般ニ通シテ今日南部ノ番社ニ於テ用キル所ノ頭被ヲ用キタリシナルヘク而シテ今日ノ頭卷及頭巾ハ恐ク土人ノ喪服ヲ真似タルナラント思ハル

(ろ)肩ニ施スモノ 男女一樣ニ肩掛ヲ用フ肩掛ハ番語ニテ「カロロヅ」又ハ「アジュジヅ」ト云フらばる番ニ於テ「バリムチル」ト云フ 二尺五寸乃至三尺ノ平方形或ハ長方形ノ黒布ニシテ赤キ刺繡ヲ施シ上端左右ニ紐ヲ附ス之ヲ肩ニ掛ケ背後ニ垂レ紐ノ兩端ヲ胸前ニ結フ(參照第一圖ノ三)

(は)胸ニ施スモノ 男女一樣ニ胸掛ヲ用フ 胸掛ハ番語ニテ「バヤル」ト云フ約二尺平方ノ黒布ニシ

テ上方ノ兩端ニ紐ヲ附ス此ハ一枚又ハ二枚ヲ用フ 一枚ノ場合ニハ一方ノ肩ヨリ他方ノ脇ニ掛ケ二枚ノ場合ニハ一ハ右ノ肩ヨリ左ノ脇ニ他ハ左ノ肩ヨリ右ノ脇ニ掛ケテ之ヲ胸前ニ交叉セシム但シ何レヲ前ニスルモ妨ナシ(參照第一圖ノ二)

(に)笠 ぶつる北ばいわぬ兩番ニ於テ「チャコロン」又ハ「チャウルン」ト云フ細竹ヲ徑八寸乃至一尺ノ圓形ニ編ミ(心ニハ月桃又ハ竹ノ皮ヲ挿入シ在リ)タルモノ此ハ配偶者又ハ父母ノ喪ニ服スル場合ニ被ムル(參照第四圖第)

(二)リキリキ社以南ノ喪服 ニハ頭ニ施スモノ、背ニ施スモノ、腰ニ施スモノ及笠ノ四

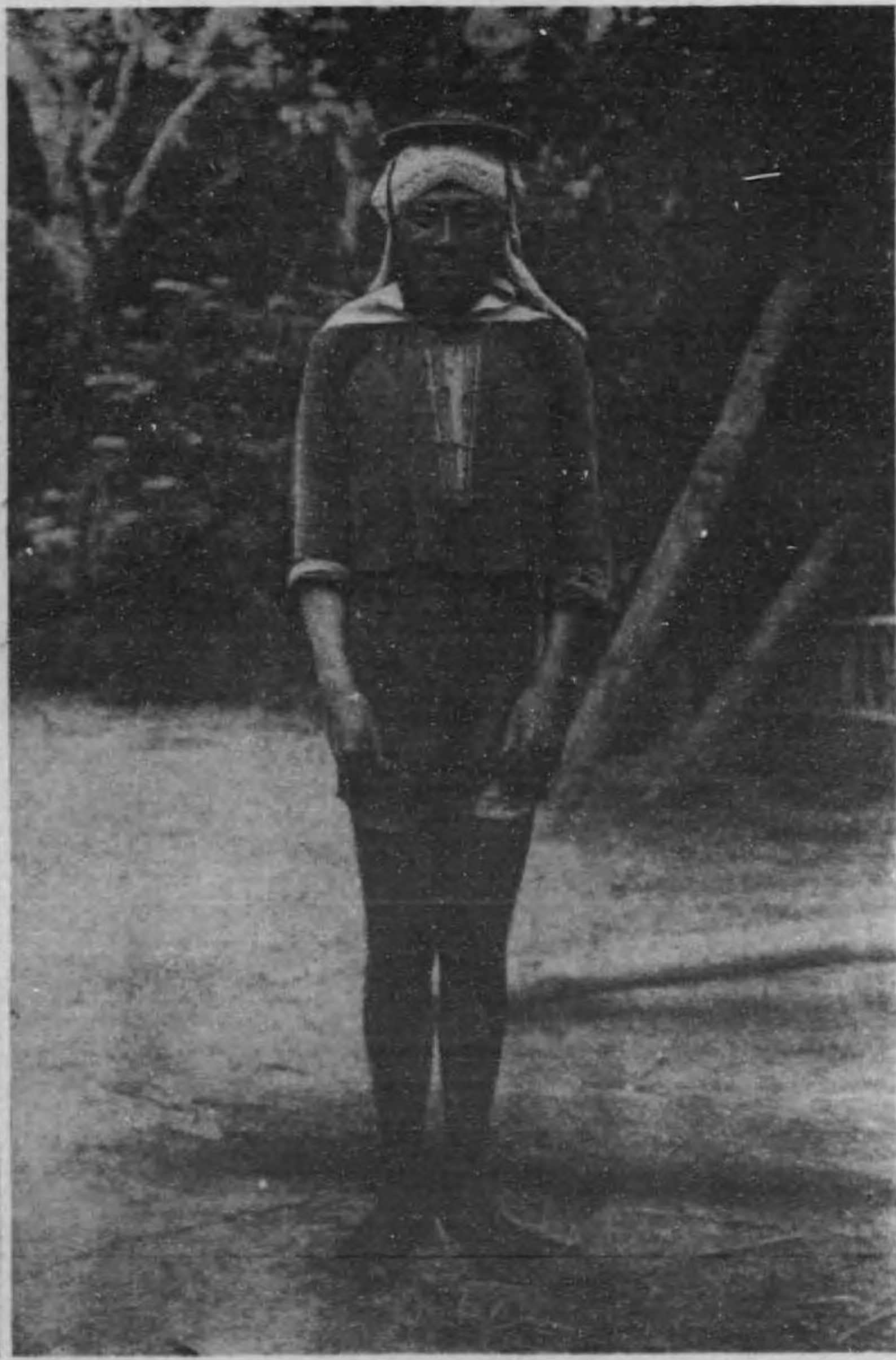
圖四第



二其服喪ノ部南二ノ圖五第



一其服喪ノ部南一ノ圖五第



テ然ラハ是必シモクワルス社ノミナラス古代ノ北番一船ニ通シテ今日ノ頭卷及頭巾ハ恐ク土人ノ喪服ヲ真似タル
 キル所ノ頭被ヲ用キタリシナルヘク而シテ今日ノ頭卷及頭巾ハ恐ク土人ノ喪服ヲ真似タル
 ナラント思ハル

(三)肩ニ施スモノ 男女一樣ニ肩掛ヲ用フ。肩掛ハ番語ニテ「カコロヅ」又ハ「アジジニヅ」ト云フ。らばる番
 ニ於テ「バリムチル」ト云フ。二尺五寸乃至三尺ノ平方形或ハ長方形ノ黒布ニシテ赤キ刺繡ヲ施シ
 上端左右ニ紐ヲ附ス。之ヲ肩ニ掛ケ背後ニ垂レ紐ノ兩端ヲ胸前ニ結フ(參照第一)

(ハ)胸ニ施スモノ 男女一樣ニ胸掛ヲ用フ。胸掛ハ番語ニテ「バヤル」ト云フ。約二尺平方ノ黒布ニシ
 テ上方ノ兩端ニ紐ヲ附ス。此ハ一枚又ハ二枚ヲ用フ。一枚ノ場合ニハ一方ノ肩ヨリ
 他方ノ脇ニ掛ケ二枚ノ場合ニハ一ハ右ノ肩ヨリ左ノ脇ニ、他ハ左ノ肩ヨリ右ノ脇ニ
 掛ケテ之ヲ胸前ニ交叉セシム。但シ何レヲ前ニスルモ妨ナシ(參照第一)

(ニ)笠 ぶつる北ばいわぬ兩番ニ於テ「チャコロン」又ハ「チャウル」ト云フ。細竹ヲ徑八寸乃
 至一尺ノ圓形ニ編ミ(心ニハ月桃又ハ竹ノ皮ヲ挿入シ在リ)タルモノ。此ハ配偶者又ハ父母ノ喪ニ服スル
 場合ニ被ムル(參照第一)

(二)リキリキ社以南ノ喪服 ニハ頭ニ施スモノ、背ニ施スモノ、腰ニ施スモノ及笠ノ四

二其服喪ノ部南二ノ圖五第



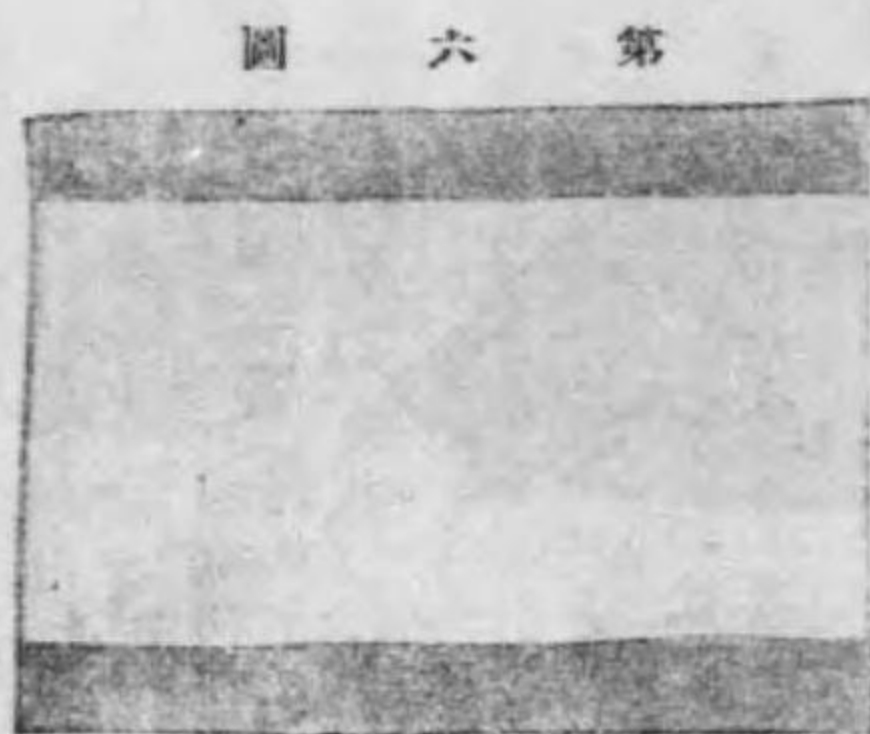
一其服喪ノ部南一ノ圖五第



ろ肩ニ施スモノ 男女一様ニ肩掛ヲ用フ肩掛ハ番語ニ「ケロロ」又ハ「ジグ」ト云フ。此ハ番
 ニ於テ「バリム」ト云フ。二尺五寸乃至三尺ノ平方形或ハ長方形ノ黒布ニシテ赤キ刺繍ヲ施シ
 上端左右ニ紐ヲ附ス之ヲ肩ニ掛ケ背後ニ垂レ紐ノ兩端ヲ胸前ニ結フ(參照第...)
 (ハ胸ニ施スモノ 男女一様ニ胸掛ヲ用フ 胸掛ハ番語ニ「バヤル」ト云フ約二尺平方ノ黒布ニシ
 テ上方ノ兩端ニ紐ヲ附ス此ハ一枚又ハ二枚ヲ用フ一枚ノ場合ニハ一方ノ肩ヨリ
 他方ノ脇ニ掛ケ二枚ノ場合ニハ一右ノ肩ヨリ左ノ脇ニ他ハ左ノ肩ヨリ右ノ脇ニ
 掛ケテ之ヲ胸前ニ交又セシム但シ何レヲ前ニスルモ妨ナシ(參照第...)
 (ニ窓 ぶつる北はいはぬ兩番ニ於テ「チコロシ」又ハ「チウル」ト云フ細竹ヲ徑八寸乃
 至一尺ノ圓形ニ編ミ(心ニハ月桃又ハ竹ノ皮ヲ挿入シ在リ)タルモノ此ハ配偶者又ハ父母ノ喪ニ服スル
 場合ニ被ムル(四圖參照第...)
 (二)リキリ社以南ノ喪服 ニハ頭ニ施スモノ、背ニ施スモノ、腰ニ施スモノ及窓ノ四

種アリ第五圖ニ示ス所ノ如シ

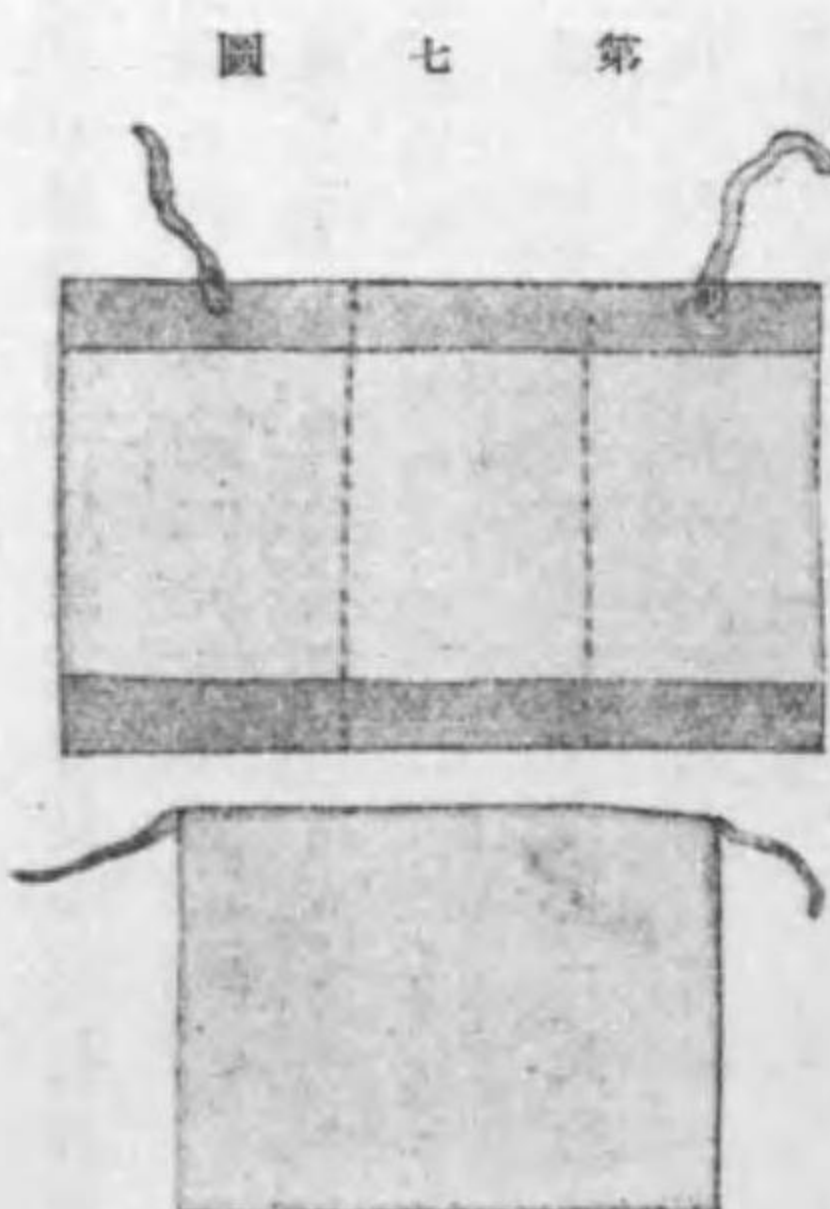
(イ)頭ニ施スモノ 男女一樣ニ頭被ヲ用フ其製サブデク群社以北ト其南方トニ依テ相異リ左ノ如シ



第六圖

(1)サブデク群社以北ノ番社ニ於テ用キルモノ ハ「ルブツ」ト云フ長約二尺巾一尺乃至一尺半ノ番布又ハ白綿布ニシテ上下兩縁ニ刺繡ヲ施ス之ヲ額ヨリ頭ニ掛テ被リ其末端ヲ肩ニ垂ル而シテ別ニ紐ヲ以テ頭ヨリ腮ニ掛ケ腮下ニ結フ(參照第(2)ぱりじやお番諸社サブデク群社ヲ除ク)ニ於テ用キルモノ「コリルン」ト云フ長約一尺半巾二尺餘ノ長方形ノ番布又ハ白綿布ニシテ其上縁ノ兩端ニ紐ヲ附ス此ハ其上縁ヲ額ニ附シテ頭ニ被リ前ヨリ右ノ紐ヲ廻ハシテ頭後ニ結束ス若ニ枚ノ頭被ヲ用キルトキハ一枚ハ前ノ如クシ他ノ一枚ハ其上縁ヲ鼻端ニ附シ前ノ頭被ノ上ニ加襲スト云フ 現時本番ニ於テ巾八九寸長一尺八寸餘ノ白布ノ

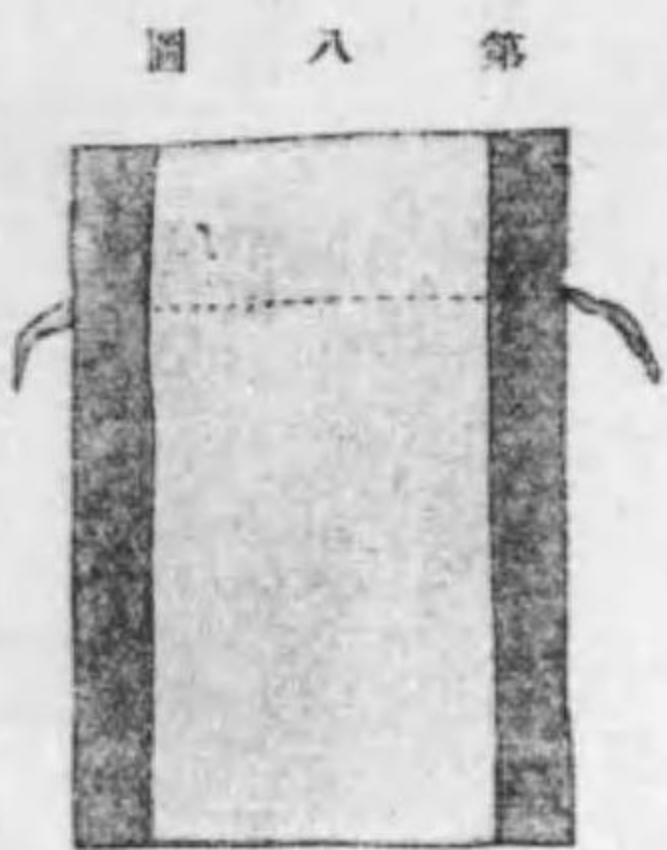
兩端ニ刺繡シタル番布ヲ用キ別ノ紐ニテ結束スルモノアリ
(ろ)肩ニ施スモノ 男女一樣ニ肩掛ヲ用フ其製大體北部ノモノニ同シサブデク群社以北ニ於テ「チャヅルムク」又ハ「チャヅコバジ」ト云ヒ其以南ニテハ「チャルウム」ト云フ方形又ハ長方形ノ番布又ハ白綿布ニシテ上縁ノ左右ニ紐ヲ附



第七圖

ス此ハ肩ヨリ背ニ垂レ紐ヲ胸前ニ結フ其大サこぼし番ニ於テハ男用幅一尺四五寸長一尺七八寸トシ女子ノ用キルモノハ之ヨリ少ク小シ(參照第五圖)ばりじお番ニ於テハ約二尺半平方(參照第七圖)

(ハ)腰ニ施スモノ サブデク群社ヲ界トシ南北其製ヲ異ニスルコト左ノ如シ



(1) サブデク群社以北ニテ用キルモノ ハ「バスカヤウ」ト云フ長約二尺半幅一尺八寸程(但女子用ハ稍小シ)ノ長方形ノ番布ニシテ其左右兩縁ニ刺繍ヲ施シ上方三分一ノ所ニ紐ヲ附シソコニテ之ヲ二ニ折り褲ノ上ニ着用ス我國ノ前垂ノ如シ(參照第八圖)此ハ婦女ノミニ用キラル

(2) ばりじお番 (サブデク群社除ク)ニテ用キルモノ

ハ「バヤバイ」ト云フ長方形ノ番布又ハ白綿布ニシテ之ヲ腰ニ纏フ狀ハ我國婦女ノ腰卷ニ異ラス此ハ上端左右ニ紐ヲ附

ス男女共ニ褲ヲ脱シ後之ヲ腰ニ纏ヒ紐ヲ廻シテ前ニ結フ

(12) 笠 ハ「クイデ」ト云フ但シばりじお番ニ於テハ「ジナイ」ト云フ其製大體北部ニ同シ(參照第九圖)

第三 服制

(一) 通説

(イ) 喪ニ服スル親族範圍 本族ノ喪服ハ親族關係ノ如何ニ依テ

其之ヲ服スル期間ニ長短アリ即配偶者ノ爲ニスルモノ最長ク父母兄弟姉妹(第二)祖父母伯叔父母

從兄弟姉妹(次第二)等世數ノ遠カルニ從ヒ次第ニ其ノ期間ヲ減少シ三從兄弟姉妹(次第四)ニ至テ盡クサ



レト番社ニ依リ又同一ノ社内ニテモ其人ニ依リ第五次ノ遠系親族ノ爲ニモ服シ又其反對ニ第三次ノ親ニ止ムルモノアリばりじお番ノ多數ノ社ニ於テハ現時僅ニ父母祖父母及長子ノ爲ニ服スルニ過キス

(ろ) 喪ニ服スル期間 服ノ期間ハ各番社ニ於テ大體定マレリト雖モ而モ人ニ依テ長短區々タルヲ免レス概シテ十二三歳以下ノ幼年者ハ全ク喪ニ服セス少年者ハ喪ニ服スト雖モ其期間ハ大人ニ比シテ頗ル短シ(是男女相違フニ不便ナルヲ以テ早く脱スルナリ)又出草若ハ出獵シテ獲物アリタルトキハ好福ナリトシ或ハ其反對ニ服喪者ガ疾ニカカリ又惡夢ヲ見タルトキハ縁喜惡シトシ其ニ其期未至ラサルニ早クモ其服ヲ脱スルコトアリ服ヲ脱スルヲ「スムブル」(喪服ヲ除クノ義)又ハ「イサル」(數ヲ取ルノ義吉ニ)ト云フ

(二) 各番社ニ於ケル服制 左ニ重ナル番社ニ於テ調査シタル所ノモノヲ掲ク

(イ) 上りせぬ番芒仔社 ニ於テハ喪服トシテ唯一ノ頭ニ施スモノアルノミ即男ハ鉢巻ニ結ヲ施シ女ハ頭巾ヲ被ル 本社ニ於テハ喪期一般ニ短ク配偶者ノ爲ニハ約三四月父母兄弟姉妹及ヒ子ノ爲ニハ約二月祖父母伯叔父母從兄弟姉妹甥姪ノ爲ニ約一月祖父母ノ兄弟姉妹父母ノ從兄弟姉妹自己ノ再從兄弟姉妹等ノ爲ニ約二日間其他ハ一日間トス

(ろ) かい番サボカス社 ニ於テハ喪服トシテ頭ニ施スモノ(男ハ鉢巻ニ結ヲ施シ女ハ頭巾以下做之)及ヒ背ニ施スモノアルノミ而シテ女ハ其夫及ヒ父母ノ爲ニ笠ヲ戴ク 其喪期配偶者及父母ノ爲ニハ約一年祖父母及兄弟姉妹ノ爲ニハ八九月乃至一年伯叔父母從兄弟姉妹ノ爲ニ約二月再三從兄弟姉妹父ノ從兄弟姉妹等ノ爲ニ約一月トス

(は) 同番ダデル社 ニ於テハ頭及背ニ施スモノアルノミ 其喪期頗短ク配偶者ノ爲ニハ約一月三

世親内ハ一月以内トシ其期定ラス出獵シテ獲物アルトキ或ハ歌踊ノ催シアルトキ直ニ之ヲ脱ス、
四世親ノ爲ニハ之ヲ施スモ葬畢レハ直ニ脱ス

(12)同番グダイ社 ニ於テモ頭及背ニ施スモノアルノミ 其喪期短ク配偶者ノ爲ニ約半年、父母、祖
父母、伯叔父母、兄弟姉妹及子ノ爲ニハ二月、父母ノ從兄弟姉妹及己ノ從再從兄弟姉妹ノ爲ニ約一
月トス

(13)らばる番上バイワヌ社 ニ於テ(一)配偶者ノ爲ニ六月乃至八月ノ喪ニ限ス、其間男ハ頭布ニ結ヲ
施女シハ頭巾ヲ被ル、男女共ニ胸掛二枚及ヒ背掛一枚ヲ着ク、尙男子ハ最初一月間頭ニ「ウルン」^(頭)
被ムル^(參照第三圖) (二)父母、祖父母、子、兄弟姉妹ノ爲ニハ四月乃至六月、伯叔父母、從兄弟姉妹、姪甥ノ爲ニ
ハ其期間之ヨリ少シク短シ、何レモ家ヲ異ニスルトキハ僅ニ一二月ニシテ止ム、此間頭及胸ニ喪ヲ
施シ、背布ヲ缺ク、尙父母、兄弟姉妹、子ノ爲ニ男子ハ最初二三日間頭ニ「ウルン」ヲ被ムル、葬後墓ノ上ニ
寢スル者亦同シ (三)再從兄弟姉妹、父母ノ從兄弟姉妹、祖父母ノ兄弟姉妹ノ爲ニハ單ニ頭ニ喪ヲ着
クルノミ、而シテ月更マレハ乃脱ス

(14)ぶつる番マヌル社 ニハ頭ト胸ニ施スモノアルノミ、背掛ヲ缺ク、喪期ハ甚短ク配偶者及ヒ親
子、兄弟ト雖モ僅ニ二月ニ過キス、然レトモ四世親ニ至ル迄同様ノ喪服ヲ着ク、笠ハ配偶者ノ喪ニ唯
五日間之ヲ冠ス

(15)同番カザギザヌ社 ニ於テハ喪期一般ニ長シ (一)配偶者ノ爲ニ約一年六七月ヲ經タル後先ツ
笠ヲ取リツレヨリ一月ヲ經テ背掛ヲ取リ又一月ヲ經テ一枚ノ胸掛ヲ取リ又一月ヲ經テ殘ノ胸掛
ヲ取リ又一月ヲ經テ最後ノ頭ニ施シタルモノヲ取リ全ク服ヲ脱ス(笠ハ配偶者ノミ) (二)父母、兄弟

姉妹ノ爲メニハ十月乃至一年五六月ノ後ヨリ毎月一枚ツツ取去ル (三)祖父母、伯叔父母、從兄弟姉
妹ノ爲ニハ約一月十日ヲ經ル毎ニ一枚ツツ取去ル (四)伯叔祖父母、從伯叔父母、再三從兄弟姉妹
ノ爲ニハ約十日間、但シ情誼厚キ者ハ一月間服スルコトアリ、何レモ背布及胸掛ヲ缺ク

(16)ぶつる番マカザヤヤヌ社 ニ於テハ喪期長シ、即(一)配偶者ノ爲ニハ約一年半、頭ニ施スモノ背掛
胸掛二枚及笠ヲ着シ一年ヲ經テ笠ヲ脱シコレヨリ毎月一枚ツツ取去ル (二)父母、兄弟姉妹、子
ノ爲ニハ笠ヲ缺ク、三月ノ後毎月一枚ツツ取去ル、故ニ七八月ノ喪ナリ (三)祖父母、伯叔父母、甥姪、從兄

弟姉妹ハ父母、兄弟姉妹ニ同シ、又再三從兄弟姉妹ノ爲ニハ一月ノ後取リ始ム、故ニ約五月、月ナリトス
(四)同番チムル社 ニ於テ(一)配偶者ノ爲ニ約一年先ツ五六日ニシテ笠ヲ取リ四月ニシテ胸掛一枚、
六月ニシテ他ノ一枚ヲ取リ八月ニシテ背掛ヲ取リ約一年ニシテ頭ニ施シタルモノヲ脱ス (二)父

母、祖父母ノ爲ニハ約六月先ツ五六日ニシテ笠ヲ取リ三月ニシテ一枚ノ胸掛ヲ取リ四月ニシテ他
ノ一枚ノ胸掛ヲ取リ五月ニシテ背掛ヲ取リ六月ニシテ頭ニ施シタルモノヲ脱ス (三)伯叔父母、從
伯叔父母、從再從兄弟姉妹ノ爲ニ一月乃至四月トシ五六日ヨリ始テ日ヲ隔テテ順次ニ胸掛背掛及

頭ニ施シタルモノヲ取ル (四)再從伯叔父母及三從兄弟姉妹ノ爲ニ頭布背布ヲ用ケルモ僅ニ五六
日ニシテ之ヲ脱ス

(17)同番下バイワヌ社 ニ於テハ喪期短シ (一)配偶者ノ爲ニ約二月先ツ五六日ニシテ笠ヲ取リ二
月ニシテ他ノ喪服全部ヲ脱ス (二)父母、祖父母、兄弟姉妹、伯叔父母、伯叔祖父母ノ爲ニ十日乃至半月
先ツ五六日ニシテ笠ヲ取リ他ハ期至リテ同時ニ之ヲ脱ス (三)從兄弟姉妹、再從伯叔父母ノ爲ニ或
ハ其喪ニ服シ或ハ服セス、若シ服スルトキニハ五六日間頭ニ施スノミ

(る)同番カビヤカス社 ニ於テ胸掛ハ唯一枚ヲ用フ (二)配偶者ノ爲ニ約六月、約三月ニシテ笠ヲ取
 リンレヨリ一月ヲ經ル毎ニ順次背掛胸掛及ヒ頭ニ施シタルモノヲ取ル (三)父母、祖父母、子、兄弟姉
 妹、伯叔父母ノ爲ニ一月半乃至二月トシ五六日ノ後笠ヲ去リンレヨリ十日ヲ經テ背掛ヲ去リ尙又
 一月ニシテ殘ノ喪服ヲ脱ス (三)從再從ノ兄弟姉妹及配偶者ノ父母ノ爲ニハ唯胸掛ノミヲ着ク、此
 ハ約十日ニシテ脱ス

(を)同番クソルス社 ニ於テハ喪期頗短シ、即配偶者ノ爲ニ約二月トシ父母、祖父母、兄弟姉妹ノ爲ニ
 約一月、其他親族ノ爲ニ約十日間トス

(カ)北ばいわぬ番チヤジャカブス社(漢稱)ニ於テ喪服ハ頭布(女ハ)背掛及胸掛二枚トシ尙女ハ夫ノ爲ニ笠
 ヲ戴ク (二)配偶者ノ爲ニ喪期三月乃至六月トシ稀ニ一年ニ及フモノモアリ先ツ一月乃至三四、月
 ノ後背掛ヲ取り爾後六七、日ヲ隔テテ順次ニ胸掛一枚ツツヲ取り最後ニ頭ニ施シタルモノヲ取ル
 (二)父母、子、兄弟姉妹、伯叔父母、配偶者ノ父母兄弟姉妹ノ爲ニスルモノ亦配偶者ノ爲ニスルモノニ同
 シ (三)從兄弟姉妹ノ爲ニ廿日間、再從兄弟姉妹ノ爲ニ十日間、三從兄弟姉妹ノ爲ニ約五六日トス

(カ)同番クナオ社 ニ於テ喪服ハチヤジャカブス社ニ同シ 喪期凡テノ親族ヲ通シテ百日乃至二
 百日ニシテ頭ニ施シタルモノ及背掛ヲ去リ更ニ數日ヲ經テ胸掛ト笠ヲ脱ス、親族ノ少年者及四世
 親以上ノ遠系者ハ約三十日ノ後喪家ニ集リ同時ニ喪ヲ脱ス、中ニハ父母ノ爲ニ四年ノ久シキニ互
 リ喪ニ服スルモノアリト云フ

(ヨ)同番ボカリヲ社 喪服ハチヤジャカブス社ニ同シ 喪期ハ配偶者、父母、子、兄弟姉妹ノ爲ニ、約一年、伯
 叔父母、祖父母、從再從兄弟姉妹ノ爲ニ約四五月、三從兄弟姉妹ノ爲ニ五日以上、四世親以上ハ服スル

ト服セサルトハ任意トス

(六)同番スボン群社 ノ喪服及其期間ハ大體ニ於テ次ニ述フルコトニ同シ
 (礼)こぼし番諸社 喪服ハ頭ニ施スモノ、背掛、腰卷及ヒ笠トス、而シテ背掛ハ之ヲ背ニ掛ケスシテ笠
 上ニ被リ其末端ヲ垂レテ面ヲ蔽フ、但シ現時唯頭被ノミヲ着ケテ他ヲ略スト云フ、而シテ其喪期
 頗短ク配偶者ノ爲ニスルモノ十日乃至二月、父母、祖父母及兄弟姉妹ノ爲ニスルモノ五日乃至一月、
 其他ノ親族ノ爲ニスルモノ約五六日、但シ人ニ依リテハ父母ノ爲ニ頭被ヲ脱シタル後尙一月笠ノ
 ミヲ附クルコトアリ、近親ノ爲ニ二三月、配偶者ノ爲ニ一二年ノ喪ニ服スルモノモアリト云フ
 (そ)ばりじ、お番諸社 ニ於テモ其期間頗短ク配偶者、父母、祖父母及長子ノ爲ニサブデク群社ハ約一
 月、他ノ番社ハ僅ニ四日乃至六日ニ過キス、其以外ノ親族ノ爲ニハ喪服ヲ着クルコトナシ

第四 喪 制

(一)居喪者ノ謹慎 一般ニ居喪者ハ謹慎シテ假ニモ悲哀ヲ忘ルルガ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得サル
 モノトス、特ニ配偶者ノ喪ニ居ル者ニ於テ然リトス、即 (一)一定ノ喪服ヲ着スヘキハ勿論假ニモ紅
 色ノ被服又ハ紅糸ヲ以テ刺繡シタル被服ヲ着シ或ハ身ニ裝飾品ヲ施スヘカラス (二)歌踊ヲ爲ス
 ヘカラス、衆人ノ中ニ立交リテ言笑戲謔ヲ爲スヘカラス (三)男女間ノ交際ヲ避クヘシ、其間ニナレ
 ナレシク物品ノ授受ヲ爲スヘカラス (四)死者ノ配偶者ハ其喪ニ居ル間再婚セサルヲ禮トス、他人
 モ亦現ニ喪ニ在ル男女ニ對シテ婚姻ヲ勸ムルコトナシ、婦女ノ貞操ナル者ハ期至リテ服ヲ脱スル
 モ悲哀ノ情尙止マス、身ニ質素ノ服ヲ着シ務メテ男子トノ交際ヲ避ク
 (二)喪家ノ禁忌 喪ニ居ル者ハ其間生麻ニ觸ルルコトヲ禁忌ス、撮影スルコトヲ禁忌ス、若シ之ヲ犯

セハ死スヘシト云フ 喪家ハ葬後數日間(短キハ四五日 長キハ一ヶ月)家内ニテ粟米ヲ搗クコトヲ得ス 煙草ノ吸
殻ヲ棄ツルトキニ煙管ヲ以テカンカン敲クコトヲ得ス(此ニツハ何モ其音ノ墓内ニ在ル)又豚ヲ屠ラス
豚肉ヲ食ハス 他人ト物ノ貸借ヲ爲サス 葬後數日間(三日 五日 十日 等)即定例ノ祈禱ヲ行フ迄喪家ノ
家族ハ社外ニ出テス 畑ニ赴カス 上ダリセぬ番芒仔社ニ於テハ喪家ハ五日間他ト交通ヲ絶ツト云
フ

(三)配偶者ノ籠居 夫妻ノ一方ガ死亡シタルトキハ他ノ一方ハ數日間其家ニ籠リテ外出セス以テ
謹慎スヘキモノトス 其方式番社ニ依テ同シカラス 左ニ若干ノ番社ニ就キ調査シタル所ヲ掲ク
(一)上ダリセぬ番芒仔社 ニ於テハ五日間家ニ在リテ出テス 其間唯哭泣ス 六日目ニ始テ外出シ畑
ニ行クコトヲ得 但シ思出シテハ泣ク

(二)るかい番サボカヌ社 ニ於テハ五日間「マリム」ヲ行フ「マリム」ハ「ぶつる番」ノ「キリボ」ナリ 六日ヨリ
外出スルコトヲ得 但シ此特別ニ祈禱ヲ行フコトナシ

(三)は同番ダデル社及らばる番上バイソヌ社 ニ於テハ死者ノ配偶者ハ五日間月桃蓆ヲ臺上ニ敷キ
之ニ踞シ首ヲ垂レツツ謹慎ス之ヲ「イトマ」(家ニ居ルノ儀)ト云フ

(四)ぶつる番マヌル社 ニ於テハ五日間外出セス 但シ「イリボ」ハ僅ニ一日間ノミ

(五)ぶつる番マカザザ下バイソヌ及カザギザヌノ諸社 ニ於テハ二日乃至四日間寢床ニ白布ヲ垂
レテ之ヲ蔽ヒ且ツ其窓ヲ閉シ配偶者其中ニ踞蹠ス之ヲ「キリボ」ト云フ 但シ夜ハ床ヲ下リテ土間ニ
眠ルコトヲ得 其翌巫來リ「バササオ」(外庭ニ出シ)ノ祈禱ヲ行ヒ始メテ外出スルコトヲ得 更ニ一二ヶ月
ヲ經テ「スムブジニアヌ」(喪ヲ脱スルノ義)ノ祈禱ヲ行ヒ然ル後畑ニ赴クコトヲ得

(六)ぶつる番クソルヌ社 ニ於テ配偶者ハ二日間土間ニ踞蹠ス之ヲ「ミガサジ」ト云フ 其間飲食セス
用便ニハ匍匐シテ行ク 三日目ニ祈禱ヲ行ヒテ始テ外出ス

(七)北ばいぬ番クナオ社 ニ於テ配偶者ハ三日間床上ニ在リテ外出セス 若シ外ニ出ツルトキ
ハ笠ヲ被ル 四日目「イサシブ」(靈ヲ捜スノ義)ノ式ヲ行フ時ニ外出ス

(八)こぼし番諸社 配偶者ハ凡ソ三晝夜默然寢床ニ踞蹠ス之ヲ「イリブン」ト云フ 但シ深夜ニ至レハ
横臥スルコトヲ得 其間朝夕ノ三回ニ少量ノ食ヲ取ルコトヲ得ルノミ 用便ニハ壁ニ沿ヒテ靜ニ
外出ス

(九)ばりじやお番サブデク群社 配偶者ハ二日間寢床ノ上ニ踞蹠シ月桃蓆ヲ以テ自圍ム之ヲ「エレボ
ク」ト云フ 三日目ノ朝「バササオ」ノ祈禱ヲ受ケテ外出スルコトヲ得 此際ニ居喪者ハ床ヲ降り先ツ二
三步進テ舊ノ位置ニ引返シ次ニ二三歩進テ唯一歩引返シ三回目ニ途ニ進テ家外ニ出ツ 更ニ五日
ノ後「スムブジニアヌ」ノ祈禱ヲ受ク 此式ハ誰ニテモヨシ一人居喪者ノ頭ニ戴ケル「ブル」(被頭)ヲ取去リ櫛
ヲ以テ其髪ヲ梳リ赤キ毛糸ヲ以テ髪ヲ束ネ卷クゾレヨリ花ヲ取テ之ニ挿セハ居喪者直ニ之ヲ取
去ル 再ヒ之ヲ挿セハ又之ヲ取去ル 三タヒ之ヲ挿セハ居喪者三タヒ取テ之ヲ棄去リ且ツ赤毛糸ヲ
除キ元ノ如ク「ブル」ヲ施ス

(一〇)ばりじやお番加芝來社 ニ於テ配偶者ハ奥室ノ一隅(右側)ニ於テ月桃蓆ヲ以テ圍ヒ其内ニ踞蹠
ス之ヲ「イゴル」ト云フ 用便ノ外家外ニ出テス 飲食ハ悉ク他人ノ與フルヲ待ツ 四五日ノ後巫來リ「ス
マリブ」(籠居ヲ撤スルノ義)ノ祈禱ヲ受ケテ外出スルコトヲ得 本社ハ喪期頗ル短ク籠居ヲ撤スルト同時ニ喪
服ヲ脱スルト云フ 牡丹 高士佛等ノ社モ大體ニ於テ本社ト同シト云フ

第五 社民間ノ喪

一社内ニ死者アリタルトキハ其社民ハ一日間業ヲ休テ哀悼ノ意ヲ表ス若シ頭人ガ死亡シタルトキハ四五日間休業ス但シ二日以後ハ薪ヲ取リニ出ツルハ差支ナシト云フ
社内ニ凶死者アリタル場合ニ於ケル社民ノ喪ハ既ニ凶死者ノ葬ニ於テ述ヘタルヲ以テ略ス

第二節 人格ノ表示

第一款 總説

本族ニ於テモ名ハ各人ノ人別ヲ表示スルニ必須ノモノトシテ之ヲ有セサル者ナシ
一社内ニハ同名ノ者少カラサルヲ以テ之ヲ區別スルガ爲ニ其ノ名ノ下ニ其家名ヲ附ス例ヘハロシヤズ家ノシャロト云フ人ナラハ之ヲシャロシヤズト云フガ如シ家名ハ我が國ノ氏ト少シク其性質ヲ異ニスト雖モ之ヲ名ニ附シテ呼フノ點ハ彼此相同シ唯我國ハ之ヲ名ノ上ニ冠スルモ本族ハ之ヲ名ノ下ニ踏ムヲ異リトス本報告ハ假ニ之ヲ氏ト稱ス

第二款 名

第一項 總説

第一 名ノ種類

(一)本名 本族ニ於テハ名ハ一人ニ一ナルニ限ラス即多クノ番社ニ於テハ父母双方ノ祖父母伯叔父母ノ名ヲ取テ兒ニ命スルガ故ニ一人ニシテ兩名ヲ有スル者少カラス此ノ場合ニ他人ハ之ニ對

シテ其ノ兩名ノ中何レヲ呼フモ差支ナシト雖モ其中ニテ呼易キモノハ自然ニ其ノ人ノ通名ト爲リ後ニハ唯之ノミヲ呼ハルルニ至ルヘシ例ヘハぶつる番マカザヤザ社大頭人バブルガヌ家ノ當主ハラウツ(母方ノ祖父ノ名)トクイ(父方ノ祖父ノ名)兩名ヲ有スレトモ族衆ハ概シテラウツノ方ヲ呼ヒ又同番カビヤカヌ社ジクロル家ノ代理頭人ハテポロアヌ(父方ノ祖父ノ名)アシアシ(此ニツハ共ニ母方ノ祖父ノ名)ノ三名ヲ有スルモ社民ハ多クテポロアヌト呼フガシ如

(附記) るかい番ブダイ社ニ於テハ父母タル者ガ豫メ生ルヘキ兒ニ命セントテ好キ名ヲ數個選ヒ置キタルニ生マレタル子ノ數ガ足ラサル時ハ既ニ命名シタル子ニ更ニ其ノ剩リタル名ヲ以テ命スルコトアリト云フ但シ此ノ例ハ他ノ番社ニハ聞キ當ラス

(二)異名 本族ニハ本名ノ外ニ綽號ト稱スヘキモノアリ茲ニ異名ト稱ス此ハ重ニ他人ヨリ其人ノ特徴又ハ行爲等ニ本ツキテ附シタルモノナリ 異名ニハ善キ意味ノモノ之ナキニ非サルモソハ極テ少數ニシテ多クハ惡キ意味ノモノナリ今其若干ノ例ヲ擧クレハぶつる番カビヤカヌ社ニ於テ曾テ酒癖惡シキ番丁ヲ「オリドロ」(亂暴ノ義)ト呼ヒ少年ニシテ老婦ト婚姻シタル者ヲ「アタライ」(父ガ子ノ乳ヲ飲ムノ義)ト呼ヒ又らばる番上「バイワヌ」社ニ於テ虚言スル人ヲ「ポロト」命シ竊盜シタル人ニ「イコロ」ト命シタルガ如キハ皆惡キ意味ノモノナリ何レノ番社ニ於テモ異名ハ甚タ多シサレト概シテ猥褻聞クニ堪ヘサルモノニシテ之ヲ質スモ多クハ笑テ答ヘサルナリ

第二 名ノ呼方

(一)常稱 本族ハ一般ノ人ニ對シテハ其ノ名ヲ呼フ別ニ敬稱ノ法ナク(長者及神靈ヲ除ク)呼捨ハ無禮ニ非ス
(二)敬稱

カジャシャス カミヤス(蕨) キビ(名鳥) キナドク コジシカイ(蝶) グムセル(草)
 サイビク サブル サジバラオ(配心) サイブ サジュン(人ノ物ヲ欲) サカイ サビド セケセク
(シメカシエクノ略籠ニ小兒ヲ入レテ搖ガスト云フ) セレセル ソジャジュイ ソコラヌ
 ジャバイ ジャラン(路) ジャケス ジュモイ ジュムク
 チャキル チャナパス(木ノ枝ヲ落) チョカル チョコ(チユク又ハ可) チボ
(コトモ茹菜)
 ナカジ
 プチカル バジャツ(ウナフヤツ即草ヲ刈ル事) バヤヨン バイス バプア
 モアカイ(糖ヨリ來ル) マヤオ
 ダガス ダジョン ツクル(ツクルハ古代ノ角ヲ縛スルコト或) ルジュブ ルジャカイ ロコジュ ロカユ
 ボゾム ボカ

(二)内文社ニ於ケル人名(名ノ下ニ施シタル註脚ハ語ノ意義)

男

アロク(ラロク即長シノ變) アラビアツ アゴド(マシヤグド即踊ノ變化) カラバイ(アラ)
 アリロン ウマジン イシジャム
 カジャバ カランバオ カジャユブ カビ カラバヤン カジュナカヌ(地) カサオ カジャラン(路)
 カブルン(越) カススン カビチユヌ カイボジ カラムジン キセル ギギ クリユー クジ
 ジ(小鳥) クジン グズグズ ギリギジャオ(ギラギラト光ルヲ云フ本族ノ祖先ガ始メ蛇ノ卵ヨリ生レタツケタリ) コジユス
(ルニ其卵ギラギラト能ク光リ居タル故之ヲ以テ其生兒ニ名ト云フ)

女

サウロ サカバイ シンギョル ソバリ スマシャン サビヤ サルグチ シムラガン サ
 ジュク ソコラム シツプス ズムズム ジャブジャブ ジャコワン ジャカイ ジャマル
 ツノク(山ノ崩レ) チュジュイ チクル(笹竹) チユカル(小鳥) チブン チューコン チボロアヌ
 ボラク ボーコン バコ バラツン バジャイ バジヨロク
 バジャジム ブリビジ バラツン プリマン ブグ ブジャジュヤヌ(スボン社以北ニ於テハプアルヤヌ)
 イジュク ウマイ(ウマイ種ノ變化)
 キビ(小鳥ノ名其色赤シ) カジャジュ(一番諸ノ) カイ(話) コマヌ(食) クジャン(水) クリバイ(縁) クルイ
(表服) クルクル(閉ツル戸) カバイ(餅) カイヌルン カロボ カオラン
 グムセル(服美) ゴワナ
 ソジャジュイ(ウヤウイ) サムナス サイビク サイブ(音水) シムラガヌ(マスアラン即歌ノ變化) サブラ(飾玉) ス
 リヤブ(電) ソネヤウ(猫) サイノ(所) スジパン(鷲) サクグ シギシン シスルマヌ(ミスルマン即暗シノ變)
 化
 ジバオ ジジュン ジュモク(字) ジミカス ジャジャバ(待) ジャラン(路) ジャマサ
 バイス ブジャジャ(豆) ブジクル
 バウルス(涙) バロジャゴダン(歌ノ盛ナルコトヲ云フ) バルドク ボゴボン(字)
 ツクル ラウス(山) リビリビ ラビ(菓)

(三)北はいわぬ番チャジャカブス社ニ於ケル人名(名ノ下ニ括弧ヲ附シタルハ其略稱)

アツドス (アウ) アランバキ (アウ) アルサガル (アウ) アラギジャン (アウ) アビチュア (アウ) アバン
 (アウ) アジグルド (アウ) アルビチン (アウ) アラバガン (アウ) アビ (アウ) アジャヨブ (アウ) アンビ (アウ)
 ウデデ (アウ) アウシツ (アウ) アラン (アウ) ウリウ (アウ) アリマラオ (アウ) アルダス (アウ) コソナ
 クイアロバン (アウ) アラバイ (アウ) チャアシアン (アウ) アリチン (アウ) ウニヤツ (アウ) ウリブ
 (アウ) グラゴル (アウ) グルツ (アウ) ギリギジャウ (アウ) ギシリ (アウ) ゴアシン (アウ) サライサイ (アウ) サダボン (アウ) スジャム (アウ) ソアラム (アウ) サラブジ (アウ) シャロ (アウ) シギシン
 (アウ) スマリ (アウ) サイノ (アウ) シムラガ (アウ) スチャイ (アウ) ジヤムル (アウ) ジャバイス (アウ) チョアル (アウ) チアナイ (アウ) テレグツ (アウ) テリン (アウ) サリバト (アウ) テプロア (アウ) チュビ (アウ) チグル (アウ)
 チュララ (アウ) チュルワジ (アウ) サマク (アウ) チヤバン (アウ) トルジ (アウ) チョオマイ (アウ) タリン (アウ) チヤイベン (アウ) チヤルチャル (アウ) テナ (アウ) チヤノバウ (アウ) チョラン (アウ) テレブカン (アウ) チャボアス (アウ) バジヤイ (アウ) バラジ (アウ) ボア (アウ) バウ (アウ) ボルガン (アウ) バソアル (アウ) ソドンドン (アウ) バタル (アウ) ブジャジュヤ (アウ) ハルツ (アウ) バブダブ
 (アウ) バガル (アウ) バウブ (アウ) バラアジャヤ (アウ) バリ (アウ) ボルルガ (アウ) バリラス (アウ) マリギリグ (アウ) マイチャル (アウ) ミリガン (アウ) モタル (アウ)

リグワイ (アウ) ラヤ (アウ) ルタルン (アウ) ラルユ (アウ) ラカラン (アウ) ラリゴロ (アウ) ラバ (アウ) リブン (アウ)
 イン (アウ) チョアウツ (アウ) ラウギヤ (アウ) ジグジグ (アウ) ララオヤ (アウ) ジュブ (アウ) アジ (アウ) アウルン (アウ) アルブツ (アウ) アジョアン (アウ) アルブ (アウ) アタド (アウ) イヌルン (アウ) ウリヤ
 (アウ) アジブジブ (アウ) イジュク (アウ) アドプス (アウ) ウルイ (アウ) ウラボン (アウ) ウマラ (アウ) アジャ
 ジュ (アウ) カイ (アウ) カオリ (アウ) カルスクス (アウ) サグ (アウ) スダスカ (アウ) シスルマン (アウ) スルブ (アウ) ソアダウ (アウ) サウニヤウ (アウ) サウジジュイ (アウ) サウ (アウ) サラ (アウ) シスルマン (アウ) スルブ (アウ) ソアダウ (アウ) サイビク (アウ) セルダオ (アウ) ズムズム (アウ) ジバラ (アウ) ジマジャロ (アウ) ジパン (アウ) ジムダ (アウ) ジブラン (アウ) ジルマン (アウ) ズムズム (アウ) ジバラ (アウ) ジマジャロ (アウ) ジパン (アウ) ジムダ (アウ) チュバ (アウ) チョオ (アウ) チダズ (アウ) チヌアイ (アウ) サブシ (アウ) チヤダリ (アウ) チヤリス (アウ) ツムダス (アウ) サムキン (アウ) シイキ (アウ) フテテ (アウ) バイス (アウ) パロ (アウ) プダジャ (アウ) ブヌン (アウ) バイタン (アウ) パウルス (アウ) フラ (アウ) バウ (アウ) プラブア (アウ) ホイカ (アウ) バアツブ (アウ) バラス (アウ) バリヤダン (アウ) ミラ (アウ) ムニウ (アウ) モアカイ (アウ) ムニ (アウ) リブクス (アウ) ルル (アウ) ラリビ (アウ) ラブ (アウ) ラリラブ (アウ) ルムダス (アウ) ラゴアウ (アウ) パウス (アウ) ルウル (アウ) ラオキ (アウ) ルマサン (アウ) ラオ (アウ) ラジュン (アウ)

四ぶつる番下バイワヌ プユマ バダイス三社ニ於ケル人名 (名ノ下ノ略)

アオピン アウサン アキ アシアシ アルサカル カリグルド イギライ オグサン
 クジジ (カ) カルン カラバス カリビ カルルシン クイ (孝ノ) コワル カロポ カルス
 クリユー クツル カラウス カリボ
 サリチブ (イ) シブライ (イ) シムルカイ (イ) シシリ (イ) シジャム スマリスン スラ
 (ラ) ススド (イ) フイ
 チムルサイ チマク (ア) チヤボオ チヤボラク タモトン (ト) チヤノバク (ホ) タキリイス
 タムカン (カ) チヤイカウ (イ) チボサン (ス) チカラン チチャウル チミチマ チプロア
 (ロ) チョビヤ トロジ
 マルガン (ガ) マオリ マラツマツ (マ) マスガスカ (ス) マルブルブ (ル)
 ラモライ ラマヤウ (マ) ランワク ララオ (ラ) ララクラン (ル) リガイ ラカル (安樂ニ生
 ラパカブ ランコイ ラマハ ラビ ランバウ (ホ) ルグワン ラマラン ラムジ レリ
 オル ロキン
 ギリギラウ (キ) ゴラゴル カゴマ
 パラポ (ホ) パリチャク ビーコン (イ) ボゴボン バヂク
 バリ (イ) バンキル (ル) バリラス (ス) バリブリブ (ビ) ブキリカス (キ) ブラルヤス (ル) ボイ
 ビイグ (イ) (イ)

カイ カラロ (カ) コジュ (ウ) クルクル (ク) カルスバル カムルサイ (ム) カニュー カ
 スイヌー カボ カバチ カルスクス (ク) カラス クムニース (ニ) スリヤブ スルブ (ル)
 サウニヤウ (ニ) ステバウ サバデス (ス) サルブスブ (ブ) スリヤブ スルブ (ル)
 タサメル (ア) サイル
 ツムツム (ウ) ザンキム (キ) チヤバチス チヤバライ チュク (ク)
 モアカイ マルラカイ ムルサン
 ラマワン (マ) ロアナ (ア) ラルイ (ル) ライライ (イ) ラママウ (マ) ラバウス (バ) (美ノ名)
 ラビ ラウヨ ルジュム (ル) ルカリン (カ) ルブタイ (ブ) レライ
 ガライガイ (ガ) ギガイ (ギ) ズムルマス (ズ) ジルバウ ジャウジャウ ジャママウ (マ) ジカス ジロ
 アン (ア) ジブラン (ブ) (ア)
 ブダラン (ブ) プルルマンブスン (ン) パバウニ (バ) ブヂスバウルス (ス) プルルス プルサン (ン) (ア)

第二項 命名

第一 命名ノ方法

兒生レテ數日臍帶ノ脱落シタルトキ父母又ハ其ノ双方ノ祖父母ハ別々ニ或ハ協議シテ其ノ名ヲ
 命ス 命名ニ關シテハ別段ノ方式ナシ但シ上ダリセぬ番墩仔社ニ於テハ兒生レテ十日目ニ餅ヲ
 作リ豚ヲ屠リ之ヲ籠ニ入レテ家ノ大黒柱ニ吊リ以テ靈ニ供シ「兒ニ某ト云フ名ヲ命スヘキ旨」ヲ述
 へ其ノ肉ト餅ヲ取テ子ノ頭ニ載セテ兒ノ將來ヲ祝福スト云フ

第二 名ノ選擇

(一)名ノ選方 ニハ二種アリ一ハ古代ヨリ傳ハレルモノヲ取ルモノニシテ本族ノ多クハ之ニ依ル
 二ハ新ニ之ヲ作出スルモノニシテ其ノ例少シ

(二)傳來ノ名ヲ取ルモノ 之ニ(一)祖父母(長男長女ニ命名スル場合)伯叔父母等其家ニ傳ハレル名ヲ取ル
 モノト單ニ本族間ニ行ハルルモノヲ取ルトノ二法アリ其ノ内前者ヲ多シトス
 本族間ニ從來如何ナル名ガ行ハレシヤニ付テハ既ニ前條ニ記述シタリ

(三)新ニ作り出スモノ 此レハ出生當時ノ出來事ニ因ミテ命スルモノニシテ甚稀ニ行ハルル所ナ
 リ 今其若干ノ例ヲ示セハ日本人始テ來リタル時ニ生レタルガ故ニジツボス(本)ト命シ 高士佛
 社ニ於テ或女ハ恰モ明治七年我征臺軍ノ至リシ時生マレタルヲ以テ其ノ父母之ヲ山中ニ匿シタ
 リ因テ之ニシナレジ(スマレツ即チ匿ス)ト命シ 又同社ニ於テ或男ハ其ノ生ルル時ニ其ノ
 母家内ヲグルグルト這ヒ廻リタルヲ以テバリングジ(イハリケツ即チグル)ト命シ 近時こぼじ番
 ニ於テ路上ニ生レタル者ニカジャラン(路ト命シ)山中ニテ生レタル者ニガド(山ト命シ)出生ノ時兒ノ
 頭髮ガイタク亂レ在タリトテカウボアヌ(紛亂シタル)ト命シタル者アリ 又同番ニ於テ内文社駐
 在警部大場善太郎氏ノ氏ヲ取テオーバサント命シタル者バブリイジ社、ボンブラン社ニ各一人ア
 リ 近代他ノ番社ニモ駐在警察官ノ氏ヲ取テ其兒ニ命名スル者アリト云フ

(二)禁止セラルル名 (一名ハ父母又ハ兄弟ト同一ノ名ヲ附スルコトヲ得ス (二)平民家ハ頭人系統
 ノ家ニ傳ハレル人名ヲ其子ニ命スルコトヲ得ス但シ此制限ハ現時リキリキ社以南ノ番社ニハ行
 ハレス

第三 改名

本族ニモ稀ニ名ヲ改ムルコト行ハルソハ多病ノ者ガ巫ニ頼ミ之ヲ靈ニ質シタルニ其ノ名ノ惡シ
 キニ因ルト爲セシトキニ在リ 此外ニ本族ニ於テ名ヲ改メタル例ヲ聞カス

第三款 氏

第一項 總說

第一 氏ノ性質

本族ニハ男系又ハ女系ノ血統ヲ表スヘキ姓ヲ有セス 然レトモ家ヲ表スヘキ記號即チ家名アリ 假
 ニ之ヲ氏ト稱ス

本族ノ氏ハ之ヲ我國ノ氏ニ比較スルニ其性質ノ大ニ似タル所アリ 卽之ヲ以テ外ニ對シテ其ノ一
 家ヲ表スルコト及人名ト合シテ其ノ人ノ人別ヲ表スルコトノ兩點ニ於テ相同シ 然レトモ本族
 ノ氏ハ實體的ノ住屋ヲ表示スルモノニシテ未タ我が國ノ如ク抽象的家族團體ヲ表示スルニ至ラ
 ス 故ニ同一ノ家族モ其ノ住屋ノ異ルニ依テ其氏ヲ異ニス例ヘハ甲乙兩屋ヲ所有スル者甲屋ニ住
 スル間ハ甲屋ノ名ヲ稱シ乙屋ニ住スルニ至レハ乙屋ノ名ヲ稱スルガ如シ 又一家ヲ創立シタル者
 ガ新ニ一住屋ヲ建設シタルトキハ其家ニ附シタル名ヲ稱スルモ若シ他人ノ家ヲ留守スルトキハ
 其ノ留守スル間ハ其ノ他人ノ屋名ヲ稱スヘク又他ニ居所ヲ移ス者ハ多クハ其ノ新屋ニ新ナル名
 ヲ命シ之ヲ以テ其ノ氏トスルガ如シ 右ノ如ク本族ノ家名ハ未タ以テ全然我が國ノ氏ト同視ス
 ヘキニ非スト雖モ其ノ性質大ニ類似スル所アリ 是本報告ニ於テ假ニ之ヲ氏ト稱シタル所以ナリ

トス

第二 現時本族二行ハルル氏

現時本族ニ存在スル氏ハ甚多ク之ヲ列舉スルノ煩ニ堪ヘス故ニ茲ニハぱりじやお番高士佛社、こぼ
じ番内文社、北ばいわぬ番、チャジャカブス社及ヒぶつる番下、バイワヌ社ニテ調査シタル所ノモノヲ掲
クルニ止ム

(一) ぱりじやお番高士佛、八瑤兩社ニ於ケル氏

- カダオ | カコサ | カジャジャバヌ | カラプト | カルコブ | カリンガツ | カリシン | カロブ | カ
- リトアイ | キソルル | クナヤ | ケテッブ | コンブジ
- ソラジュ
- チブチブ | タブラク | チャジャカル | チャビバイ | チャマジャ | チャチャジ | チャジャロ | チャバヤル | チャ
- バジツ | チャルジバク | タリゴ | テボ | トカジ
- バルバル | バビョーカヌ | プンカヌ | プチウス | プリアダ
- バスリバイ | バラル | バトカトン | バジュバカ | バサパン | バリダ | バルタオ | バクブツ | バ
- タダジ | バリブジ | バサブタ | バチジャブ | バジジ | ババブチジュ | ビンバツ | プサベジ
- マラルカツ | マジャカス
- ラバン | ロラバン | ララオカヌ | ララホアヌ | リブンダジ | リムリム | リカブ | ルジガジ
- ダ | ジャカジャク | ジャジャダロ | ジャルト | ジラク | ジマチャカ

(附記) 右ニ掲ケタル氏ノ中ニテ高士佛社老番バリダジカリシンガ其之ヲ命シタル由來ニ

付キ説明シタル所左ノ如シ

- (1) ジャジャル 「ジャル」ニ「滑ル」ヲ義アリ其家が創立セラレタル時偶々雨降リ路濕ヒ滑ヘリタ
ル者アルニ因ル
- (2) プサベジ 「サベジ」ハ年ナリ家祖某ハ既ニ家ヲ建テタル後妻ヲ迎フル迄ニ一ケ年ヲ要シ
タルニ因ル(通常家ヲ建ツルハ既ニ妻ヲ娶リタル後ニ於テス)
- (3) リムリム 「リムリム」ニ「寂シ」ノ義アリ古代此家が創立セラレタルトキ其夫妻ガ非常ニ寂
寥ヲ感シタルニ因ル
- (4) マジャカス 「マジャカス」ハ木ノ名其木皮薄ク瘦セタリ此ノ家ノ祖先ガ妻ヲ娶リタルトキニ
瘦セタル豚ヲ屠リテ人ヲ饗シタリシ故ニ人ヨリカカル悪名ヲ附セラレタリ
- (5) チャバヤル 「チャバジャイ」即チ「頭髮ヲツカミ引ズル」ノ語ヨリ轉訛ス此家ノ祖先ハ頑惡ノ妻ヲ
有シ屢之ニ對シ「チャバジャイ」ヲ行ヒタルニ因ル
- (6) リカブ 之ニ嫉妬ノ義アリ此家ノ祖先ハ妻ニ對シテ妬心深カリシニ因ル
- (7) トカジ 「トンカジ」ニ「咬着ク」ノ義アリ此家ノ祖先曾テ人ト相罵リ其人ニ咬着キタルニ因
ル
- (8) リブンダジ 「寡言」ヲ意味ス此家ノ祖先寡言ニシテ人ニ對シテ物ヲ言ヒカケタルコトナ
ク又人ヨリ何カ問ハレタル場合モハキハキ答ヘタルコトナカリキ故ニ其家ヲ建テタル時
ニ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ
- (9) ロラバヌ 此家ノ祖先ハジャジャル家ヨリ出ツ始メ妻ヲ娶リタルトキニ其妻ハ夫ヲ嫌ヒテ

逃走シタル故ニ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ

(10) ジマチャク 「マチャク」ハなま(生)ヲ意味ス。此家ノ祖先適マ來客ノアリタルトキニ米及菜ヲなまノ儘ニテ出シタルコトアリシ故ニ斯ク名ツケラレタリ

(11) カリシン 「カリシン」トハ「トンプラ」返リスルコトヲ云フ。此ノ家ノ祖先ハ之ニ巧ニシテ其酒ニ酔フヤ好テ此戲ヲ爲シタル故ニ其家ヲ建ツルニ至リ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ

(12) ジャコサヌ 「ジマクツ」即攫ムノ語ヨリ來ル。此家ノ祖嘗テ飯ヲ食フニ匙ヲ用ヒス。手ツカミニシテ食シタルコトアルニ因リ其家ヲ建ツルニ至リテハ斯ク名ツケラレタリ

(13) カロプ 「マカルプ」ニ「相争」ノ意味アリ。此家ノ祖先ハ酒ニ酔ヘハ常ニ他ト争論シタリシ故ニ斯ク名ツケラレタリ

(14) バビコーカス 「ビナピュン」即チ棄ツルノ語ヨリ來ル。此家ノ祖ハ老妻ヲ棄テ若キ婦人ト婚シテ新ニ家ヲ立テタリシ故ニ斯ク名ツケラレタリ

(15) カダオ 此家ノ祖先婚姻ヲ爲セシ時適マ海岸ニ至リ美シキ「カラオ」ト稱スル貝ヲ拾ヒ來リシ故ニ其家ヲ建テシ時斯ク名ツケタリ

(16) プチウフ 之ニ「引キタクル」ノ意味アリ。曾テ人ヨリ與ヘラレタル物ヲ引キタクリタル故ニ斯ク人ヨリ惡名ヲ附セラレタリ

(17) バサバ 「スコサプ」ハ「茅ヲ伐ル」ノ義ナリ。此家ノ祖先ハ茅ヲ刈ルニ巧ナリシニ因ル

(18) カクサ 一家内ニ於テ諸物ガ混雜シテ整頓セサルヲ「スカクサ」ト云フ。此家ノ祖先タル夫妻ハ何レモじだらくものナリシ故ニ斯ク名ツケラレタリ

(2) こぼし番内文社ニ於ケル氏

(19) ジャブリアブ 「ブリア」ツ「ニ」ハ土又ハ水ヲ撒布スルノ義アリ。此家ノ祖先ハ子供多クシテ其家ハ常ニ混雜シテ恰モ土ヤ水ヲ撒キ散ラシタル如ク汚レ居リシヲ以テ斯ク他ヨリ名ツケラレタリ

アドド アラヤ イズボジ

カザギジャス カロワス カルプ カスリジ カコツカヌ キジャジャバ コゾンザオ コデヤ

バス ガルジグジ サリカオジ スジャユブ

チャバジャイ タコベリ タリグ チャマジャ チャチジャイ チュールン ツジツジ トベク トコ

ンバジヨリス バリデ

ジバジブ ジヤロアス ジヤジュオワス マバサユ

(附記) 右ニ掲クル氏ニツキ内文社大頭人「チュールン」家ノ老母「チュク」ノ語リタル所左ノ如シ
(1) アドド 「ドモド」即「突込ム」ノ語ノ原體ハ「ドド」ナリ。此家ノ祖先ハ體力至テ弱ク曾テ他人ト争ヒタルトキ其人ノ爲ニ拗伏セラレテ其顔ヲ泥ノ中ニ突込ミタルコトアリシ故ニ其家ヲ建ツルニ至リ斯ク他ヨリ命セラレタリ

(2) アラヤ 「マイバラ」即「アチコチト遊廻ル」ノ語ヨリ來ル。此家ノ祖先平素自分ノ家ニテ食ハス他人ノ家ヲ食廻ハリシ故ニ斯ク名ツケラレタリ

(3) カルプ 「マカルプ」ハ糸ノ紛ルル狀ヲ云ヒ人ノ争論スルヲモ亦「カルプ」ト云フ。此家ノ祖曾テ兄弟ト妻ヲ争ヒタルコトアリシニ因リ家ヲ建テタルトキ斯ク命セラレタリ

- (4) カコトワカ。「コワシ」ハ銃ナリ。此家ノ祖其力頗ル強ク開墾ニ際シ草木ノ根ヲ取除クコト
 恰モ銃ヲ用ヒテ人ヲ殺スガ如クナリシ故ニ其家ヲ立ツルニ至リテ斯ク名ツケラレタリ
- (5) イズボジ。「ツンブジ」ニ押付クノ義アリ。此家ノ祖先ニ對シ其兄タル人ハ強ヒテ容貌ノ醜
 ナル女ヲ娶ラシメタルニ因リ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ
- (6) キジャジャバ。「カジャバ」即チ「待ツ」ノ語ヨリ來ル。此家ノ祖先ハ晩年ニ至リ漸ク妻ヲ得タルヲ
 以テ人其待遠カリシヲ想像シテ斯ク名ツケタリ
- (7) コデヤバス。「目洋ノカタマルコト」ヲ云フ。此家ノ祖先ハ朝起キルトキハ常ニ目洋ヲ溜メ
 居タリシヲ以テ其獨立スルニ至リ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ
- (8) コジンザオ。「コジムザウン」即チ頭ガクラクラトシテ眩暈スルヲ云フ。此家ノ祖先常ニ此
 ノ如キ癖アリシ故ニ斯ク名ツケラレタリ
- (9) ガルジグジ。此家ノ祖先始メテ家ヲ建テタルトキ石ヲ以テ立派ニ作リ上ケ其内ニ入ル
 トキハ「ガルジゴジ」ガルジゴシ(音スル事)ト響キシニ因リ他ヨリ斯ク美クシキ名ヲ命セラ
 レタリ
- (10) ワーロジ。「トロジ」即チ串ニテ肉片ヲ刺スヨリ來ル。此家ノ祖先婚姻シタルトキニ多ク之ヲ
 作リテ親族及朋友ニ分チタリシガ故ニ斯ク名ツケラレタリ
- (11) ジャジャスブル。此家ハリキリキ社ヨリ來ル。此家ノ祖タル夫妻ハ嘗テ山ニ往キ「ジスブル」ト
 稱スル藤ヲ取リツツアリタルトキ相語リテ他日我等新ニ家ヲ建ツルコトアラハ當ニ之ヲ
 以テ名ツクヘシト言ヒシガ後家ヲ建テタルトキニ終ニ之ヲ以テ其氏トセリ

- (12) ジャルワス。粟ノ名ナリ
- (13) スジャユブ。番俗腹ノ瘠セテ薄キヲ「スジャユブ」ト云フ。此家ノ祖曾テ獵ニ出テ風ノ爲ニ倒レ
 テ死シタリ。其妻子家ヲ立ツルニ至リ斯ク他ヨリ名ツケラレタリ
- (14) タコベリ。開社以來ノ舊キ氏ナリ。此家ノ祖ハ所謂(種族)ニシテ、犬、蛇又ハ人ノ肉何ニ
 テモ之ヲ食ヒタリシ故ニ他人ヨリ之ヲ目シテ「イニヤビネレク」(種ハス)ト言ハレ之ヨリ轉シ
 テ「タコベリ」ヲ以テ家名トスルニ至レリ
- (15) チャマジャ。之ニ「惜ム」ノ義アリ。此家ノ祖一旦離縁シタル妻ヲ思切ルコト能ハス再ヒ之ト相
 戻リシタルヲ以テ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ
- (16) チャチジャオ。之ニ「跳上ル」ノ義アリ。此家ノ祖始メテ妻ヲ娶リタルトキ歡喜極テ跳躍セシ故
 ニ他ヨリ名ツケラレタリ
- (17) チュールン。本社ノ大頭人家ナリ「チムルン」ニ聚集ノ義アリ。家祖始メテ家ヲ立テタルトキ
 ニ多クノ部下ヨリ澤山ノ品物集來セシヲ以テ斯ク名ツケタリ
- (18) トベク。「ツンベク」即チ「折ル」ノ語ノ原體ナリ。此家ノ祖曾テ其兄ト共ニ畑ヘ甘蔗ヲ取リニ行
 キタルニ兄ハ力ナク之ヲ折ルコト能ハサリシニ弟ハ能ク之ヲ折ルコトヲ得タリ。故ニ其父
 ハ弟ニ謂テ他日汝ヲ別立スルニ至ラハ「トベク」ヲ以テ名ツクヘシト云ヒタルニ因ル
- (19) トコン。「トコン」ハ「角ナリ」此家ノ祖曾テ獵ニ赴キタルニ適々野猪ノ草原ニ居ルヲ見ル。人
 人中ニ入ラント欲スレトモ茅草繁茂シ之ニ支ヘラレテ入ルコト能ハス。然ルニ彼ハ獨其ノ
 中ニ入り行キ終ニ猪ヲ獲タリ。衆彼ヲ目シテ水牛ノ如シト爲シ其家ヲ立ツルニ至リ「トコン」

即チ角ヲ以テ其氏ヲ命シタリ

(20) タリク 食物ノ喉頭ニ塞ルヲツマリクト云フ。此家ノ祖先曾テ畑ニ行キ小屋ニテ飯ヲ食ヒシニ喉ニ塞マリ甚タ苦ミタルヲ他人來リ漸ク之ヲ助ケタリ。此ノ事由ニ因リ後ニ之ヲ以テ家ニ名ツケタルモノナリ

(21) バジニバク 此ノ家ノ祖先幼年ノ時其弟ト共ニ飯ヲ食ヒ居シニ偶々他人駈足シテソコニ來リタルトキニ兄ハ偶然ニ「マジニバク」(五年)ト呼ベリ。此事由ニ因リ其家ヲ立ツルトキニ至リ終ニ之ヲ以テ名ツケタリ

(22) パラクラヌ 此語ハ妾ノ鏡ニ映スルコトヲ意味ス。此家ノ祖ハモトスボン社ニ在リシガ内文社ノチユクト云フ女ヲ見初メ之ニ對シテ「リミシ」ヲ行ヒタルトキ女ト相對シテ飯ヲ喫シタルニ彼アマリニ羞カシクシテ能ク仰キ見ス僅ニ女ノ顔ガ其所ニ映スルヲ見得タリトテ其友人ヨリ斯ク氏ヲ命セラレタリ

(23) パロアヌ 「穴」ヲ「ナバロアン」ト云フ。此家ノ祖屢女家ニ赴キ「イスズ」(婚)ヲ爲シタリ。然ルニ茲ニ惡戯ヲ好ム者アリ彼ノ道ニ於テ小サキ穴ヲ設ケタリシニ彼來リ知ラスシテ之ニ落チタリ。其後彼ガ遂ニ其女ト婚シテ家ヲ立ツルニ至リ此「穴」ヲ以テ名ツケラレタリ

(24) バリデ 俗ニ寢轉フヲ「イバリデ」ト云フ。此家ノ祖ハ壯年ニ至リ懶惰ニシテ畑ニ行クモ唯小屋ニ於テごろごろスルノミ他人遂ニ彼ヲ目シテ「バリデ」ト爲シ「汝他日家ヲ立ツルニ至ラハ之ヲ以テ名ツクヘシ」ト言ヘリ。彼ハ此事由ニ因リテ其家ニ「バリデ」ノ氏ヲ得タリ

(25) ボロボル 「マボロボロ」ハ其心ノ迷亂スル狀ヲ云フ。數十年前本社ノチグルトベクト云フ

番丁某家ノ女サカイノ美容ニ懸想シ思慕切ニシテ之ヲ得サレバ死セントマテ煩悶シタリ。後幸ニ其女ヲ得テ一家ヲ立ツルニ至リ他ヨリ斯ク其氏ヲ命セラレタリ

(26) バジバジバ 「ジャバジャバ」ハ「蟹」ノ穴ヲ云フ。此家ノ祖先ハ兄ノ死後ニ其妻ト婚シタル故ニ定メテ蟹ノ穿チタルモノノ如ク大キカラント他ヨリ冷笑セラレ終ニ此ノ氏ヲ稱セラレタリ

(27) ババブリン 番俗他人ニ對シ與ヘモセス貫ヒモセサルヲ「マバブリン」ト云フ。此家ノ祖ハ親族間ノ婚姻ヲ爲シタリシヲ以テ他人ニ嫁セス又他人ヨリ娶ラストノ義ニテ他ヨリ斯ク名ツケラレタリ

(28) バササオ 「家ノ外庭」ニ出ツルノ義ナリ。此家ノ祖先ハ頭人ロバニヤウ家ヨリ出ツ。住屋ヨリ外庭ニ出テタリトノ意味ニテ斯ク名ツケラレタリ

(29) バタラク 「バタラク」ニ「欣美」ノ義アリ。此家ノ祖先曾テ年長ノ友人ト相伴ヒ或女ノ許ニ「イスズ」ニ赴キタルニ後日其友人ニ先チテ其女ヲ得タリ甚シク友人ニ欣美セラレケレハ終ニ斯ク其氏ヲ命セラレタリ

(30) ババブウツ 番俗猴ノ如ク輕捷ニ木ヨリ木ニ跳渡ルヲ「マバブウツ」ト云フ。此家ノ祖先ハ婚姻シタル後友人ト共ニ山ニ薪ヲ採リニ赴キタルニ彼巧ニ木ニ登リ細枝ト雖モ能ク之ヲ攀チタリシカハ友人之ヲ見テ「マバブウツ」ト云ヒ終ニ其家ニ名ツケラレタリ

(31) バサソソ 「スモソソ」即「他ヲ排除スル」ノ義ヨリ來ル。此家ノ祖先ハ多クノ競争者ニ打勝チ終ニ目的タル美女ヲ娶得シタルヲ以テ名ツケラレタリ

(32) バロソソ 「マソソ」即「山ガ崩ルルコト」ヨリ來ル。此家ノ祖富有ニシテ女家ニ與ヘタル

聘財頗多ク女家ニ其品物ヲ積ミタルトキ山ノ崩ルルガ如ク地ニ落チ重ナリタルヲ以テ斯ク名ツケラレタリ

(33) パスリバイ 「顔ヲ横向ケル」ノ義ナリ。此家ノ祖曾テ人ヨリ或女ヲ勸メラレタルニ嫌ヒテ拒絶シタルニ拘ハラズ後遂ニ之ト婚シタルガ故ニ斯ク名ツケラレタリ

(34) バチクル 「引返ス」ノ義ナリ。婚姻ノ後久シカラスシテ耕作ニ赴キ途蛇ニ逢ヒテ家ニ引返シタリ。故ニ之ヲ以テ其家ニ名ツケタリ

(35) バババラ 「ババラ」ニ「飲試ム」ノ義アリ。此家祖ハ人ト酒ヲ飲ムニ當リテ常ニ他ニ先チテ之ヲ試シタルヲ以テ或人ヨリ「汝他日家ヲ立ツルニ至ラハバババラ」ヲ以テ名ツクヘシト言ハレタリ。此事由ニ依リ此ノ如キ氏ヲ得タリ

(36) バラウラン 「ブナダ」即「木ニ懸ル」ノ語ヨリ來ル。此家ノ祖曾テ獨出獵シタルニ其獲物多ク持歸ルコト能ハサリシカハ之ヲ樹枝ニ懸置キテ歸來リ後人ヲツレテ行キ之ヲ持歸リタリ。此事由ニ因リ此人ガ一家ヲ創立シタルトキ他ヨリ之ヲ命セラレタリ

(37) バカケジン 「ボケジン」即「力强キ」ノ語ヨリ來ル。曾テ一女ヲ二人ノ男子相爭ヒタリシガ其一人ハ辨口巧ニシテ終ニ之ヲ取り得タリ。因リテ他ヨリ「ボケジン」ヲ以テ目セラレ終ニ其家ノ氏ト爲スニ至レリ

(38) バチャバト 之ニ「移ス」ノ義アリ。此家ノ祖前妻ヲ棄テ更ニ後妻ト共ニ一家ヲ立テタルニ因リ如此名ツケラレタリ

(39) マバリコー 番語「イババリコー」即「探偵スル」ノ義ヨリ來ル。此家ノ祖初メ妻ヲ娶ラント此處彼

處ト搜シ廻リシモ一向氣ニ入リタル者ヲ見付カラス終ニハ誰ニテモヨシトテ或ル女ト婚シタルニ因リ他ヨリ斯ク其氏ヲ命セラレタリ

(40) マジジャブス 木ヲ伐倒スヲ云フ。此家ノ祖ハ木ヲ伐ルニ巧ナリシニ因リ斯ク命セラレタリ

(41) マリギリグ 番語「イリギリグ」ヨリ來ル。是兄死シタル後其弟ガ兄嫂ト婚シテ一家ヲ起シタルニ因ル

(42) ルギジャン 番語ニ「ルギジ」ハ故サラニ怒リタル顔ヲ爲スヲ云フ。此家ノ祖始メテ妻ヲ娶リタルトキニ他ヨリ同慶セラレタルニ對シ假意ニ怒リタル色ヲ爲シタルニ因ル

(43) ロバニヤウ 内文社大頭人ノ家ナリ。此家ノ祖タル女頭人サラカツハピナバブカサニ在リタル時ニ他ノ頭人ト相爭ヒ猫ノ如ク他ヲ抓キムシリタルニ因リ他ヨリ斯ク其家ヲ呼ハルルニ至レリト

(44) リムリム 今ヨリ二三十年前サバン及ボラクノ男女兩人ガ父母ノ同意ヲ得ス結婚ヲ爲シテ一家ヲ立テタルニ因リ斯ク名ツケラル「リムリム」ニ「自由ニスル」ノ義アリ

(45) ライワン 番語「マライライ」ハ甲乙互ニ事業ノ手傳ヲ爲スヲ云フ。氏ノ祖先タル夫妻ハ未婚ノ時ヨリ其間睦マシク互ニ家事ヲ助合ヒタリシ故ニ其婚シテ一家ヲ立ツルニ至リ斯ク他ヨリ氏ヲ命セラレタリ

(46) ラビラブ 番語「マラビラブ」(並列ス)ヨリ來ル。此人ノ祖タル夫妻ガ未タ婚セサルトキ曾テ酒ヲ飲ミテ相並ヒシニ或老番此兩人ハ夫婦トシテ恰當ナリトテ兩人ノ手ヲ執リ「バイジャジャ

ス(婚約訂結ノ時ニ男女兩人ナシテ)ヲ爲サシメタルニ因リ其兩人ガ婚姻シテ一家ヲ立テタル時
ニ他ヨリ斯ク命セラレタリ

(47) ラリヤバス 番語リニヤウ(水ノ奔來)ヨリ來ル此家ノ祖先婚姻ノ後川ニ赴キ魚ヲ取ラン
トシ水ヲ堰キタルニ日暮レシカハ茲ニ其夜ヲ過サントシタルニ夜半其堰潰破シ溪水俄ニ
至リ彼ガ着物ヲ濡ラシタリ故ニ其後家ヲ作りタルトキ斯ク他ヨリ命セラレ

(48) トアラバス 財産多クシテ他人ニ物ヲ食ハセルヲ云フ

(3) 北ばいわぬ番チャジャカプス社ニ於ケル氏
アポロカヌ アルササオ アルスボン アジャヨラス アルド アオアパス アラギヤヌ ア
チャルパス アタラジャヌ アラバヤヌ アジャギザヌ アリジツプ アバリヤヌ アイノアヌ ア
ジャチャルン イジョルマヌ イリキリン イラダヌ イバジュルジュル イチヒヤヌ イラン イ
ダイダイ イジャボル イザサザ イラカヌ イボルガヌ イリブリブアヌ オワチブ
グレン グムジ サリジャヌ スジイ シヤバイ シヤジバラウ サジュジャバヌ スリジャウ ソワ
ヨン サバリウジ シヤブジャ スワカヌ
サジャヌ チャラアチア チカガザバヌ チュールン チヤバンタル チュジュ チョジバアヌ トアヨ
(チヨロ) チヨボチヨボン チヤルブトブ チヤマチヤアヌ チヤマジャ チヨリキリカヌ チヤバジャイ タロ
ル トアリアヌ タラボサヌ ツブリウ トリボアヌ タバジャヌ ツジャラン チヤバトタヌ チヤ
ラアイデヌ チヤルサギル トリモ
ジャジュマラン ジャルモツ ジャジャスブル ダジャルブ バルバブン ジリジャヌ ポロポロ ババラジン

バスルブ バラササブ バラアイジャヌ バアジャクト バジュバアヌ バラオラン バツウ
バブテオ バスコア バアジナイ バアラテル バオアリン ババググ バオリド バジュ
アバ バスリバイ バジャアラウ バボアボア バササオ ボイヂ ポリダン
マリカリン マジカウ
ラリバジャヌ ララブアヌ ラロリカヌ ラリゴアヌ ラリヤバヌ リマジ リンタウル
グラウ ルサガサグ リブリカヌ ルサリヤヌ ルサワヌ ロバニヤウ ロシゴアヌ ロブジュン
ヨルツボカヌ ヨラバラヌ ヨルチャリバヌ ヨルタチャジャヌ

(4) ぶつる番下バイリス社ニ於ケル氏

カザギラス カタカラス カルンクン カラギヤヌ カボロ カボアラス カジュブカヌ カ
リボアヌ カイルカヌ カウルサヌ カジャバヤヌ クリサン クサジャ コタルン コロド
コムラ コンコリス コロタル ガルジグジ ガラン グレン
サバイ サバル サリラン サムラバヌ サンバル サブラウ スラウラウジ スキナリ
ム ソテラバヌ ジグロル ズマララツ ジヤラバヤヌ ジャボ ジャジャク ジャジャスブル
タオラクス チャツボラス タリウラブ タルタラヌ チガル タカラウス チャリキヤバル タ
ビョージャヌ タカウ
タロジャロン タジマラオ タロリバク タルザルム タリヤブ タオカソク タリバタヌ
タリアラス タボラカツ タルムジ タバンタル タリキラヌ タオラジュ タルイリン チ
ナガル ツジャリマウ ツリヤバヌ ツジャバラヌ

ツサビキ	ツリギラス	ツジャビヤ	トコツル	チヨバチカ	トコレギツ	トカニブン	トア
ラパス	チヨジヤバラス	チヨロボ	チヨカス				
バリユース	バブルカス	バビユカス	バラカス	バカダバイ	バリムダイ	バササオ	バ
チクル	バサラコブ	バルルコン	バツクラオ	バタダ	バラグラス	バラムラム	バ
ババルン	バリムリム	バコボン	バタリノク	ブトアン	ブリダン	マバリユ	マタラ
ク	マジリン	マランラン	マリムリム	マジヤララ	マララロム	マリバヤム	マリド
ブ							
ラルグアス	ララビサス	ララガル	ラカジャコ	リバカラウ	リブリブアス	ルルマス	
ルサレヤン	ルラジュン	ルコワカス	ルスブチャス	ルクロアス	ロアジュアジュ	ロスクリ	
ツロピリアス	ロバニヤウ						

第二項 氏ノ命シ方

第一 命氏ノ場合及其方式

(一)新ニ氏ヲ命スル場合 新ニ住屋ヲ建設シタルトキハ之ニ家名ヲ命ス其場合概シテ左ノ如シ
 (イ)相出婚ヲ爲シタル男女ガ新ニ一家ヲ建テタルトキ 本族ニ於テハ家長タラサル男ト家長タラサル女トガ結婚シタルトキハ其男女ハ共ニ其實家ヲ出テ共同シテ新ニ一住屋ヲ建テテ之ニ移ルヲ常トス此ノ時ハ其ノ家ニ新ニ名ヲ命スヘシサレトモ其ノ男女ガ別ニ一住屋ヲ立テスシテ他人ノ家ヲ留守スル場合ニハ其ノ留守セル家ノ名ヲ稱スヘシ代理頭人ハ此ノ例ニ屬ス
 (ロ)他ニ住屋ヲ移シ又ハ別ニ一住屋ヲ建テタルトキ (一)甲社ノ民ガ乙社ノ地ニ移住シテ家ヲ建テ

タル場合ニハ舊來ノ家名ヲ稱スルコトナキニ非サルモ多クハ新ナル家名ヲ選フ内文社大頭チー
 ルン家ハ初メクナナオ社ニ在リテグレン家チブツカダヌ社ニ在リテボウラ家リキリキ社ニ在リ
 テジャジャスブル家ト云ヒタルガ如シ (二)本族ハ時トシテ既ニ住屋アル者ガ更ニ一ノ住屋ヲ起ツル
 コトアリ古代ニハ一ノ頭人家ガ其ノ領域内ニ黨民ヲ分派シテ別ニ社ヲ開キタルトキハ多クハ其
 地ニ己ノ住屋ヲ構ヘ子弟若クハ部下ヲシテ之ヲ留守セシメタリ又或頭人ハ其ノ住屋ガ祖先ノ墓
 ノ在ル所ニシテ禁忌嚴ナルヲ以テ之ヲ祭屋ニ當テ別ニ自分ノ住屋ヲ作リタルコトアリタリ此等
 ノ場合ニハ何レモ從來ノ家トハ異ル家名ヲ附スぶつる番タラバサジ社ノ頭人家ノ祖先ハチムル
 社ニモ家ヲ立テテルロアヌ家ト稱シ同番マカザヤ社頭人家ノ祖先ハモト其氏ヲカザヤヌト云
 ヒタルモ其家ヲ以テ祭屋トシ別ニ住家ヲ立テテバボロカヌト稱シ今日ニ至ルガ如キ其好例ナリ
 トス

(二)氏ヲ命スル方式 氏ハ創立者自ラ己ノ好ム所ヲ命ス之ニ付キ別ニ定マリタル方式ナシこぼじ
 ぱりじお兩番ニ於テハ社民ハ概シテ其ノ社ノ頭人又ハ代管ニ依頼シ之ヲ選定スト云フ

第二 氏ノ選擇

(一)氏ノ選方 ニハ左ノ二法アリ
 (イ)古來本族ニ在ルモノノ内ヨリ取ルモノ 是普通ノ方法ニシテ最多ク行ハル
 (ロ)新ニ作出スモノ 即チ創立者ノ性格創立當時若クハ其ノ以前ノ出來事又ハ其ノ所在地ニ因ミ
 テ之ヲ命ス此ノ法ハ稀ニ行ハル
 前項第三ノ(一)及(二)ニ於テ高士佛社及内文社ニ於ケル氏ノ中ニテ該社各家名ノ由來ニ付聞得タル

所ヲ記シ置キタルヲ以テ參照スルコトヲ要ス。但シ其中ニテ近代ニ命セラレタル氏ニ付テハ確カナルヘキモ古代ニ命セラレタルモノニ付テハ牽強附會ノモノ少カラサルヘシ
(二)頭人族以外ニ禁止セララルル氏 古代ヨリ傳ハレルモノヲ選フト新ニ作出スルトヲ問ハス新ニ氏ヲ命スルニ一般平民ハ自己ノ頭人家及大頭人家ト同一ノ氏ヲ避クヘキモノトス。但シ番社ニ依リテハ近代此制限漸ク行ハレサルニ至レリ

第三節 品性

第一款 總說

本族ニ於テモ種々ノ原因ニ基キ人ノ品性ノ異同ヲ認メ之ニ依リテ人ノ社會的地位ニ差等ヲ劃ス。其原因ノ重ナルモノハ(一)男女ノ性(二)年齢(三)殘疾(四)階級(頭人族ト平民トノ如シ)(五)宗教(巫祝ノ如シ)(六)親系(嫡子庶子ノ如シ)(七)男子ノ武勇(敵人ヲ敵首トス)等トス 本族ノ生業ハ頗ル單純ニシテ未タ農工商ノ分業ヲ生セス。從テ本族ニハ未タ職業ニ依リテ人ノ社會的地位ヲ異ニスルコトアラス
右ノ内(四)及(七)ハ既ニ社會狀態(黨民ノ階級及戰功ノ部參照)ニ於テ(五)ハ宗教狀態ニ於テ述ヘタル所又(六)ハ親族ノ部ニ於テ説クヘキガ故ニ皆之ヲ略シ茲ニハ(一)(二)及(三)ニ付キテ説述ス

第二款 男女性ニ基ク品性

第一 總說

本族ニ於テモ男女其體質及心性ノ相異ルヤ自然ニ其間ニ分業ヲ生シ狩獵戰闘又ハ開墾ノ如キ婦

女ノ力ニ適セサル業ニハ男子之ニ當リ機織裁縫割烹播種收穫又ハ育兒等ノ如キ業ニハ婦女之ニ當リ兩者相待テ共存ノ道ヲ立ツ。然レドモ一家内又ハ一社會團體内ニ於テハ男女殆同等ノ地位ニ立テ下ニ論スルガ如ク其間ニ貴賤ノ差等ヲ設ケス

(附記) 男女其業務ノ相異ルヤ自然ニ一方ガ他ノ方ノ業ニ手觸ルノ禁忌ヲ生シ今日ニ於テモ男子ガ生麻ヲ績ミ、豚ニ飼ヲ與ヘ又女子ガ銃器ノ手入ヲ爲シ、弓矢又ハ毘網ヲ作ルガ如キハ絶體ニ之ヲ禁忌シ若シ之ヲ犯シタル時ハ巫ヲ招キテ其不吉ヲ禳ハサルヘカラサルモノトセリ
(參照宗教ノ部禁忌ノ項)

第二 私法上ノ地位

本族ノ男女ハ人格、親族、相續、財產等諸般ノ權利關係ニ於テハ全ク同等ノ地位ニ立ツ。即チ左ノ如シ
一、男女ハ平等ニ相續權ヲ有ス 一家ヲ相續スル者ハ男女ニ拘ハラス長子タル者トス。故ニ長子ガ男ナルトキハ他家ヨリ妻ヲ迎ヘ女ナルトキハ他家ヨリ夫ヲ迎フ。前ノ場合ニ於テハ男其家ノ戶主タリト雖モ後ノ場合ニ於テハ女其家ノ戶主タリトス。但シ上ダリセぬ、るかいはらばる
三番ニ於テハ男子優先主義ヲ取ルヲ以テ女子ハ男子全クナキ場合ニ非レハ相續スルコトヲ得ス。即此ノ三部族ノミハ例外ト爲ス

二、一家ヲ創立スルトキハ其創立者タル夫妻ハ相竝テ其家ノ家長タリ 本族ニ於テ婚姻シタル男女ノ双方ガ何レモ嗣子ニ非サルトキハ何レノ家ニモ入ラスシテ別ニ一家ヲ創立ス。此場合ニ於テ其夫妻ハ共同シテ其家ノ戶主ト爲ル。而シテ其財產ハ男女兩方ヨリ均等ニ持寄りタルモノナルガ故ニ若之ヲ合一シタルトキハ純然タル其男女ノ共同財產ナリトス。(但シ其間ニ嗣子ガ生マレタ

ルトキハ男女ノ共同財
産ハ嗣子ノ所有ニ歸ス

- 三、 夫妻ノ一方ハ他ノ一方ニ對シテ互ニ貞操ヲ守ルヘキ義務ヲ負ヒ又他ノ一方ヲシテ之ヲ守ラシムヘキ權利ヲ有ス 本族ニ於テハ一婦ニシテ兩夫ヲ有スルコトヲ禁スルト同様ニ一夫ニシテ兩妻ヲ有スルコトモ亦之ヲ禁セリ(但シ此レニ妻ナル例外アリ)
- 四、 男系ト女系トニ依リテ親族ヲ區別スルコトナシ 從テ本族ニハ内親外親ノ別ヲ生セス
- 五、 婦女ハ男子ト同一ノ行為能力ヲ有ス 女ハ其私產ヲ處分シ其他他人ト財產上ノ諸契約ヲ爲スコトヲ得ヘシ 夫妻共同ノ財產ハ妻ノ專擅ニ處分スルコトヲ許ササルガ如ク亦夫ノ專斷ニ處分スルコトヲモ許ササルナリ
- 六、 女ハ不法行為ニ付テ男子ト同一ノ引責能力ヲ有ス 婦女ガ不法行為ニ因テ他人ニ加ヘタル損害ハ婦女タルノ故ヲ以テ有怨セラルルコトナシ

第三 公法上ノ地位

本族ノ女ハ狩獵戰闘等特ニ男子ニ限レル事項ヲ除キ公法上ニ於テモ亦殆男子ト同等ノ地位ニ立ツ左ノ如シ

- 一、 女ハ男ト同様共同祭祀ノ主祭タルコトヲ得 本族ニ於テ共同ノ祭祀ハ多クノ場合ニ男女ノ兩祝ヲ要ス唯祭祀ノ種類ニ依リ男祝ヲ要スル場合ニハ女祝之ニ當ルコト能ハス之ト反對ニ女祝ヲ要スル場合ニハ男祝之ニ當ルコト能ハサルノミ
- 二、 女ハ男ト同様ニ頭人タルコトヲ得 本族ノ頭人ハ世襲ナリ故ニ女ト雖モ相續ニ因テ頭人家ノ家長ト爲ルトキハ當然其黨ノ頭人ト爲ルナリ但シ婦女ハ外部ニ對スル事務ヲ處理スル

ニ適セサルヲ以テ夫アルトキハ其夫之ニ代理スル場合多キノミ 古代ノ女頭人中ニハ往々勇悍ニシテ自ら部下ヲ指揮シ他ノ頭人ニ對シテ折衝シタル者モアリシト云フ 舊政府時代ニ於テ女頭人ニ夫アルトキハ政府ハ其夫ヲ以テ頭目ト爲セリ

- 三、 女ハ男ト同様ニ黨公共ノ事務ニ參與スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ特ニ男子ニ限リタルモノヲ除ク 共同ノ祭祀宴會ニハ女モ亦之ニ參與ス唯獵神祭等ノ如キ特ニ女ノ之ニ加ハルコトヲ禁スルモノヲ除ク又道路ヲ修繕シ祭祀ヲ營ム場合ニハ女モ其分ニ應シテ勞務及費用ヲ負擔スヘシ然レトモ獵漁ニ加ハリ黨會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三款 年齢殘疾ニ基ク品性

第一 總說

本族モ亦年齢及殘疾ニ依テ人ノ品性ヲ劃シ社會上ニ於ケル地位能力ヲ異ニセリ 本族ハ未タ年齢ヲ計算スルコトヲ知ラスト雖モ其發育ノ状態ニ依リテ之ヲ判スレハ先ツ十四五歳ヲ幼トシソレ以上ヲ壯トシ三十五歳乃至四十歳以上ヲ老トスヘシ

第二 幼者

(一) 總說 既ニ述ヘタルガ如ク本族ニ於テ十四五歳以下ハ之ヲ幼者トスヘシ 番語ニテ「カクリアス」(カクリ即チ小ノ義ヨリ來ル)ト云ヒ其生後未タ乳齒ノ生セサル間即嬰兒ヲ特ニ「ルマミツ」ト云フ但シ「ルマミツ」ニテハ「ラバク」(子ノ義)其嬰兒ヲ特ニ「ルクライト」ト云ヒ上ヨリせぬ番ニテハ「ウラウラク」(子ノ義)其嬰兒ヲ特ニ「ローライ」ト云フ

(二)幼者ノ能力

(イ)私法上ノ能力 幼者モ亦財産ヲ處有シ又ハ相續スルコトヲ得然レトモ其財産ハ父母代テ之ヲ管理シ父母ナキトキハ其祖父母又ハ伯叔父母之ヲ管理ス幼者ノ獨自ニ爲シタル財産上ノ行爲ハ何等ノ效力ナキモノトス

(ロ)公法上ノ能力 幼者ハ全ク公法上ノ能力ヲ缺如ス頭人家ノ長子ハ頭人タルコトヲ得ヘシト雖モ其幼年タル間ハ其父母又ハ近親ニ於テ其頭人權ヲ攝行ス

(ハ)刑事上ノ能力 (一)全ク辨別力ナキ幼者ノ爲シタル行爲ハ刑事上ノ責任ヲ負ハス (二)既ニ辨別力アル者ノ犯シタル罪ハ宥恕セラル但シ他人ニ加ヘタル損害ハ其家長ニ於テ賠償ノ責ニ任セサルヘカラス

第三 壯者

(一)總説 既ニ述ヘタルガ如ク本族ハ男女共ニ十四五歳ヲ以テ成年ト爲スヘシ成年者ハ番語ニテ男女ヲ通シテ「マカツブツブン」(マカツブン即成就)ト云フ然レトモ此名稱ハ未婚ノ間ニ限り婚姻シタルトキハ之ヲ「マジン」(ばいわぬ)又ハ「バブルカヌ」(老者ノ義)ト云フ但シるかい番ニ於テハ未婚ノ成年者ハ男ヲ「マカサバラヌ」女ヲ「タワイリクツ」ト云ヒ既婚者ハ男女ヲ通シテ「マルラン」(義)ト云フ又上リせぬ番ニ於テハ未婚ノ成年者ハ男女ヲ通シテ「サバル」又ハ「サブサブル」ト云ヒ既婚者ハ男ヲ「タマタマ」(父ノ義)女ヲ「テチナ」(母ノ義)ト云フ

(二)成年者タル要式 本族未タ年齢ヲ計算スルコトヲ知ラサルガ故ニ果シテ幾歳ヲ以テ成年トスルヤニ付判然其限界ヲ立ツルコトヲ得スト雖モ男ハ既ニ狩獵ヲ爲スコトヲ得ルニ至リ女ハ乳頭

膨レ月經ヲ見ルニ至レハ以テ成年ニ爲リタルモノトス即チ約十四五歳ニ達シタル時トス 此年頃ニ至レハ男女共ニ其身ヲ裝飾スルノ風ヲ生シ言語舉動及志尙等自ラ童稚ト異ル所アルニ至ル成年式 「スマスマカツブツブン」(成年者ヲ)ト云ヒ男ハ特ニ「スマスオカジイ」(男ヲ義)ト云フ 此は番内文社ニ於テハ一般ニ男子ガ十六七歳ニ達シタルトキハ巫ヲ請シ豚ヲ屠リ靈ヲ祭リ以テ其人ノ強健ニシテ能ク耕シ能ク獵シ得ル様ニ祈ル此日親族知友ヲ招キテ宴ヲ張ル 北ばいわぬ番チ「ジャカブス社」ニ於テハ男子十二三ニ至レハ始テ刀ヲ佩ヒシムルノ式ヲ行フ之ヲ「ブサアジブ」ト云フ十七八歳ニ至リ獵ニ赴キ獲物アレハ巫ヲ請シ其獲物ヲ以テ靈ヲ祭ル此式ニ名稱ナシ又女子ハ乳頭大ナルニ至レハ巫ヲ請シ牝豚ヲ屠リ靈ヲ祭ル之ヲ「ボマアツブン」(成年者ト爲)ト云フ 此外現時成年式ヲ行フ番社ハ甚タ少シ尙ホ此式ニ付テハ宗教ノ部人ニ對スル祭祀ノ中ニ説述シタルヲ以テ參照スルコトヲ要ス

(附記) 幼壯兩者服裝ノ差異 左ニ其重ナルモノヲ示ス

(1)上リせぬ番 ニ於テ (一)男幼ナルトキハ上衣ノ腰ニ達スルモノヲ着スルノミ然レトモ成年ニ達スルトキハ始テ褌ヲ用キ袷袢ヲ掛ケ又帽子ヲ被ル (二)女モ亦幼ナルトキハ長衣ノ際ニ達スルモノヲ着スルノミナルモ成年ニ達スレハ裙ヲ用ケル

(2)其他ノ諸番 ニ於テハ男女共ニ成年ニ達スルトキハ齒ニ涅シ髪ヲ梳リ頭飾ヲ施ス特ニ女ハ指甲ニ刺墨ヲ施ス末タ刺セサル女ハ男子ニ接スルコトヲ得サルモノトス但シばりじお番は今此ノ刺墨ノ風廢絶シ北ばいわぬ及こぼじ兩番ニモ漸ク廢レントシツツアリ尙此等ノ點ニ付テハ生活狀態服裝ノ内ニ説キタル所ヲ參照スルコトヲ要ス

(附記二) 既婚者、未婚者、服装ノ差異、男女共ニ未婚ノ間ハ其服装ヲ美ニスルモ婚姻シタル後ハ漸ク質素トナリ子女ヲ生ミタル後ハ愈質素ト爲ル、婚姻シ子女ヲ生ミタル後迄服装ヲ美ニスルトキハ一般社會ヨリ嗤笑セラルト云フ

女子始メテ男子ニ接シタルトキハ耳又ハ腕ノ裝飾ヲ變シテ之ヲ表示スルコトアリ、即(一)ぶつる番ニ於テハ未婚ノ女ハ耳ニ「バツバツ」ト稱スル裝飾ヲ施スモ一タヒ男子ト接シタルトキハ直ニ之ヲ去リ其代リニ耳鈎ヲ施ス之ヲ「スモバツバツ」ト云フ(二)上ダリセぬ番ニ於テモ女ハ未婚ノ間ハ「バラツ」(南京玉)及「ブククン」(腕飾)ヲ用キルモ一タヒ男子ニ接シタルトキハ直ニ之ヲ去ル、故ニ此ノ兩番ニ於テハ婦女ノ處女タルヤ否ハ其裝飾ヲ見テ知ルコトヲ得ヘシ、他ノ諸番ニハ處女ヲ表スヘキ裝飾ナシ

第四 老者

(一)總説 老者ハ番語ニテ「ブルブルン」(番ニ於テ)又ハ「バブルガス」(ぶつる番ニ於テ)ト云フ、其ニ「ブルン」即チ年長ノ語ヨリ來ル、但シるかい番ニテハ「マルラン」上ダリセぬ番ニ於テハ「マルラダ」ト云フ、幾歳以上ヲ以テ老トスヘキヤニ付キ判然タル限界ナシト雖モ先ツ三十五歳乃至四十歳以上トスヘシ、但シるかい番及上ダリセぬ番ニ於テハ既婚者ハ壯者ト雖尙ホ老者ト同一ノ稱呼ヲ用キル、茲ニハ假ニ三十五歳乃至四十歳ヲ以テ老トシ以テ其能力如何ヲ説述スヘシ

(二)老者ノ能力 老者ハ公私法上別段其能力ニ制限ヲ受クルコトナシ、唯其體力ノ衰ヘタル者ハ戰鬥狩獵等ノ如キ役ニハ參加セサルノミ、本族ニハ未タ老者タルノ故ヲ以テ社會上ニ特別ノ地位若ハ特權ヲ有スルコト之アラス

第五 殘疾者

(一)白痴、瘋癲者 本族ニ於テ白痴ハ「マカカ」瘋癲ハ「マボテヤヌ」ト云フ、一般ニ之ヲ哀憐スヘキ者トシ其父母兄弟伯叔父母從兄弟等ノ近親ニ於テ之ヲ保護ス、然レトモ未タ其管束ニ付一定ノ慣習ナシ、白痴瘋癲者ノ爲シタル私法上ノ行爲ハ其效力ヲ認メス、然レトモ其者ノ他人ニ對シテ犯シタル不法行爲ハ保護者其賠償ノ責ニ任セサルヘカラス

(二)不具者 本族ニ於テ盲ヲ「マブチャ」、聾ヲ「マチャラ」、啞ヲ「マオモ」、跛ヲ「マビカル」、手足ノ麻木セルヲ「マビライ」ト云フ、此等ノ者ハ皆哀憐スヘキ者トス、然レトモ別ニ其ノ能力ニ付テ制限セルモノアルヲ見ス、唯社會公共ノ事業ニハ概シテ之ニ當ラシメサルヲ例トス

第四章 財產

第一節 總説

(一)本族ニ於ケル財產狀態 本族ニ於テ財產ニ關スル觀念ハ古クヨリ發達セルモ未タ明確ニ之ヲ表示スヘキ語ヲ有セス

本族間ニ於テ主要ナル財產ハ土地ナリトス、然レトモ此ハ概シテ頭人家ノ所有ニ屬シ、唯僅少ノ畑地ガ平民家ノ所有ニ屬スルヲ見ル、而テ其畑ハ連耕三四作スレハ地力盡キテ之ヲ休耕セサルヘカラサルヲ以テ其勞力多キ割合ニ收益ハ甚少シトス、土地以外ニハ住屋、家畜、家具、被服及裝飾品等アリト雖モ何レモ質粗惡ニシテ其數額寡少ナリ、農作物及獵獲物モ其產出多カラスシテ之ヲ自家ノ用ニ供シ、剩ル所ハ僅ニ之ヲ交換所ニ持來テ必要ノ鐵器織物陶器等ト交換シ得ルニ過キス、從テ

其生活ハ頗貧弱ナリトス

サレトバ^りじ^お番ノ諸社ハサ^ブデク^群社ヲ除ケハ今ヤ水田ヲ作リ水牛ヲ飼養スルノ術ヲ解シ他ノ諸番ニ比シテハ富祐ナル生活ヲ營メリ余ハ試ニ加芝來、高士佛、竹ノ三社ニ就テ其財產狀態ヲ調ヘタルニ水田ハ其最多キモノハ一戸ニテ八石乃至十六石ノ米ヲ取り水牛ハ一戸五六頭乃至二十頭ヲ有シ高士佛社ノ頭人家ノ如キハ五十頭ヲ有スト云フ尙ホ銀貨モ加芝來、高士佛、牡丹、八瑤ノ四社ニハ收藏セラレタルモノ多ク高士佛社ノミニテモ先ツ五六百圓ヲ降ラサルヘシト云フ

(二)財產權ノ主體 ハ本族ニ於テ唯一ノ自然人アルノミ家黨及番社團ハ一ノ社會的團體ナリト雖モ財產ノ主體ト爲ルコトナシ 卽一家ハ家產(土地住屋及家具等)ノ主體ニ非ス家產ハ其家ノ家長ニ屬スル財產ナリ詳言スレハ家產ハ最初其家ヲ創立シタル夫妻ノ共同所有ニ屬シ其相續人タル子ニ之ヲ傳フ本族ニ於ケル家長ノ更迭ハ家產管理人ノ更迭ニ非スシテ現時ノ我國ノ如ク實ニ家產所有者ノ更迭ナリトス (二)黨ハ頭人ヲ中心トスル土地及民人ノ結合ニシテ本族固有ノ社會的團體タリト雖モ其領域ノ地ハ多クハ頭人家ノ私有ニ屬シ其間ニ僅少ノ黨民ノ私有地アルノミ別ニ黨ノ所有ニ屬スル土地アルコトナシ(黨ノ領城參照) (三)社ハ本族固有ノ慣習ニ照シテ一ノ社會的團體ヲ爲スモノニ非ス恰モ社ノ領域ノ如ク見ユル土地ト雖モ實ハ其社ヲ支配スル一黨若ハ數黨ノ頭人ノ所有ニ係ルモノタリ

(三)財產ノ種別 本族ノ財產ハ其性質ニ依リ之ヲ物權及債權ノ二ニ別ツヘシ其内ニテ重ナルモノハ無論物權(特ニ其内所有權)ニシテ債權ノ如キハ其額實ニ僅少ナリトス

(四)契約 ハ本族間ニ於テモ既ニ發達シ物權及債權ノ發生、變更及消滅ノ重ナル原因ヲ爲ス

本章ハ先ツ物權ニ付キ說述シ次ニ債權及契約ニ付キ說述スヘシ

第二節 物 權

第一款 總 說

第一 物權ノ目的物

本族ニ於テモ物權ノ目的ハ其性質ニ依リ之ヲ不動産ト動産ニ別チ又其不動産ハ更ニ土地ト建物ニ別ツヲ便ナリトス

本族ニハ奴婢ト稱スヘキモノナキニ非サルモ何レモ其人ノ勤勞ヲ目的トスルモノナルヲ以テ雇傭ヲ以テ目スヘキモノトス 唯近時^りじ^お番中ニハ人ヲ典賣スルノ風アルモ此ハ附近土人ニ倣ヒタルモノニシテ本族固有ノ慣習ニ非サルナリ 從テ人ガ物權ノ目的ト爲ルハ僅ニ養子トシテ賣買セラルル場合ニ限ル但シ此事ニ付テハ既ニ前章中ノ養子ノ部ニ於テ說述シタル所ナルヲ以テ本節ニハ之ヲ略ス

(附記)

ば^りじ^お番ニハ土人ニ倣ヒ近來少シク人ヲ典賣スルノ風ヲ生シタリ今其一二ノ例ヲ舉ケンニ 高士佛社ノチ^カル[・]チャ^バサイ^ハ其從兄^{ジヤ}ジ^ムム^ジアツヲ殺シタルニ賠償トスヘキ財產ナカリシヲ以テ身ヲ以テバルバル[・]オ^ラル^ノ家ニ典シ財ヲ得テ被害者ノ遺族ニ與ヘタリチ^カル^後其身ヲ贖回スルニ至ラス病ヲ得テ死シタリ 又四林格社ノジ^ンジ^ンダ^ジツノ兄ハ曾テ水牛ヲ偷ミタルニ之ヲ賠償スヘキ財ナカリシヲ以テ妹^キビ^ヲ賣リ其財ヲ得テ賠償シキト云フ

第二 物權ノ種類

本族ニ於テ物權ト目スヘキモノハ甚少數ナリ。即最普通ナルモノハ所有權ニシテ此外ニハ唯土地ニ付テ永借地權、動産ニ付テ質權ヲ認ムルコトヲ得ヘキノミ。本族ニ於テ物ノ所有ヲ表示スルニ「ウザイ」又ハ「イゾワ」ノ語ヲ用ウ。此語ハ漢語ノ「有」ニ相當シ自動的ニハ存在ヲ意味シ他動的ニハ「所有」ヲ意味ス。又本族ニハ「ブナル」接頭語ヲ物名ノ上ニ冠シテ其物ヲ所有スルノ意義ヲ表示ス。例ヘハ「ブカジュナカヌ」ハ「カジュナカヌ」(地)ヲ所有シ「ブタバオ」ハ「タバオ」(建)ヲ所有スルノ義ナルガ如シ。

本族ニ於テモ物ノ所有者ハ一般ニ其物ヲ使用シ、收益シ又ハ處分スル權利ヲ有スト雖モ其權利ハ土地、建築物及動産ニ依リテ大ニ其内容ヲ異ニス。左ニ款ヲ分テ之ヲ説述スヘシ。

第二款 土地ニ關スル物權

第一項 總説

第一 土地ノ種目

土地ハ番語ニテ「カジュナカヌ」(上モリセ^の番)ト云フ。其性質ニ依リテ之ヲ部落地、畑地、水田、林野及溪流ノ五種ニ別ツヘシ。

(一) 部落地

(イ) 總説 部落ハ番語ニテ「キナジャン」ト云フ。部落ノ地ハ皆住宅ニ供スヘキモノニシテ我國ノ宅地ニ相當ス。

一社ガ數頭人ノ領ニ屬スル場合(復黨^番社團)ニ於テ其社民ガ何レノ頭人ニ屬スルカハ現ニ其居住スル家屋ノ敷地ガ何レノ頭人ノ所有ニ屬スルヲ見テ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ(參照社會體制^中黨民ノ部)。

(ロ) 部落地ノ價格 平民ニ土地ノ私有ヲ許ス番社ニ於テモ部落地ノ平民ニ屬スルモノハ甚少ク僅ニぶつる番カザラヌ社及北ばいぬ番^ノボカリ^ド社等ニ之アルノミ。一般ニ部落地ハ畑地ニ比シテ其價高ク北ばいぬ^ノボカリ^ド社ニ於テハ畑ナラハ粟五百把乃至千把ヲ取ル所ニシテ約十圓ニテ賣買スレトモ部落地ナラハ僅ニ四尋四方ニテ四五拾圓ニ値スト云フ。

(二) 畑地

(イ) 總説 畑地ハ番語ニテ「バボア」ト云フ。其内現ニ耕作シツアル所ヲ「コマ」(オマ^トモ、上モリセ)ニシテ「セル」所ヲ「コサコサジ」(コ^トモ、オマ^トモ、上モリセ)ト云フ。畑一枚ヲ番語ニテ「イタ・イナバツカヌ」(イ^ナバツカヌハ開墾セ)ト云フ。等シク一枚ト云フモ廣狹一ナラズ本族ニハ未タ土地ヲ測ル尺度ナキヲ以テ地積ヲ示スヘキ語ナシ。

畑地ノ價格 社ニ依テ差異アリ。ぶつる番下バイワヌ社ニ於テハ一枚ノ畑ヨリハ粟百大把乃至五百大把ヲ取ルヘシ。サレト又僅ニ三十大把ヲ取ルニ過キサルモノモアリ(一大把トハ兩手ノ拇指ト其價ハ先ツ大畑ニテ鍋四、鐵把一、鎌一、斧一、刀一、織物一端、壺一個、アタ^珠一枚及、カリバ^大一枚ヲ以テ交換シ得ヘシト云フ。上ダリセぬ番マカトナノ兩社ニ於テ稻畑ノ大ナルモノ約二石五斗ヲ取ルヘシ。大豚二頭、腕環一對及綿布一二端ヲ以テ交換スルコトヲ得ヘシト云フ。るかい番サボカヌ社ニ於テ中豚一頭(價約四圓)及番布二反(約六十錢)ヲ以テ畑一枚ヲ買フコトヲ得ヘシ。畑ノ大ナルモノハ粟三十大把、小ナルモノハ二十大把ヲ收得スヘシト云フ。ばりじ。お番高士佛社ニ於テハ粟畑ノ大

ナルモノハ二萬小把ヲ取ルヘク(其小把ハ之ヲ概ニシテ約一合ア)而シテ價格ハ七八拾圓ナリト云フ

(三)水田

(イ)總説 水田ハ番語ニ「サヌ」ト云フ土語ノ田ト云フノ通用セルナリ 本族ノ耕地ハ元來畑ニ限レリ然ルニバリジヤお番ノ一部ニ於テハ早ク漢人ニ倣ヒテ水田ヲ作レリ近年ハ官府ノ獎勵ニ依リ山脚ニ近キ他ノ番社ニ於テモ漸ク之ヲ試ムル者アルニ至レリ

ぱりじヤお番ニ於テ水田一枚ヲ「イタカサヌ」ト云ヒ其相連レル一城ヲ「イタタリバチ(田)」ト云フ其廣狹一定セス連田ノ大ナルモノハ約零甲七八分(一甲ハ我國一町歩)モアルヘシ

(ロ)水田ノ價格 水田ノ收穫ハ一甲歩ニ付約十二三車ノ穀穀アリト云フ而シテ此ノ一車ニハ十布袋ヲ載スヘク一布袋ニハ約四斗ヲ容ルヘキヲ以テ一甲歩ニテ約五十石(其半額)ヲ得ヘキ割ナリ 何レノ社モ水田ノ價格ニ付其標準定ラスサレト高士佛社ニ於テ現時水田一甲歩ハ苗約八百株ヲ植付クヘク而シテ其價ハ八十圓程ナリト云フ

(四)林野 森林ハ番語ニテ「ブキド」又ハ「カシカシ」(樹木ノ群生)ト云ヒ草原ハ「ツンツムル」(草ノ群生)又ハ「コボジ」(茅山)ト云ヒ其不毛ノ地タル岩地ヲ「ジヤバル」小石原ヲ「チャチャタルヤヌ」ト云フ但ぱりじヤお番ニ於テハ未タ一度モ開墾シタルコトナキ地ハ凡テ之ヲ「ラルク」ト云ヘリ

番界内ノ林野中ニハ斷崖ニシテ開墾スルコトヲ得ス已ムヲ得ス其儘ニシ來レルモノアリ又舊社ノ址變死者ノ埋葬地其他迷信ニ因テ開墾ヲ禁シ自然ニ保護林ト爲レルモノアリ

(五)河沼 溪流ハ番語ニテ其大ナルモノヲ「バナ」其小ナルモノヲ「ブジロアヌ」ト云ヒ池沼ハ之ヲ「ラユ」ト云フ而シテ溪底ノ石原ヲ「カボラタヌ」又ハ「カアサヌ」ト云フ

第二 土地ニ關スル物權ノ種類

本族ニ於テモ土地ニ關スル物權 (一)其普通ナルモノヲ所有權ナリトス 此外ニ(二)永借地權ヲモ物權中ニ加フルヲ得ヘシ此ハ宅地耕地ニ設定セラレ廣ク第三者ニ對シ其效力ヲ有スルモノナリ (三)ぶつる番内ノ下バイワヌ及カザラヌノ兩社ニ於テハ「トバリバリン」ト稱スルモノアリ其性質一種ノ地上權ヲ以テ目スヘシ (四)近時ぱりじヤお番ニハ漢人ニ對シ水田ヲ抵當ニシテ銀貨ヲ貸付クル者アリ此ハ從タル物權トシテ目スヘキモノナリ

第二項 土地所有權

第一目 總説

(一)通説 本族ニ於テ土地ノ大部分ハ頭人家ノ所有ニ屬ス即(二)山林溪流等ハ全ク頭人家ニ屬ス(三)耕地モ大半ハ頭人家ニ屬ス番社ニ依テハ耕地ト雖モ悉ク頭人家ノ所有ニ屬シ平民ニ屬スルヲ許ササルモノモアリ

(二)各番社ニ於ケル實例 今重ナル番社ニ付キ耕地ノ所有サルル状態ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ)るかい番 (一)サボカヌ社ニ於テハ耕地モ大半ハ兩頭人家ノ有ニ屬シ唯少許ノ地ガ五家ノ世襲補佐役及數十戸ノ平民ニ屬スルノミ此内世襲補佐役家ハ何レモ頭人家ノ分派ニシテ其ヨリ土地ヲ分與セラレタルモノ又平民家ハ何レモ頭人家ヨリ豚番布等ヲ以テ買入レタルモノナリト云フ (二)ダデルタラマカウ兩社ニ於テハ平民家ニシテ耕地ヲ私有スル者アリ何レモ頭人家ヨリ豚ヲ

以テ買得シタルモノナリト云フ

(ろ)らばる番 本番域ニ在ル土地ハ (一)北部ニ於テハ悉クトバサイ社頭人ズマララト家ノ所有ニ屬シ平民家ノ私有ニ屬スルモノナシ (二)南部ニ於テハ大半ハバリヤス社頭人タジマラオ家ノ所有ニ屬ス同社ノ世襲補佐役家及平民家モ同社域内ニ自己ノ宅地ノ外若干ノ畑地ヲ私有シ尙ホ上バイワス、タクブル、キヌジヤロアヌリニバヌサカラヌノ諸社ニ多クノ畑地ヲ有ス而シテ他社ニ在ル畑地ノ農租ハ地主タル者自往テ之ヲ取ルト雖モ其中上バイワストクブル兩社ニ於ケル借耕者ハ容易ニ農租ヲ納レサルヲ以テ地主ハ大頭人タジマラオ家ニ委シテ之ヲ取ル從テ此等ノ畑地ノ農租ノ過半ハ大頭人家ニ取リ小地主ハ大頭人家ヨリ其内ノ少部分ヲ受クルニ過キスト云フ

(附記)バリヤス社世襲補佐役チムルサイカザギザヌニ就キ同社ノ平民家ニシテ畑地ヲ有スル者ノ重ナルヲ調査シタルニ バイリボン、バブルカヌハバイワストクブル兩社方面ニ三十枚、サカラヌ社ニ二十枚リニバヌ社ニ十枚ノ畑地ヲ有シクルル、バラブラヌハバイワストクブル兩社方面ニ十枚ヲ有シ、チャマロ、マジリンハバイワストクブル兩社方面ニ五枚、サカラヌ社方面ニ八枚ヲ有シ其他何何ハ何所何所ニト若干人ヲ擧ケタリ 右ノ如クバリヤス社民ノ多數ハ皆其社域内ニ自己ノ畑地ヲ所有スルノミナラス其中ノ或者ハ他社ニ迄(悉ク大頭人家ノ領域)モ之ヲ有スルニ同社外ノ黨民即リニバヌ、サカラヌ、上バイワストクブルノ四社民ハ一モ土地ヲ所有スルコトナク悉ク他人ノ地ヲ借耕シツツアリ如何ニシテバリヤス社民ノ多クガ畑地ヲ所有スルニ至リシヤ其由來ハ審ナラスト雖多分ハ最初此ニ社ヲ定メシトキ大頭人家ヨリ分配ヲ受ケタル

モノナルカ又ハ其後ニ至リ大頭人家ヨリ買得セシモノナルヘシト思ハル而シテ同社外ノ四社ニ於テハ今尙土地ヲ私有スル者アラサルハ蓋シバリヤス社民ガ土地ヲ社外ノ民ニ賣與スルコトヲ欲セサリシニ因ルナルヘシ

(は)ぶつる番 本番中多クノ社ニ於テハ土地ハ概シテ頭人家ノ所有ニ屬ス タラバザジ、チムル、マヌル、ダラダライ、マシリジ(北漢縣)、バイルス、プユマ、クワルス、ブンテー、カビヤカヌノ諸社ニハ平民家ニシテ土地ヲ私有スルモノ殆之ナク土地ハ悉ク頭人家及準頭人家ノ所有ニ屬ス マカザヤザヤ社ニ於テハ僅ニルカイ、バクダバイト云フモノガ五六枚ノ畑、カルライ、タリ、バタヌガ三四枚ノ畑ヲ有スルノミ 下バイワス社ニ於テハカバイワス(原社)ヨリ移來リシ社民ハ概シテ祖先ヨリ傳來セル二三枚ノ地ヲ有シ此外ニモ頭人家ヨリ買入レタルモノアリ カザザラヌ社ニ於テハ土地ノ賣買自由ナリ從テ平民家ニシテ土地ヲ私有スル者ハ少カラヌ

(に)北ばいわぬ番 クナナオ、バイルス、チブツカダヌリ、キリキ、コワバル、スボン等ノ諸社ニ於テ土地ハ悉ク頭人家ノ有ニ屬ス チヤジャカブス、ボカリド兩社ニ於テハ平民家ノ土地私有ヲ許ス然レトモ平民家ハ山林溪流等ヲ有スルコトナク僅ニ少許ノ畑地及部落地ヲ有スルニ止マル

(ほ)こぼじ番 土地ハ概シテ頭人家ノ有ニ屬ス唯(一)内文社民ノ内ニ祖先以來僅少ノ土地ヲ所有スル者二三ト(二)草山社ノ代管コブリン、コンブジ兩家ノ祖先ガ其領地ヲ大頭人チュールン家ニ與ヘシ際其幾分ヲ自己ニ保留シタルモノアルノミ

(附記)十數年前遭難セル外國船ノ楓港ノ南ノ海岸ニ打上ケラレタルコトアリキ之ヲこぼじ番マジカオ社ノ番丁ルジ、チャウルイト、ぱりじ、お番サブデク群社ノ頭人マルチ、ク、チ、カ、ア、クノ兩

人ガ發見シテ其鐵器ヲ分配スル約ヲ爲シタルニ其後マルチユクハ全部之ヲ己ニ取テルジニ分配セサリシカハルジ怒テ同家ノ領地タルチヨワバオヲ占領セリ然レドモルジノ屬スルこぼじ番ニハ番丁ノ土地所有ヲ許ササルヲ以テルジハ其土地ヲ同人ノ頭人タル内文社ノチヨールン家ニ歸シ其代リニ同家ヨリ農租及獵租ノ一部ヲ受クルコトトセリト云フ

(ハ)ばりじやお番 諸社ニ於テハ土地ハ悉ク頭人家ノ有ニ屬ス唯高士佛社ニ四家ノ世襲補佐役ガ頭人家ヨリ分與セラレタル耕地及部落地ヲ有スルコトアルノミ

(附記)近來牡丹、高士佛、八瑤、加芝來諸社ニ於テ社民ガ新ニ水田ヲ開キタルトキハ其土地ガ本來頭人ノ所有ナルニ拘ハラズ其者ハ其水田ニ付キ所有權ヲ取得スト爲ス者アリ然レトモ是ハ所有權ヲ得タルニ非ス單ニ其ノ永借耕權ヲ得タルニ過キス即チ新ニ未墾地ヲ開墾シテ畑ト爲シタル者ガ其永借耕權ヲ得タルト同一ノ理ナリ唯畑地ニ付テハ農租ヲ地主ニ納ムルモ此ノ水田ニ付テハ現時其農租ヲ納レサルヲ以テ頗ル奇異ノ觀ヲ呈スト雖モ是ハ理番當路者ガ水田ノ開設ヲ獎勵スル爲ニ施シタル便宜ノ處置ニシテ決シテ本族固有ノ慣習ニ照シテ然ルヘキニ非サルナリ本族ノ慣習ヨリ論スレハ水田ノ開墾者ト雖モ當然其農租(其額ノ多少ハ知ラ地主タル頭人ニ納メサルヘカラサルモノトス)

第二目 土地所有權ノ得喪

第一 總說

本族ニ於テ土地所有權ハ先占、契約、相續、侵略及遺棄ニ因テ之ヲ取得シ又ハ喪失ス 相續ニ關スルモノハ後章相續ノ部ニ讓リ茲ニハ其他ノモノニ付テ說述スヘシ

(附記)既ニ述ヘタルガ如ク本族ノ相續ハ長子相續ナルヲ以テ(一)土地ガ相續ニ因テ數人ニ分割セララルコトナシ(二)又男女共ニ相續權ヲ有スルヲ以テ一家ノ相續人タル男ト他ノ一家ノ相續人タル女ト婚姻スルトキハ兩家ノ土地ハ其夫妻ノ間ニ生マレタル嗣子ニ依テ合一セラレヘシ此種ノ婚姻ガ數代ニ亘リテ反覆セララルトキハ數家ノ土地ハ次第ニ兼併セラレ一人ニシテ廣大ノ土地ヲ所有スルニ至ル、ぶつる番マカザヤザ社大頭人ヲウツ！パブルガヌ及同番クワルス大頭人ヲカルカザヤヌノ如キハ其著シキ例ナリトス

第二 先占

(一)總說 無主ノ地ハ先占ニ因テ其所有權ヲ取得ス 今日殆ト無主ノ地ト稱スヘキモノナシサレト古代本族ノ祖先ガ現時ノ社ニ分住セシ時代ニハ至ル所ニ之アリシナルヘク今日各社ノ頭人家ガ所有スル土地ハ蓋シ其時代ニ祖先ガ先占セシモノナルヘシ

(二)先占ノ方式 ガ古代如何ナリシカ今日ニ於テ明カナラサルモ多分居住開墾、狩獵等事實上ノ占領ヲ爲シタルシナルヘク而シテ他ト其界ヲ爭フ虞アル所ニハ石ヲ植エテ其境界ヲ表示シタルシナルヘシ 北ばいわぬ番リキリキ社ニ於テ頭人カザヤヌ家ハジャコジャコツ家ヨリ後ニ來住セシ者ナルニ其領有スル地域頗ル廣ク東方大樹林山ヲ經テばかり番ノクワルン社ニ達セリ之ニ付キ其黨ノ老番ハ語テ曰ク是唯頭人家ノ祖先ガ能ク廣ク山野ヲ踏破シ此山モ我山彼ノ山モ我山ト社衆ニ對シテ宣言シ後日他黨ノ者ガ其所ニ狩獵シタル時ハ必其者ヨリ獵租ヲ取リタルニ因ル而シテ別ニ占領ニ付キ標識ヲ爲シタルヲ聞カスト こぼし番内文社頭人チヨールン家ガ同頭人ロバニヤウ家ヨリ後ニ來リ却テソレヨリモ廣キ領地ヲ有スルハ亦同家ガ能ク彼地此地ヲ跋涉シテ之ヲ

自領ナリト宣言シタルニ因ル。但シ内文社及其近方ノ土地ハロバニヤウ家ト立會ヒ其地界ヲ定メ
タリト云フ

第三 優略

相隣セル兩黨ノ土地ハ相互ノ侵略ニ因リ其境域ヲ伸縮ス。本族ノ一黨ト漢人部落ト相仇視スル場
合亦同シ。但シ侵略ニ因テ得喪シタル土地ハ他日兩者ノ講和ニ依リ再ヒ舊主ニ復歸スヘキガ故ニ
眞實地主權ノ移轉スルハ其講和ノ交渉ニ於テ侵略セラレタル一方ガ他ノ一方ニ對シ明ニ其土地
ヲ割讓スヘキ意思ヲ表示シタルトキニ在リトス。然レドモ一方ガ侵略ヲ排除スルノ武力ナク年月
久シキニ至レハ別ニ割讓ノ意思ヲ表示セストモ其儘他ノ一方ニ歸スルナリ。こぼシ番キナジャン社
ノ地ハ元來コソバル社頭人ソレナク家(代理頭人ワラ)ノ領ニシテ内文社大頭人ロバニヤウ家ノ部
下カ借耕セシモノナルモ或事由ニ因リロバニヤウ家之ヲ橫領シ農租ヲ致サス今日ハ全ク同家ノ
所領地ト爲リタルガ如キ又ばりじお番サブデク群社ノ家新路方面ヨリ西方平地ニ至ル一帯ノ地
ハ本來其隣社タル加芝來社頭人ノ所領ニシテサブデク社民ガ借用シ在リタル所ナリシモ後年或
事由ニ因リバスマク社ノ頭人家之ヲ橫領シ農租獵租ヲ己ニ取リテ之ヲ加芝來社頭人家ニ致サス
其儘續テ今日ニ至レルガ如キ右ノ好例ナリトス

第四 遺棄

土地ハ遺棄ニ因リテ其所有權ヲ喪失ス。現時此例殆之ナシト雖モ古代ニハ多ク之アリタルガ如
シ。即或頭人家ガ新ニ地味肥エ野獸ニ富ミタル地ヲ見出シ其部下ト共ニ之ニ移住シタル場合ニ其
跡ヲ占領シタル頭人家ニ對シ最早自己ニ其ノ土地ヲ要セスト明言シタルトキハ勿論設令ヒ之ヲ

明言セストモ其跡ヲ占領シタル者ニ對シ異議ヲ述ヘサルトキハ全ク其土地ヲ遺棄シタルモノト
看做サルヘシ。こぼシ番大頭人チールン家ノ祖先ガ最初カビヤガ社ヲ發シチヤジャカブスクナナウ
チブツカダリキリキ等ノ各所ニ部落ヲ開キツ、南方ニ進ミ今日ノ内文社ニ定住シタル後チブツ
カダ社以南ニハ部下ノ一部ヲ殘シ其地ヲ守ラシメ以テ今日ニ及ヘルモ其ノ以北ノ地ハ代管人ヲ
置カス又其跡ヲ占領シタル者ニ對シテ異議ヲ述ヘス且ツ其農租ヲモ徵セサリシヲ以テ今日ニテ
ハ全ク其所有權ヲ失シテ他黨ノ領地ト爲レルガ如キハ其好例ナリトス

第五 契約

土地所有權ハ契約ニ因テ移轉ス。其重ナル事由ハ賣買、交換、贈與及賠償トス。此中ニ贈與ハ古代大
頭人家ガ子弟ヲ分封スル場合ニ行ハレタルコトアルモ今日ハ此例ナク唯頭人家間ノ婚姻ニ聘財
トシテ男家ヨリ女家ニ與フルコトアルノミ

左ニ賣買交換贈與又ハ賠償ニ因テ土地所有權ノ移轉シタル著ルシキ例ヲ示ス

- (一) 賣買ノ例 ぶつる番ノ下バイワス、カザサラス兩社及北ばいわぬノボカリド社ニ於テハ畑
地ノ賣買多ク行ハル。サレトモ其價格ニ付一定ノ標準ナシ。往時こぼシ番内文社ノトコン家ハ
同社ノ東方ナルチコワイノ地ヲ石杵一本ニ換ヘテ頭人チールン家ニ與ヘタル傳説アリ。近
クぶつる番下バイワス社ニ於テハ十數年前頭人チヤノバク・タロリバク・ハクツル・バボロ、カスニ
畑六枚ヲ豚三頭、赤毛布一枚、腰卷二枚、上衣二枚、女ノ上衣二枚ニテ賣渡シ、シムルカイ・ガラニ
畑二枚ヲ豚一頭、銀一個、小壺一個ニテ賣リ、カルス・バク・ダバイニ畑二枚ヲ豚二頭、酒一甕、綿
布二端ニテ賣リタルコトアリ。又ぶつる番カザサラス及北ばいわぬ番ボカリド社ニ於テハ

現時畑地及宅地ノ賣買盛ニ行ハレばりじ。お番高士佛社ニハ水田ノ賣買行ハレントシツツアリ。

(二)交換ノ例 土地ヲ交換スルノ例ハ稀ニ之アリ。ばりじ。お番高士佛社ニハ時ニ甲乙其水田ヲ交換スルコトアリ。此場合ニハ之ニ植付クル苗ノ數ヲ算シ其少キ者ヨリ苗百本ニ付キ十圓ノ割ヲ以テ多キ方ヘ價ヲ補貼スト云フ。

(三)贈與ノ例 ぶつる番クワルス社大頭人ハ四代前其南方ノ地ヲ弟ニ與ヘテチャコボコボジ社ヲ開カシメタルコトアリ。古代カビヤカヌ社大頭人ジグロル家ハ其近親ニ各所ノ地ヲ分與シテ其地ノ頭人トシ之ヲシテ將來毎五朝貢ノ義務ヲ負ハシメタルコトアリ。ジグロル家ヲ宗主トスル藩屬的黨ノ聯結ハ斯クシテ生シタリシナリ。古代ニ於テ内文社大頭人チュールン家ハ其領地タルブヌグウ(漢稱本露)ノ地ヲバサラコブ家ニ與ヘテ永ク其領地ト爲サシメタルコトアリ。

頭人家カ婚姻ヲ爲ス場合ニハ聘財トシテ男家ヨリ女家ニ土地ヲ與フルコトハスボン社以南ノ地ニハ行ハレサルモリキリキ社以北ノ諸社ニ於テハ今日尙盛ニ行ハレツツアリ。此レハ既ニ婚姻ノ部ニ於テ述ヘタル所ノ如シ。

(四)賠償ノ例 兩頭人間ニ於ケル或不法行爲ノ賠償ニハ土地ヲ以テスルモノ多シ。即兩黨間ニ亘ル有夫姦又ハ殺害ニ原因スル葛藤ハ概シテ土地ノ賠償ヲ以テ結局ス。此レハ既ニ社會團體相互ノ關係ノ部ニ於テ述ヘタル所ナルモ尙ホ參考トシテ左ニ二三ノ例ヲ示ス。

(1)古代ばりじ。お番加芝來社民ハサブデク社家新路ノ民ヲ殺害シタルニ因リサブデク社頭人

家ハ加芝來社頭人ノ所領ナル鯉牛山ノ北面山腹一帶ノ地ヲ占領シ後和解ニ因リ全ク之ヲ取得シタリ。同番高士佛社ガ牡丹社ヨリタリユ溪一帶ノ獵域ヲ取リタルモ亦殺害ノ賠償ナリト云フ。

(2)十數年前ばりじ。お番加芝來社頭人カザギザン家ノ當主某ハ女奶社(牡丹内)ニ於テ有夫姦ヲ犯シタルヲ以テ同社頭人ボロク家ニ賠償トシテチロバソノ地ヲ與ヘタリ。牡丹社頭人ガカヤカヤバイノ地ヲ高士佛社頭人ニ與ヘタルモ亦有夫姦ノ賠償ナリシト云フ。

(3)内文社ノ傳説ニ古代同社大頭人チュールン家ニ一ノ美人アリ。常ニ之ヲ粟倉ノ中ニ入レテ出サス人ノ來リ見ムコトヲ畏ル。同社ノ頭人バサラコブ家ノ嗣子是非之ヲ見ムコトヲ求メシニ許サス。強ヒテ請ヒシニチュールン家ハ他ノ危害ヲ虞ルトテ峻拒セシカハバサラコブ曰ク『我在リ必ス之ヲ保護スヘシ』トチュールン乃他日機ヲ見テ汝ノ家ニ遣スヘシト約シヌ。後日バサラコブ家芋ヲ植ユ。其時チュールン家該女ヲ遣シテ手傳ハシム。然ルニ彼女ガ便所ニ往キシトキ何レヨリ來リ。潛ミケンズ。かろノ壯丁跳出テ女ノ首ヲ截シテ去レリ。事チュールン家ニ聞エシニ大頭人怒ルコト甚シ。バサラコブ家即チブヌグウノ上方ナルイビスカボカヌノ地ヲ割讓シテ罪ヲ謝シタリト云フ。

第三目 土地所有權ノ效果

第一則 土地所有權ノ内容

第二段 總 說

本族ニ於テモ土地ノ所有主ハ其土地ニ付使用收益及處分ノ權利ヲ有ス。詳言スレハ

- (一)使用權 地主ハ其ノ所有地界内ニ於テ屋宇ヲ建設シ道路ヲ開キ獵場ヲ設ケ其他任意ニ其ノ土地ヲ使用スルコトヲ得
- (二)收益權 地主ハ自其ノ地界内ニ農耕養畜狩獵漁撈若ハ天產物ノ採取ヲ爲シ其他任意ニ土地ノ收益ヲ爲スコトヲ得 又地主ハ他人ニ土地ノ使用權ヲ與ヘテ其收益ノ一部ヲ取ルコトヲ得例ヘハ耕作ヲ爲ス者ヨリ農租ヲ徵シ狩獵漁撈又ハ畜養ヲ爲ス者ヨリ獵租漁租畜租ヲ取リ番界ヨリ流ルル水ヲ利用スル山脚ノ土人部落ヨリ水租ヲ取ルガ如シ
- (三)處分權 地主ハ任意ニ其土地ヲ有償若ハ無償ニテ之ヲ他ニ讓與スルコトヲ得

第二段 地料

第一落 通説

第一 總説

本族ニ於テ地主ハ其土地ヲ使用收益スル者ヨリ定期又ハ臨時ノ使用料ヲ取ル茲ニ之ヲ總稱シテ地料ト爲ス 現時本族ニ存スル地料ニハ農租獵租漁租畜租山工租通行租水租及交換租ノ八種アリ

第二 農租

- (一)農租ノ性質 地主ハ毎年其土地ヲ耕作スル者ヨリ地料トシテ收穫ノ一部即米粟芋等ヲ取ル之ヲ「カジル」又ハ「サジャ」(るかい番ニ於テ「キラウラウ」ト云フ今譯シテ農租ト爲ス)
- (二)農租ノ徵取法 農租ハ番人ヨリ取ルモノト漢人ヨリ取ルモノトニ別ツヘシ
- (三)番人ヨリ取ルモノ 此ノ取方ニ二法アリ (一)ハ借耕者ガ全ク收穫シ畢リタル後地主親シク其

家ニ至リ其收穫物ヲ檢シテ其内ノ一部ヲ取ルモノニシテはいわぬ三番ニ行ハル (二)ハ穀菜ノ既ニ成熟シタルトキ其收穫ニ先チ地主親シク其畑ニ至リ借耕者ト立會ヒ其畑地ヲ割シテ其取ルヘキ分ヲ定ムルモノニシテざりせぬ諸番ニ行ハル

農租ノ率ハ番社ニ依リ黨ニ依リ相異ル所アリ詳細ハ後落各番社ニ於ケル地料ノ部ニ説述スヘシ

漢人ヨリ取ルモノ 現時ぱりじやお番ノ一部ニ於テハ番人ニシテ平地部落ニ水田ヲ所有シ之ヲ漢人ニ貸與シテ毎年其租穀ヲ取ル者アリ其率附近民庄ニ行ハルモノニ同シ 又北ばいぬ番ブツンロク社ハ祖先ガ平地ニ在リタル時ニ所有セシ土地ヲ現ニ耕作シツツアル庄民(前譯庄、カナ、カナ庄ノ如シ)ヨリ農租ヲ取ル庄民ハ之ヲ番租ト稱ス

第三 獵租

- (一)獵租ノ性質 地主ハ其所有地内ニ於テ狩獵シタル者ヨリ其獵獲物ノ一部ヲ取ル之ヲ「パデス」(るかい番ニ於テ「スワロブ」上ミリ)ト云フ茲ニ之ヲ獵租ト稱ス
- (附記)黨民ガ漁撈ヲ爲シタルトキ又ハ家畜ヲ屠リタルトキハ其肉又ハ魚ノ一部ヲ地主タル頭人ニ致ス之ヲ「モ」パデスト云フ「パデス」ハ特ニ獵租ノミナラス漁租畜租等凡テ肉又ハ魚ヲ以テスルモノヲモ指稱スルガ故ニ獵租ト譯スルヨリハ肉租ト譯スル方妥當ナルヘシ
- (二)獵租ノ徵取法 獵租ハ概シテ鹿猪羌及羊ヨリ取リ熊豹其他ノ野獸ヨリハ取ラス但シ上ざりせぬ番ニ於テハ熊ヨリ取リ羌及羊ヨリ取ラス 獵租ハ獵者親シク地主タル頭人(頭人ノ所在セサル黨又ハ代理頭人)ノ家ニ持參スルヲ例トス 獵租ノ率ハ番社ニ依リ黨ニ依リ同シカラス後落各番社ニ於ケル地料ノ部ニ之ヲ詳説スヘシ

甲頭人ノ獵場ニ於テ銃射シタル獸ガ乙頭人ノ獵場ニ至リテ倒レタルトキニ其獵租ハ何レノ頭人ニテ取ルヤト云フニ付テハ各番社其所説ヲ異ニス然レトモ其倒レタル所ノ地主ニ納ムヘシト云フモノ多キガ如シ但北ばいわぬ番ノリキリキチブツカダヌ兩社ニ於テハ射中シタル地ノ頭人ニ納ムヘシト言ヘリ

番社ノ中ニハ地主ニ非スシテ獵租ノ一部ヲ取ル者アリ是ハ最初ニ其社ヲ開キタル功勞者(下ノトカニヤ)或ハ大頭人家ノ分派ニ屬スルカ又ハ祖先ガ頭人家ニ功勞アリタルカニ因リテ特ニ其大頭人家ヨリ永遠ニ獵租ノ一部ヲ與ヘラレタル者ナリトス

第四 漁租

(一)漁租ノ性質 地主タル頭人ハ其領有セル溪流ニ於テ漁撈ヲ爲シタル者ヨリ其漁獲物ノ一部ヲ取ル亦之ヲ「バデス」(るかい番ニ於テ「スワロブ」ト云フ)ト云フ茲ニ之ヲ漁租ト稱ス 番社ニ依テハ流木ヲ拾ヒ又ハ溪底ノ石ヲ採取スル者モ亦之ヲ漁撈ニ準シテ其一部ヲ徵取スルモノアリ(ぶつる番ノ下ノパイラマ及チムル兩社等)茲ニハ此等ヲモ漁租ノ内ニ含マシム

(二)漁租ノ徵取法 漁租ハ頭人又ハ其使用人自ラ其場所ニ至リテ之ヲ取リ或ハ漁獲者之ヲ頭人方ニ持參ス 漁租ハ専ラ漁撈ヲ流シテ漁撈ヲ爲シタル者ヨリ取ルト雖モ其外ニ水ヲ堰キテ爲ス者ヨリモ之ヲ取ルコトアリ 漁租ノ率モ亦番社ニ依リ黨ニ依リテ同シカラス後落各番社ニ於ケル地料ノ部ニ之ヲ説述スヘシ

一ノ溪流ガ上流ト下流ト其領主ヲ異ニスル場合ニ於テ上流ニ漁籠ヲ流シ而シテ魚ガ下流ニ於テ捕ヘラレタルトキハ下流ノ領主其漁租ノ多部ヲ取ルト云フサレト下ノパイワヌ社ニ於テハ如此場

合ニハ漁撈者ハ其上流ニ捕ヘタルト下流ニ捕ヘタルト其魚ノ容器ヲ異ニシ領主ハ各其容器ニ就テ之ヲ取ルト云フ

第五 畜租

(一)畜租ノ性質 部落地ノ所有者(兼シテ頭人ナレトモ近時カザラヌボカリ)ハ其部落地ニ居住スル者ガ飼養セル豚ヲ殺シタルトキニ其肉ノ一部ヲ取ル若シ其豚ヲ漢人ニ賣渡シタルトキハ其價ノ一部ヲ取ル亦之ヲ「バデス」(るかい番ニ於テ「スワロブ」ト云フ)ト云フ茲ニ此等ヲ畜租ト稱ス 北ばいわぬ番クナナオチヤジャカブス兩社ニ於テハ多數鶏ヲ飼養スル者ヨリモ其幾羽カヲ取ル別ニ名稱ナキモ是モ右ノ畜租ニ準スヘキモノナルヘシ ぱりじお番ニハ牛ヲ飼養スレトモ之レヨリハ畜租ヲ取ラス

(二)畜租ノ徵取法 畜租ハ畜養者自之ヲ其地主ノ家ニ持參ス 畜租ノ率モ亦番社ニ依リ黨ニ依リ同シカラス後落各番社ニ於ケル地料ノ部ニ説述スヘシ

第六 山工租

(一)山工租ノ性質 地主タル頭人ハ其所有地内ニ産出スル木材石材竹茅等ヲ採取スル番人又ハ漢人ヨリ地料ヲ取ル其番人ヨリ取ルモノヲ「バデス」漢人ヨリ取ルモノヲ「チュマク」又ハ「バウ」ト云フ今茲ニ共ニ山工租ト稱ス

(二)山工租ノ徵取法 此ニ番人ヨリ取ルモノト土人ヨリ取ルモノトアリ左ノ如シ

(イ)番人ヨリ取ルモノ 番人ハ自黨頭人ノ山林原野ニ於テ單ニ其自家ノ建築又ハ製作ニ使用スル爲メ木石竹茅ヲ取ルコトヲ得而シテ之ニ對シ別ニ其地料ヲ頭人ニ納ルルコトヲ要セス然レトモ

他黨頭人ノ地界内ニ於テ此等ノ物件ヲ採取セントスルニハ先其ノ地主タル頭人ニ對シテ酒一瓢及少許ノ禮物ヲ納レ其許可ヲ受ケサルヘカラス。但シ社團ヲ一ニスルトキハ多クハ其ノ地料ヲ免ス。若シ上記ノ物件ヲ取り之ヲ平地ニ持出シ交換スル場合ニハ勢其品額多キニ至ルヲ以テ自黨頭人ノ領域内ニ於テ爲ス者ト雖モ其交換價銀ノ一部ヲ地主タル頭人家ニ納レサルヘカラス。而シテ此等番人ヨリ地主タル頭人ニ納ルル地料ハ之ヲ「バデス」ト云フ。是蓋シ獵獲者ヨリ取ル肉ノ一部ニ準スルモノナルヘシ。

山工祖ハ概シテ採取ヲ爲ス都度採取者ト地主トノ間ニ其額ヲ協定ス。サレト又既ニ其租率ノ定マレル番社モ亦之アリ。此モ後落各番社ニ於ケル地料ノ部ニ説述スヘシ。

(三)土人ヨリ取ルモノ 地主タル頭人ガ山脚民庄ニ在ル漢人ニ對シ自己ノ所有地域内ニ於ケル山林原野ノ伐採ヲ許ストキハ其漢人ヨリ代價トシテ織物、鐵器、銀貨其他ノ財物ヲ納レシムヘク約スルヲ常トス。番語ニテ其財物ヲ「チマク」又ハ「パウ」ト云フ。漢人ヨリ取ル山工租ハ其採取者ト地主タル頭人トノ間ニ先ツ採取地域ヲ定メ然ル後報酬物ノ品種及數額ヲ定ム。之ニ付テハ尙後落各番社ニ於ケル地料ノ部ニ説述スヘシ。

第七 通行租

(一)通行租ノ性質 地主タル頭人ハ自領ノ地界内ヲ通過スル他ノ番社團ノ民ヨリ其都度又ハ定期ニ一定ノ財物ヲ徵取スルコトアリ。之ヲ「シニバラジ」(「アナラジ」ハ來々去々ノ意故ニ「シニバラ」ト云フ今譯シテ通行租ト爲ス)

(二)通行租ノ徵取法 通行租ハ通行ノ都度其者ヨリ直接ニ之ヲ納メ或ハ毎年時期ヲ定メテ其者又

ハ其社ヨリ來納ス。若シ社團以外ノ民ニシテ此租ヲ納レスシテ通過セムトスルトキハ地主タル頭人ハ其者ノ携帶品ヲ取上ケ以テ抵償ニ充ツルコトアリ。之ガ爲ニハ屢々兩社團ノ間ニ葛藤ヲ生シ時トシテハ相殺傷スルコトアリ。

(附記)通行租ヨリ生シタル紛議一ニヲ擧クレハ 北ばいわぬ番チヤジャカブス社ニ於テ他社ノ民ガ通行租ヲ納レスシテ其社ヲ通過セントシタリトテ番帥ガ之ヲ殺シタルコト數回アリト云フ。數年前同番リキリキ社ノ某黨トチブツカダヌ社民トノ間ニハ此事ヨリ葛藤ヲ生シ相戰ハントセシコトアリ。幸ニ駐在警察官ノ調停ニ依リ無事ニ落着セリ。又大正三年るかい番ノライブアヌ社民ガ出草シテぶつる番タラバサジ社民ヲ臧首シタルハ該社民ガ交換ノ爲ニ加納埔ニ降リシトキタラバサジ社ヨリ通行租ヲ強要セラレタルヲ憤リタルニ因ルト云フ。

第八 交換租

(一)交換租ノ性質 山脚ノ民庄ニ在リテ親シク番人トノ交換ニ從事スル漢人(漢社ト)ハ毎年定期ニ其番社ノ頭人ニ對シテ織物、鐵器、貨幣其他ノ財物ヲ納ルヘク約スルヲ常トス。之ハ「バア」(之ヲ納ルルヲ取ルチ「イバア」ハ蓋シ土)「パウ」(之ヲ取ルルチ「イバウ」)又ハ「スブスン」(北ばいわぬ番ノ南部)ト云フ。茲ニ稱シテ交換租ト爲ス。

(附記)交換租ヲ以テ恰モ輸出税ニ相當スト爲スモノアリ。然レトモ是實ハ番人ヨリ取ルヘキ山工租ヲ交換人ヨリ取ルモノニシテ輸出税トハ全ク其性質ヲ異ニス。

(二)交換租ノ徵取法 此レハ毎年一回番社ノ頭人自ラ交換所ニ至リテ之ヲ取ル。其額ハ定マラス其年ノ交換高ヤ交換人ノ利益如何ニ依リ多少アリ。

第九 水租

(一)水租ノ性質 本族ニ於テ平地民庄ニ近キ溪流域ヲ所有スル頭人ハ一般ニ其水流ヲ引テ田地ヲ灌漑スル山脚ノ庄民ヨリ毎年織物、鐵器、酒、貨幣其他ノ財物ヲ取ルヲ常トス之ヲ「サジャ」(北比番ニ同「カシル」(北比番ニ同語)「チヌマク」(北比わぬ番ノ南部)又ハ「サツカス」(北比わぬ番)ト云フ今稱シテ水租ト爲ス

ぶつる番頭人ノ内ニハ井及窰ヲ所有シ其水ヲ飲用スル者ヨリ毎年一定ノ財物ヲ取ル者アリ番語ニテ之ヲモ「カシル」ト云フ茲ニハ亦水租ノ中ニ算ス(此例僅ニマカザトサヤ、グソルス)及ツツラマノ番社ニ之アリ
(二)水租ノ徵取法 水租ハ概シテ頭人ト民庄トノ間ニ豫メ其年額ヲ定メ置キ頭人民庄ニ至リテ之ヲ取ル民庄ニ於テハ前以テ各戸ヨリ其水租ヲ徵集シ之ヲ以テ番人需用ノ物品ニ換ヘ當日之ヲ其頭人ニ渡ス。水租ノ額ハ後落各番社ニ於ケル地料ノ一部ニ於テ説述スヘシ

第二落 各番社ニ於ケル地租

第一 上りせぬ墩仔社

- (一)農租(番語シヨ) 頭人ハ親シク部下ノ各戸ニ就キテ之ヲ取ル。一戸ヨリ米一「ブチユカ」(約五合)ヲ取ル。粟、芋、樹豆等ハ之ヲ取ラス
- (二)獵畜租(番語ボソ) (一)獵租ハ鹿、猪及熊ヨリ取ル。每頭後脚ノ上腿内側ノ肉ヲ取ル。此ハ大頭人(主)取テ他ノ三小頭人ニ分ツ。羌及羊ヨリ獵租ヲ取ラス。(二)畜租ハ豚ハ其局所ヲ選ハス。單ニ一塊ノ肉ヲ取ル。(三)漁租ハ獲物多ケレハ五六尾少ケレハ一尾ヲ取ル。此ハ頭人方ニ持參ス
- (三)雜役 黨民ハ頭人ノ爲ニ薪ヲ取リ又ハ水ヲ汲ム。頭人之ニ對シテ唯酒食ヲ與ヘテ勞ヲ慰スルノミ。

第二 同番万斗龍社

本社ハ親シク調査セストナ社民ノ語ル所ニ依テ記ス

- (一)農租 ハ一切之ヲ取ラス
- (二)獵畜租 (一)獵租ハ鹿、猪、熊ニ付キ其後脚一本ヲ取ル。此ハ地主タル大頭人之ヲ取リ其少部ヲ他ノ二小頭人ニモ分與ス。(二)畜租ヲ取ラス。(三)漁租ハ審ナラス

第三 同番芒仔社

- (一)農租 地主タル頭人ジバン家社内各戸ニ就キ米、粟、各一「ブチユカ」(約五合)ヲ取ル
- (二)獵畜租 (一)獵租ハ地主タル頭人其所有地ニテ獵獲シタル者ヨリ鹿、猪、熊ニ付後脚前脚各一本ヲ取ル。(二)畜租ナシ。(三)漁租ハ溪流ノ領主タルタブラ家ノミ之ヲ取ル。其割合墩仔社ニ同シ
- (三)通行租(番語ソ) 頭人中ノダリヤン家ノミ之ヲ取ル。凡士人若ハ平埔番ノ當社ヲ通行スル者ハ必ス綿布一端若ハ二端ヲ同家ニ納ムヘキモノトス

第四 るかい番サボカ又社

- (一)農租 (一)粟ハ穗ヲ摘ミタル後頭人親シク畑ニ就キ其把數ヲ算シ約十分ノ一ヲ取ル。(二)芋ハ一畑ニ付キ親芋五株ヲ取リ乾芋ハ一戸ニ付一籠(カジャ)ヲ取ル。(三)薯、土豆、樹豆及稗ハ取ラサレトモ臨時必要ニ應シ各戸ニ往テ取ル。其量定マラス
- (二)獵畜租 今之ナシ。其理由トシテ社民ノ語ル所ハ左ノ如シ「往昔ハ當社ニ於テモ獵獲物ノ一部ヲ

頭人家ニ納メタリ。然ルニ或時頭人部下ノ番婦ヲ強姦シ之ガ爲ニ其婦ガ死亡シタリ。番丁等怒リ悉ク大浦庄ニ向テ去レリ。頭人其罪ヲ謝シ爾來獵租、畜租ヲ免スヘシトノ條件ニテ歸住セシムルコトヲ得タリ。此ヨリ當社ニ於テハ獵租及畜租ヲ納ルルコトナシト此說ニ對シ或者ハ曰ク「當社ニ於テハ若シ他社ニ對シテ罰財ヲ出ササルヘカラサル場合ニハ頭人モ番丁モ同様ニ其割前ヲ負擔ス。故ニ當社ノ頭人ニハ平素獵租ヲ取ルノ權ナシトサレト是實ハ事ノ因果ヲ倒ニシタル說ナリ。即頭人ハ獵畜租ヲ取ラサル故ニ他社ニ對スル罰財モ已獨ニテ負擔セサルナリ。罰財ヲ負擔セサルガ故ニ獵畜租ヲ取ラサルニ非サルナリ」

第五 同番アテル社

(一)農租 (一)粟ハ各戸ヨリ毎年二大把ヲ取ル (二)芋ハ各戸ヨリ五株、乾芋ハ一「チブン」(淺)ヲ取ル (三)樹豆及藜ハ收穫多キトキニ限テ各戸ヨリ一「カジヤバル」(籠)ヲ取ル
(二)獵畜租 (一)獵租ハ鹿又ハ猪ヨリ每頭前脚若ハ後脚ノ一ノ上腿半部ヲ取ル (二)漁租及畜租ハ古來之ナシ

第六 同番キアラ又社

(一)農租 ナシ其代ハリニ (一)全社番丁ハ共同シテ頭人ノ爲ニ一ニ枚ノ畑ヲ耕作シ其收穫ヲ與フ。此法ヲ「キヤル」ト云フ。此ハ共同耕作ノ義ナリ (二)又番丁等ハ酒食ヲ作りタルトキハ必先ツ頭人家ニ持往キテ之ヲ贈ル

(二)獵畜租 ナシ其代リニ獵獲多カリシトキ又ハ家豚ヲ屠リタルトキハ頭人ヲ招キテ之ヲ饗應ス (附記) 當社ニハ頭人ノ地所ト稱スヘキモノナシ。等シク是社民ノ共同所有ニ係ル。蓋シ古代當

社ノ地域ハ「サボカ」社頭人ノ領域ナリシモ或ル事情ニ因リ社民ハ該頭人ニ反抗シ爾來諸種ノ地料ヲ納メサルニ至リシナリ

第七 同番アダイ社

(一)農租 ナシ其代リニ粟ノ收穫後各戸ニ於テ酒ヲ作りタルトキ頭人タルズマララト、ダラバヤ、ライバンノ三家ヲ招テ饗應ス。但シ「ヒル」部落ノ民ハ頭人「パボロカ」家ノミヲ招キ、又カラモチサノ民ハ頭人「ズマララト」家ノミヲ招キテ饗應スト云フ

(附記) プダイ大社及其附近ノ地ハモトキラン社頭人カラバヤ家ヨリ借入レタルモノナルヲ以テ社民ハ毎年粟祭ノ後酒ヲ醸シテ其地主タルカラバヤ家ヲ招待シタリ。然ルニ後ニ至リ兩社ノ間ニ紛争ヲ生シ終ニ同地主ハ全ク「プダイ」社頭人「ズマララト」家ノ有ニ歸セリ。其時同頭人ハ番丁ヨリ新ニ農租ヲ徵取セムトセシニ番丁等怒テ悉ク他ニ去ラムトセリ。頭人恐レテ強テ之ヲ主張セス單ニ收穫後番丁等カ酒ヲ作りタル時其饗應ヲ受クルニ止メ以テ今日ニ及ヘリ。カラモチサノ地ハモト「ダデル」社頭人ノ領ニシテ此地ヲ耕作スル者ハ毎年同社頭人ヲ饗應シタリシガ其後此ノ地ガ或事由ニ因リ「プダイ」社頭人「ズマララト」家ニ歸スルニ至リ爾來同頭人家ヲ饗應スルコトト爲リ以テ今日ニ至ル

(二)獵畜租 (一)獵租ハ「プダイ」大社及ヒカバラヤ、小社ノ民ニ在リテハ「ズマララト」ライバン、ダラバヤ、パボロカ、四頭人家ニ少許ノ肉ヲ致ス (何レカ其内ノ一家ニ致セハ) 又カバダナ、及カナモチサ、兩小社ノ民ニ在リテハ其他ニ在ル小頭人家 (何レモ大頭人「ズマララト」ニ致ス) (二)畜租ナシ (三)漁租ナシ。他社ノ者ガ當社ノ溪域ニ漁獵シタルトキハ當社民中誰ニテモ見付ケタル者其獲物ノ幾分ヲ取ルト云フ

第八 同番タテル群社

(一)農租 ハ何レモ各戸ヨリ取テ畑ヨリ取ラス其割合ハ (二)粟ハ各戸ヨリ一小把ツツ取ル稗ハ之ヲ免ス (三)芋ハ五株乾芋ハ一「カジャバル」籠ツツ (三)樹豆ハ半「カジャバル」ブツヲ取ル (四)藜及蕃薯ハ頭人其欲スルトキ番丁ノ畑ニ往キテ之ヲ取ル (五)薪ハ社民取テ頭人家ニ送ル

(附記) 古來ブダイ群社ノ民ガ當社頭人家ノ地ヲ耕作スルトキハ其農租ヲ致サス故ニ當社頭人家ハブダイ社民ニハ土地ヲ貸耕セスブダイ社民ガ耕作ヲ望ムトキハ之ト共同耕作スルノ法ヲ取ル其法初作ハ粟又ハ稗次作ハ芋又ハ藜三作ハ粟又ハ稗ニシテ粟稗ハ之ヲ平分シ芋藜ハ全ク相手方ニ與フ但シ地主ハ多ク働カスト云フ

(二)獵畜租 獵租ハ猪(既ニ齒ノ生)鹿(既ニ角ノ生)ヨリ後肢ノ上腿一本ヲ取ル但シタラマカウ社頭人ルラデン家ニハ獵場ナク同社民ハ悉クダデル社頭人マバリユ家ノ獵場ニ於テ狩獵ス此場合ト雖モ尙ホ獵租ハ自己ノ頭人家ニ納ル是蓋シ兩頭人家ノ祖先ハ兄弟ニシテ其間ニ右ノ如キ申合ヲ爲シタルニ因ル (二)漁租ハ籐漁ノトキニ限リ漁獲者ヨリ少許地主タルダデル社頭人マバリユ家ニ與ヘ同家ヨリタラマカウ社頭人家ニ其一部ヲ分與ス是溪流ハマバリユ家ノ有ナルニ因ル他社ノ者ガ漁獵スルトキハ取リタル魚ヲ集メ其中ヨリ一人ニ付キ最大ナル魚一尾ツツヲ取ル (三)畜租 ナシ

(三)通行租 平地人又ハ平地近クノ番社ノ民ガ當社ヲ經テ更ニ與社ニ赴クトキハ當社人ニ對シ布疋其他ノ品物ヲ納ム但與ノ番社ヨリ當社ヲ經テ平地若クハ平地ニ近キ所へ出ツルトキハ之ヲ要セス是恐クハ當社頭人カ與番ノ威力ヲ恐レテ敢テ之ヲ取ラサルニ因ルナルヘシ

第九 らはる番バリヤヤ大社

(一)農租 當社ニハ別ニ農租ナシ唯收穫ノ後平民ハ當社ノ大頭人及六家ノ補佐役ヲ招キテ饗應スルノミ

(二)獵畜租 (一)獵租 畜租ハ獸ノ後肢ノ上腿ヲ取リ大頭人及補佐役家ニ分配ス但シ分配ニハ煩雜ノ規例アリ(二)漁租ハ悉ク頭人タリマラオ家ニ取ル是溪ノ全部ガ同家ノ領ニ屬スルニ因ル其額ハ定マラス大漁ナレハ多ク取リ小漁ナレハ少シク取ル

第十 北ラバル群社

トバサバサイ社ハ同社頭人ズモララト家ノ領ニ屬シリニバサカララノ兩社ハトバサバサイ社頭人ズモララト家及バリラヤ社頭人タジマラオ外世襲補佐役六家及若干社民ノ所有ニ屬ス

(一)農租 タジマラオ家及ズマララト家ノ領地ハ頭人親シク其部下ノ畑ニ就キ粟一穗芋一小籠藜一箕ツツヲ取リ米ハ畑ノ大小ニ應シ一大把乃至十大把ヲ取ル此レハ小作人毎年酒及餅ト共ニ持シテ頭人家ニ至リ納ム 他ノ六世襲補佐役家ハ親シク畑ニ至リツムクツク(挿茅ノ法)ヲ行ヒ二分シテ一半ヲ小作人ノ所得トシ他ノ一半ヲ取テウサイ(地共作)ト爲シ更ニ之ヲ二分シテ其一ヲ取ルサレトモ小作人ヲ愛憐スルノ意ヨリ自己ノ分ヲ少クス故ニ收穫總額ヨリ見レハ地主ノ所得ハ約六分一ナルヘシ 平民家ノ所有地ヲ借耕スル者ハ農租ヲ納レス毎年收穫ノ後地主ヲ招キテ饗應スルノミ 現時大頭人タジマラオ家代テ之ヲ取リ其幾分ヲ地主ニ返スト云フ サカラ社ニ於テハ平民家ト雖モ其地ヲ貸シタルトキハ往テ農租ヲ取ルコト頭人家ノ如シ

(二)獵畜租 猪鹿菟及ヒ家豚ハ每隻其四肢ノ一腿ヲ取ル

第十一 ぶつる番トケフル外ニ社

上バイワ社ハらばる番ナレトトケフル、キジヨアスト其地料ヲ同シクスルヲ以テ此ニ合説スルコトトセリ

(一)農租 此三社ノ民ハ悉クバリラヤ及タラバサジ兩社頭人家ニ屬スル畑地ヲ耕ス故ニ租穀ハ右兩社ノ頭人家ニ納ル其割合ハ (一)バリラヤ社タジマラオ家ニ對シテハ米ハ一畑ニ付キ一穗ノ割ニテ毎年收穫ノ後持行ク豊作ナルトキハ酒ヲモ持參ス粟稗樹豆芋藜等ハ其ニ農租ナシ (二)タラバサジ社ノバクダバイタルジアルム兩家ニ對シテハ米ハ一畑ニ付キ穗付ナラハニダレン(把)稗ナラハ一カジャバル(籃)生芋ハ五個ヲ納ル其他ノ作物ハ租ヲ要セス

(二)獵畜租 (一)當三社ノ民ハ東ハラブア社東北ハバリラヤ社西ハトバサバザイ社南ハタラバサジ社等ノ頭人家ノ領地ニ於テ狩獵ヲ行フガ故ニ獵租ハ其狩獵シタル地域ノ頭人家ニ納ル但シ當社民ハ途中彼等ノ社民ニ會スレハ獲物ノ幾分即チ鹿ナラハ角猪ナラハ臀部骨付ノ肉ヲ與フヘキモ會セサレハ與ヘスト云フ (二)畜租ナシ

第十二 同番マヌル群社

(一)農租 (一)粟及稗ハ頭人又ハ黨老親シク畑ニ往キ地ノ一部ヲ割シ(芽サ)ウサイ(地共作)ト爲シ更ニ之ヲ折半シ其一部ヲ取テ租ト爲ス其割合全收穫ノ約十分ノ一ニ當ル (二)芋ハ一畑ヨリ四株ヲ取リ尙乾芋ハ全戸ヨリ一カジャバル(約徑八寸ノ淺キ籃)ヲ取ル (三)樹豆落花生ハ畑狭ケレハ之ヲ免シ廣ケレハ一カジャバルヲ取ル此ハ耕作者自ラ頭人方ニ持行ク

(二)獵畜租 (一)猪鹿等ノ獵租ハ脚ノ上腿一本ヲ取ル但マヌル社ノ領域ニ於テハ之ヲ三頭人家ニ平

分ス是ハ古代頭人家ノ申合ニ依リ其領域ガ何レノ頭人家ニ屬スルヲ問ハサルナリ (二)豚ヲ屠リタルトキハ肝胃及肺等ノ内臟ヲ取ル (三)本社頭人ニハ漁獵ヲ爲スヘキ溪流ヲ有セス隘藜溪ニテ籐漁ヲ爲スニハ下バイワス社民ト合同ス而シテ漁租ハ溪ノ領主タル下バイワス社ノアボロ家ニ與フ其割合定マラス豫メ之ヲ通知スルニ因リ當日同家ヨリ來取ル (三)通行租 古代ニ之アリタレト今ナシ古ハマボカン社ヨリ毎年織物一二端ヲ頭人家ニ取リタリト云フ

(四)交換租 會テ頭人ハ平地ノ交換人ヨリ二回許リ之ヲ取リタルコトアリト云ヘト其額審ナラス

第十三 同番チムル社

(一)農租 (一)粟一畑ニ付キ一大把ヲ取ル (二)稗ハ一戸ニ付キ四(食指ト母指ニテ)イデ(作リタル小把)ヲ取ル (三)芋ハ一畑ニ付キ生ナラハ四株乾芋ナラハ一カジャバル(籃)ヲ取ル (四)其他キカブル(贈與ヲ受クルノ義)ト稱シ部下ノ各戸ヨリ落花生ハ一小カジャバル樹豆ハ手ニ一杯ヲ取ル藜及藜ハ之ヲ免ス

尙當社ニ於テブリダンバツクルズマララトノ三頭人家ハルロアン家ノ部下ノ各戸ニ對シキカブルト稱シ乾芋落花生ハ一小カジャバル樹豆一ブツクル番藜又ハ番藜(一カジャバル)ヲ取ル蓋ルロアン家ノ部下ハ元悉ク右三家ノ部下タリシヨルロアン家ガカツダスニ社ヲ開キタルトキ之ヲ招テ己ノ部下ト爲シタルニ因リ此等ノ部下ハ舊頭人ニ對シカブルヲ納ルル義務ヲ負フナリ

(二)獵畜租 (一)獵租ハ猪ハ上腿一本ヲ取ル尙ズマララト家ハルロアン家ノ地内ニテ獵獲シタル獸ノ前肢上腿ノ肉少部ヲ取ル是最初同家ガ來テ社ヲ開キ後ニルロアン來リタル故ニ之ニ對シテ敬

意ヲ表スルナルヘシト云フ當社ノ地域ハ山淺クシテ鹿ノ獵獲ナシ故ニ之ニ關スル獵租ナシ(一)畜租ハ豚ニ付キ其肝ト腸トヲ取ル(三)漁租ハ領主タルブルダン、バチクル及ルロアン家ニ之ヲ取ル漁獲ノ多少ニ拘ハラズ其中ニテ最大ナル魚三隻ヲブリダン家ニ取リ其内ヨリ他ノ二家ニモ分ツ隘藜溪ハ右三家ノ有ナリ故ニ對岸マシリジ社ニ於テ漁獵ヲ爲サント欲スルトキハ先ツ當社ニ來リテ其旨ヲ右三家ノ一ニ通知セサルヘカラス然レトモ現時ハ三家ノ代表トシテトボ・バツクルナル者マシリジニ在リ故ニ同社ノ民ガ漁獵ヲ爲スニハ當社ニ來リ通知スルヲ要セス此ノトボニ告クルヲ以テ足ル

(三)水租 每年山下ノ民庄西瓜園隘藜舊庄大路關高郎々等ノ各庄ヨリ煙草二箱、織物三端程ヲ取リ又シンタン、蕃仔藜、浮圳鹽埔ヨリ同様ノ器ヲ少許取リタリ此ハブリダン家ニ取リテ他ノ三頭人家モ分與ス

(四)山工租 ルロアン家ノ部下ガバツクル家ノ山ヨリ屋根ヲ葺クニ用キル石板ヲ取リタルトキ又ハマシリジ社民ガ隘藜溪底ノ石ヲ取ルトキハ十枚ニ付キ一枚ノ割ヲ以テバツクル家ニ山工租ヲ納ル

(五)通行租 奥番ヨリ當社ヲ通シテ平地ニ往來スル者ヨリ之ヲ取ル其品ハ酒、檳榔子等ニシテ定額ナシ若シ織物ヲ持行き又ハ持來ルトキ多ケレハ一端少ケレハ半端ヲ取ル此ハブリダン及ヒズムヲラトノ兩頭人家ニ取ル但シブリダンハ其一部ヲバチクル家ニ分ツ

(六)交換租 毎年一回平地ノ番產交換人ヨリ織物、酒、檳榔子、煙草等ヲ取ル交換人ノ設ケラレサリシ以前ハ新隘藜、舊隘藜、西瓜園、大路關等ノ富民ニシテ交換ヲ爲セル者ヨリ之ヲ取リタリ此ハ四頭人

家ノ一人住テ取リ他ノ三頭人家ニ分ツ其中ニルロアン家最多ク取リタリ

第十四 同番夕ラバサジ社

(一)農租 (一)粟種ハ地主タル頭人親シク畑ニ趣キ其租ヲ取ル其數ハ畑ノ大小ヲ論セス一畑ヨリ好キ穂ヲ棟テ二大把ヲ取ル但シ他社(トクアブジキヌシヤ)ノ民ガ當社頭人ノ地ヲ耕作スルトキハ其大小ニ應シ一畑ヨリ二大把乃至五大把ヲ取ル(二)樹豆、藜、綠小豆、芋及番藷ハ社内各戸ヨリ一「カジャバル」ヲ取リ之ヲバクダバイ、タルザルム兩頭人家ニ分チ之ヲ「カブル」ト云フ但シ他社ノ民ガ耕作スルトキハ芋ハ生、乾各一「チブン」(籠)ヲ取ル他社民ノ當社頭人ノ畑ヲ作者ハ芋ヲ取ル前ニハ酒ヲ作テ地主タル頭人ヲ畑ニ招クヲ例トス 當社ニ於テ農租ノ畑ニ就テ取ルモノヲ「カジル」ト云ヒ家ニ就テ取ルモノヲ「カブル」ト云

(二)獵畜租 (一)獵租ハ鹿、猪ハ前脚一本及後脚ノ上腿一本ヲタルザルム家ニ、前肢一本ヲトバチカ家ニ、肝及胃ヲバクダバイ家ニ取ル獵場ノ大半ハタルザルム家ニ屬セルヲ以テ同家ニ之ヲ取リ他ノ兩家ヘモ其幾分ヲ分ツノ意ナリ(二)畜租ハ頸部(胸切ニシタルモノ)ハ之ヲバクダバイ、タルザルムノ兩頭人家ニ分チ腹部ノ肉一「ギテ」(指テ四本趾ヘタル廣サチ一「ギテ」ト云フ)ヲトバチカ家ニ取ル(三)漁租ハ北隘藜溪ニ籓漁ヲ行フ毎ニタルザルム家ハ大魚一尾小頭二尾ヲ取ル是其溪ハ同家ノ專有ニ屬スルニ因ル

第十五 同番マカサヤサヤ社

(一)農租 粟ハ頭人家ノ雇人各畑ニ就キ最モ好ク豐熟セル所ノ一部分ヲ割シ(方形又ハ長方形ニ)其租ヲ取ル其割合收穫ノ約五十分ノ一程ナリ(二)芋ハ畑ニ就テ取ル大ナル畑ナレハ廿株、小ナル畑ナレハ十五株ヲ取ル而シテ乾芋ハ各戸ニ就テ取ル收穫多キ家ハ一「チブン」(籠)少キ家ナラハ一「カジャ

バル箕 (三) 藜ハ畑ニ就キ穂一白分ヲ取リ (四) 稗、樹豆、落花生ハ皆各戸ニ就テ取ル。稗ハ每戸十、タイ
ジ(三) 小把ヲ合セテ「タイ」ト云フ中把ト譯スヘシ乃至三十、タイジ、樹豆ハ一、キシ(茶)乃至十、ボン、ボン(竹筒ナリ、一竹筒ハ四茶碗ニ當ル)、落花生ハ每
戸多ケレハ一「カララ」(下ケル籠)少ケレハ一「カジャバル」ヲ取ル。此外ニ尙ホ「カブル」ト稱シ毎年一回薪
又ハ茅半把位、様仔ノ實、番薯等臨時ニ頭人來リ求ムレハ之ヲ與ヘサルヘカラス

(二) 獵畜租 (一) 猪ノ後肢ノ上腿二本ト腸全部及肝ノ少部ヲ取リ、羆鹿ハ後肢一本ヲ取ル (三) 家豚ハ
胴骨(皮及肉ヲ)ヲ取ル。當社ニハ豚ノ放飼ヲ禁ス (三) 漁租ハ羆埤溪ニ於テ多ク漁獲シタルトキハ大
魚數隻ヲ取ル。隘寮溪ハ下バイワヌ社カボロ家ノ領ニ屬スルガ故ニ大頭人ラウツツノ外社民ハ之
ヲ漁スルコトヲ許サレヌ

(三) 水租 曾テ山脚ニ在ル隘寮、犁頭鑿、老埤等ノ民庄ヨリ毎年牛、銀、酒、織物、檳榔子、石油等ヲ取リタリ、
サレト其額幾許ナリシカ今之ヲ記憶スル者ナシ

(四) 山工租 土人山ニ入りテ炭ヲ燒キ又ハ茅ヲ取ル場合ニハ頭人家ニ對シ牛又ハ銀ヲ與フ、之ヲ「カ
ジル」ト云フ其額一定セヌ

(五) 通行租 番語ニ「チブント」云フ舊時與番(バグアイヌ、ヒユマ、下バイワヌ社)ヨリ交換ノ爲ニ當地ニ通行スルトキハ
其都度其者ヨリ往途ニハ擔行ク品ノ一部(籠例ヘ)歸途ニハ買來リタル品ノ一部ヲ取ル其額ハ持行
ク品ノ多少ニ依テ差アリタリト云フ

第十六 同番バイルス社

(一) 農租 (一) 粟及稗ハ頭人家ノ者畑ニ行キテ茅ヲ挿シテ其取ルヘキ部分ヲ示ス。若シ其取ル所多ケ
レハ耕作者之ヲ減少センコトヲ求ム其租額大畑(七大把乃至十大把)ナラハ一大把、小畑(三大把乃至六七把)

ナラハ二小把、即收穫ノ約八分ノ一乃至十分ノ一ニ當ル (二) 芋、樹豆、大角豆、落花生、藜等皆收穫ノ後
頭人家ノ者各家ニ就テ之ヲ取ル。即芋ハ大畑ナラハ一「ツブン」(大籠頭ニ載)小畑ナラハ一「カジャバル」(籠ノ淺)若ハ一「ブチクル」(小)乾芋ハ大畑ハ一「カジャバル」小畑ハ二三茶碗、樹豆ハ畑ニ付キ莢附ナラハ
一「カララル」(籠)莢ヲ去リタルモノナラハ一「小箕」大角豆ハ畑一枚ニ付キ莢附ナラハ一「オエル」(二小把)
落花生ハ畑三枚ニ付キ莢附ノモノ一「小箕」藜ハ畑一枚ニ付キ穂ノ儘ナラハ一「オエル」實ナラハ一「キ
シ」(飯茶)トス

(二) 獵畜租 (一) 鹿、羆ハ後肢ノ上腿一本、猪ハ後肢二本ヲ取ル。但シ當社頭人家ニハ獵域ナシ、狩獵ハ悉
クマカガヤザヤ社頭人ノ獵域ニ於テス。故ニ其獵租ハ悉ク同頭人ニ納ル (二) 豚ハ腸、肝ノ全部ヲ取
ル (三) 漁租ハ籐漁ヲ行ヒタルトキニ各人ヨリ大魚一尾若ハ小魚二尾ヲ取ル。元來隘寮溪ハ下バイ
ワヌ社カボロ家ノ領ニ屬スルガ故ニ漁租ハ同家ニ納ムヘキモノナレトモ同家ハ遠ク離ル、ガ故
ニ當社民ハ漁租ヲ同家ニ致サスト云フ

第十七 同番下バイワヌ社

(一) 農租 (一) 粟、稗ハ頭人家親シク畑ニ行キ茅ヲ搜シテ其畑ヲ三分シ其中部ヲ取テ「カジル」(籠)トシ、左
右兩部ヲ「ボデル」(耕作者ニ歸)トス。更ニ其中部ヨリ「キカウシ」(哀請ノ義蓋シ耕作者ヨリ)トシテ作人ニ還
與スルコト

ボ	カ	ボ
デル	シル	デル
キカウシ	キカウシ	キカウシ

ノ如シ (二) 芋、藜、樹豆、落花生ノ農租ハ皆粟ニ同シ。而シテ乾芋ヨリハ取ラ
ス (三) 番薯ハ頭人隨時ニ畑ニ往キテ之ヲ取ル。大畑ナラハ約一「チブン」(頭ニ載)ナリト云フ (四) 様仔
及桃子ノ如キ菓樹ハ僅ニ一二本ナラハ其租ヲ取ラサルモ多キトキハ其實ノ約四分ノ一ヲ取ル
(二) 獵畜租 地主タル頭人ハ猪、鹿又ハ羆ニ付テ獵租ヲ取ル其額一頭ニ付キ後脚二本及胃腸ノ一部

トス。本社ノ獵場ハカボロ、マバリ、ウ兩家ニテ分有ス。サレト社民ハ何レノ所ニテ獵獲スルモ、カカラガス(附根)及肘ハ之ヲトカニブン家ニ取リ下腿ハカザギザヌ家ニ取ル。是兩家ハ最初ニ當社ヲ開キタルモノナルニ因ル。(二)豚ハ各頭人ニ於テ胃半部、頭部ヲ胴切ニシタルモノ、骨附ノ腋肉、大腸ニ血ヲ詰メテ煮タルモノ(番語ニヌ)半部ヲ取ル。(三)漁租ハ地主タル頭人自ラ往テ其獲物ノ約五分ノ一ヲ取ル。流木ヲ拾ヒタル者ハ之ヲ漁撈ニ準シ其拾ヒタル木ノ幾部ヲ取ル。隘寮溪ハカボロトガド等ノ數頭人家ニ分有セラル。之ニ付テハ次則第二溪流ノ境界中ニ説述スヘシ。

(三)山工租 社民ハ社域内何レノ地ニ於テ伐採スルモ別ニ地料ヲ要セス。然レトモ(一)之ヲ交換品トシテ平地ニ持行クトキハ其價ノ幾分(十分ノ一)ヲ頭人ニ與ヘサルヘカラス之ヲ、ビチョルト云フ。(二)又其伐採シタル籐、木ヲ以テ籠、箕等ヲ作りテ之ヲ平地ニ持行キテ交換スルトキハ製品二三十個ニ付キ一個ヲ與ヘサルヘカラス之ヲ、カブルト云フ。

(四)水租 (一)平地民庄ヨリノ水租ナシ。(二)當社マバリ、ウ家ハ水源地ヲ所有シ其水ヲ飲用スル社民ヨリ毎年薪一把ツツヲ取ル。之ヲ、キヌシヤルマヌト云フ。

(五)通行租 本社頭人モ本社ノ路又ハ橋ヲ通行スル他社人ヨリ通行租ヲ取ル。之ヲ、ビチョルト云フ其額定ラヌ。

(六)交換租 本社頭人ハ平地交換人ヨリ、スムスン(ト稱シ)毎年織物、酒、鐵器等ノ財物ヲ取ル。其額定マラス。

第十八 同番カザキサ又社

(一)農租 (一)粟ハ收穫ノ約十分ノ一ヲ取ル。尙ホバボロカヌ家ノ所領中マカバボロカヌノ地ハ頭

人家ガ農租ヲ取リタル上ニトガド家(代管クイ)ヨリ更ニ收穫二十分ノ一ニ相當スル、カブルヲ取リカルボンノ地ハラタ社頭人トガド家(代管タノバク)其、カブルヲ取ル。其額右ニ同シ、カブルヲ取ルノ理由審ナラヌ。(二)芋、乾芋、番薯及藜等ハ各戸ヨリ一策ツツヲ取ル。

(二)獵畜租 (一)猪鹿ハ後脚二本ト肝及肺ヲ取ル。尙ホ鹿ハ其男根ヲモ取ル。(二)家豚ハ牡ハ免シ牝ハ「レオ(頭ノ胴切ニ)」約一寸程ヲ取ル。但シ其豚カ放飼シタルモノナルトキハ其肉ノ半部ヲ取ルヘシ。パヤ社ハ頭人ニ非サレハ豚ノ放飼ヲ爲スコトヲ得ス。(三)漁租ハ加走山溪ニ於テ籐漁ヲ行ヒタル場合ニハ溪主バボロカヌ家(クイマバリニ)其幾分ヲ取ル。投網、築掛、堰乾ヲ爲スハ頭人家ノ特權ニ屬ス。

(三)水租 カザギラス社頭人バボロカヌ家ハ荖埤、新隘寮、大路關等ノ民庄ヨリ毎年一回水牛、或ハ織物、檳榔子、酒等ヲ取リタリト云ヘト其額明ナラヌ。尙古代ニハ頭人家親シク民庄ノ水田ニ至リ插茅ヲ行ヒテ米穀ヲ取リタルモ後代ニハ牛ニ代ヘタリトモ云フ。ツツラ社頭人ハ其所有ノ湧泉ヨリ飲用水ヲ汲ム所ノ社民ヨリ毎年水租ヲ取ル。

(四)山工租 平地民庄ノ者ガ茅、木等ヲ取ル爲ニ番界ニ入ルニハ頭人家ノ望ム所ニ從ヒ銀貨又ハ織物ヲ與フ。其額ハ其都度之ヲ協定ス。

第十九 同番カザラ又社

(一)農租 (一)粟ハ收穫ノ約四分ノ一ヲ取ル。即畑ヲ二分シ一ヲ、カジル(租トシ)他ヲ、ボ、デル(耕作人トシ)更ニ、カジルノ内ヨリ一部ヲ取テ耕作人ニ與フ。之ヲ、シ、バイトボオマ(畑主ニ與)又ハ、ツ、ン、ビタボオマ(畑主ニ)ト云フ。平民家ニテ畑地ヲ有スル者ハ之ヲ人ニ貸ストキハ亦約四分ノ一ノ農租ヲ取ル。但シ、カジルト云ハスシテ、ウサイ(耕作ト)ト云フ。(三)稗ハ一戸ニツキ一二把ヲ取ル。(三)番薯及藜ハ畑ニ往キ

一 旅ヲ取ル。大角豆、樹豆及落花生亦同シ。(四)芋及乾芋ハ各戸ヨリ一旅ツツヲ取ル。(五)菓實ハ棧仔芭蕉ハ「ア、ボロアス」ト稱シ頭人其幾分ヲ取ル

(二)獵畜租 猪ハ後脚ノ股一本背皮及ヒ背肉ノ少許、肝全部ヲ取り牝ナラバ此上ニ子宮ヲ取ル。而シテ鹿羊及羌ハ右ノ外ニ其皮ヲ取ル。(三)平民ハ豚ヲ放飼スルコトヲ得ス。而シテ之ヲ屠リタルトキハ肝背皮、脂肉半斤ト胸肉、子宮、脊骨三ノ内何レカ其一片ヲ取ル。(三)網漁ハ其獲物ノ半分ヲ取ル。籐漁ハ各人ヨリ三四尼ツツヲ取ル

(三)山工租 當社ノ「アロポ」及「ブトア」ノ兩家ハ(一)毎年三四回自己ノ山林ヨリ材木類ヲ伐出シ交換ニ持行ク者ヨリ代價ノ一部ヲ取ル。「バズカジ」(少シク分與)ト云フ。(三)又社民ガ建築用ノ材木ヲ伐リタルトキハ豚ヲ屠リ其腰ノ肉ヲ地主タル頭人ニ與フルヲ例トス。亦之ヲ「バズカジ」ト云フ。又平民地庄(庄金)ノ者ガ茅又ハ雜木ヲ取ル爲ニ番界ニ入ルトキハ毎年一回ジグロル家ニ端物、酒、檳榔子等ヲ納ル。之ヲ「ビナサス」ト云フ。此ハジグロル家ヨリ他ノ「ブタルン」及「トア」兩家ニモ分與ス

(四)通行租 番語ニテ「キチブン」又ハ「バルグジュ」ト稱ス。(一)カザザラヌ社ノ「ヨルババデス」アロポノ兩頭人家ハビユマ社民ノ平地ニ往來スル者ヨリ毎年月桃草、蔗各一枚宛外ニ酒一大甕ヲ取リ。又毎五年祭ノ後ニハビユマ社民ノ各戸ヨリ樹豆一茶碗又ハ杓子一個ヲ取リタリ。(二)スルラ社ノジグロル家ハ「カザザラヌ」四社ヨリ竹、木、薪、薯、榔等ヲ持シテ交換ノ爲ニ平地ニ赴ク者ヨリ其品ノ一部ヲ取ル。之ヲ「バルグジュ」ト云フ。但シ此ハ頭人家ノ者毎年何回カ其通行者ニ從テ交換所ニ降り其價ノ一部ヲ取リ集メテ之ヲ賣リ而シテ代價ノ一部ハ酒ニ代ヘス。ラノ社衆ト共ニ之ヲ飲ミタリ

(五)交換租 之ヲ「スプスン」ト云フ。頭人家ハ毎年交換所ヨリ端物、裝飾品又ハ農具類(近年ハ多)ヲ取

リタリ

第二十 同番クワルス社

(一)農租 粟ハ頭人自ラ畑ニ赴キ其畑ノ大小豊凶如何ヲ見大畑(先ツ百把位)ナラハ十把乃至十五把小畑ナラバ三把乃至五把トシ畑ノ中ヨリ最モ好キ所ヲ選ヒテ之ヲ取ル。芋ハ大畑ハ生ニテ六網袋(一網袋ハ二)小畑ハ生ニテ一籠乃至一網袋ヲ取ル。樹豆ハ畑ノ大小ニ依テ二網袋或ハ三網袋藁ハ畑ニ依テ一二擔(一擔ハ二)稗ハ三大把乃至五大把、番薯ハ一株ニ付キ一個、煙草ハ大畑ハ五株乃至五十株ヲ取ル。棧仔ノ實ハ一本ニ付キ一擔ヲ取ル

(二)獵租 猪、鹿、羊及羌共ニ頭部ノ脂肉一塊及後肢一本ヲ取ル。熊及豹ハ其皮及牙ヲ取ル

(三)漁租 籐漁ノ時ハ三尾乃至十尾ヲ取ル。但シ漁獵少ケレハ之ヲ免ス

(四)畜租 豚(頭人ノ外放)ハ脇腹ノ肉幅約五寸程及脂肉一塊ヲ取ル

(五)交換租 毎年當社ヨリ落花生ヲ交換所ニ持出ス。際交換人ヨリ頭人ニ銀十圓、世襲補佐役兩人(十圓)ヲ取リ、各一圓ツツヲ與ヘタリト云フ

(六)通行租 今ナシ、昔ハ毎年トクブジ及下バイワヌ兩社ヨリ酒及煙草ヲ取リタリ。今トクブジ社民ヨリ取リタル例ヲ見ルニ(一)當社頭人ハ毎年同社民全體ヨリ芋麻十五「アビス」(芋ノ小サキ把ヲ「アビス」ト云フ)ヲ取リ其内十把ヲ己ニ取リ五把ヲ世襲補佐役家ニ與ヘ又同社民ノ各戸ヨリ煙草ヲ取リ自己ニ五「ルブ」(煙草一卷ヲ「ルブ」ト云フ)ヲ取リ世襲補佐役ニ一「ルブ」ヲ、青年組ニ一「ルブ」ヲ與ヘタリ(二)又トクブ社民ガ數年前臺東方面ニ煙草ヲ持シテ交換ニ行キタルトキハ臨時ニ酒五小甕(約六升)ヲ取テ自社民ニ與ヘテ飲マシメタリト云フ

第二十一 同番カビヤガ又社

(一)農租 粟ハ畑ニ就テ取ル先畑ヲ二分シ一半ヲ耕作人ノ分トシ他ノ一半ヲ兩分シ一ヲカシル(租)トシ頭人自ラ取り残ノ一ヲウサヤヌ(有共)トシ收穫ノ後頭人ト耕作人ニ分配ス故ニ頭人ノ取ル所ハ約收穫高ノ八分ノ三ニ當ル凡農租ヲ取ルニハ粟ノ穂先ヲ結ヒ又ハ茅ヲ地ニ挿シテ其區劃ヲ明ニス芋乾芋ハ畑大ナレハ親芋子芋各一籠ヲ取ルト雖モ小ナレハ取交セテ一籠ニ止ム 藜樹豆及落花生ハ粟ニ同シ

芭蕉ハ株多ケレハ一株ヲ取リ少ケレハ一房ヲ取ル柑ハ一本ニ付キ多ケレハ約五十個ヲ取ル 檳榔子ハ十時以上二株ノ實ヲ取ル十株ニ滿タサルモノハ幾分斟酌シ五株以下ハ之ヲ免ス 棧仔ノ實ハ頭人皆之ヲ取ル是當社ニ於ケル棧仔ハ何レモ番丁ノ植エタルモノナキニ因ル然レトモ何人モ單ニ木ヨリ取テ之ヲ食フハ妨ナシトス若シ番丁ガ之ヲ取テ交換所ニ持行クトキハ其價ノ半ヲ頭人ニ納ルヘキモノトス

(二)獵組 山林ハ悉クジグロル家ノ所有ニ係ル故ニ獵租ハ皆同家ニ取ル 猪及鹿ハ後肢二本ト頭(鹿ハ)肺及シマ(胸部下)ヲ取ル 羆及羊ハ後肢二本ヲ取ル ラリヤバス家ニハ獵場ナシ其部下ハジグロル家ノ山林ニ於テ狩獵ス此場合ニハ上記ノ獵租ヲジグロル家ニ納ルノ外腎部ノ骨付ノ肉ヲラリヤバス家ニ納ル

(三)畜租 ジグロル家ハ全社ノ豚ニ對シ胴部骨付ノ肉一指長及四指幅分ト肺ヲ取ル若シラリヤバス家ノ部下ガ飼ヒタルモノナルトキハ同家ヘシマ(胸部下)ヲ與フ 鶏ハ一回孵化セシ毎ニ(先トス)成長ノ後一隻ヲ取ル蜂蜜ハ租ヲ取ラス但シ交換ニ持行キタルトキハ交換人ヨリ取ル

(四)漁租 ナシ是當社ニ溪流ナク而シテ其下方ノ溪流ハブンテ社頭人ノ領域ナルニ因ル

(五)水租 昔アリタレトモ今ナシニブルカスト云フハ埤圳租ナリ

(六)山工租 舊時土人ノ番界ニ入テ薪茅等ヲ取ル者ハ先ツ酒一甕ヲ持シ頭人家ニ來リ其承諾ヲ求メ地域及其代價ヲ協定シ而シテ採取シタル後地料ヲ納ル地料ハ織物鐵耙鍋又ハ銀貨等ニシテ其額一定セス

(七)通行租 番語ニバクト云フ毎年山脚ニ在ル赤山南勢新厝老籐林四庄ノ民ヨリ酒一斗銀五圓ヲジグロル家ニ刀一酒二升程ヲタウダル部落漢稱頭社老番ニ取ル但シ此酒ハ青年組ニ與フ 此ハ上記ノ庄トクブンクワルス兩社民ガ當社ヲ通ジテ互ニ相來往スルニ因ルナリ但シトクブンジ及ビクワルスノ兩社ヨリハ之ヲ取ラス

(八)交換租 番語ニテ亦バクト云フ毎年土人交換人ヨリブンテ社ノタリアルバ當社ノジグロルラリヤバスバササオ合テ四頭人家ニ銀十三圓ヲ取リ當社黨老ニ刀一酒一小壺ヲ取ル右ノ銀貨ハ本頭人タルタリアルバ家ノ當主ニ五圓ジグロル家ノ代理頭人ニ三圓ラリヤバス家ニ三圓バササオ家ニ二圓ヲ取ル

(九)入頭租 男子ノ人頭稅ナリ男子ガ成年ニ爲リタル後ハ毎年一人ニ付キ酒半カチ(小)酒ナキトキヲ買ヒテ之ニ代(大)粟ノ芽卷一(粟粉ヲ煮テ芽葉ニ包ミ之ヲ乾シタルモノ)番語ニキナリプト云フヲ頭人家ニ納レサヘカラズ之ヲチブント云フ

第二十二 同番アンテ社

(一)農租 粟ハ先ツ畑ヲ二分シ一ヲボデルトシ全ク耕作人ニ歸シ他ノ一ヲウサヤヌ(有共)トシ收穫

ヲ平分シ其一ヲ農租(サチ)トシテ之ヲ取ル 樹豆、藜及落花生ハ粟ニ同ジ 芋ハ一畑ニ付生芋ナラバ一ツブ(小籠)乾芋ナラバ一籠子芋一籠ヲ取ル但シ畑小ナレハ親子取交セ一籠ニ止ム 諸種ノ菓實ニ付キ其租ハカビヤカヌ社ニ同ジ

(二)獵畜租 (一)當社ノ獵租ハ プンテ一溪左岸ノ地ハ三頭人家ノ共有ニ屬スルガ故ニ此所ニテ取リタルモノ鹿猪ハ頭及前肢ヲタリアルブ家ニ取リ後肢一本ヲジヤコジヤコツ及イラヤンノ兩家ニ平分ス、尙ホ鹿ハ鞭ヲイラヤン家ニ取ル其羊羴ハ後肢一本ヲタリアルブ、前肢ノ上部ヲジヤコジヤコツ及イラヤン兩家ニ取ル。 プンテ一溪ノ右岸ハタリアルブ及ジヤコジヤコツ兩家ノ共有ニ屬スルガ故ニ此所ニテ取リタルモノハ其兩家ニ分チイラヤン家ニハ與ヘス (二)畜租ハ各地主タル頭人家ニ取ル其取ル所ハ下顎ヨリ咽喉部ニカケタル肉及背部ノ白脂肪四指度トス 當社ニハ一家ノ畜租ヲジヤコジヤコツ及タリアルブノ兩家ニ納ルルモノ三戸アリ蓋シ其者ノ現住家屋ノ敷地ガ兩頭人家ノ所領ニ跨ルニ因ル (三)漁租ハ漁獲物ノ半ヲ取ル、漁場ガ兩家ノ共有ナルトキハ漁租ヲ兩分ス (三)交換租 落花生、蜂蜜其他ノ交換品ハ價格百圓ニ付キ十五圓ツツノ割ニテ織物、鍋等ヲ直接交換人ヨリ取ル之ヲ「チナジャヌ」ト稱ス

第二十三 北はいわぬ番チシカフス社

(一)農租 番語ニ「サジ」ト云フ、粟、大角豆、樹豆及落花生ハ收穫ノ約三分ノ一ヲ取ル、粟ヲ收穫スルトキハ日ヲ期シ頭人自ラ各戸ヲ廻リテ其穗ヲ算シ其取ルベキ分ヲ定ム、尙ホ落花生ハ之ヲ交換所ニ持行クトキハ一籠(石油罐)ニ付キ十錢ツツヲ取ル、落花生一籠ノ代價ハ約一圓三十錢ナレバ租率ハ十分ノ一ナリ 芋ハ一戸ニ付キ生ナラハ一籠、乾芋ナラバ一籠トス

(附記)

當社頭人ハ土地ヲ貸シテ其農租ヲ取ルヨリモ寧ロ共同耕作ヲ爲ス者多シ、此ハ頭人家モ其共同耕作者ト同様ニ種子ヲ出スト雖モ多ク働カスシテ其收穫ヲ平分ス、但シ收穫ノ後頭人家ハ自己ノ分ヨリ幾分ヲ割テ(五百把ナラハ三四把)之ヲ共同耕作者ニ與フト云フ

(二)獵畜租 猪ハ兩後肢又ハ兩前肢及頭ヲ取ル、但シ當社ニ於テ獵場ハ頭人ロバニヤウ家ト其他ノ小頭人家トノ共同所有ニ屬ス、即内社溪ノ北岸バチヤバチヤカス(ロバニヤウ、東サジヤ)ニテ取リタルモノハ前肢一本ト頭部ヲロバニヤウ家ニ取リ前肢一本ヲ東サジヤ家ニ取ル、社ノ南方イジャヤアヤス及クナナウニ赴ク途中ノ森林ニ捕リタルモノハ西サジヤ家ニ後肢一本ヲ取リロバニヤウ家ニ後肢一本及頭部ヲ取ル、但シクナナウニ赴ク森林ニテ取リタルモノハ頭部ヲ兩家交ル交ルニ取ル、其他イボド、チャラチアロシゴア、三家共同ノ地ニテ取リタルモノハロバニヤウ家ニ後肢一本ト頭ヲ與ヘ右ノ三家ニテ後肢一本ヲ平分ス、鹿羴及羊ハロバニヤウ、東サジヤス兩家共有ノ地ニテ取リタルモノハ後肢一本、頭(角)及皮ヲロバニヤウ家ニ取リ前肢二本ヲ東サジヤス家ニ取ル、但シ羊ハ頭ヲ取ラス、又新置庄ノ上方ニ當ル西サジヤス家ノ領地ニテ取リタルモノハ西サジヤス家ニ後肢一本ヲ取リロバニヤウ家ニ前肢二本、後肢一本、頭部及皮ヲ取ルト云フ

漁租ハ漁籐ヲ流シ又ハ水ヲ濁シテ魚ヲ捕リタル場合ニノミ之ヲ取ル、其額ハ共同漁撈者ノ一人分トス

畜租ハ頭人家ニ依テ其租額ヲ異ニス、ロバニヤウ家ハ放飼ノ豚ハ後肢一本ヲ取リ家内ニ飼フモノハ下顎ト「チナボ」(栗餅ノ中ニ豚肉)二個ヲ取ル、東サジヤス家ハ放飼ト内飼トヲ論セス、下顎及「チナボ」肺及肝ノ約三分ノ二ヲ取ル、鶏ハ數多孵化セシメタル場合ニ成長ノ後一羽ヲ取ル、少數ナレハ免

ス 頭人ハ又番丁ガ蜜蜂ヲ飼養シソレヨリ取リタル蜜ヲ交換所ニ持行クガ故ニ毎年一回交換人ヨリ若干ノ財物ヲ取ル

(三)交換租(番語) 頭人ハ番丁ガ其山林ヨリ伐出シタル木材、籐、竹、菓實等ヲ交換人ニ賣渡シタルト

キハ交換人ヨリ若干ノ銀額ヲ取ル此ハ交換人ヨリ頭人ニ頼ミ番丁ヲシテ所要ノ木材等ヲ採取シ交換人ニ持來ラシメ其都度交換人ハ酒ヲ置テ頭人及採取者ヲ款待シ其上ニ木材ノ多少ニ應シテ代價ノ外ニ二圓乃至二三十圓ノ銀ヲ頭人ニ與フ若シ三頭人共同ニ之ヲ爲ストキハ其銀ヲ三分ス當

社ニ於テ番丁ハ薪ノ外地主タル頭人ノ許諾ナクシテ採取シタル木材ヲ交換所ニ持行クコトヲ得ス(四)通行租(番語) 凡ソ他社ノ民又ハ土人ノ番界ニ入ル者ハ當社ニ親族關係アル者ノ外頭人及番帥(ラアラサ)ニ通行租ヲ納レサルヘカラス然ラサレハ番帥之ヲ殺スコトアルヘシ故ニ從來土

人ノ番界ニ來ル者ハ酒一甕又ハ一罐及檳榔子若干ヲ携來シ頭人ニ與ヘ且ツ各番帥ニハ槍、刀、又ハ農具等ヲ與ヘタリト云フ 又クナナウ社民ガ交換品ヲ持シ當社ヲ通行スルトキハ其品ノ一少部ヲ當社頭人ニ取リタリ例ヘハ板ヲ持行クトキハ一枚ノ板、煙草ヲ持行クトキハ其煙草少許ヲ取リタルカ如シ之ヲ「イルグス」(其ノ品名)ト云フ

(五)「チブン」(チブン)ハ社民ヨリ徵收スル通行租及山工租ナリ、毎五年「ブサオ」祭ノ翌年ヨリ三回續ケテ毎年全社民ヨリ鹽、絲、蜂蜜、魚類等ヲ徵收ス其時ロバニヤウ家ハ其四分ノ三ヲ取リ殘ヲ西サジャス

家ニ與フ(此レハ數代前西サジャスノ當主アルチブンガロバニヤウ家ノルムルマニ入夫セシニ子ナカリシヲ以テ離別シテ歸來セリ此時ルムルマヨリ將來永ク此ノ「チブン」ノ四分ノ一ヲ西サジャス家ニ分與スルコトニ定メタルナリト云フ)

第二十四 同番クナナオ社

(一)農租(サチヤ) 粟ハ畑大ナレハ(把)把乃至二百(把)把ヲ取リ畑小ナレハ一小把ヲ取ル 芋ハ一畑ニ付キ十株乃至三十株樹豆ハ收穫一箕ニ付キ約三茶碗ヲ取ル 落花生ハ多ケレハ一「ララコヤス」(大)少ケレハ一「チブン」(小)ヲ取ル

雜租 當社ニ於テ番人ノ栽培スル果樹例ヘハ柑、柚、桃、鳳梨等ハ頭人ハ其欲スルトキハ其實ヲ取ルコトヲ得之ヲ「マブル」(無償ニテ取ルノ義)ト云フ竹モ亦頭人之ヲ欲スルトキハ取ル但シ之ヲ取ル前ニハ先其所有者ニ其旨ヲ告クルコトヲ要ス

(二)獵畜租 猪、鹿、羊、羗共ニ一頭ニ付キ一ノ下顎ヲ取ル 豹ハ其皮ヲ取ル 家豚ハ後脚一本ヲ取ル但シ之ヲ交換所ニ持行ク者ハ取ラス其代リニ交換人ヨリ交換租ヲ取ル 別ニ漁租ト稱スヘキモノナシ但シ多キ漁獲アリタルトキハ魚肉ヲ混シタル餅ヲ作り一個ヲ頭人ニ持來ス之ヲ「ブリナバ」(喜ハセ)ト云フ

(三)山工租 ナシ番人ノ採伐スルモノハ自家ニ用キルモノハ勿論交換所ニ持行クモノト雖モ其租ヲ取ラス

(四)交換租 交換所ガ當社頭人ニ依頼シ交換品(板類)ヲ持來ラシムルトキハ其都度頭人ニ對シ酒一斗綿布一二端ヲ與フ之ヲ「パウ」ト云フ其時番丁ニモ酒四五升ヲ與フ之ヲ「チブン」ト云フ

第二十五 同番ボカリド社

(一)農租(サチヤ) 粟ハ一畑ニ付キ一大把、芋ハ一「ララコヤン」(龍)樹豆ハ同シク一「アジャバル」(龍)ヲ取ル番諸ハ其額定マラス

(附記) 當社ノ頭人ハ多ク自己ノ畑ニ付キ番丁ト共作ノ法ヲ取ル即チ双方ヨリ種子ヲ半分ツ

ヲ持出シ頭人ノ方ハ勞作セサル代リニ番丁ニ對シ時々糧食ヲ給シ或ハ播種收穫等特ニ勞作セシ場合ニ酒食ヲ作テ之ヲ饗應ス而シテ收穫ハ折半シ頭人ハ其一ヲ取リ(ト云フ)他ノ一ヲ番丁ニ與フ(ト云フ)而シテ頭人ハ自己ノ分ヨリ約十分ノ一ヲ引去テ番丁ニ與フ此レハ哀憐ノ意ニ出ツト云フ

(二)獵畜租 當地ノ山林ハガド、チャルリバク、ロビジビシ、ラウリヤヌノ四頭人家及チャロカバヌバアツル、ガジャチモ、チャブテリンノ四小頭人家ノ共有所領ニ屬ス而シテ其獵租ハ頗ル重ク猪鹿、羊、羆ハ各其頭全部(鹿及羆ハ角)脊梁(肉付)左右ノ肋骨五本及四肢ヲ取リ之ヲ數頭人家ニ分ツ其分配下ノ如シ先ツ鹿及猪ノ場合ニハ頭部ハ第一射手之ヲ取テ自己ノ頭人ニ與フ而シテ脊骨全部ハガド家ニ取リ前肢一方ノ上臂ハラウリヤヌ家ニ下臂ハガジャチモ家ニ他ノ一方ノ上臂ハチャルリバク家ニ下臂ハチャルカバヌ家ニ之ヲ取ル後肢一方ノ上臂下臂ハチャルリバク家ニ取リ一方ノ下臂ハチャブテリン家ニ上臂ハロビジビシ家ニ取リテ其小部ヲバアツル家ニ分ツ 次ニ羊及羆ノ場合ニ頭部ハ第一射手ノ所屬頭人之ヲ取リガド家ハ胃ヲ取リチャルリバク家ハ肝ヲ取ル

(附記) 序ニ當社ニ於ケル獵獲者ノ分前ヲ示セハ (一)鹿、猪ハ第一射手(命中シタ)ハ頭部、肋骨ノ上部左右各五本ヲ取ル但シ頭ハバリシヲ行ヒタル後自己ノ所屬頭人ニ與フ 第二射手ハ心臟、蹄、胸部一方ノ脂肪及皮肉ノ一小片ヲ取リ尙ホ鹿ノ場合ニハ鹿鞭ヲモ取ル 第三以下ノ射手ハ各脚尖ヲ取ル 犬ノ使用者タル「オモテ」ノ一隊ト待討者タル「トマラウ」ノ一隊トハ肋骨左右ノ下部五本ヲ分取シ其他ハ一行ニ平分ス 羊及羆ハ第一射手ハ頭及肋骨全部ヲ取リ第二射手(又追撃)ハ心臟ヲ取リ其他ハ一行ニ平分ス

漁租ハ漁籐ヲ流シタル場合ニ其獲物ノ約十分ノ一ヲ取ル此ハボンガリ溪ハロビジビシガド兩家ノ共有ニ屬スルヲ以テ其漁租ハ兩家ニ平分シリキリ溪ハチャルリバク家ノ有ニ屬スルヲ以テ同家ニ之ヲ取ル

畜租 豚ハ之ヲ屠リタルトキ下顎、肝及胸皮ヲ取ル

(三)交換租(番語) 茅、薪等ハ價格一圓ニ付キ約十錢ノ割ニテ之ヲチャルジバク、ロビジビシノ兩家ニ取ル此ハ頭人酒ニ代ヘテ社老ニ飲マシム

(四)通行租(番語) 昔ハクナナウバイルス兩社民ガ當社及ブンロク社ヲ通行シテ平地へ交換ニ出ルトキハ當社及ブンロク社ノ頭人ハ之ヨリ通行租ヲ取リタリ即クナナウ社民ハ當社頭人ニ對シテ毎年一回酒一罐又ハ落花生一笊ヲ納メバイルス社民ハ各戸ヨリ薪又ハ鹽ヲ聚メテ之ヲ當社ニ持來リテ三頭人ニ納レタリ然レトモ斯克テハ双方其煩ニ堪ヘサルヲ以テクナナウ社頭人ヨリ交換人ニ交渉シ將來ボカリヲブンロクノ兩社ハクナナウバイルスノ兩社民ヨリ通行租ヲ取ルコトナク其代リニ交換人ヨリブンロク頭人ニ酒一罐、黒布一端、ボカリヲ社頭人三人ニ各黒布一端ツツヲ與ヘ別ニチャルリバク家ニ酒一罐、他ノ二頭人半ニ罐ツ、ヲ與フルコトトナリ製ヒテ今日ニ及ヘリ

(五)水租(カヌ) 山脚ノ大餉營庄ヨリ毎年織物、鐵器、酒等取交セ價格約五十圓ノモノヲ持來ル此内織物一端ヲブンロク社頭人ニ分與ス但シ此ノ水租ハ大正三年當社民カ彼ノ番匪騷擾ニ乘シテ屢々同庄ニ出草シタルヲ以テ同庄民怒テ之ヲ中止シタリ

(一)農租 ホカリツ社ニ同シ
 (二)獵畜租 鹿、猪ハ頭、背部ノ皮及肉、後肢二本ヲ取ル 羊及羗ハ少シク其肉ヲ取ル 家豚ハ胸部ノ皮肉付、前肢一本及頭、肉餅(粟餅ノ中ニ豚ノ肉ヲ包ム)二個ヲ取ル、若シ交換所ニ持行クトキハ一頭ニ付キ金五拾錢(ア、バ)ヲ取ル 漁租ハホカリツ社ニ同シ
 (三)番租 毎年餉潭カナカナ兩庄民ヨリ米其他ノ品ニテ價百圓位ノモノヲ持參ス、之ヲ「シニバサチャ」又ハ「アジュル」ト云フ、農租ノ義ナリ蓋シ右ノ兩庄ノ地ハ當社頭人ガ平地ニ在リタルトキ所有セシ土地ナルニ因ル

第二十七 同番バイルス社

(一)農租 ハ粟、乾芋、樹豆、落花生及番薯ヨリ取ル、即粟、乾芋、樹豆、落花生ハ其收穫ヲ三分シ一分ヲ「バズリウジ」(料貨)一分ヲ「アチリ」(自己ノ分)トシ共ニ耕作者ニ歸シ殘ノ一分ヲ「ボロ」トシ頭人ニ歸ス、右ノ内ニテテ粟ハ頭人自ラ借耕者ノ家ニ往キテ其把數ヲ算ス 番薯ハ一畑ニ付キ一籠ツツヲ取ル
 (二)獵畜租 (一)獵租ハ「ホキド」(現時武蔵山ト稱セリ)ノ地ハ「チャマチャア」家ノ有ニ屬スルヲ以テ同家ニ取ルモ其幾分ヲアロブラバヌ、チャロイゲ、ロビリアヌノ三家ニモ分ツ、即「チャマチャア」家ハ後肢一本、肝及腋下ノ肉ヲ取リ、ロブラバヌ家ニハ前肢一本、チャロイゲ家ニハ臍部ノ肉少許、ロビリアヌ家ニ前肢ノ上臂一本ヲ與フ、又「ジャブジャブ」ノ地ハアロブラバヌ家ニ取リ之ヲ地ノ三家ニ分ツ、即「アロブラバヌ」家ハ後肢二本ヲ取リ其内一上腿ノ半部ヲリバン、チゴダゴダ、チヨビジビジ及タラリマノ三家ニ與フ (二)畜租ハ各其頭人家ニ納レ其取高ホカリツ社ニ同シ (三)漁租ハ獲物多キトキハ其大ナルモノ二三尾ヲ取リ少ケレハ之ヲ免ス、而シテチトオトアヌ溪(バイルスチアツカ)ノ地ハ「ロブラバヌ、チャマチャア」兩家

ノ共有ニ屬スルヲ以テ漁租ハ之ヲ兩家ニ平分シリキリキ溪ハ「バビリジ」ノ地ハ「ロブラバヌ」家ニ屬シ、漁租ハ同家ニ取リアアピサヌノ地ハ「ロブラバヌ、ロビリアヌ」兩家ノ共有ニ屬スルヲ以テ之ヲ其兩家ニ平分ス

(三)交換租 交換所ヨリ取ル之ヲ「パウ」ト云フ、其率十圓ニ付キ一圓ノ割
 (四)水租 毎人大餉營庄ヨリ綿布十二端、白麴百個、檳榔子百粒、鹽二「ラ」ラコヤヌ及酒二小甕ヲ「ロビリアヌ、アルブラヌ」兩家(地主)ニ取リ其内綿布一端ツツヲ他ノ大小頭人ニ分ツ

第二十八 同番リキリキ社及チアツカダヌ社

(一)農租 (一)粟ハ約十分ノ一ヲ取ル、但シ千把ニ滿タサルモノハ其率ヲ減シ六百把ナラハ廿五把、五百把ナラハ二十把、四百把ナラハ十五把、二百把ナラハ十把ヲ取ル、當社ニ於テハ如何ニ收穫少シトモ其租ヲ全免スルコトナシ、收穫ノ後借耕者ハ酒ヲ作テ地主タル頭人ヲ招キ之ヲ饗應ス、此時頭人其粟ヲ驗シ取ルヘキ分ヲ定メ後耕作者ヨリ頭人家ニ持行ク (二)芋ハ一畑ニ付生芋一「ツブ」(七八寸ノ竹籠)ヲ取ル、乾シタルモノナラハ十分ノ一、但シ十竈ニ滿タサルモノハ其率ヲ減ス
 (三)大角豆ハ一戸ヨリ一「カジャバル」(莢)ヲ取ル (四)稗ハ取ラス、若シ取レハ身體カ痒クナルト云フ
 (二)獵畜租 (一)猪、鹿、羊及羗ニ付キ地主タル頭人ハ各肝半部、後肢一本ヲ取ル、但シ「チアツカダヌ」社ニ於テハ肝全部ト後肢二本ヲ取ル (二)家豚ハ肝少部、「ル」ク「ツ」(背骨ニ沿ヒタル肉)一指長及後肢一本ヲ取ル、但シ獸ノ小サキモノハ其租ヲ免スルコトアリ (三)漁租ハ獲物ノ半分ヲ取ル
 (三)山工地(番語、バ) 其伐採地域ノ廣狹ニ應シテ租額ノ多少アリ、此ハ其部度伐採シタル漢人ト地主タル頭人トノ協議ニ依テ定ム、其地域狹ケレハ、綿布三端位ナルモ廣ケレハ、豚、酒ヲモ取リタリ、番人

ノ伐採スル者ヨリハ之ヲ取ラス

(四)交換租(番語) 毎年(芋收穫)交換業者ヨリ綿布及酒ヲ取ル其額定マラス交換品多カリシ年ハ多ク之ヲ取ルモ少カリシ年ハ少ク取ル

(五)水租(番語) 此ハ毎年水底藁新開枋藁ノ三庄ヨリ取ルリキリキ社ニ於テハタリマラオカズズアヌ兩頭人家ニ取リ其幾分ヲ他ノ頭人家ニモ分配シチブツカダヌ社ニ於テハチャルムジヨク家ノミ之ヲ取リタリ是此ノ三頭人家ノ領地ガ最モ平地ニ近キニ因ルト云フ尙ホ領臺前水底藁ノ「ビッチオ」(各庄民ヨリ水租)テラナト云フ土人ヨリリキリキ社ニ納メシ水租ハ毎年織物三十端酒五罐ノ外鹽白麴檳榔子等各若干ナリシト云フ

(六)通行租(番語) リキリキ社ニ於テハ頭人カザギザン家ハ毎年臺東方面ノクバルン、バサバジ兩社ヨリ價格約八九圓程ノ品物ヲ取リタリ是ハ兩社ノ民ガ交換ノ爲ニ當社ノ地ヲ過キテ平地ニ赴キタルニ因ル而シテ特ニカザギザン家ガ此ノ通行租ヲ取リタルハ重ナル行路ノ地ガ同家ノ領ニ屬スルニ因ル

第二十九 同番コワバル社

(一)農租(番語) 粟ハ其十分ノ一ヲ取ル 芋ハ一畑ニ付キ生ナラハ「ツブン」乾芋ナラハ十竈ニ付キ約五六竈ヲ取ル十竈ニ滿タサルモノハ其率ヲ減ス 樹豆大角豆等ハ毎戸多ケレハ「カジャバル」少ケレハ一茶碗ヲ取ル 落花生ハ其收穫高大布袋ニ付キ「ツブン」ツツヲ取ル

(二)獵畜租 リキリキ社ニ同シ

(三)水租 毎年枋藁及水底藁兩民庄ヨリ端物一端酒一甕(五升)其ノ外檳榔子白麴等ヲ取リタリ

第三十 同番スホン社

當社ハ兩頭人土地ヲ共同ニシ部下ノミヲ別ニス農租ト獵畜租トハ各其部下ヨリ取ル

(一)農租(番語) 粟ハ約十分ノ一ヲ取ル其收穫千把ニ滿タサルモノハ其率ヲ減シ五百把ハ數把ヲ取リ百把以下ハ之ヲ免除ス而シテ千把以上ハ別ニ酒ヲ作テ頭人ヲ饗ス 乾芋ハ毎戸「カジャバル」若シ多ケレハ「ララクヤヌ」ヲ取ル

(二)獵畜租 (一)獵租ハ猪鹿羊羗共ニ後肢一本ヲ取ル (二)畜租ハ豚大ナレハ「チュツカヌ」(肩ヨリ脇ニ)少部脇ノ脂肉片側肝半部及ヒ血全部ヲ取ル (三)漁租ハ溪ニ籐漁ヲ施シタルトキニ獲物多ケレハ面桶(土人用キル)ニ一杯ヲ取ル少ナケレハ少ク取ル 尙ホ海魚ハ毎年土人ノ頭家ヨリ取ル即ツジャラソバジャロク兩家(頭人)ハ各十尾カジャジャバン家五尾バズリバイ家三尾(以上兩家ハ世)ヲ取ルト云フ

(三)通行租 昔時毎年一回コワバル社ヨリ小豚一頭ヲ取リ之ヲ頭人家補佐役及代管役ニ分配シタツ又チエーバオ社ヨリモ毎年一回酒一「ガチ」(小)ヲ持來リタリ

(四)水租 番語ニテ「サツカヌ」又ハ「チマク」ノザジユムト云フ領臺前ニハ毎年一回枋藁北勢藁等ノ諸庄民ヨリ合セテ鍋十個刀二十本鉞四十本斧五十本綿布四十端(白黒淺黃)櫛(寸櫛普通)二百枚針百包(十本入)銀十圓白鞘四百個大豚一頭酒三大甕米飯三桶ヲ取リタリ此等ハ同庄ノ民等牛車ニ乘セテ山脚マテ持來リ其内ニテ酒飯及豚ハ社民一同ニ分チ其他ハ頭人補佐役代管ニ取リ幾分ヲ一般社民ニモ分チタリ領臺後ハ毎年銀貨三十圓ヲ頭人家ノミニ取ルコトニ改ム 加祿堂ヨリハ領臺前織物十五端酒一甕(六升)及銀二十五圓ヲ取リタレト今ナシ